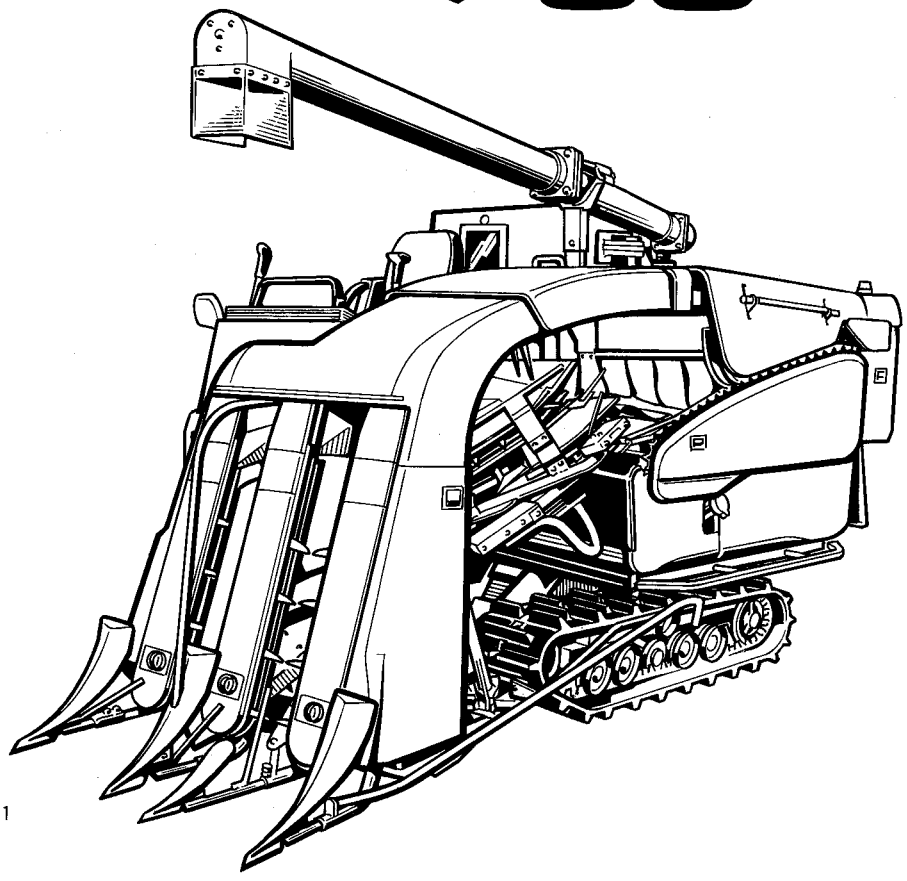
クボタコンバイン

取扱説明書

スカイロードプロ
SR 25 30



M-6111

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

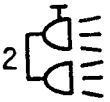
ホーン

エンジン回転数**“低速”**

エンジン回転数**“高速”**

ウインカランプの操作方向

ヘッドランプ



ヘッドランプと作業灯

アンローダの移動方向，車高移動の方向

エンジン停止

燃料

水温

エンジン油圧

バッテリ充電

ウインカランプの作動を点滅で示す案内ランプ

専門用語の説明

- グロー……エンジンの始動を容易にするための予熱
- パワーステアリングレバー ……油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
- スピンターン ……左右のクローラが互いに反対方向に駆動される旋回
- ソフトターン ……左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
- 超音波センサ ……非接触で刈取部の高さを検出するセンサ
- デバイダ ……こくかんを分けすくい上げる部分
- ドレーン(プラグ) ……エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
- 刈取一方クラッチ ……前進のときに刈取部を駆動し，後進のとき刈取部の駆動を断つ部品
- ＨＳＴ ……油圧式の無段変速装置
- アジャスト ……調節を意味する
- 主変速レバー ……**“前進”** **“後進”**の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
- イージチェッカ ……詰まりなどのトラブルの箇所を表示する部分
- スローブローヒューズ ……バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
- ホッパ……精選されたこく粒を袋詰めするまで一時貯蔵するもみタンク
- １番スクリュ ……精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
- ２番スクリュ ……粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
- チャフシーブ ……こく粒を粗選する桟状の板
- トウミ ……選別風を発生させるファン
- グレンシーブ ……こく粒を精選するあみ体
- 送じん調節レバー ……こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
- 排じん調節 ……選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
- こぎ胴 ……脱こくするドラム
- フィードチェーン ……稲を挟持搬送するチェーンコンベア
- 縦スクリュ ……精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
- こぎ胴オープン ……こぎ胴を上に上げる機構
- 揺動板(シーブケース) ……揺動運動してこく粒を選別する装置
- アンローダ ……グレンタンクから**“もみ”**を排出する筒

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

59900-8511-7

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取り・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細はサービスブックをご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。

なお，説明は**“SR30GSD仕様”**を基本とし，**“SR30GSD仕様”**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】　SR30 G SD M L (T)

①　②　③　④　⑤　⑥

①エンジン出力(PS)によって……{“SR25” “SR30”}

②{グレンタンク仕様……“G仕様” ホッパ仕様……表示なし}

③諸装置の仕様によって……(別表参照)
{“SD仕様”(スーパデラックス) “HD仕様”(ハイデラックス) “D仕様”(デラックス) “D2仕様”(デラックス2)}

※“D2仕様”はSR25のみ

④{自動車体水平制御装置付き(ニューマジカルモンロー)……“M仕様”}

⑤クローラによって
- ロングワイドエリア形クローラ付き……“LW仕様”
- ワイドエリア形クローラ付き…“W仕様”

※“M仕様”の有無によってクローラ長さは異なります。

⑥走行部の旋回方式によって
- スピン／ソフトターン式……“T仕様”
- ブレーキターン式……“標準”

諸装置＼仕様		D2 (SR25のみ)	D	HD	SD
自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○
	自動方向制御	—	—	—	○
	自動車速制御	—	—	○	○
	自動刈高さ制御	—	—	—	○
	自動脱こく制御	—	○	○	○
	ポジピタ機能(刈取部ワンタッチ昇降)	—	—	—	○
	自動減速	—	—	○	○
	刈取りオートクラッチ	—	—	—	○
	自動エンジン停止	○	○	○	○
	アンローダ【G仕様】 自動旋回制御	○	○	○	○
	アンローダ【G仕様】 停止位置選択	—	—	○	○
バイブロシャッタ(手動)【G仕様】		—	—	○	○
集中注油装置（電動）		○	○	○	○
防じんカバー		—	—	—	○

コンバインを安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から刈取り作業まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に諸装置を理解しましょう

2．**諸装置の説明：**諸装置のはたらきをまず理解し，間違った操作をしないでください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎作業前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

最初にエンジンの安全基本操作を体得しましょう

4．**エンジンの始動と停止：**機体の突然の発進をさせないため，エンジンの始動手順と停止を体得してください。

次にコンバインの安全走行のための基本操作を体得しましょう

5．**コンバインの運転：**

(1)安全に機体を前進・後進・停車させる基本操作を体得してください。

(2)毎作業前に点検を必ず実施してください。

(3)コンバインをほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降しと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

自動装置でコンバインの性能を最大に発揮させましょう

6．**自動装置の使いかた：**各種自動装置のはたらきと扱いかたを体得してください。

では実際にほ場で刈取り作業を始めてみましょう

7．**上手な収穫作業のしかた：**作業前の諸装置の取付け，作物とほ場条件にあった各部の正しい調整，安全で正しい刈取り作業を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

8．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，刈取りシーズン前後・長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

コンバインがもしもの不調のときは

9．**コンバインの不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

⚠安全に作業するために …… ⚠-1

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。 …… ⚠-1
2．⚠表示ラベルと貼付け位置 …… ⚠-13
3．⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-24

サービスと保証について …… 1

ご相談窓口 …… 1
機体方向説明 …… 2

小型特殊自動車について …… 3

小型特殊自動車取得の届出とナンバプレートの取付け …… 3
運転免許証の携帯 …… 3
小型特殊自動車について …… 3

諸装置の説明 …… 4

スイッチとメータパネル …… 4
メインスイッチ …… 4
コンビネーションスイッチ …… 4
ホーンスイッチ …… 5
コンバインメータ …… 5
イージーチェッカ …… 5
レベルメータ …… 6
運転装置 …… 7
主変速レバー …… 8
副変速レバー …… 8
アクセルレバー …… 8
パワーステアリングレバー …… 8
ポジピタスイッチ【SD仕様】 …… 8
水平操作レバー【M仕様】 …… 9
駐車ブレーキペダル …… 9
脱こくクラッチレバー …… 9
刈取りクラッチレバー …… 9
もみ排出クラッチレバー【G仕様】 …… 9
わら作業切換えレバー …… 10
非常エンジン停止レバー …… 10
旋回切換えレバー【T仕様】 …… 10
後進速度けん制レバー【T仕様】 …… 11
刈取り下降ロック装置 …… 11
トウミ調節レバー【D2仕様】 …… 11
チャフ調節レバー【D2仕様】 …… 11
自動装置 …… 12
自動脱こく制御装置【D2仕様除く】 …… 13
自動こぎ深さ制御装置 …… 13
自動方向制御装置【SD仕様】 …… 13
アンローダ自動旋回制御装置【G仕様】 …… 14
自動刈高さ制御装置【SD仕様】 …… 14
自動車速制御装置(ピタコン)【HD,SD仕様】 …… 14
自動減速スイッチ【HD,SD仕様】 …… 15
自動車体水平制御装置【M仕様】 …… 15
刈取りオートクラッチ【SD仕様】 …… 15
自動エンジン停止 …… 15

運転前の点検 …… 16

日常点検項目 …… 17
燃料の点検 …… 18
エンジンオイルの点検 …… 18
ラジエータ冷却水の点検 …… 18
エアクリーナの清掃 …… 18
イージーチェッカの点検 …… 19
防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィンの点検 …… 19
マフラ排気管の清掃 …… 19
ベルトカバー内の清掃 …… 19
反射器の点検 …… 19
集中注油装置による注油箇所 …… 20

エンジンの始動と停止 …… 23

エンジンの始動 …… 23
1．駐車ブレーキを掛ける …… 23
2．非常エンジン停止レバーを確認する …… 23
3．各種レバー位置を確認する …… 24
4．メインスイッチの操作 …… 24
寒冷時のエンジン始動 …… 25
燃料切れ後の再始動のしかた …… 26
エンジンの停止 …… 26

コンバインの運転 …… 27

新車時の扱いかた …… 27
初期50時間のならし運転 …… 27
発進 …… 27
1．シートの調整 …… 27
2．バックミラーの調整 …… 27
3．コンビネーションスイッチの操作 …… 27
4．ホーンスイッチの操作 …… 28
5．エンジンを始動する …… 28

6．刈取部を上げる ……28
7．走行速度の選択 ……28
8．駐車ブレーキの解除 ……28
9．発進と走行 ……29
停車 ……29
停車のしかた ……29
エンジン運転中の異常点検 ……30
1．コンバインメータによる点検 ……30
2．イージーチェッカによる点検 ……30
移動走行について ……31
移動走行前の準備 ……31
道路走行 ……33
トラックへの積込み・積降しのしかた ……34
輸送時の注意 ……35
自動装置の使いかた ……36
自動方向制御の使いかた【SD仕様】 ……36
自動こぎ深さ制御の使いかた ……36
自動刈高さ制御の使いかた【SD仕様】 ……37
自動車速制御(ピタコン)の使いかた
【HD・SD仕様】 ……38
自動車体水平制御の使いかた【M仕様】 ……39
自動脱こく制御の使いかた【D2仕様除く】 …41
アンローダ自動旋回制御の使いかた
【G仕様】 ……41
自動減速装置の使いかた【HD・SD仕様】 ……42
上手な収穫作業のしかた ……43
コンバイン作業ができる
作物とほ場の条件 ……43
作物の条件 ……43
ほ場の条件 ……43
コンバイン作業前の準備 ……44
ほ場の手刈り ……44
旋回切換えレバーの選択【T仕様】 ……44
刈取りオートクラッチ機構の取扱い
【SD仕様】 ……45
左分草かんの取扱い ……45
排わら処理装置の選択 ……45
リヤシュートの取扱い ……45
グレンタンクの取扱い【G仕様】 ……46
もみ袋の取付け【ホッパ仕様】 ……46
補助デッキ【ホッパ仕様】 ……46
作物条件に応じた各部の調整 ……47
刈刃の上下調節 ……47
引起し爪高さの調整 ……47
デバイダの調節方法 ……47
右爪ガイドの調整 ……48
引起し変速・副変速の選定 ……48
分草ガイドの取付けかた ……48
コンバイン作業について ……49
アクセルレバー操作のしかた ……49
パワーステアリングレバー操作のしかた ……50
ポジピタスイッチの操作のしかた ……50
副変速レバー操作のしかた ……51
脱こくクラッチレバー操作のしかた ……51
脱こく部の操作のしかた ……52
刈取りクラッチレバー操作のしかた ……53
刈取部の条合わせのしかた ……53
ほ場内での旋回のしかた ……54
あぜぎわ刈取り作業のしかた ……54
刈取り方法 ……55
刈取り作業の手順 ……55
ほ場の大きさによる刈りかた ……55
手刈りの脱こくのしかた ……56
こく粒排出作業のしかた ……56
カッタの取扱いについて ……59
カッタ作業とドロッパ作業の切換え ……59
切断長切換えのしかた
【S-30CH・SS-30CH】 ……59
コンバイン作業の注意事項 ……60
刈取り作業中の注意事項 ……60
アンローダが詰まった場合 ……60
こく粒排出量の調節【G仕様】 ……61
1日の作業終了後の注意事項 ……61
メンテナンス ……62
定期点検と処置 ……62
定期点検と調整一覧表 ……63
定期交換一覧表 ……65
点検・給油（水）一覧表 ……67
各部の開閉のしかた ……68
エンジンルームオープン ……68
こぎ胴オープン ……68
こぎ胴受あみの脱着 ……70
グレンタンクオープン ……70
カッタオープン ……72
各部の脱着のしかた ……73
シーブケースの脱着 ……73
カッタ部の脱着 ……75
機内の掃除のしかた ……78
掃除口の箇所 ……78
バッテリのメンテナンス ……80

バッテリの点検と交換 ……80
各部グリース・オイルの補給 ……82
各部グリースの補給 ……82
車体水平制御アーム軸受け部へのグリース【M仕様】 ……83
アンローダ部へのグリース【G仕様】 ……83
刈取一方クラッチのグリース ……84
こぎ胴駆動ケースのオイル ……84
フィードチェーン駆動ケースのオイル ……84
定期点検と調整・交換 ……85
エンジンオイルの点検と交換 ……85
トランスミッションケースオイルの点検と交換 ……86
油圧オイルタンクオイルの点検と交換 ……86
パイプ・ホース類の点検 ……87
フューエルパイプ及びオイルドレーンゴムホースの締付点検・交換 ……87
ファン駆動ベルトの点検・調整 ……87
防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィンの清掃 ……88
インレットパイプ類の締付け点検・交換 ……88
各部ワイヤの調整・交換 ……88
ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検 …91
電気配線とヒューズの点検・交換 ……91
ランプ（電球）の点検 ……92
ホーンスイッチの点検 ……92
ケーブル（コンバインメータ）の点検・交換 ……92
各ベルトの張り調整・交換 ……93
クローラの張り調整・交換 ……95
足回りシールの定期交換 ……95
各部チェーンの張り調整・交換 ……95
刈刃の調整・交換 ……99
カッタ刃の調整 ……100
定期交換 ……101
エアクリーナエレメントの交換 ……101
フューエルフィルタの交換 ……101
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 ……101
駐車ブレーキシューの交換 ……102
HSTオイルフィルタ及び油圧オイルフィルタの交換 ……102
株元センサの交換 ……103
穂先センサ（1，2）の交換 ……103
わら切刃の交換 ……103
排わら穂先搬送爪の交換 ……103
グレンタンク駆動ベルトの交換【G仕様】 …104
アンローダスクリュ組付け時の注意事項【G仕様】 ……104
カッタ刃の交換のしかた ……105
長期格納のしかた ……108
各部の清掃と補修 ……108
ラジエータ冷却水 ……108
バッテリ ……108
各種レバー類とその他 ……109
使用者が行なってはいけない修理 ……109
使用済廃棄物の処分について ……109
コンバインの不調と処置 ……**110**
付表 ……**120**
主要諸元 ……120
付属部品 ……124
特別付属品（別売） ……125
消耗部品 ……127
クボタ純オイル ……138
ラットガード ……139

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

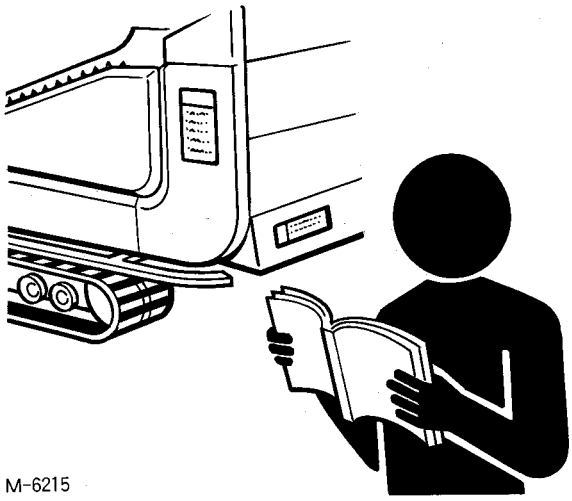
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。

- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは，注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。



M-6215

適格者運転

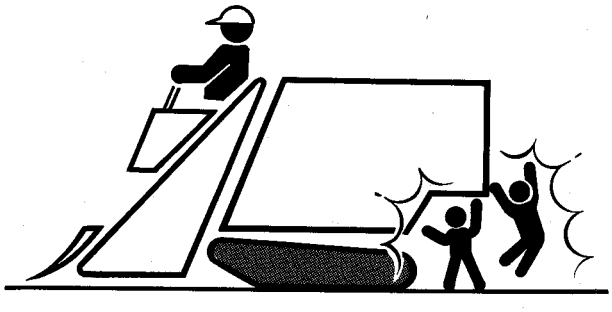
■運転操作には的確な判断が必要です。

- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，16才未満の方，過労，病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。

M-6216

子供が近づくのは危険

■点検・整備中及び収穫作業中，機械に子供を近づけないでください。みえないところでコンバインにさわったり，かくれたりして危険です。



M-6217

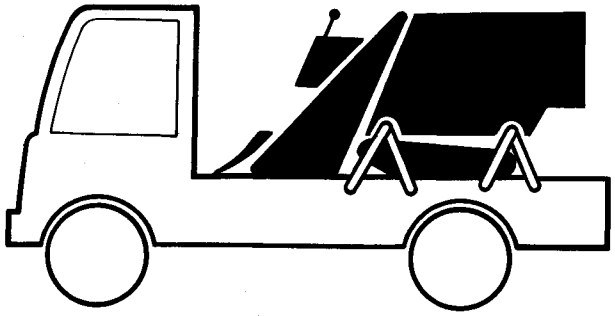
⚠ 安全に作業するために

移動走行

■道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

- 小型特殊自動車の型式認定を取得(ナンバプレート取付)していない場合や結束機を装着しているコンバインは，**“道路運送車両法”**に適合していないので公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送(**“移動走行について”**の項参照)してください。

■公道を走行するときは，運転免許証を必ず所持してください。

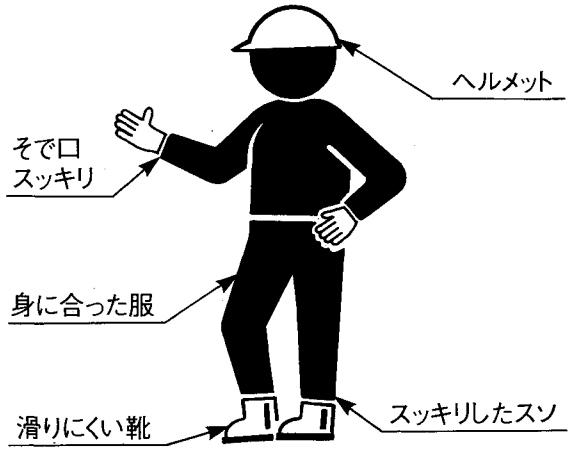


M-6218

安全な服装

■運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。

- レバーや作動部に誤って引っ掛かり，ケガをすることがありますのでだぶついた服は，着用しないでください。
  また，そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き，首巻き，腰タオルの着用は禁止です。
- サンダル，スリッパなどの履物の着用は禁止です。

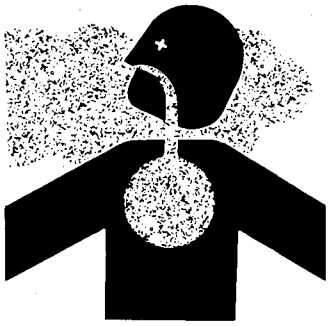


M-6219

排気ガスに注意

■エンジンの排気ガスは有毒です。

- 屋内で運転するときは，適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け，外気がじゅうぶん入るようにしてください。



F-8842

燃料の取扱いは安全に—火気厳禁

■燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いにはじゅうぶん注意してください。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとってください。

B-1499

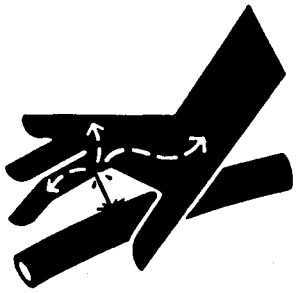
定期点検整備

■1年ごとに定期点検整備を受け，各部の保守をしてください。

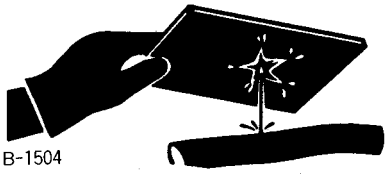
- フューエルパイプ，ラジエータホース，オイルドレーンゴムホースは2年ごとに交換してください。（**“定期交換”**の項参照）
- 電気配線は毎年点検してください。（**“定期点検と調整”**の項参照）

■高圧噴油が皮ふに浸入すると危険です。

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接，手や体を触れないようにしてください。
  もし，高圧噴油に触れた場合，直ちに医者の診断を受けてください。油が皮ふに浸入した場合，数時間以内に取除かないと壊疽(えそ)にかかるおそれがあります。



F-8847



B-1504

作業前点検（日常点検）の実施

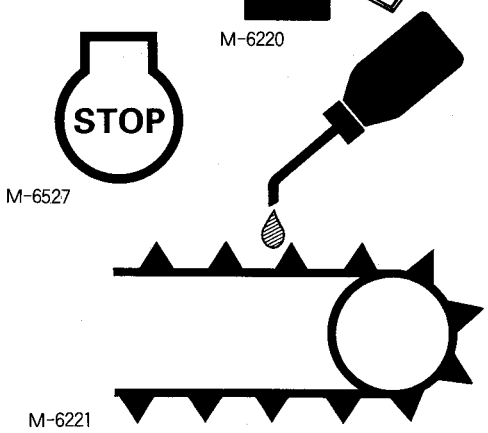
■運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。

■点検・整備・調整・掃除・給油・グリースアップするときはエンジンを必ず止めてください。

- 脱こくクラッチ・刈取りクラッチは**“切”**にし，駐車ブレーキを掛けてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリ周辺にわらくずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。

■取外した安全カバー，保護カバーは必ず取付けて作業してください。

M-6220



M-6527

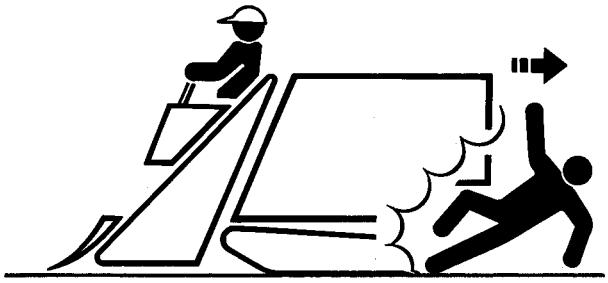
M-6221

⚠ 安全に作業するために

機械を動かす場合は安全に注意

■機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは，運転座席に必ず座って，変速レバーを**“中立”**にし各クラッチを**“切”**にし，ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械を発進するときや各クラッチを入れるときは，ホーンを鳴らすなどの合図をして，機械に人を近づけないでください。
- 前進・後進・旋回するときは，必ず周囲の安全を確認してください。



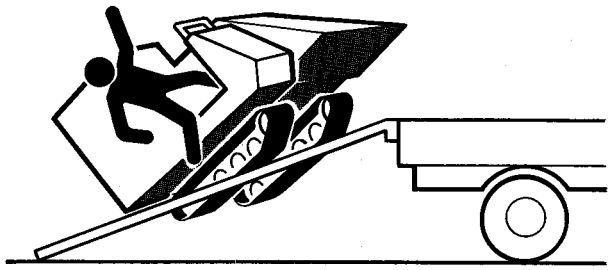
M-6236

安全なトラック輸送

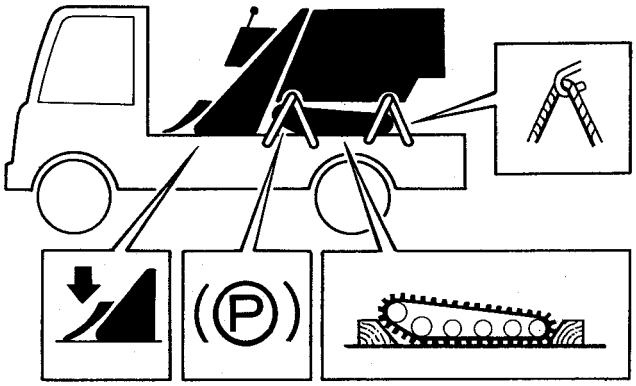
■積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

■トラックへの積込み・積降しは，平地を選んで，最低速で行なってください。

- あゆみ板はフックが付いているものを使用し，トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また，あゆみ板は段差の４倍以上の長さで，すべり止めがあり，強度がじゅうぶんある基準にあったものを使ってください。
- あゆみ板は平行において，安定していることを確認してください。
- グレンタンク内・ホッパ内のもみは空にしておいてください。
- M仕様(自動車体水平制御)は機体を一番下げた状態にしてください。
- 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。
- あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・駐車ブレーキを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し，再度上り下りし直してください。



M-6223



M-6224

■トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかり床に固定します。

- 防じんカバーが開いていると風圧で破損・脱落のおそれがありますので，必ず閉じてください。
- グレンタンクのアンローダはアンローダ支えを下げて収納し，バンドで固定してください。（延長アンローダの場合は折りたたんでください。）
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから，絶対しないでください。

あゆみ板の基準

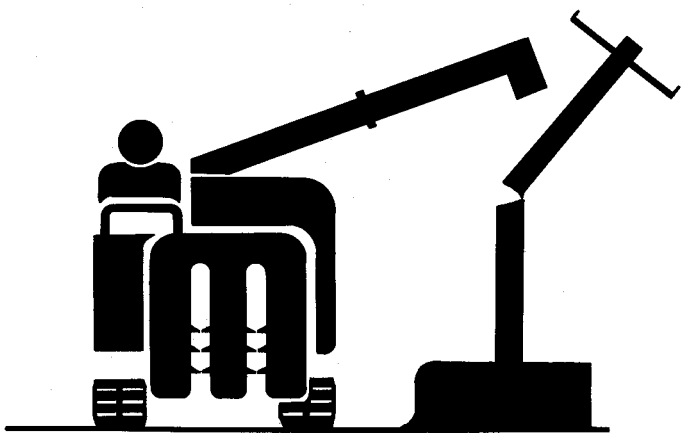
長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	55cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が1600kg以上の重量に耐えうる

安全な移動走行

■補助デッキ・左分草かんを収納して機体幅をせまくしてください。

- 刈取部の先にデバイダカバーを取付けてください。
- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛け，浮上がりを防いでください。
- 各作業クラッチを切り，運転者以外乗らないでください。
- M仕様(自動車体水平制御)は，機体を一番下げた状態にしてください。

■もみはすべて排出，又は降ろしてください。

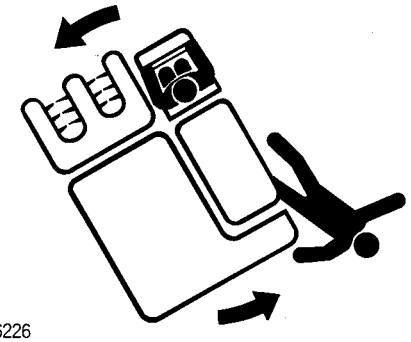


M-6225

高速走行の場合の注意

■高速走行するときに，急激なパワーステアリングレバーの操作をすると急旋回し危険です。

- 方向を変えるときは速度を低速にしてください。



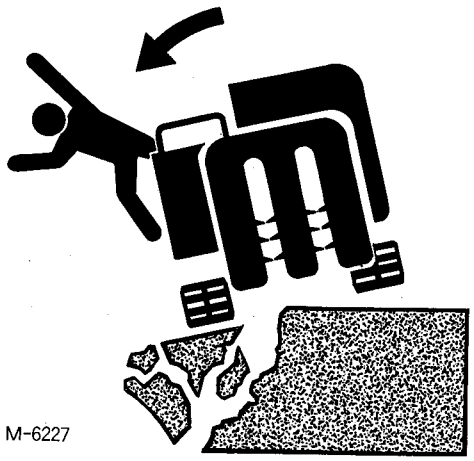
M-6226

⚠ 安全に作業するために

転倒・転落注意

■転倒・転落は重大事故になります。

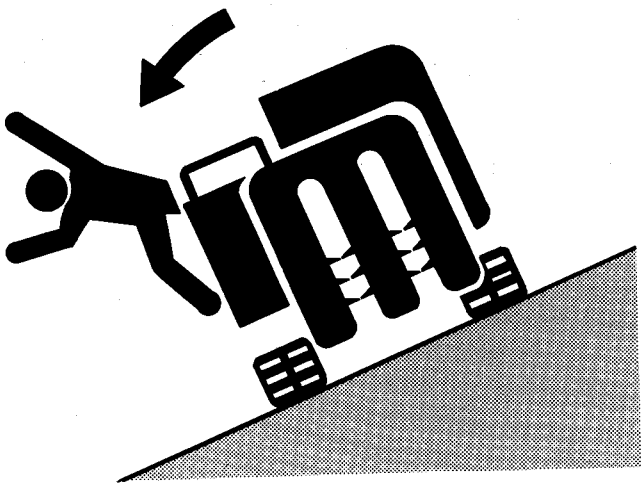
- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあり，コンバインの重みでくずれる場合がありますので，走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると，転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。
- 刈取り作業時以外(特にあぜ越時，移動走行時，運搬時，格納時)は，**“もみ”**をすべて排出，又は降ろして各作業クラッチを**“切”**にし，M仕様(自動車体水平制御)は，機体を一番下げた状態にしてください。



M-6227

■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

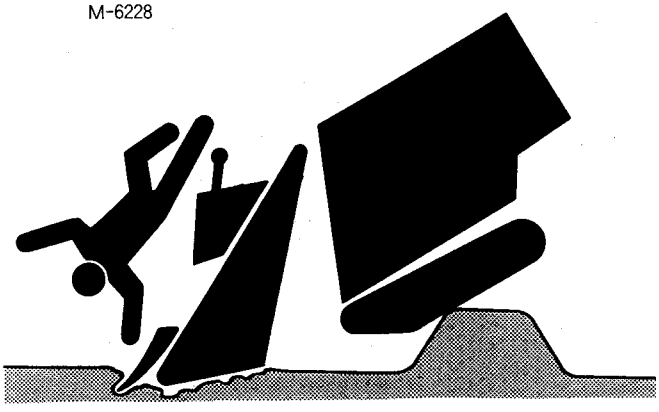
- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作しないでください。
- 斜め走行は危険です。機械を傾斜の方向に合わせた作業（走行）をしてください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。



M-6228

■10cm以上の段差のあるところでは，段差の4倍以上の長さですべり止めがある基準に合ったあゆみ板を使ってください。

- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーの操作はしないでください。

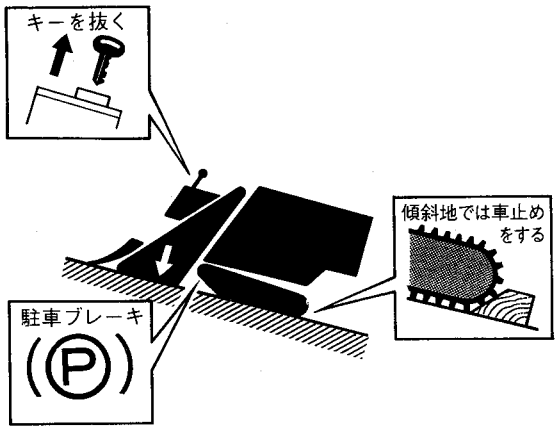


M-6229

安全な駐車のしかた

■駐車するとき(運転席を離れるとき)は，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当るまで降しキーを抜いてください。

- 傾斜地に駐車するときは，車止めをしてください。



M-6230

運転者以外の搭乗禁止

■運転者以外の人を乗せて運転しないでください。

- ふり落とされたり，障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いているコンバインにとび乗ったり，とび降りたりしないでください。

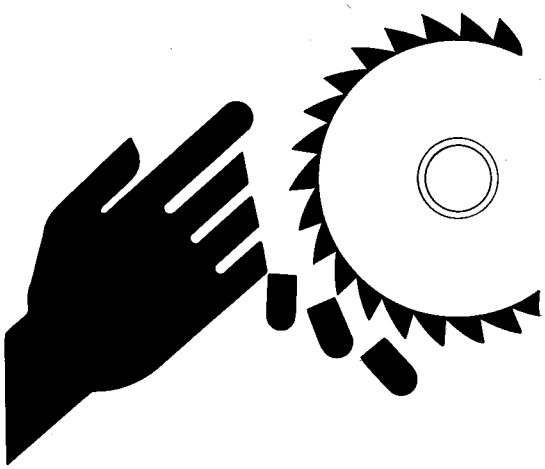
M-6231

⚠ 安全に作業するために

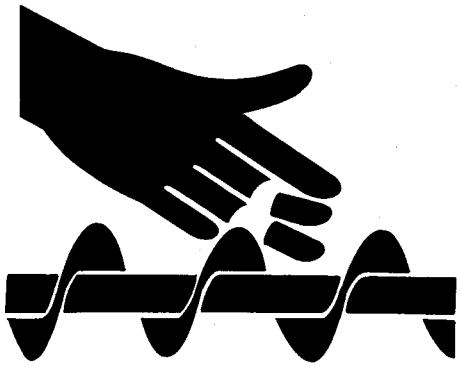
安全な収穫作業

■異常に気づいたらすぐエンジンを止めてください。

- 危険な作動部が多くありますので運転中にわらの巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタや結束機にわらが詰まったときは，すぐ各クラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋をして，少しずつ取ってください。素手で刃先には触れないでください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には危険な回転物があります。カバーの下に手を入れたり，カバーを外したままで運転しないでください。
- 各部の掃除口，点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを必ず止めてください。

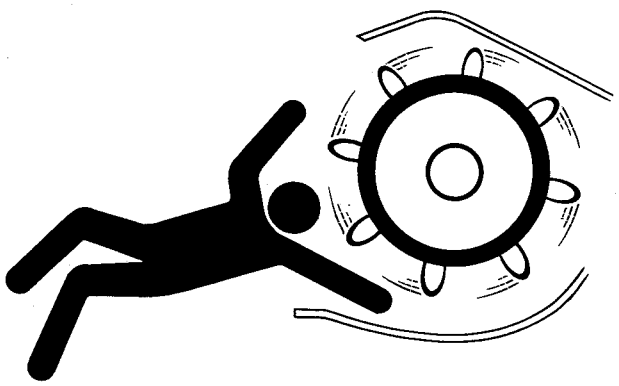


M-6232



M-6233

■こぎ胴をオープン・エンジンルームをオープン・カッタをオープン・グレンタンクをオープン・結束機をオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また，エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。



M-6234

安全な手こぎ作業

■コンバインの走行部・刈取部を止めて手と腕をチェーンの外側に位置させ，わらを少量ずつ送り込むこと。

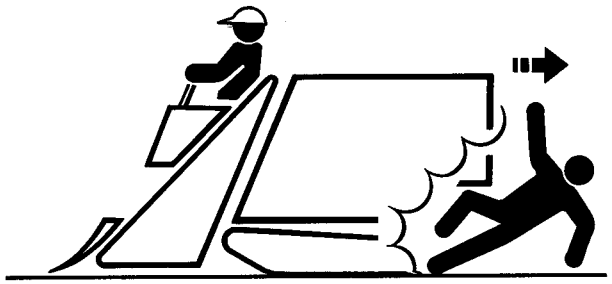
- そで口がスッキリした服で，手袋は使用しないでください。

M-6235

共同作業の安全確保

■補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあります。補助者の安全にも配慮してください。

- エンジン始動時，各クラッチを入れるときはホーンで合図し，補助者のＯＫをもらってください。
- 補助者がコンバインに近づくときは，運転者に知らせることを徹底させてください。

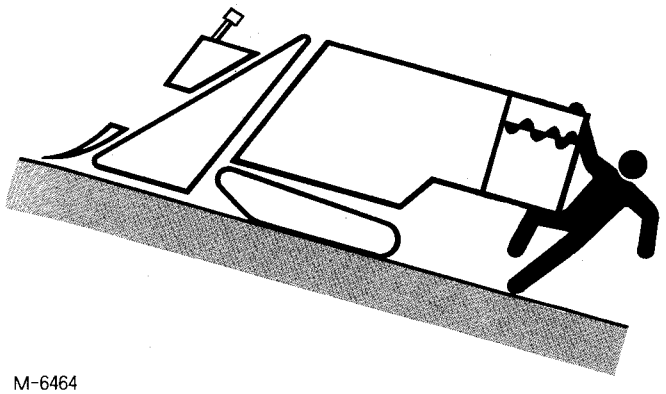


M-6236

オープン注意

■こぎ胴，カッタ，結束機，エンジンルーム，グレンタンクをオープンするときは，エンジンを必ず止めて，平たんな場所で行なってください。

- 傾斜地でオープンすると，開閉時にいきおいよく動いて，機体の変形やケガをするおそれがあります。



M-6464

⚠ 安全に作業するために

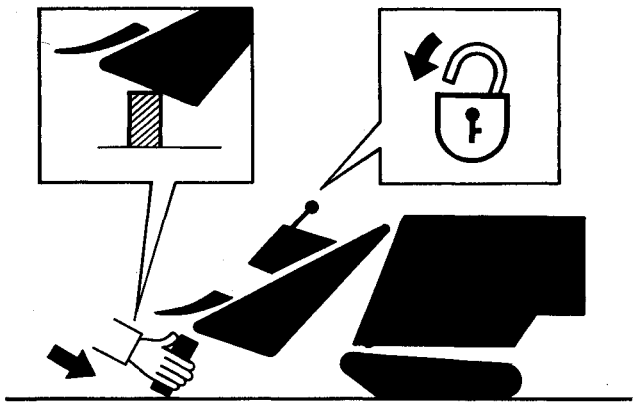
安全な点検・整備

■点検・整備は水平で平たんな場所で行なってください。

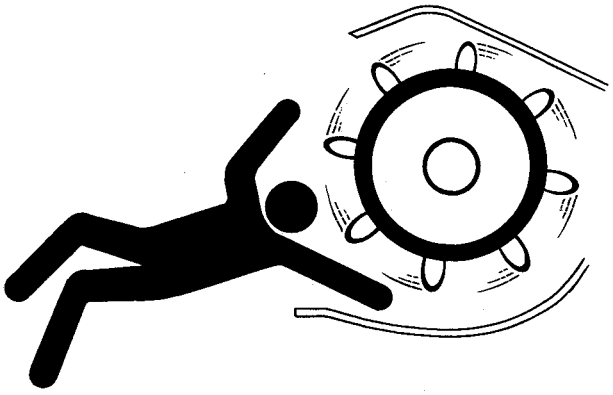
■エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛けてください。

- 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき，昇降部をロックするとともに，落下防止の歯止めをしてください。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしないでください。
- 刈取部の刈刃・カッタ部のカッタ刃を交換するときは手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

■こぎ胴をオープン・エンジンルームをオープン・カッタをオープン・グレンタンクをオープン・結束機をオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また，エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。



M-6237



M-6234

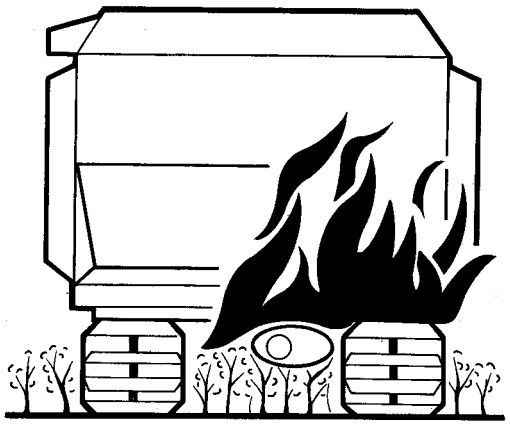
火災防止

■わらくずは燃えやすく注意が必要です。

- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリ周辺にわらくずがたまっていると危険です。作業前，作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後わらくずの上や枯れた雑草の上に停車すると，火災のおそれがありますのでさけてください。

■機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

■電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生するおそれがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



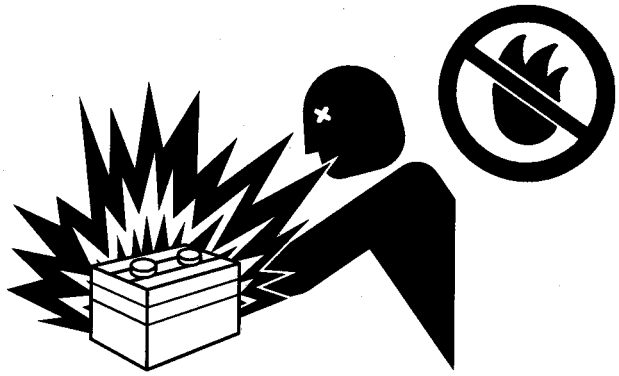
M-6238

バッテリの取扱い注意

■バッテリのガスは爆発のおそれがあります。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，バッテリコードのショートによるスパークをさせないでください。

■バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使わないでください。



F-8836

■バッテリの充電時，交換時は，バッテリの注意ラベルをよく読んでください。

- バッテリを取外すときは，最初にマイナス（⊖）側のバッテリコードを取外してください。
  バッテリを取付けるときは，最初にプラス（⊕）側のバッテリコードをプラス（⊕）側の端子に取付けてください。
- 充電は，機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂するおそれがあり危険です。
- 指定外のバッテリは使わないでください。

■バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。

- 目，皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗ってください。
- 目に入ったときは，水でよく洗った後，医師に治療を受けてください。

M-6465

⚠ 安全に作業するために

ヤケド防止

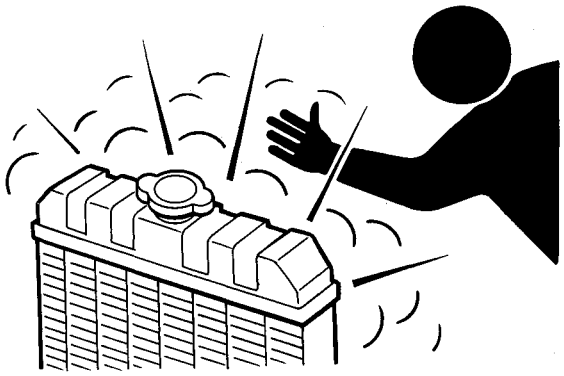
■過熱された冷却水あるいは蒸気が皮ふに触れるとヤケドします。

● 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は，過熱，加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。

■高温の油が皮ふに触れるとヤケドをします。

● 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって，残圧がないことを確かめて整備してください。

■エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



B-1503

B-1502

このコンバインを他人に貸すときは

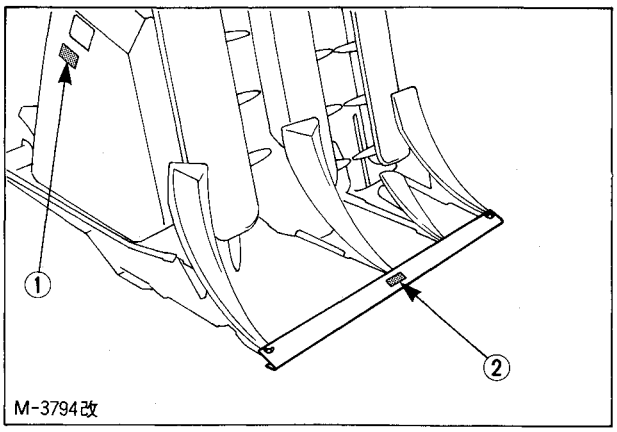
■取扱説明書をよく読んでいただくとともに，取扱い方法・安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるように指導を行なってください。

2. ⚠表示ラベルと貼付け位置

①品番　53981-6432-1

⚠ 注　　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



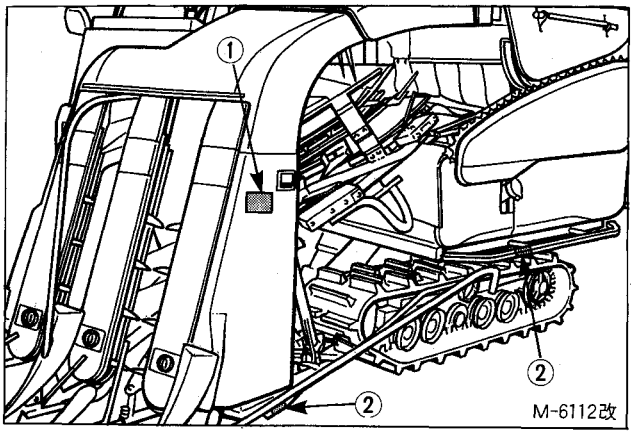
②品番　59700-4332-2

⚠注意	デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

①品番　53981-6432-1

⚠ 注　　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



②品番　59700-2136-2

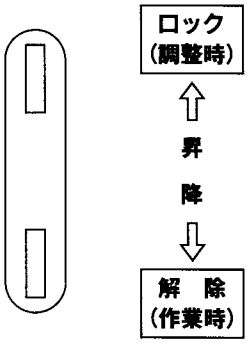
⚠注意	人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

⚠ 安全に作業するために

①品番　59900-4375-1【HD仕様】

⚠ 注　意

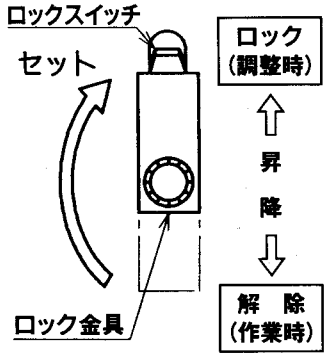
**刈取部が不意に下降して
はさまれる危険があるので
刈取部を上げて点検・調整
するときはロック金具を
必ずロックすること。**



①品番　59900-4376-1【SD仕様】

⚠ 注　意

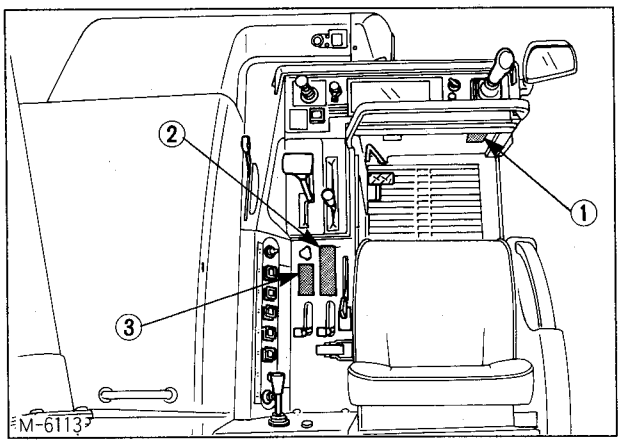
**刈取部が不意に下降して
はさまれる危険があるので
刈取部を上げて点検・調整
するときはロックスイッチ
を上げて必ずロック金具を
セットすること。**



②品番　59900-4365-2

⚠ 注　意

エンジンを始動するときは、主変速
レバーを「停止」にし、脱こくクラッチ
を「切」にすること。



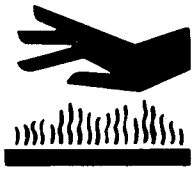
③品番　52030-4385-3【T仕様】

⚠ 注　意

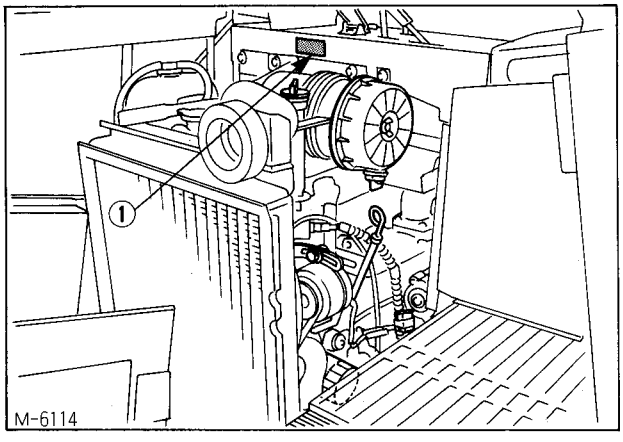
**高速後進でのスピンターン
は、振り落されるおそれが
あるので、後進けん制を
必ず「入」にすること。**

①品番　52320-3159-1

⚠ 注　意



**マフラ・ハイキカン・エンジ
ンなどの高温部に触れると
ヤケドをするので、高温部に
絶対に触れないこと。**



①品番　59900-4378-4

⚠ 注　意

作業前

1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．エンジンを始動するときは、各クラッチを「切」にし主変速を「停止」にすること。
3．屋内は排気ガスが溜まりやすく、ガス中毒のおそれがあるので、換気すること。
4．ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移動・作業中

1．発進するときや脱こく部・刈取部を作動させるときは、周囲の安全を確かめ合図をして、機械に人を近づけないこと。
2．緊急停止が必要なときは、主変速レバーを「停止」にすること。
3．転倒・転落事故のおそれがあるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけぎわなどは走行しないこと。また移動走行で旋回するときは、必ず減速すること。
4．急発進・暴走の危険があるので、副変速を切換えるときは、平坦な場所で、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むこと。
5．刈取作業時以外（あぜ乗越時．移動走行時．運搬時格納時）は「もみ」はすべて排出又は降ろして、各作業クラッチを“切”にし、M仕様(車体水平制御)は、一番下げた状態にすること。

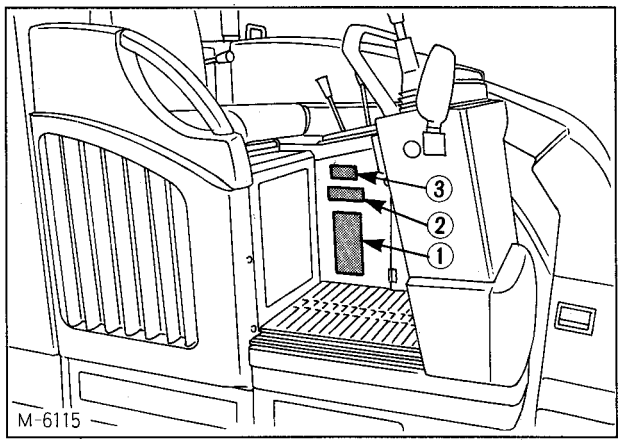
積込み・積降し・あぜ越え

転倒・転落事故のおそれがあるので、車への積込みおよび、あぜ越えをするときは以下を守ること。

① 上るときは前進に、降ろすときは後進にすること。
② 副変速を「倒伏」、主変速を低速にし、エンジンの回転を落とすこと。
③ パワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
④ あゆみ板は、段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使うこと。

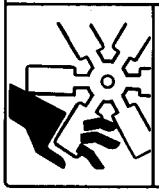
駐・停車

1．火災のおそれがあるので、機械を停止するときは、切りわらや雑草の上に止めないこと。
2．機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また坂道で駐車するときは、車止めをして暴走を防ぐこと。



③品番　52320-3166-1

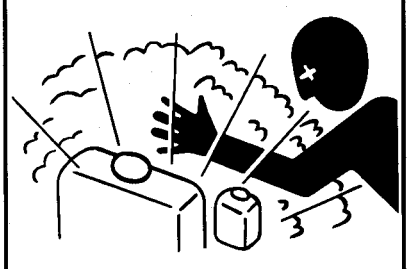
⚠ 警　告



エンジンを回転したままエンジンルームを開けると、ファンやベルトでケガをするおそれがあるので、エンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

②品番　56431-5219-4

⚠ 注　意



オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。
1．エンジンを止める。
2．必ず停止後30分以上経過してからエンジンルームを開けること。
エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

▲ 安全に作業するために

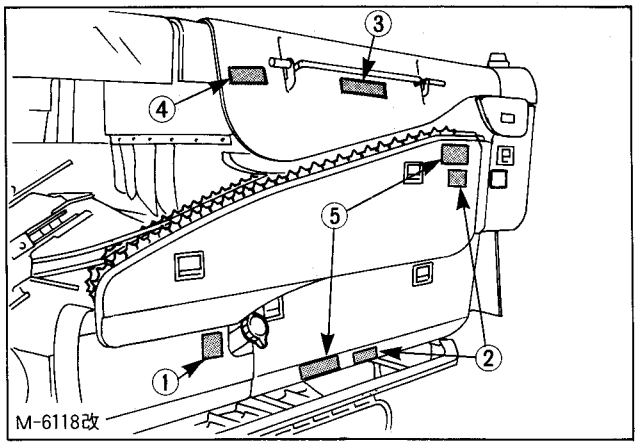
①品番　52166-2575-1

▲ 注　意

火気厳禁

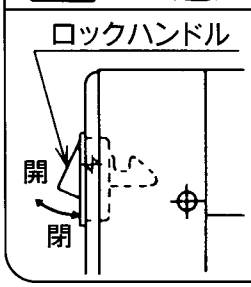
・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油



②品番　57745-5319-1

▲注意



1.このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2.ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

③品番　53982-6431-1

▲ 警　告

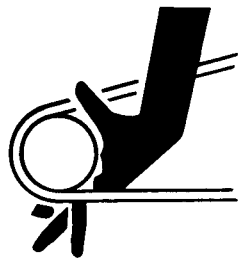
中で扱歯が高速で回転しているので、接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。

④品番　53981-6435-2

▲ 警　告

1．わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。
2．手こぎ作業で、手・腕をチェーンにはさまれてケガをするおそれがあるので、下記を守ること。
・平坦な所で走行部・刈取部を止めること。
・手・腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少しづつ送り込むこと。

⑤品番　53981-6436-2



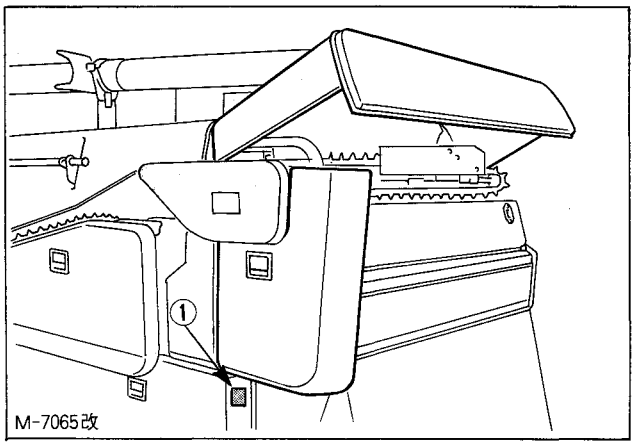
▲ 注　意

1．回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3．点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

①品番　53690-3129-2

▲ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

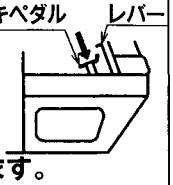


①品番　59900-4323-2

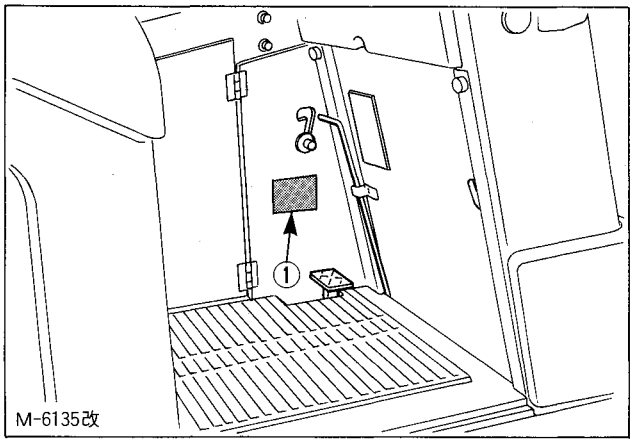
▲ 注　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1．駐車するときは、車止めをすること。
2．駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「倒伏」又は「標準」にし、主変速を「停止」にすること。

駐車ブレーキの操作方法



①主変速レバーを「停止」位置にし、停止を確認すること。
②駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むと自動的にロックされます。
③ロックを解除する時は、ペダルを踏みながらレバーを押して下さい。

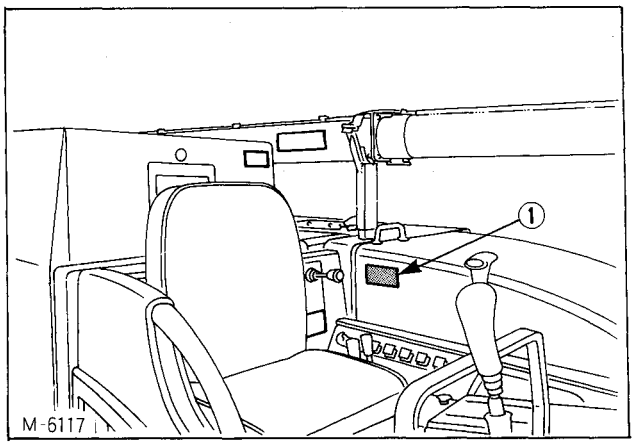


⚠ 安全に作業するために

①品番　52000-7917-2【SD仕様】

⚠ 注　意

トラックで輸送するときは、風圧でカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、刈取部を下げて、ボウジンカバーを閉じ、ロープ等で浮き上がりを防ぐこと。

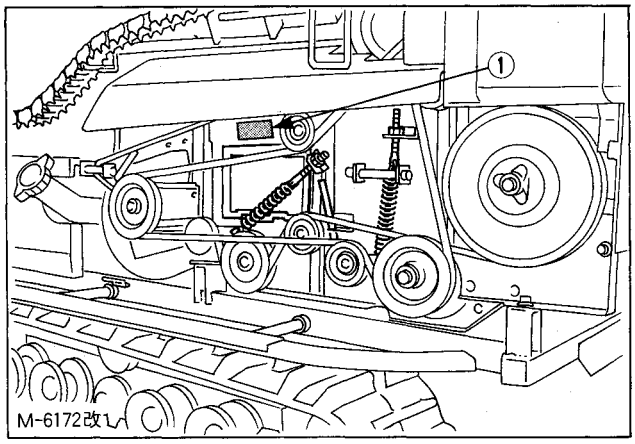


①品番　53981-6434-1

⚠ 注意

掃　除　口

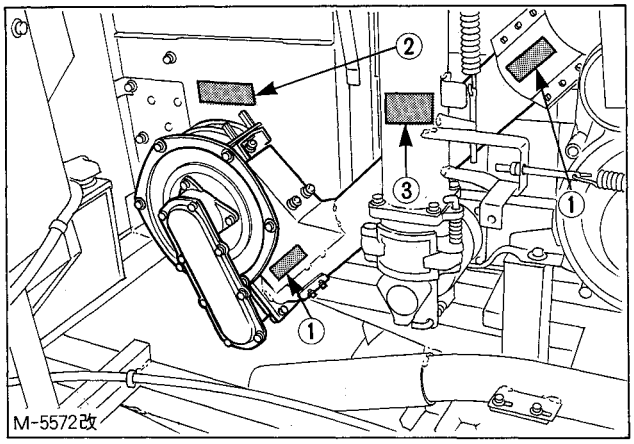
中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



②品番　53690-3129-2

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

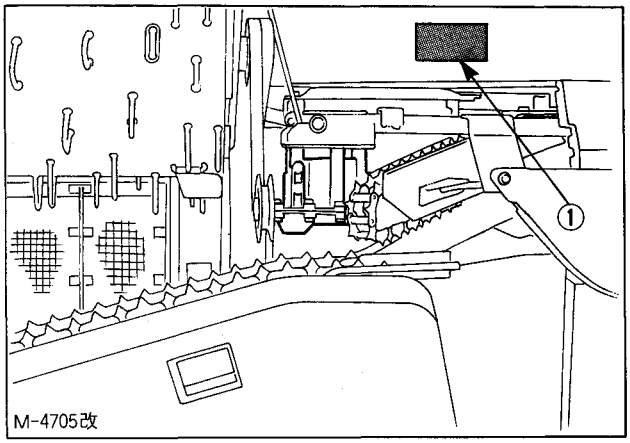


③品番　53681-6434-2

⚠ 注　意

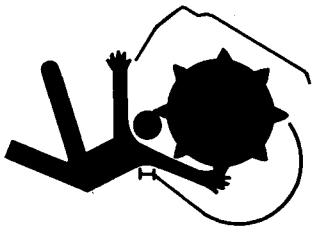
掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



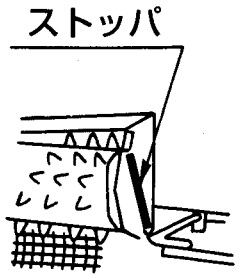
M-4705改

①品番　53981-6416-2



⚠ 警　　告

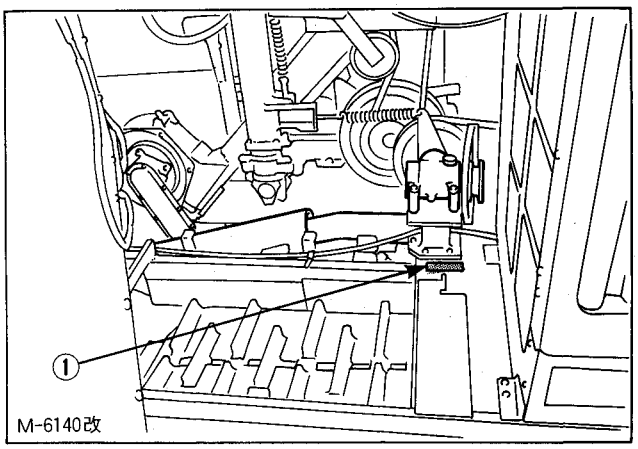
1．扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2．扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。



①品番　52320-3159-1

⚠ 注　　意

マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

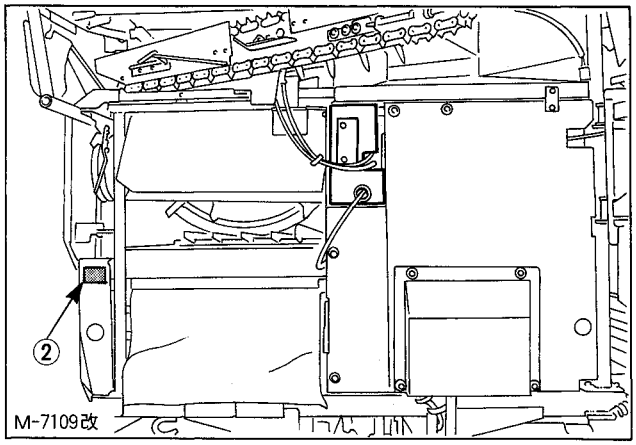


M-6140改

②品番　53690-3129-2

⚠ 注　　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。



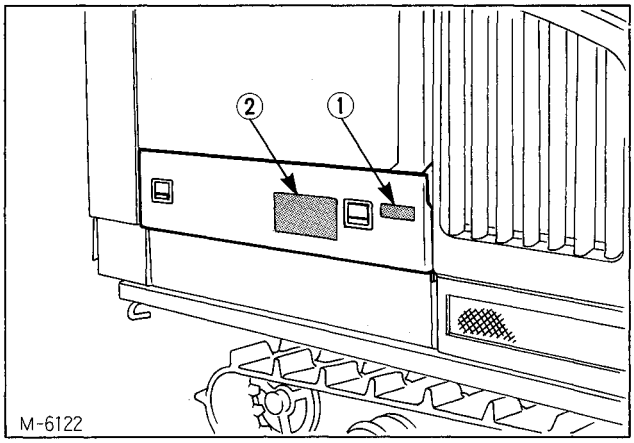
M-7109改

⚠ 安全に作業するために

①品番　53981-6432-1【G仕様】

⚠ 注　　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



②品番　58056-8114-1【G仕様】

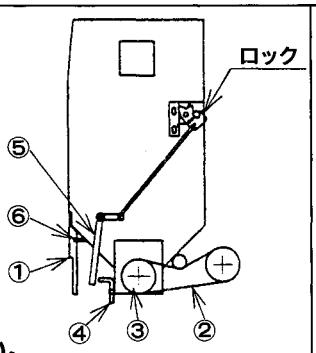
⚠ 注　　意

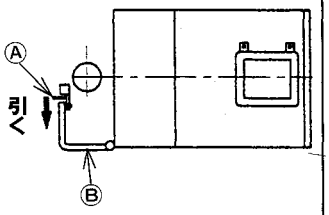
グレンタンクをオープンするときは、ベルトに手をはさまれたりタンクに身体がはさまれるおそれがあるので、平坦な場所で、内部の「もみ」を排出し、エンジンを停止してからオープンすること。

◆タンクオープンのしかた

1) タンク内を空にしてエンジンを停止してください。
2) カバー ① を外し、ベルト ② をプーリ ③ から外してタンク固定ピン ④ を抜いてください。
3) タンクオープンレバー ⑤ を持って手前に引きロックを解除し、さらに取っ手 ⑥ を持ってタンクを開いてください。
4) タンクを閉じる時は上記の逆の順番で確実にタンクを固定しベルトをかけてください。

◆タンクをオープンする時は、カッタを閉じてください。



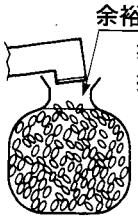


◆カバーⒷを開く時は、カバーⒶの取っ手を引いてください。閉じるときはカバーⒷを押し込んでください。

①品番　59715-6425-2【G仕様】

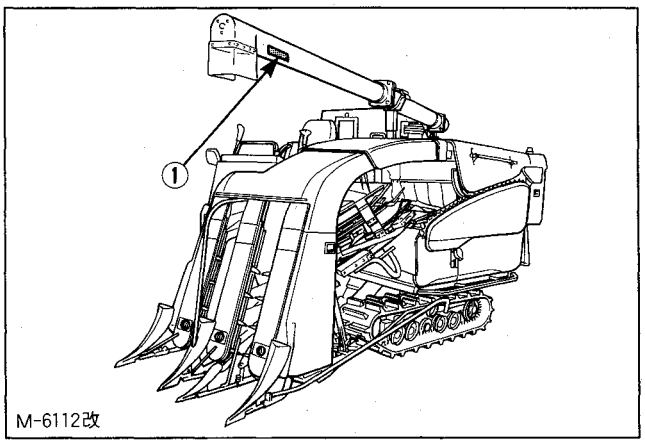
⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。



袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。

アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。

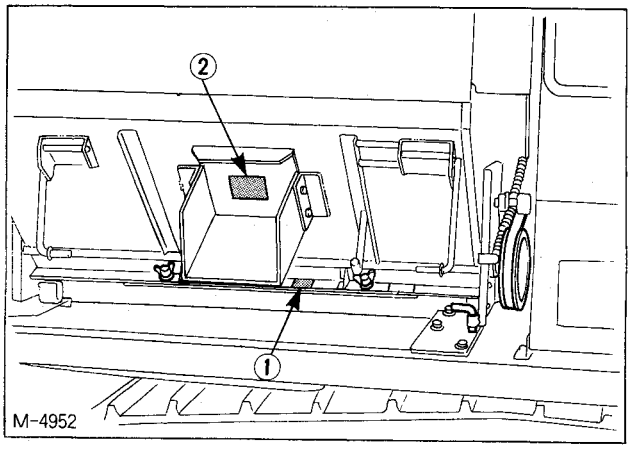


①品番　53981-6434-1【G仕様】

⚠ 注意

掃　除　口

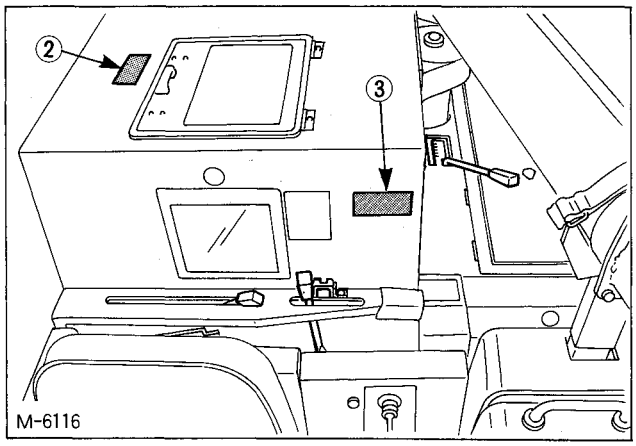
中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



②品番　53690-3129-2【G仕様】

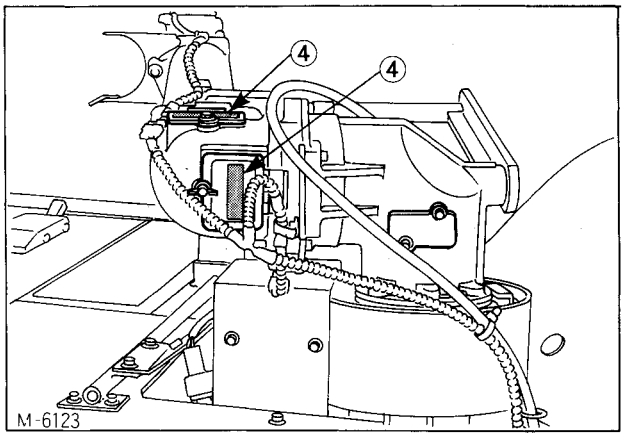
⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。



③品番　58071-8173-1【G仕様】

⚠ 注意		
	1.手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダササエの上に手を置かないこと。	2.アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの作用範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないこと。

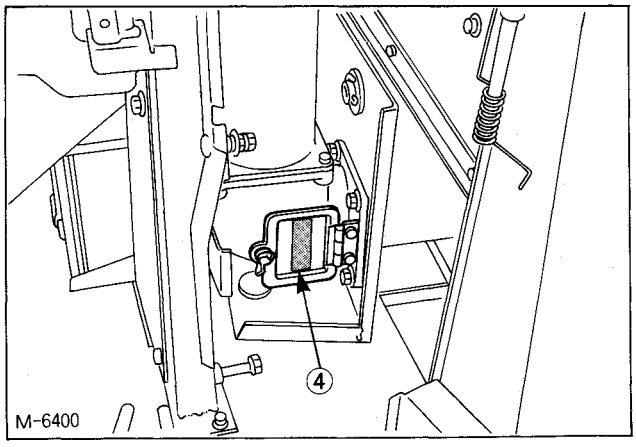


④品番　58071-8174-1【G仕様】

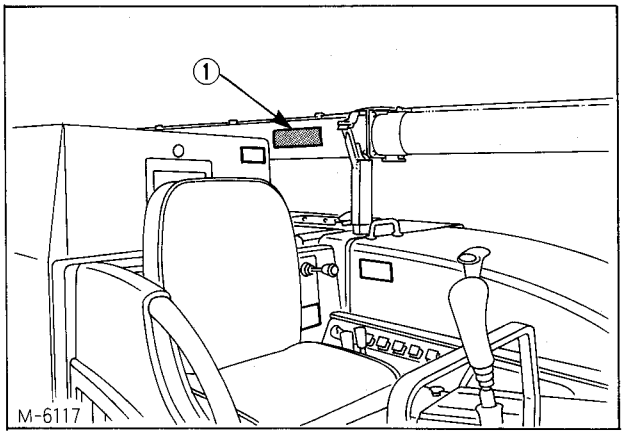
⚠ 注意

掃除口

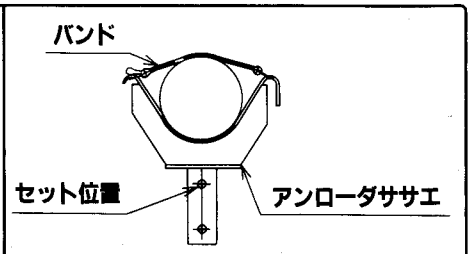
中にケガをするので，清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後は必ずフタを閉じること。



⚠ 安全に作業するために



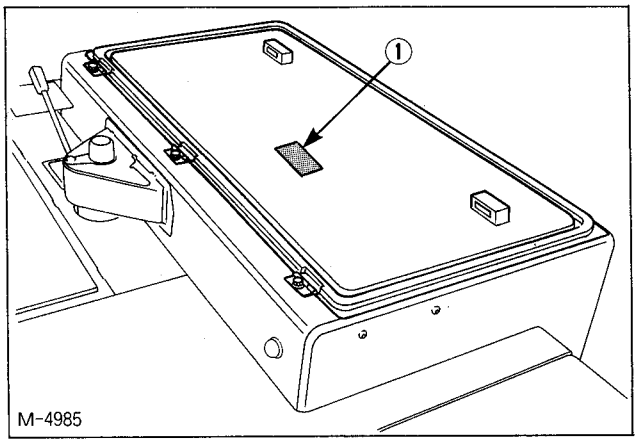
①品番　58071-8172-1【G仕様】

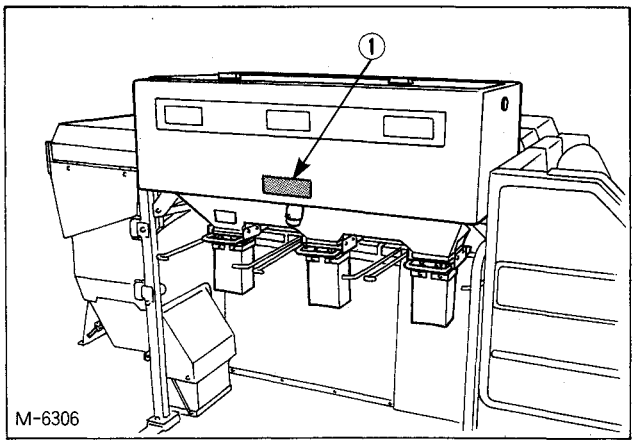
⚠ 注意	あぜ越え・移動時およびトラックで輸送する場合、アンローダが人・物にぶつかる危険があるので下記を守ること。 1. アンローダササエを下げてセットする。 2. アンローダを収納する。 3. 延長アンローダの場合は折りたたむ。 4. アンローダが浮き上がらないようにバンドで固定する。	

①品番　53690-3129-2【ホッパ仕様】

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。





①品番　52166-2119-2【ホッパ仕様】

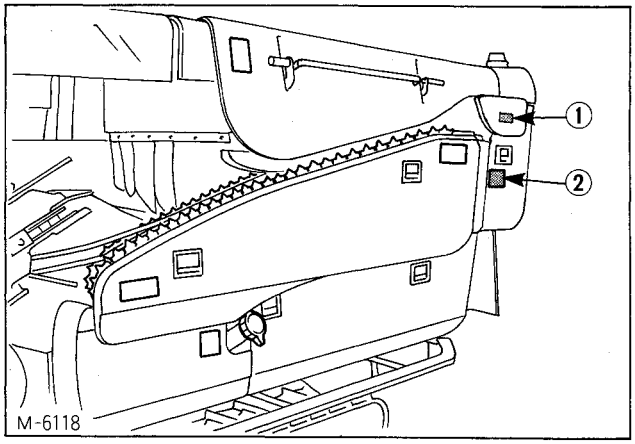
▲注意

1.転落のおそれがあるので補助デッキには乗らないこと。
2.移動するときは、人に当ってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

①品番　53981-6188-2

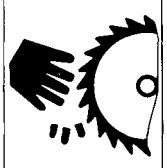
▲警告

1.カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。
2.ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。



②品番　57745-5314-2

▲警告



1.カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので，手を絶対に入れないこと。
2.チェーン・ベルトに接触すると，手をケガするので，手を絶対に入れないこと。
3.カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。
4.カッタをオープンしたまま運転しないこと。
5.点検・調整，ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
6.点検・調整などが終わったら，カバーを元通りに必ず取り付けること。

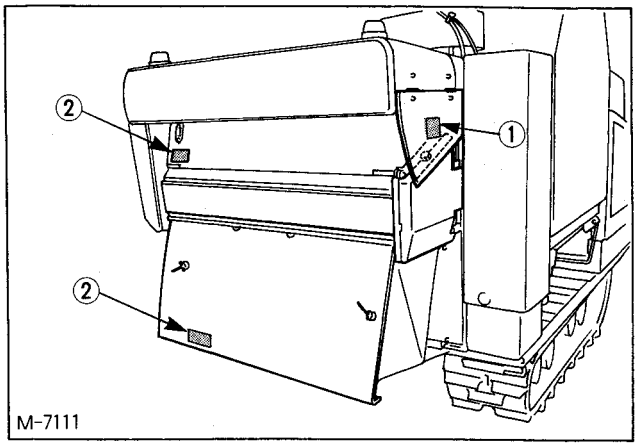
▲ 安全に作業するために

必ず読んでください。

①品番　53981-6191-1

▲警告

1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

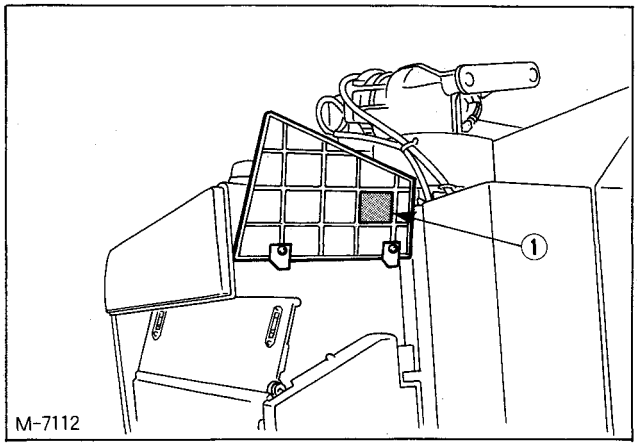


M-7111

②品番　57745-5315-3

▲警告

1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

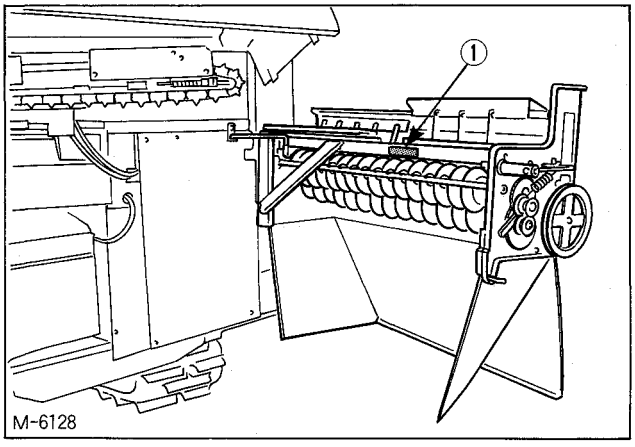


M-7112

①品番　57745-5124-1

▲注意

1. **カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。**
2. **カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。**



M-6128

3. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
　シンナやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。

サービスと保証について

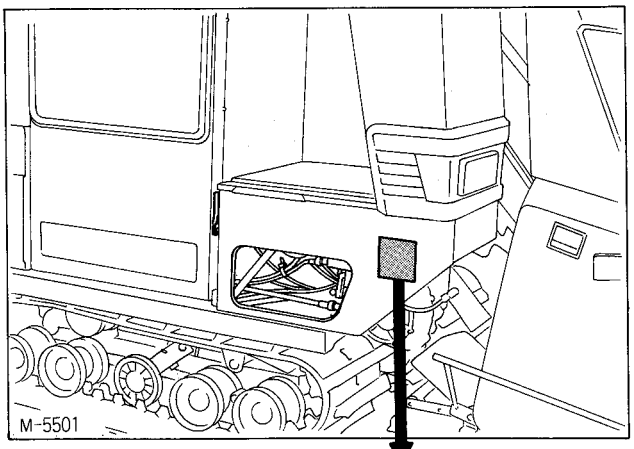
この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

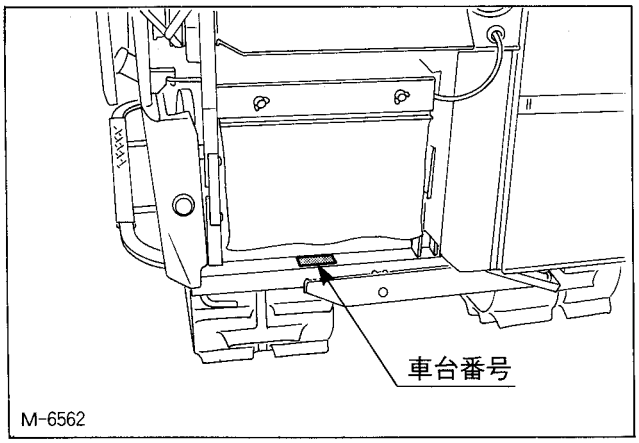
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際　(1)商品名・区分と車台番号
　　(2)とう載機関の型式名と機関番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリに純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

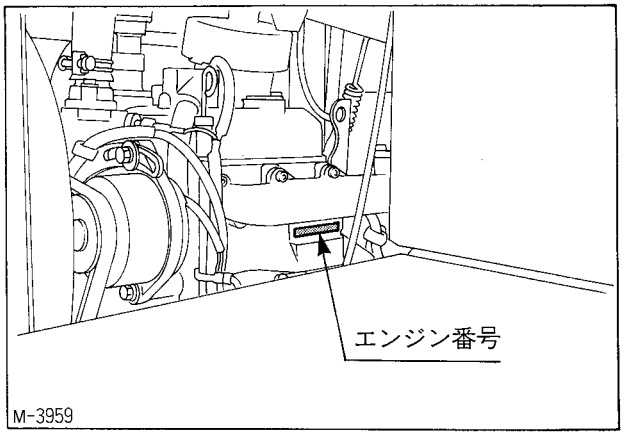
警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



農業機械の種類	コンバイン（自脱型）	
農機型式名	クボタ	
商品名		
区分		
車両型式名	クボタ	
車台番号		
刈取条数		条
とう載機関 型式名	クボタ	
とう載機関 機関番号		
とう載機関 最大出力	PS/	r.p.m.
とう載機関 無負荷最高回転速度		r.p.m.
製造元	株式会社クボタ	





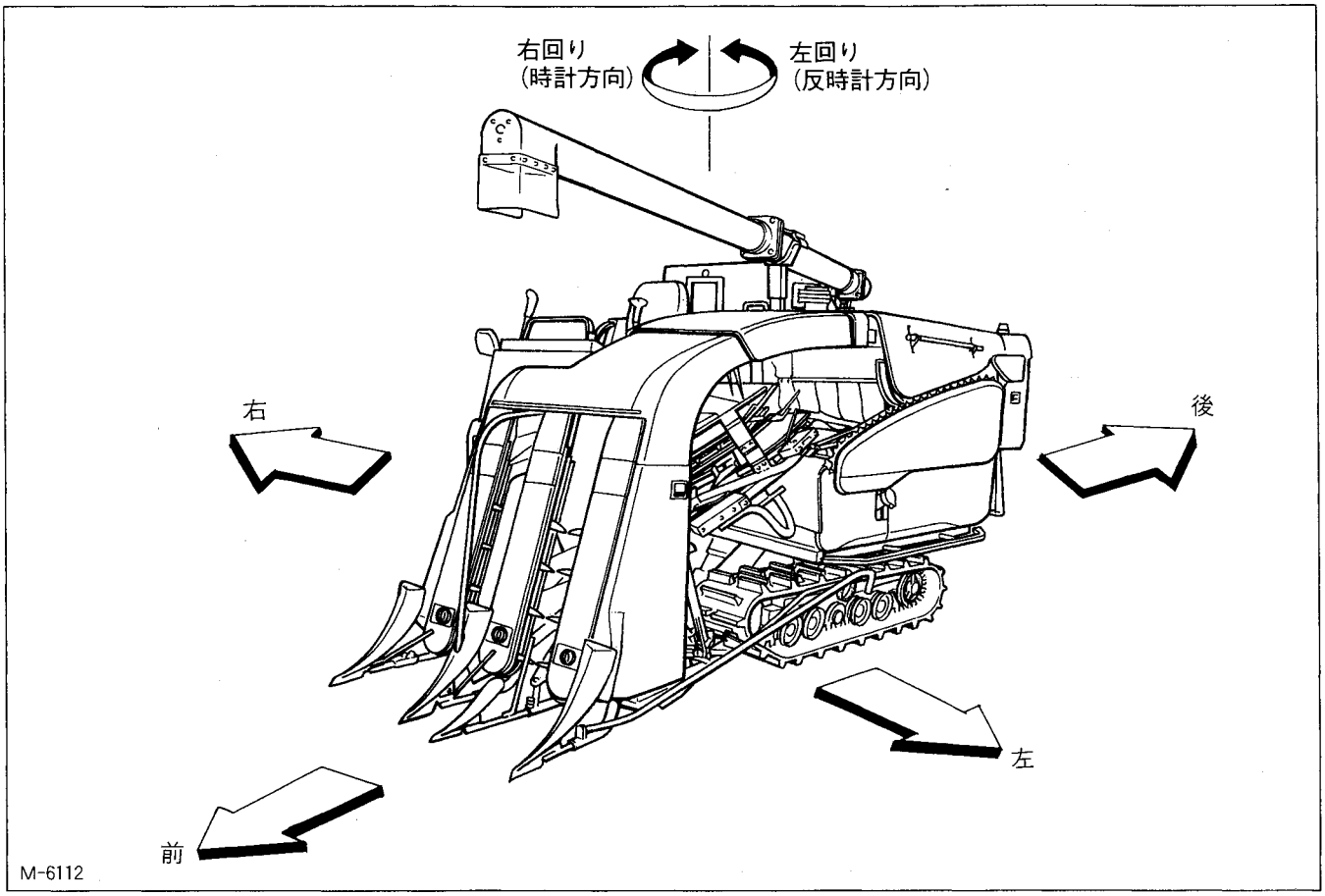
◆認定番号

安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車		摘　要
			車両型式名	型式認定番号	
SR25	クボタR9506	20120	クボタ　C306	——	ホッパ仕様
SR25G	クボタR9506G	20121	クボタ　C306	農1982	グレンタンク仕様
SR30	クボタR9507	20123	クボタ　C307	——	ホッパ仕様
SR30G	クボタR9507G	20124	クボタ　C307	農1983	グレンタンク仕様

■機体方向説明

この取扱説明書で使用している**“前後・左右・左回り・右回り”**などの方向は，図示の通りに決めています。



小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の小型特殊自動車として型式認定を受けておりますので，公道走行を行なえます。(**“移動走行について”**の項参照)

公道を走行するために以下のことを行なってください。

警 告

＊道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

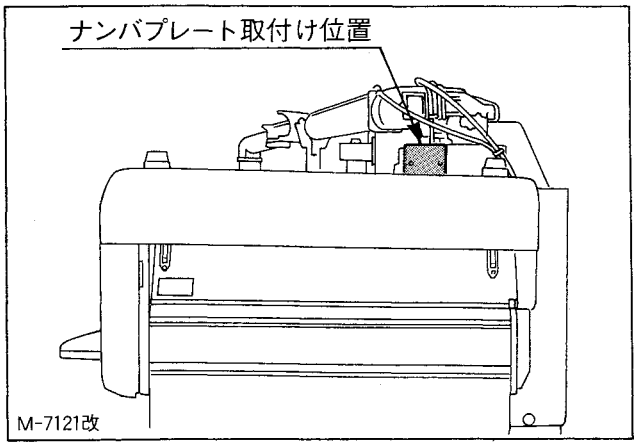
注 意

＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

■小型特殊自動車取得の届出とナンバプレートの取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

❶小型特殊自動車取得の証明書など(購入先で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
❷届出が済むとナンバプレートが交付されます。
❸ナンバプレートを車体の取付け位置に取付けてください。



◆損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

■運転免許証の携帯

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■小型特殊自動車について

機体寸法(m)	全　長	4.7 以下
	全　幅	1.7 以下
	全　高	2.0 以下
最　高　速　度(km/h)		15 以下
エンジンの総排気量L(cc)		1.5 (1500) 以下

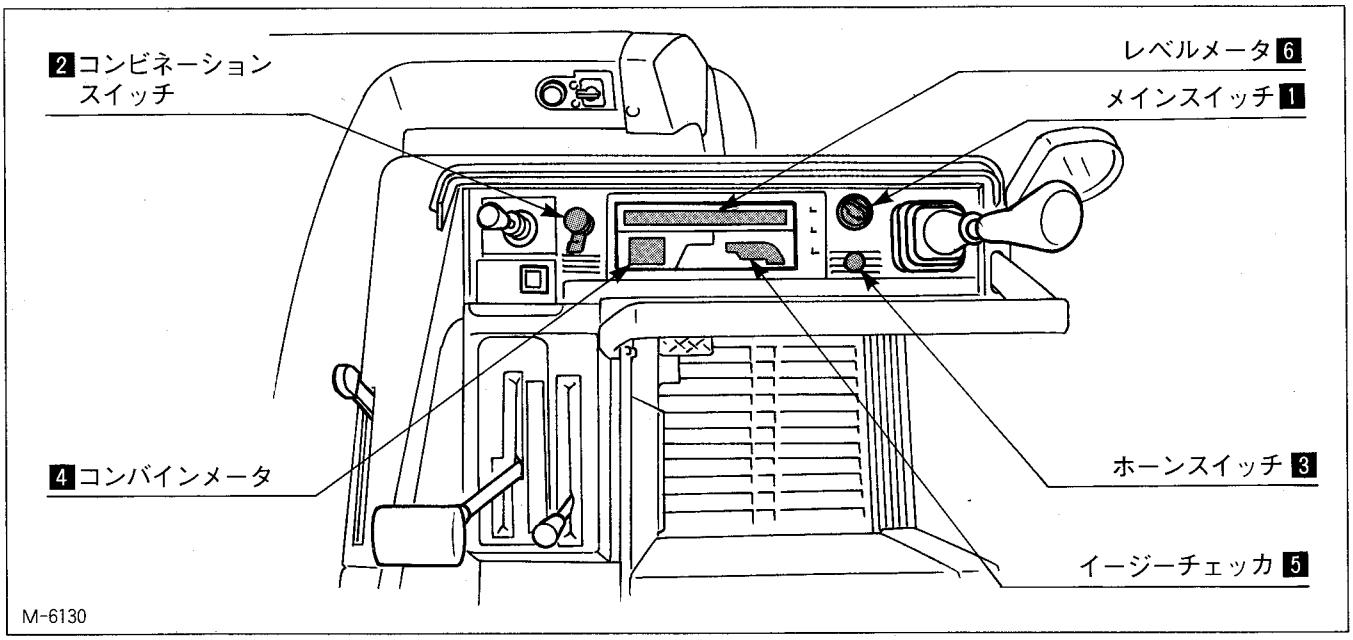
注 意

＊小型特殊自動車とは上記の条件を満足する自動車です。このうち一つでも条件を満足しないと小型特殊自動車扱いとなりませんので，次のようなことは特にご留意ください。

1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して運行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. 標準クローラ仕様はカッタ及び結束機を，ロングクローラ(L)仕様は結束機を必ず取外して公道を走行してください。

諸装置の説明

スイッチとメータパネル

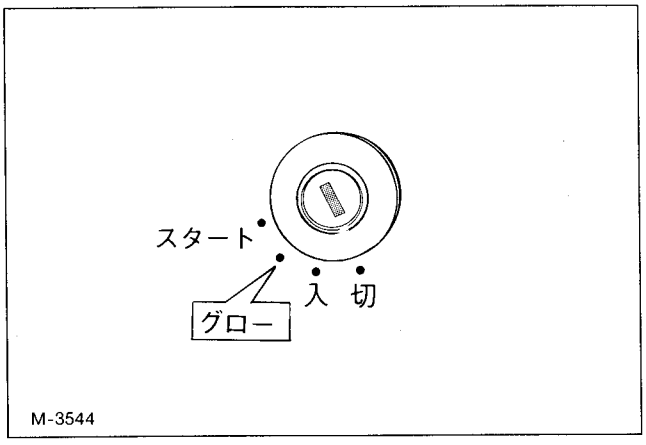


参照ページ

1メインスイッチ …… 4
2コンビネーションスイッチ …… 4
3ホーンスイッチ …… 5
4コンバインメータ …… 5
5イージーチェッカ …… 5
6レベルメータ …… 6

1メインスイッチ

“切” ……キーが抜差しできる位置。
“入” ……エンジン回転中の位置。
“グロー” ……燃焼室内が予熱される位置。
“スタート” …エンジンを始動する位置。
(主変速レバーを**“停止”**, 脱こくクラッチレバーを**“切”**の位置にしないとエンジンは始動しません)



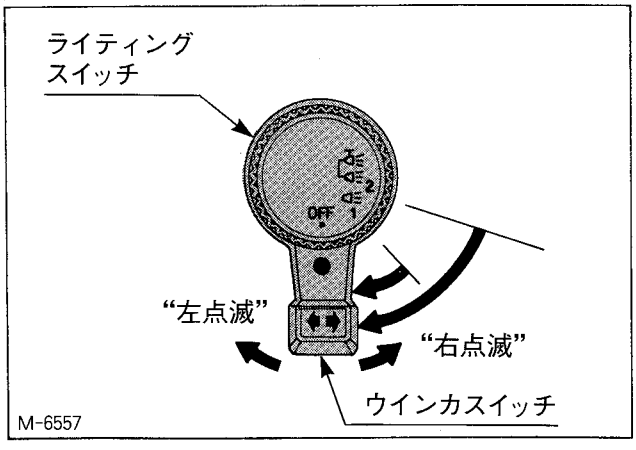
2コンビネーションスイッチ

◆ライティングスイッチ

OFF ……ヘッドランプ・作業灯消灯位置。
1 ……ヘッドランプのみ点灯。
2 ……ヘッドランプ・作業灯点灯。

◆ウインカスイッチ

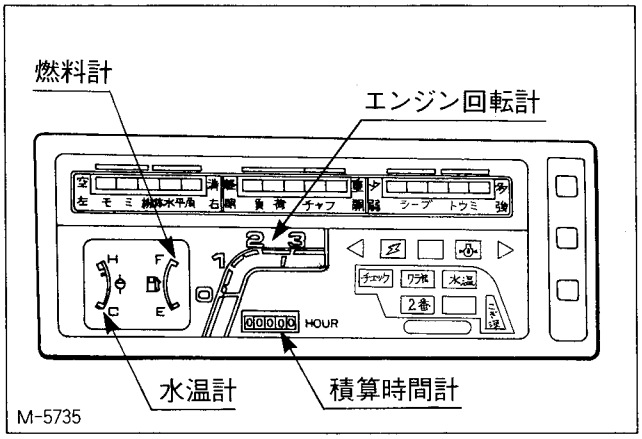
(1)旋回方向に操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内の案内ランプ(ウインカ用)が点滅します。
(2)旋回が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



3 ホーンスイッチ

ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。
もみ警報中にホーンスイッチを押すと，ホーン(断続)は停止します。

4 コンバインメータ



◆積算時間計(アワーメータ)

エンジンを定格回転で使用した場合の積算時間を示します。
白わく内の数字を６倍すると **“分”** 単位の時間となります。〔例〕0012 | 4 ……12時間24分

◆エンジン回転計

１分間のエンジン回転数を示します。(×1000)

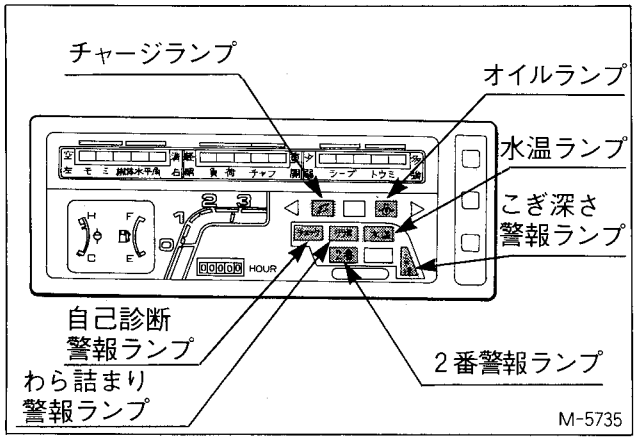
◆燃料計

メインスイッチを **“入”** にしたときに燃料タンク内の残量を示します。
メインスイッチが **“入”** 以外では，指針は **“E”** より下にあります。

◆水温計

メインスイッチが **“入”** のときに冷却水温を示します。
メインスイッチが **“入”** 以外では，指針は **“C”** より下の位置にあります。
エンジン冷却水が高温になるとオーバヒート警報が作動し，ホーンが鳴り，水温ランプが点滅します。

5 イージーチェッカ



オイルランプ

エンジン回転中，潤滑系統が**異常のとき点灯**する油圧警告灯です。
エンジン停止中にメインスイッチを **“入”** にすると点灯し，始動すると消灯します。

チャージランプ

エンジン回転中，充電系統が**異常のとき点灯**する充電警告灯です。
エンジン停止中にメインスイッチを **“入”** にすると点灯し，始動すると消灯します。

2番 ２番警報ランプ

２番口又は１番口が詰まったとき，点滅しホーンが鳴ります。

水温 水温ランプ

エンジン冷却水が高温になったとき点滅し，ホーンが鳴ります。

ワラ詰 わら詰まり警報ランプ（自動停止）

フィードチェーンや，排わらチェーン・カッタ部にわらが詰まったとき点滅し，ホーンが鳴ります。
【結束機仕様の場合】
＊結束機のビルにひもが巻付いたときと，ひもがないときと，結束部にわらが詰まったときに点滅し，ホーンが鳴ります。

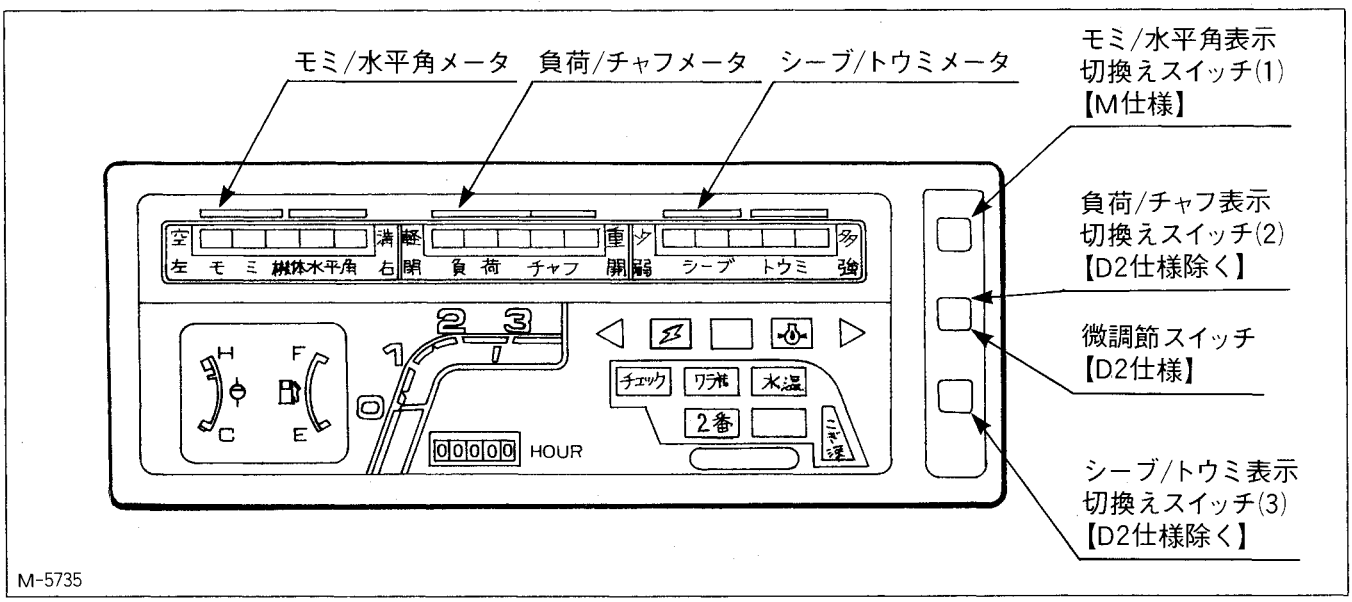
こぎ深 こぎ深さ警報ランプ

穂先センサ部に異常があったとき，点滅し，ホーンが鳴ります。

チェック 自己診断警報ランプ

マイコンが自動装置の異常を検出すると点滅します。

6 レベルメータ



◆モミ／水平角メータ

メインスイッチを**“入”**にするとモミが表示されます。切換えスイッチ(1)を1回押すごとに，**モミ**と**水平角**が切換わって表示されます。

モミメータ

グレンタンクのもみ量に応じてメータが点灯します。

【GHD, GSD仕様】

また，もみが満杯になると，全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

水平角メータ **【M仕様】**

機体の水平角度に応じてメータが点灯します。中央の位置が水平位置です。

補 足

＊**水平角**が表示状態にあるときでも，もみが満杯になると，自動的にモミメータに切換わり，全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

◆負荷／チャフメータ

メインスイッチを**“入”**にすると**負荷**が表示されます。切換えスイッチ(2)を1回押すごとに**負荷**と**チャフ**が切換わって表示されます。

負荷メータ

作業中のエンジンにかかる負荷の大きさに応じてメータが点灯します。また異常に大きな負荷がかかると全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

チャフメータ **【D2仕様除く】**

チャフシーブの開度に応じてメータが点灯します。

補 足

＊**チャフ**が表示状態にあるときでも，異常に大きな負荷がかかると，自動的に**負荷**メータに切換わり，全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

◆微調節スイッチ【D2仕様】

重 要

＊微調節スイッチはメンテナンス用のスイッチのため，スイッチは押さないでください。自動装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

◆シーブ／トウミメータ【D2仕様除く】

メインスイッチを**“入”**にするとシーブが表示されます。切換えスイッチ(3)を1回押すごとに，**シーブ**と**トウミ**が切換わって表示されます。

シーブメータ

脱こく機のチャフシーブ上のこく粒量に応じてメータが点灯します。また，チャフシーブが詰まったときは，全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

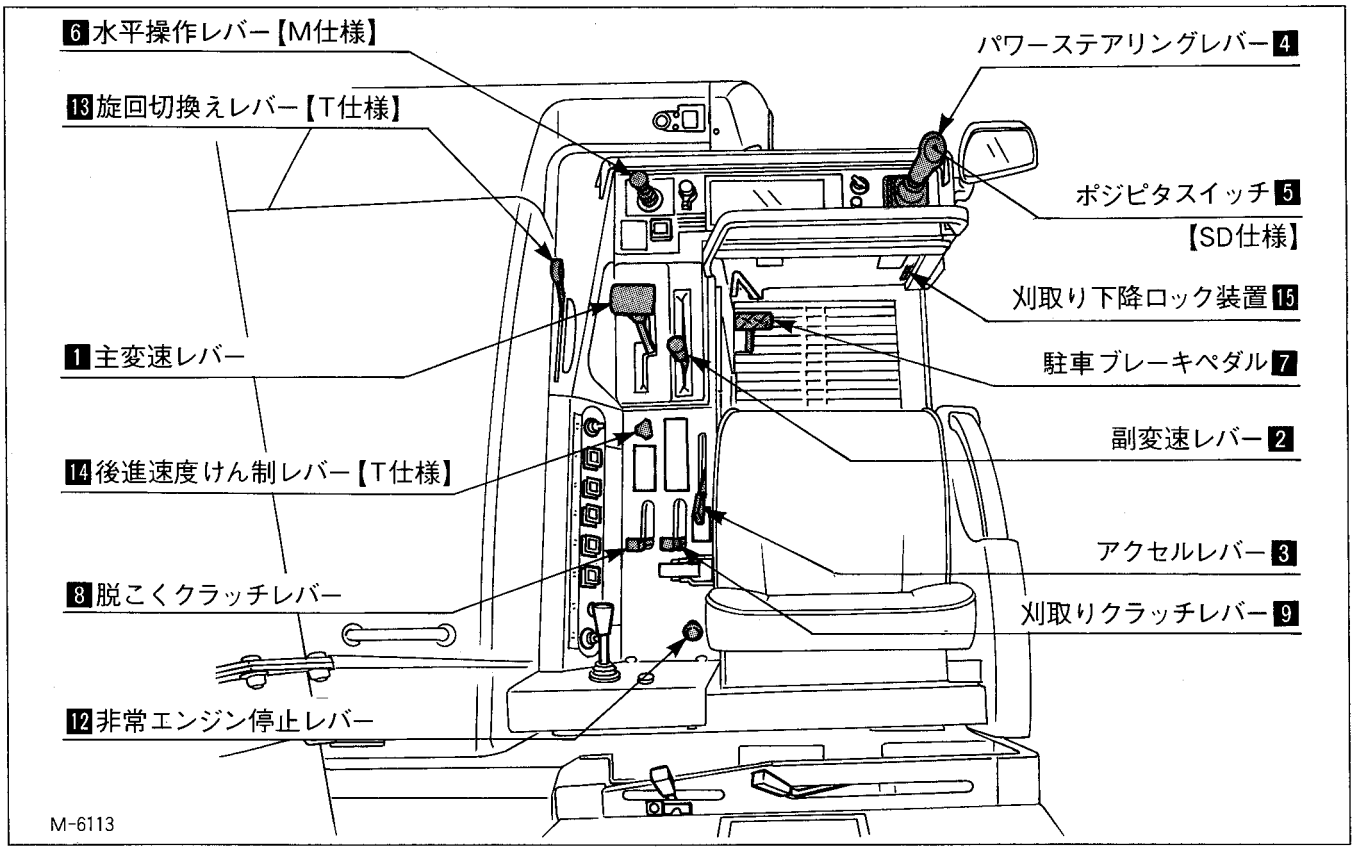
トウミメータ

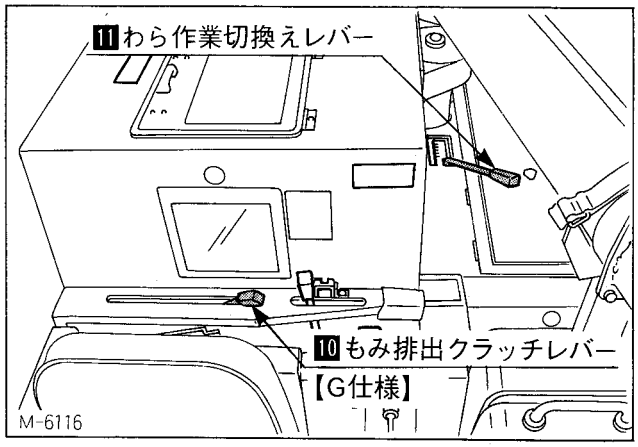
トウミの風量に応じてメータが点灯します。

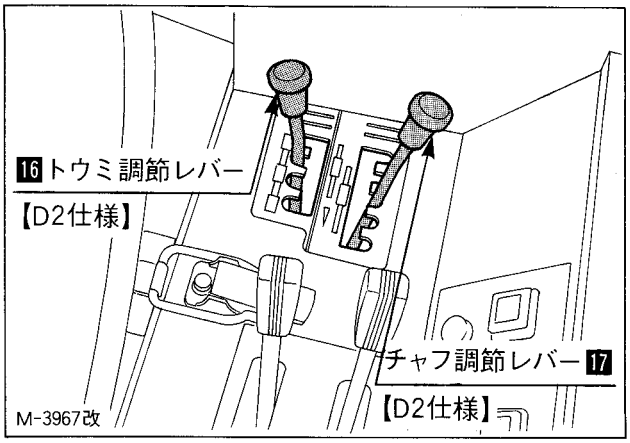
補 足

＊トウミが表示状態にあるときでも，チャフシーブが詰まると，自動的にシーブメータに切換わり，全メータが点滅し，ホーンが鳴ります。

運転装置







参照ページ

1 主変速レバー …… 8
2 副変速レバー …… 8
3 アクセルレバー …… 8
4 パワーステアリングレバー …… 8
5 ポジピタスイッチ【SD仕様】 …… 8
6 水平操作レバー【M仕様】 …… 9
7 駐車ブレーキペダル …… 9
8 脱こくクラッチレバー …… 9
9 刈取りクラッチレバー …… 9
10 もみ排出クラッチレバー【G仕様】 …… 9
11 わら作業切換えレバー …… 9
12 非常エンジン停止レバー …… 10
13 旋回切換えレバー【T仕様】 …… 10
14 後進速度けん制レバー【T仕様】 …… 11
15 刈取り下降ロック装置 …… 11
16 トウミ調節レバー【D2仕様】 …… 11
17 チャフ調節レバー【D2仕様】 …… 11

1主変速レバー

レバーを前方に倒すと**“前進”**し，後方に倒すと**“後進”**します。

補　足

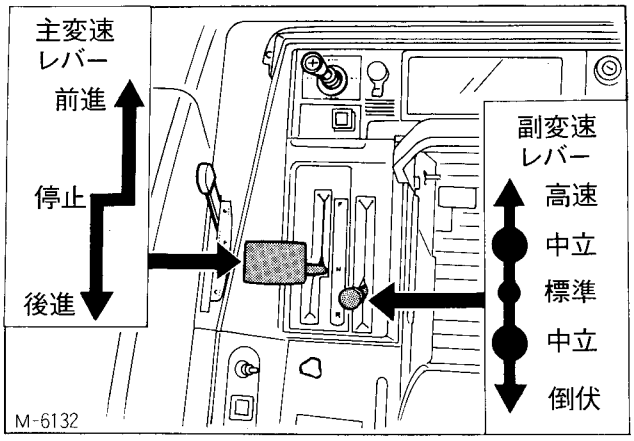
＊**“前進”**から**“停止”**に戻すとき，レバーを左へ押えながら戻すと**“後進”**に入ってしまいますので，レバーを右へ押えぎみにして戻してください。

2副変速レバー

注　意

＊副変速レバーの切換えは，必ず主変速レバーを“停止”位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

２本のレバー操作を組合せ，作物の状況により適切な車速を選択してください。

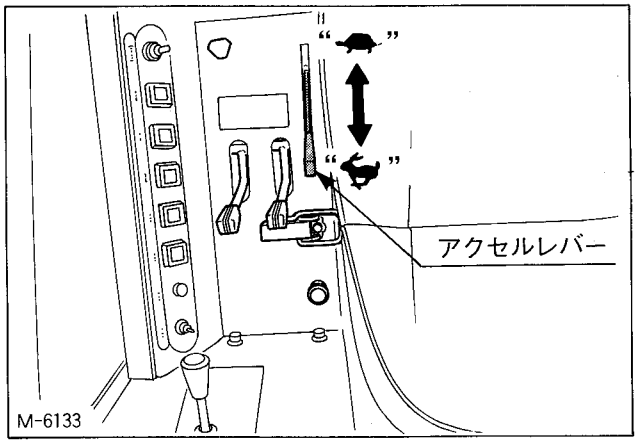


3アクセルレバー

エンジンの回転数を変えるレバーです。

🐢……エンジン回転数**“低速”**の位置。

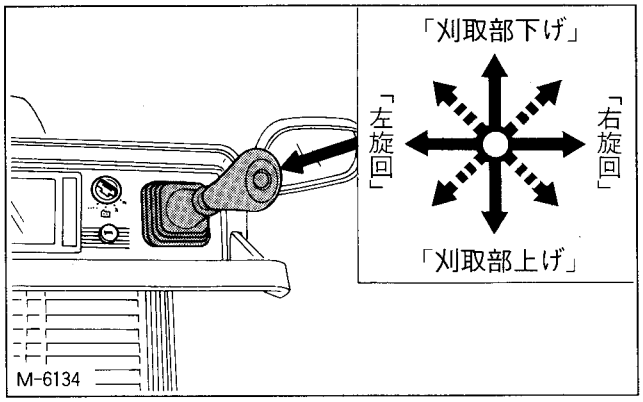
🐇……エンジン回転数**“高速”**の位置。



4パワーステアリングレバー

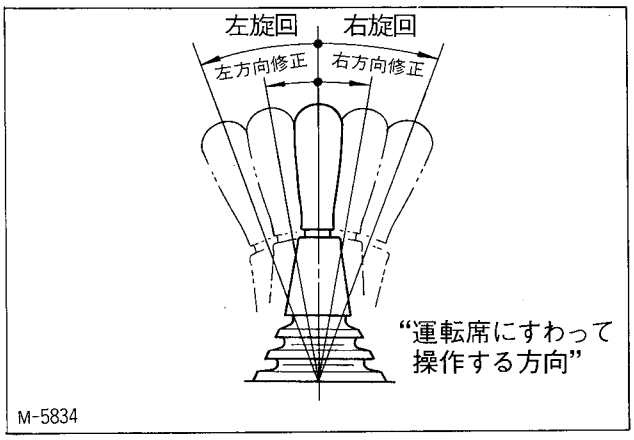
レバー１本で刈取部の上げ下げと方向修正・旋回ができます。また，各々の同時併用操作も可能です。

(1)レバーを前・後に操作すると，刈取部の上げ下げができます。



(2)レバーを左・右に操作すると，方向修正から旋回までできます。作業条件に合せて操作してください。

- ゆるやかな方向修正……左・右に軽く倒します。
- コーナ旋回……左・右に一杯倒します。

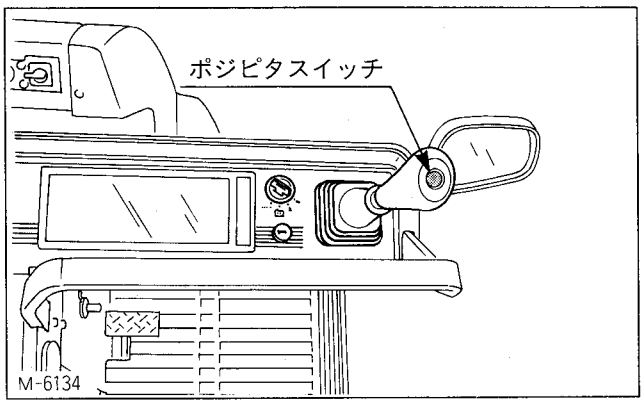


(3)レバーを斜方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行なえます。

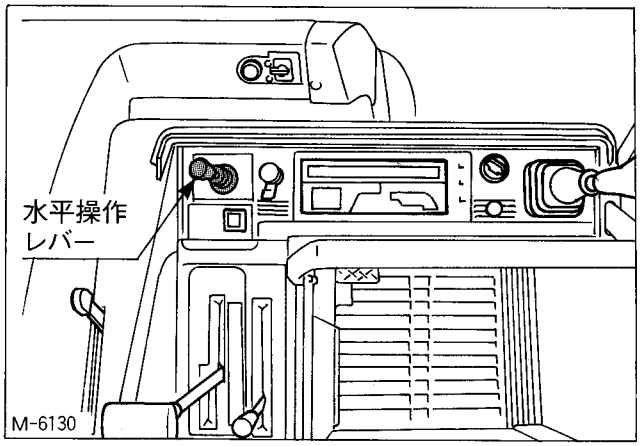
(4)自動方向制御中でも，パワーステアリングレバーによる手動操作が優先されます。**【SD仕様】**

5ポジピタスイッチ【SD仕様】

刈取り中に，スイッチ１つで刈取部の上げ下げができます。



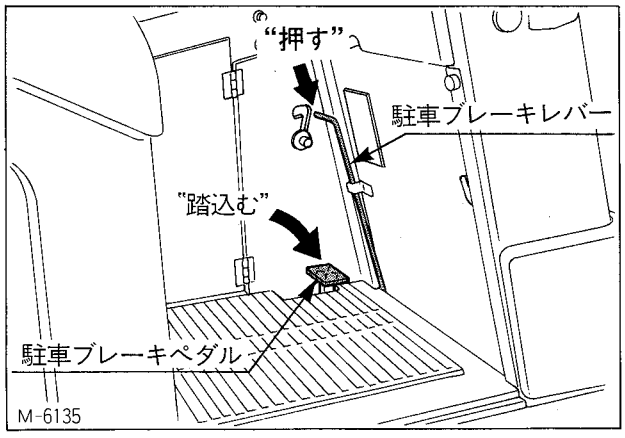
6 水平操作レバー【M仕様】



(1)レバーを**“機体上”**の方向に倒すと，機体の左右とも上がります。
(2)レバーを**“機体下”**の方向に倒すと，機体の左右とも下がります。
(3)レバーを**“左上”**の方向に倒すと，機体の左が上がり，右が下がります。
(4)レバーを**“右上”**の方向に倒すと，機体の右が上がり，左が下がります。
(5)自動制御で作業中でも水平操作レバーが優先されます。

7 駐車ブレーキペダル

駐車ブレーキペダルをロック位置まで踏込むと，自動的に駐車ブレーキが掛かります。
駐車ブレーキを解除する場合，駐車ブレーキペダルを踏みながら駐車ブレーキレバーを押すとロックは解除されます。

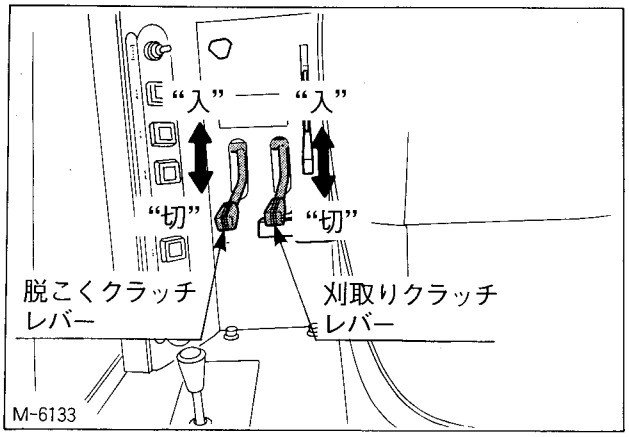


8 脱こくクラッチレバー

脱こく部駆動切換えレバーです。
“入”……脱こく部が駆動します。
“切”……刈取りクラッチレバーも連動し，脱こく部が停止します。

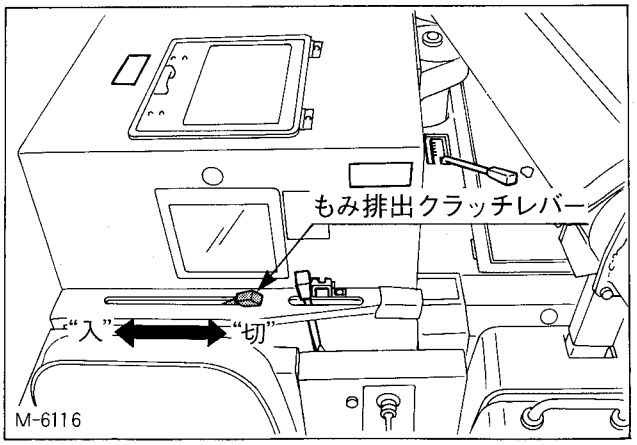
9 刈取りクラッチレバー

刈取部駆動切換えレバーです。
“入”……脱こくクラッチレバーも連動し，刈取部が駆動します。
“切”……刈取部が停止します。



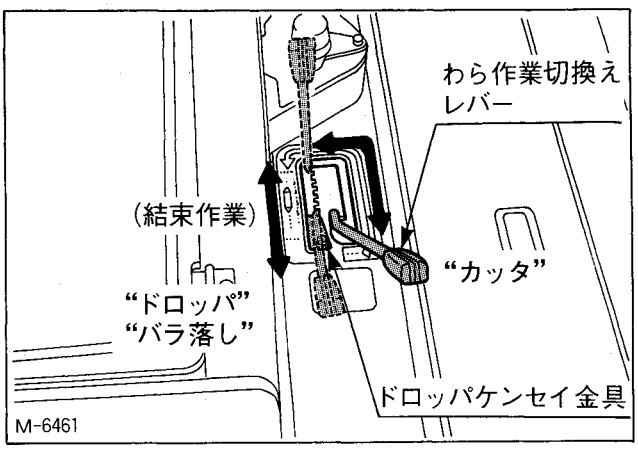
10 もみ排出クラッチレバー【G仕様】

グレンタンク内のこく粒の排出を切換えるレバーです。
“入”……こく粒が排出されます。
“切”……こく粒の排出が止まります。



11わら作業切換えレバー

レバー操作により，カッタ←→ドロッパ・バラ落とし作業の切換えができます。

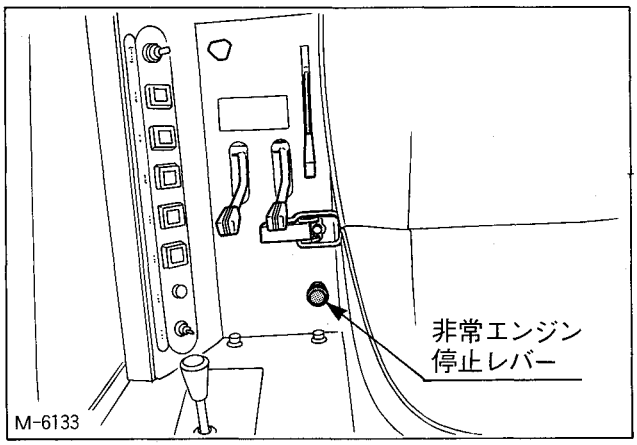


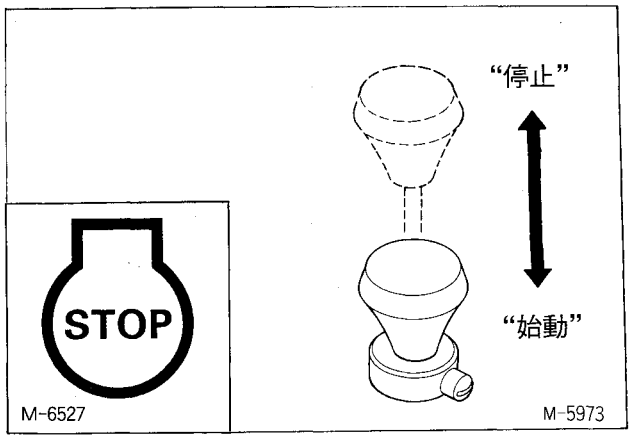
重 要

＊結束機を装着するときは，ドロッパケンセイ金具を外してください。

12非常エンジン停止レバー

非常時に引っ張るとエンジンが停止します。再びエンジンを始動するときは，**“始動”**位置にしてください。





13旋回切換えレバー【T仕様】

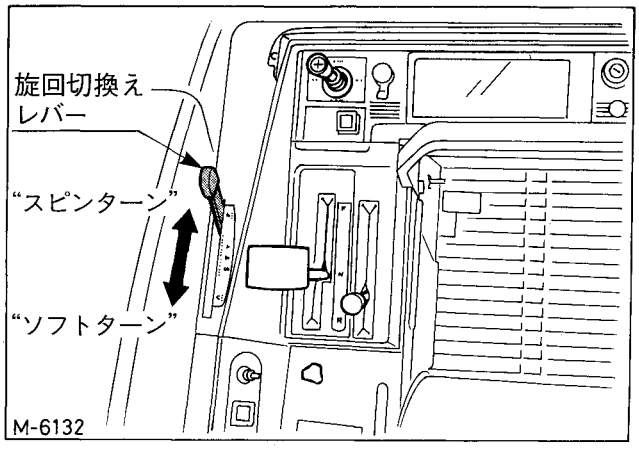
注 意

＊副変速レバーが“高速”のときは，旋回切換えレバーは“スピンターン”には切換えられません。また旋回切換えレバーが“スピンターン”のとき，副変速レバーは“高速”には切換えられません。

レバーを切換えることにより，旋回方式を選択することができます。(作業時いつでも切換えできます)作業条件に応じて切換えてください。

“スピンターン” ……パワーステアリングレバーの倒し量に応じて左右のクローラが逆転します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用してください。

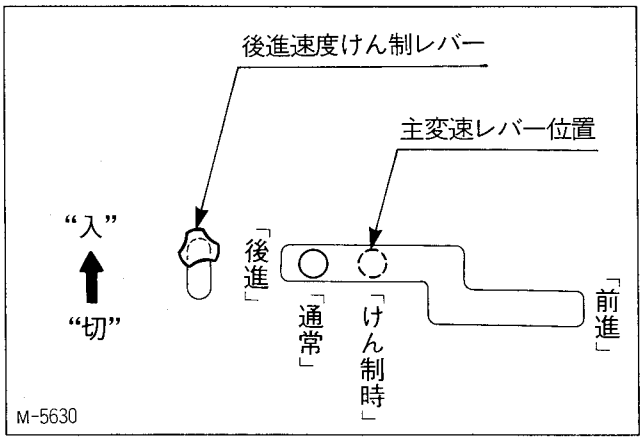
“ソフトターン” ……左右のクローラに回転差をつけ両輪で前進駆動しながら旋回します。旋回半径は，やや大きくなりますが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合，また移動走行時に使用してください。



【操作のポイント】

＊湿田でのソフトターンでのパワーステアリングレバー操作は，左右に一杯，倒した状態で使用してください。
特に，方向修正の状態で使用しますと両輪での駆動でなくなるので，**“ソフトターン”**の効果が発揮できません。

14後進速度けん制レバー【T仕様】



(1)スピンターンでの旋回時に，機体のショックが大きいときは速度を落として作業してください。

(2)特に後進時のショックは大きいですから，**“後進速度けん制レバー”**を必ず**“入”**にして使用してください。

15刈取り下降ロック装置

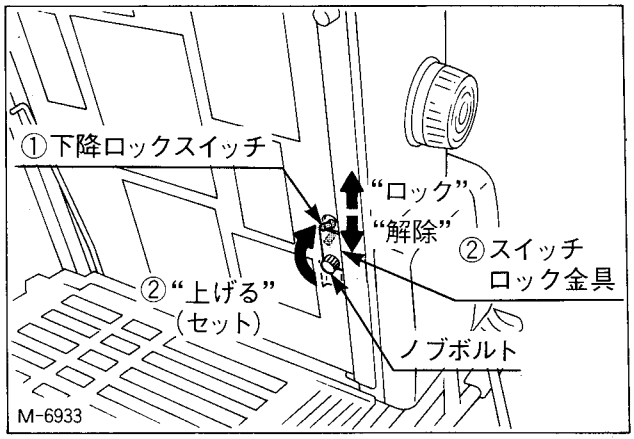
注　意

＊刈取部を上げて点検・調整するときは，HD･D仕様は下降ロック金具を上げて，SD仕様は下降ロックスイッチを上げてスイッチロック金具でスイッチをロックし，刈取部を必ずロック（下降防止）してください。

刈取部の下降防止装置です。下降ロック金具又は下降ロックスイッチを上げると，パワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。作業時（刈取り作業など）は，下降ロックスイッチを下げて（解除）ください。

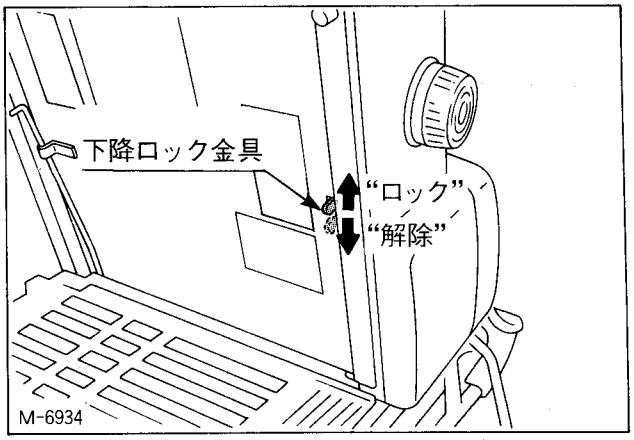
◆【SD仕様】

下降ロックスイッチを上げたあと，スイッチロック金具を上げてノブボルトを締付けて，スイッチをロックします。解除するときは逆の手順で行ないます。



◆【HD，D仕様】

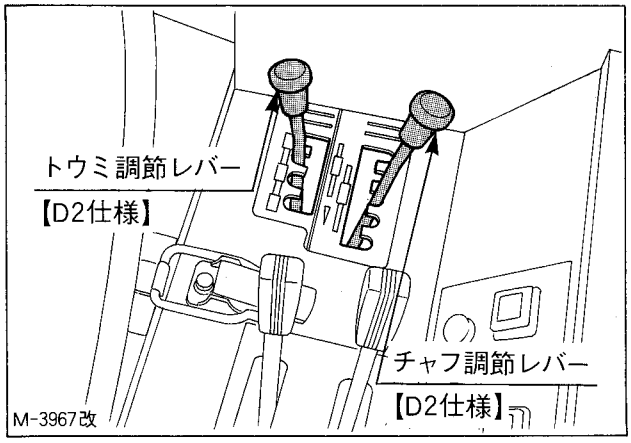
下降ロック金具を上げます。解除は下降ロック金具を下げます。



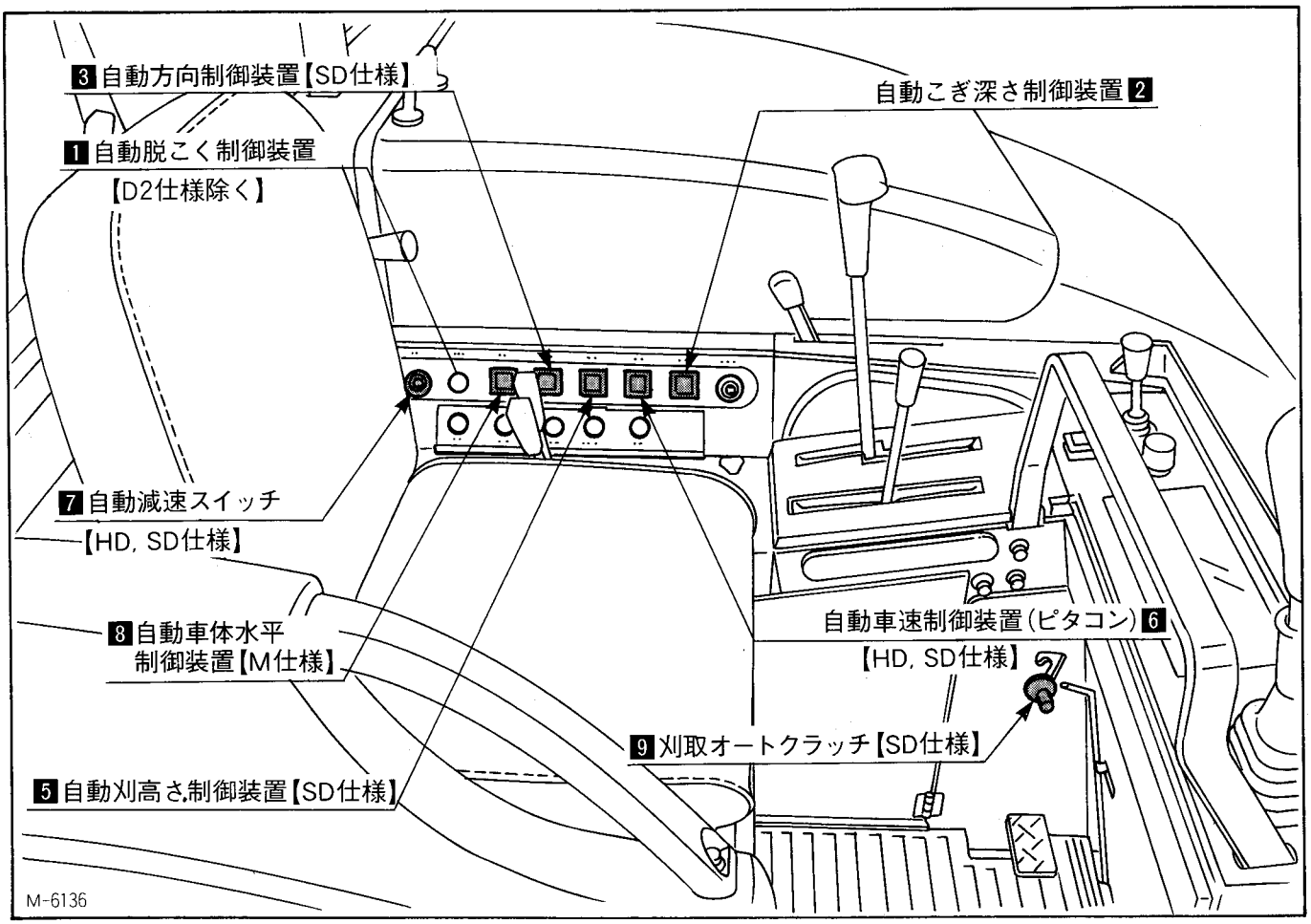
16トウミ調節レバー【D2仕様】

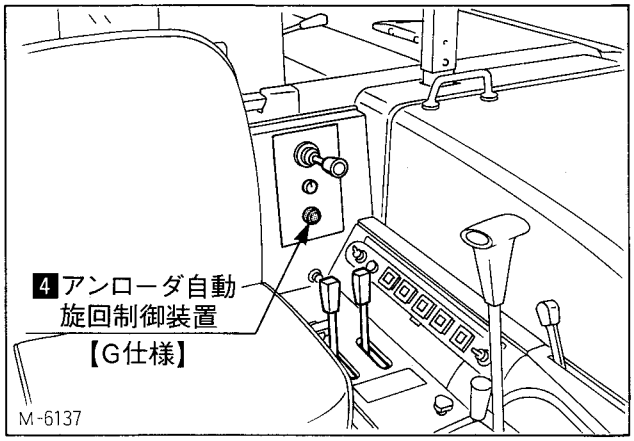
17チャフ調節レバー【D2仕様】

脱こく部の調節を行なうレバーです。作物の状態やわらの脱こく状態に合わせて，レバーで調節してください。(**“脱こく部の操作のしかた”**の**“トウミ・チャフ調節のしかた”**の項参照)



自動装置





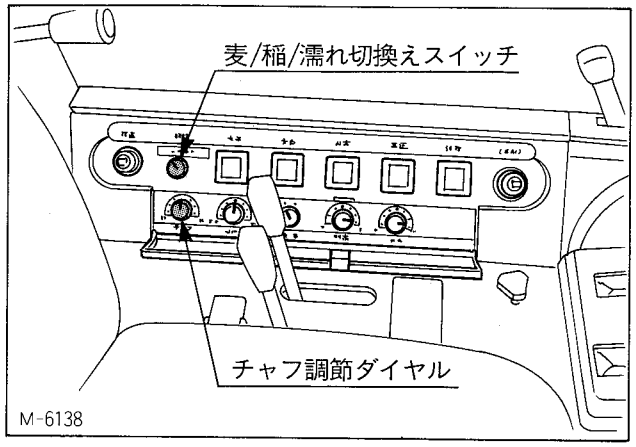
参照ページ

1 自動脱こく制御装置【D2仕様除く】 …… 13
2 自動こぎ深さ制御装置 …… 13
3 自動方向制御装置【SD仕様】 …… 13
4 アンローダ自動旋回制御装置【G仕様】 …… 14
5 自動刈高さ制御装置【SD仕様】 …… 14
6 自動車速制御装置（ピタコン）【HD，SD仕様】 … 14
7 自動減速スイッチ【HD，SD仕様】 …… 15
8 自動車体水平制御装置【M仕様】 …… 15
9 刈取りオートクラッチ【SD仕様】 …… 15

1自動脱こく制御装置【D2仕様除く】

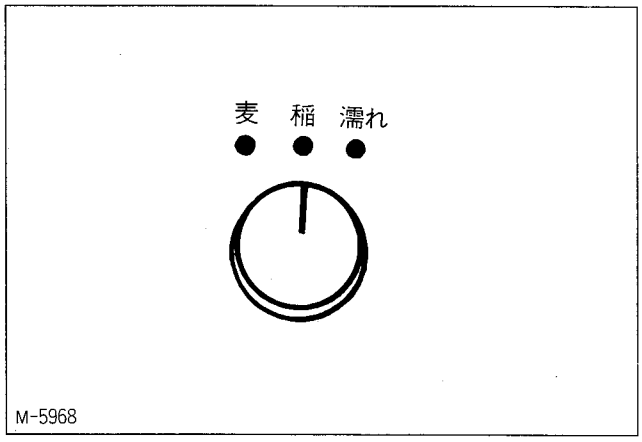
◆自動脱こく制御のはたらき

(1)ファジイ制御で適正に脱こく部を調節します。
(2)旋回時にも速やかに反応して，安定した制御をします。
(3)チャフシーブの微調節ができますので，作物条件の変化に対しても最適な制御ができます。



◆麦／稲／濡れ切換えスイッチ

“麦” ……麦作業時には，**“麦”**位置に合せてください。
“稲” ……稲作業時には，**“稲”**位置に合せてください。
“濡れ” ……高水分の作物を刈取るとき**“濡れ”**位置に合せてください。



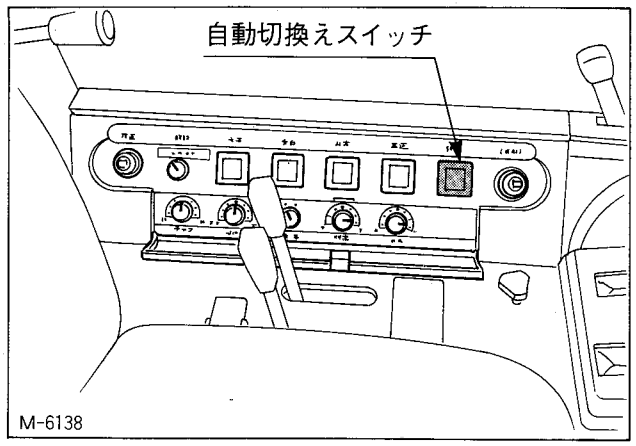
2自動こぎ深さ制御装置

◆自動こぎ深さ制御のはたらき

(1)刈取り中は短い周期のかん長変化に追従しないので，安定した制御をします。
(2)２個の穂先センサで，適正で安定した制御をします。
(3)こぎ深さ調節レバーにより，こぎ深さが微調節でき，常に最適なこぎ深さに設定できます。

◆自動切換えスイッチ(自動／手動)

“自動” ……スイッチを押込んで，ロックされると自動位置となり，自動ランプが点灯します。
“手動” ……スイッチを再び押してロックが解除されると，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



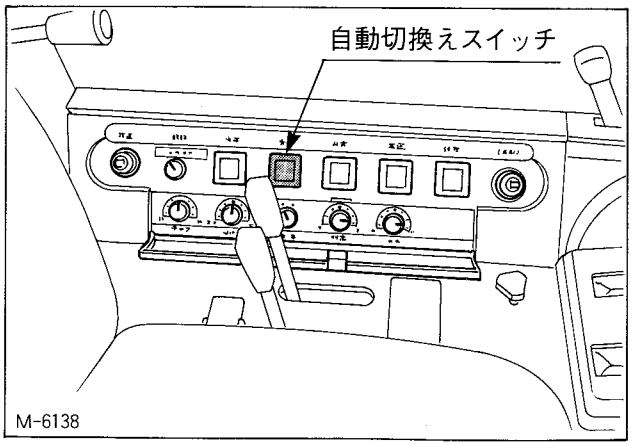
3自動方向制御装置【SD仕様】

◆自動方向制御のはたらき

(1)車速に応じて制御するので，安定した条追従が行なえます。
(2)横刈りになると，自動的に制御を停止するので，手動に切換えずに作業ができます。

◆自動切換えスイッチ(自動／手動)

“自動” ……スイッチを押込んでロックされると自動位置となり，自動ランプが点灯します。
“手動” ……スイッチを再び押してロックが解除されると，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



4アンローダ自動旋回制御装置【G仕様】

◆アンローダ自動旋回制御のはたらき

スイッチのワンタッチ操作でアンローダが，収納位置⟷排出位置に自動旋回します。

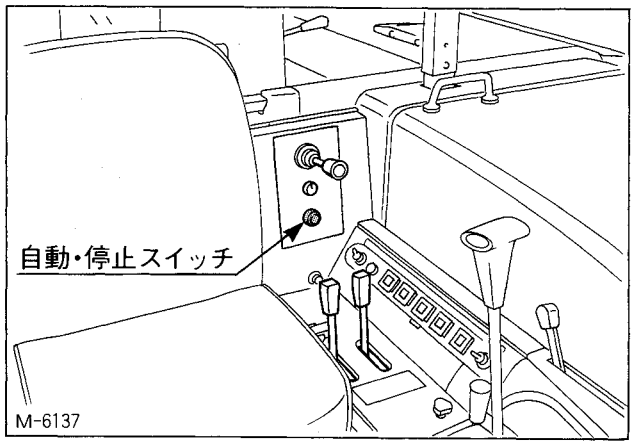
◆自動・停止スイッチ

アンローダが下記位置にあるときにスイッチを押すと，

(1)**“収納位置”**にあるときは，アンローダが上昇し排出位置まで自動的に旋回します。

(2)**“収納位置以外”**（排出位置など）にあるときは，収納位置まで自動的に戻ります。

また，アンローダが自動旋回途中でスイッチを押すと，その位置で停止します。



5自動刈高さ制御装置【SD仕様】

◆自動刈高さ制御のはたらき

(1)超音波センサで高さ検出をするので，湿田でも使用できます。

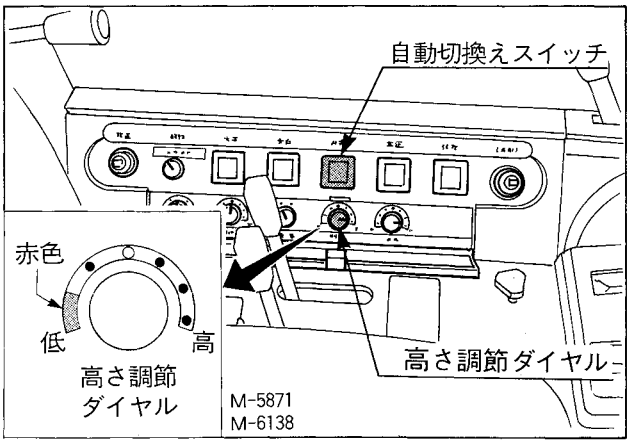
(2)刈始めは機体傾斜や凹凸に速やかに反応し，高刈りやデバイダの突込みを防止します。

(3)刈取り中は凹凸に小刻みに反応し，安定な刈高さを保持します。

◆自動切換えスイッチ(自動／手動)

“自動” ……スイッチを押しこんで，ロックされると自動位置となり，自動ランプが点灯します。

“手動” ……スイッチを再び押してロックが解除されると，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



6自動車速制御装置(ピタコン)【HD,SD仕様】

◆自動車速制御のはたらき

(1)ファジイ制御によりエンジンの能力が最大に発揮できるよう車速がコントロールされ，効率のよい運転ができます。

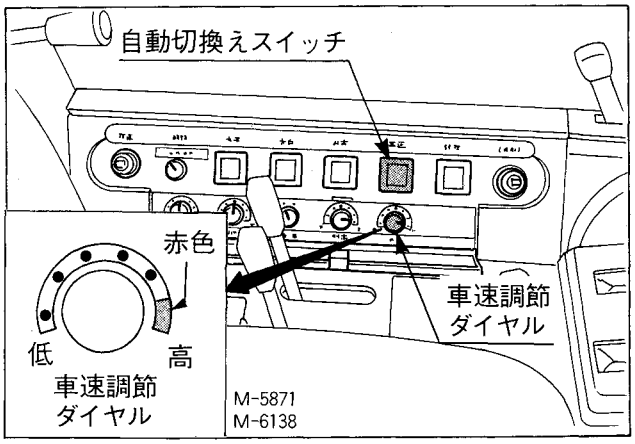
(2)車速は車速調節ダイヤルで無段階に調節できますので，あぜぎわや倒伏刈取時に便利です。

(3)脱こく制御との連動により，脱こく機の能力をオーバしたとき自動的に車速を減速します。

◆自動切換えスイッチ(自動／手動)

“自動” ……スイッチを押込んで，ロックされると自動位置となり，自動ランプが点灯します。

“手動” ……スイッチを再び押してロックが解除されると，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



7 自動減速スイッチ【HD，SD仕様】

◆自動減速スイッチのはたらき

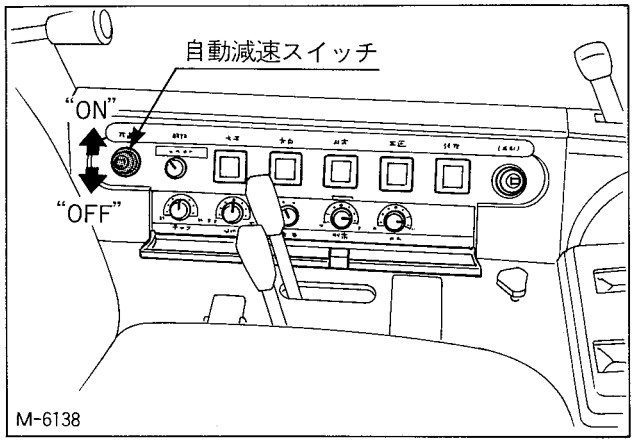
(1)刈終り時のエンジン負荷に応じて減速（減速量0～35％）をするため，エンジン回転ダウンが少なく，スムーズな旋回が常にできます。

(2)旋回時，エンジン回転の変動が少ないため，脱こく部の回転が安定し，良好な選別性能が得られます。

◆使用上の注意事項

旋回時の自動減速中は，主変速レバーを無理に前側へ押さないでください。

〔自動減速を作動させたくない場合〕
自動減速スイッチを**“OFF”(切)**にする。



補　足

＊スピンターンで急旋回しすぎると感じる場合やエンジン回転数の低下が大きい場合は，**“ON”(入)**で使用してください。**【T仕様】**

8 自動車体水平制御装置【M仕様】

◆自動車体水平制御のはたらき

(1)湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正し，手動の場合は機体全体を持上げることもできます。

(2)傾斜角度調節ダイヤルにより，機体の傾斜角を調節できますので，あぜきわやうねでも適正な制御をします。

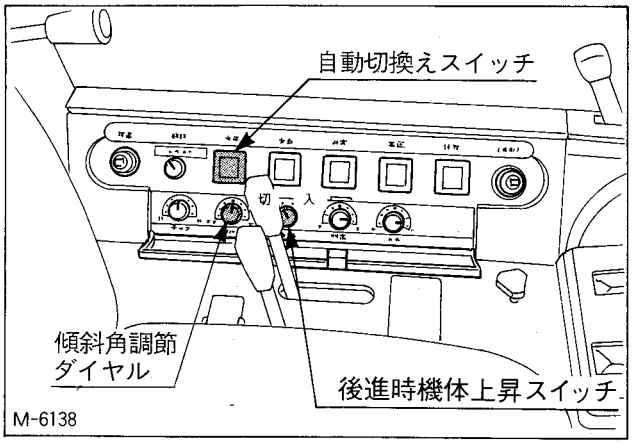
(3)機体が常に水平に保たれますので，湿田での運転がしやすくなります。

(4)湿田で後進時に機体が後上りになりバックしにくいときは，後進時機体上昇スイッチを**“入”**にしますと後進時のみ機体が上昇すると同時に後バランスになりますので，機体の姿勢の変化が少なくなり後進しやすくなります。

◆自動切換えスイッチ(自動／手動)

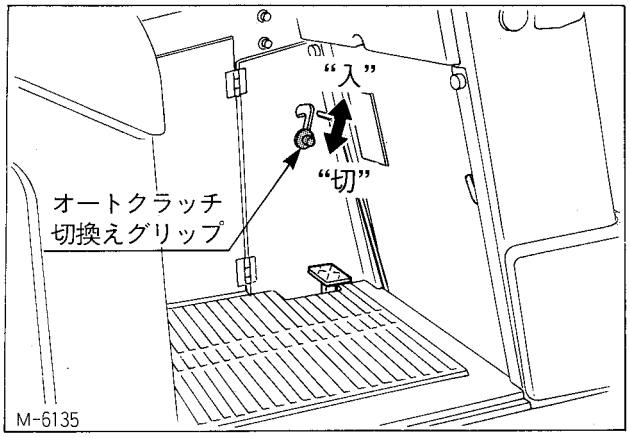
“自動” ……スイッチを押込んで，ロックされると自動位置となり，自動ランプが点灯します。

“手動” ……スイッチを再び押してロックが解除されると手動位置となり，自動ランプが消灯します。



9 刈取りオートクラッチ【SD仕様】

刈取りオートクラッチ切換えグリップを**“入”**の位置にセットし，刈取部を上昇させると，刈取り脱こくクラッチが入った状態で，自動的に刈取部及びフィードチェーンが止まります。また刈取部を下げると自動的に回り始めます。旋回時に刈取り搬送・フィードチェーンが自動的に停止しますので，搬送のみだれがなく，また排わらを踏みつけたりする心配がありません。



■自動エンジン停止

◆自動エンジン停止

排わら搬送チェーン部・カッタ部にわらが詰まったり，結束機の結節部にわら・ひもが巻付いたとき，自動的にエンジンが停止する装置です。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，**“メンテナンス”**の項を参照。）

警　告

＊エンジンは，必ず停止してから行なってください。
＊バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊使用前には必ずオイル，燃料を規定量，給油してください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊刈刃やカッタの点検・清掃時は刃部に注意してください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆コンバインの回りを歩いて

(1)ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
(2)車体各部の変形や損傷がないか点検します。
(3)油もれや水もれなどないか点検します。
(4)機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

〈ここを〉		〈点検し異常があれば〉	〈こうする〉	参照ページ
コンバインの回りを歩いて	エンジンオイル	＊油量は規定量(オイルゲージの**“上下刻線の間”**)あるか。	＊規定量まで補給する。 クボタ純オイル　D30又は，D10W30	18,85
	冷却水	＊水量は規定量(リザーブタンクの**“FULLとLOWの間”**)あるか。	＊清水を規定量まで補給する。	18
	エアクリーナ	＊エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	＊掃除又は，交換する。	18,101
	防じんあみ，ラジエータフィン	＊防じんあみ，ラジエータフィンの目詰まりはないか。	＊ブラシなどで，掃除してください。 ＊ラジエータフィンは，水道水又は，圧縮空気で掃除してください。	19
	反射器	＊汚れや損傷はないか。	＊掃除又は，交換する。	19
メインスイッチを入れて	燃料計	＊作業に必要な燃料があるか。	＊ディーゼル軽油を補給する。 (タンク容量 32L)	18
	イージーチェッカ	＊メインスイッチを入れるとメータが全て点灯するか。	＊球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ処置する。 ＊その他の場合は，販売店へ相談してください。	5,6 8,30
	ホーン	＊ホーンスイッチを押せば鳴るか。		
	各ランプ	＊正常に作動するか。		
	バックブザー	＊主変速レバーを**“後進”**位置にしたとき，バックブザーが鳴るか。		
エンジンを始動して	メータパネル	＊各ランプは消灯するか。 ＊回転計は正常に作動するか。	＊エンジンオイルを補給する。 (オイルランプ点灯時) ＊その他の場合は，販売店へ相談してください。	5,6 18,30 85
	注　油	＊チェーン・刈刃などへの注油はじゅうぶんか。	＊注油する。	20,21 22
		＊オイルタンク油量はじゅうぶんか。	＊空になる前に補給する。 (タンク容量約４Ｌ)	20

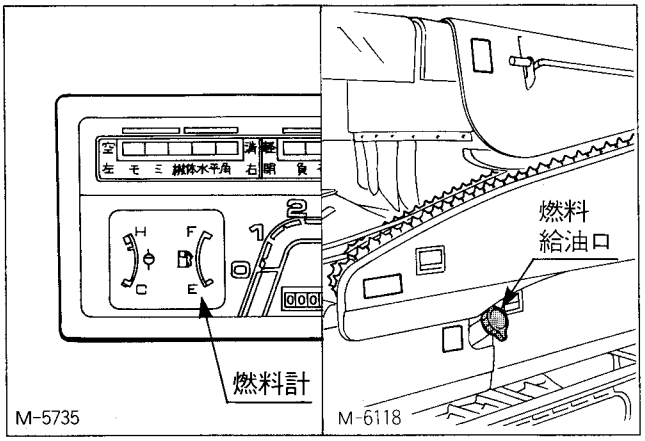
重　要

燃料・オイル量の点検・補給・交換

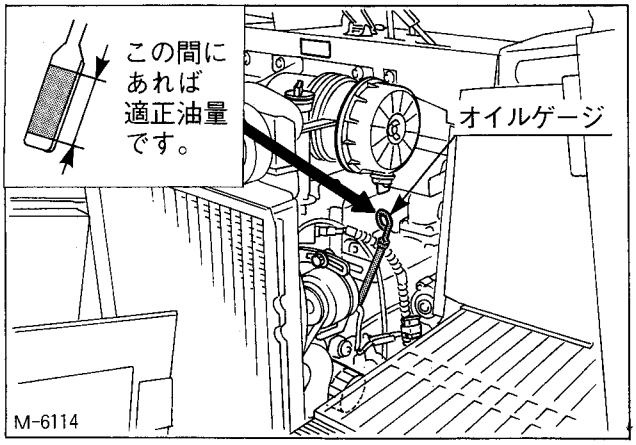
＊点検・補給・交換するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な燃料・オイル量の点検・補給・交換ができません。

＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，指定の**“クボタ純オイル”**を必ず使用してください。

■燃料の点検



■エンジンオイルの点検



■ラジエータ冷却水の点検

注　意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後メインスイッチ“入”で水温計が“C”の位置であることを確認してからにしてください。

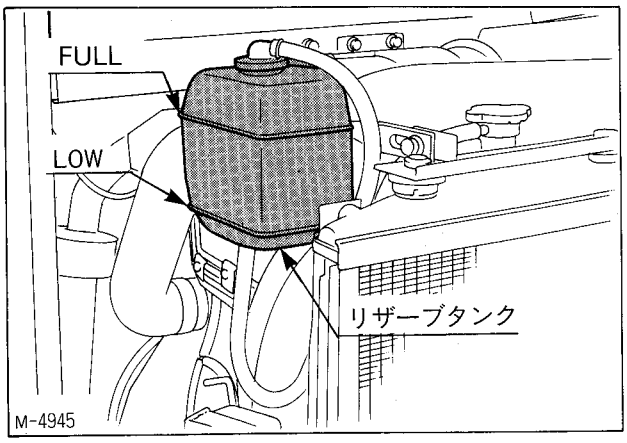
ラジエータ容量	3.7L
リザーブタンク容量	1.1L

ラジエータにはリザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。

“FULLからLOWの間”であれば正常です。

通常は補給の必要はありませんが，リザーブタンクの冷却水が**“LOW”**以下の場合は，**“LOW”**と**“FULL”**のレベルの間まで清水を補給してください。

“FULL”以上は入れないでください。

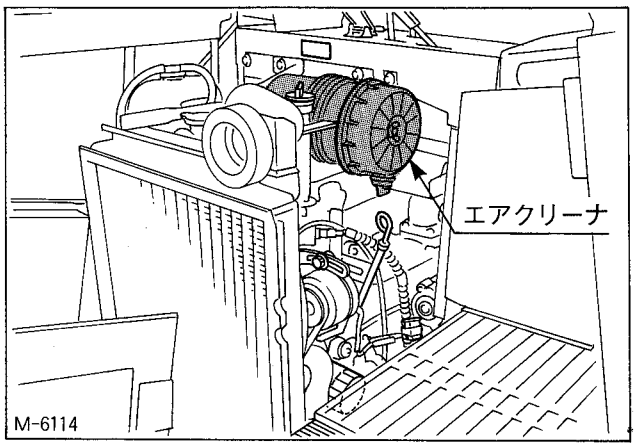


■エアクリーナの清掃

重　要

＊高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

＊エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。



◆エアクリーナエレメントの清掃

エレメントの清掃は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。エアの圧力は0.69MPa(7kgf/cm²)をこえないよう注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。

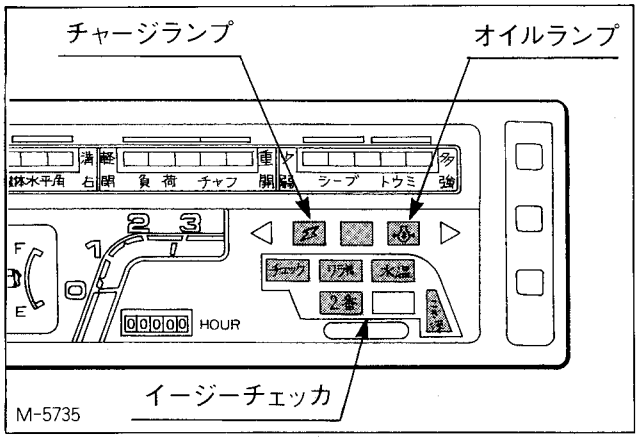
カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

【参考】

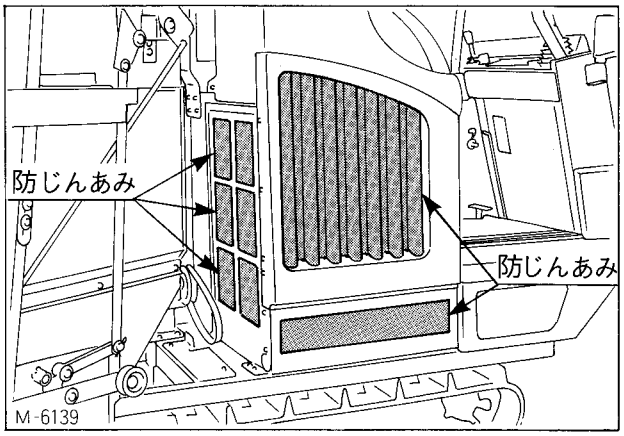
＊エレメント洗浄剤

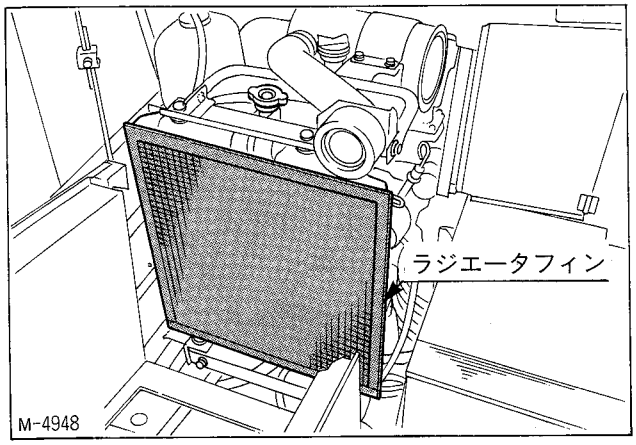
ND－1500(品番：15221-8665-1)

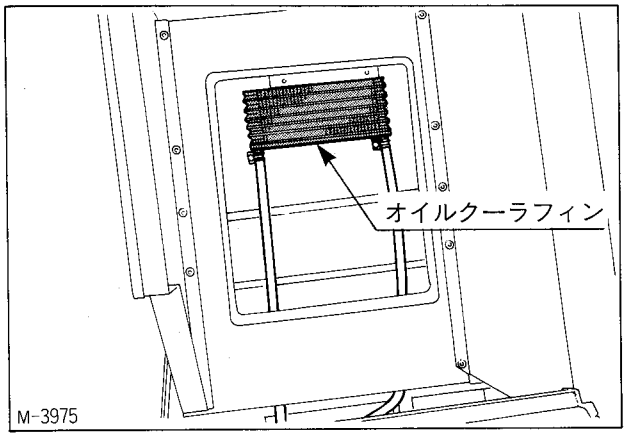
■イージーチェッカの点検



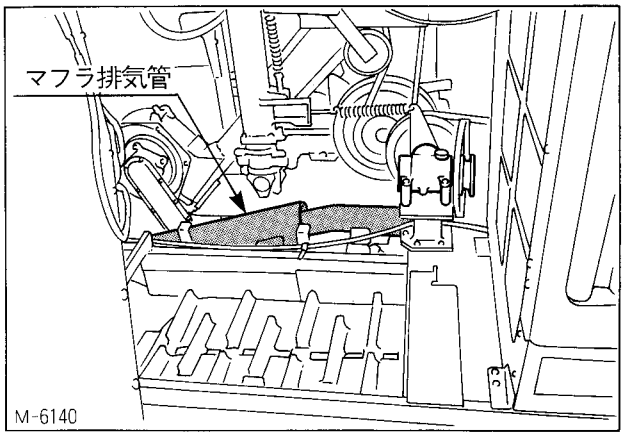
■防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィンの点検



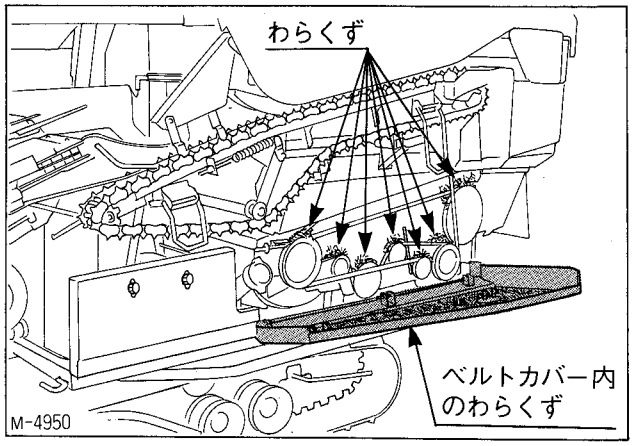




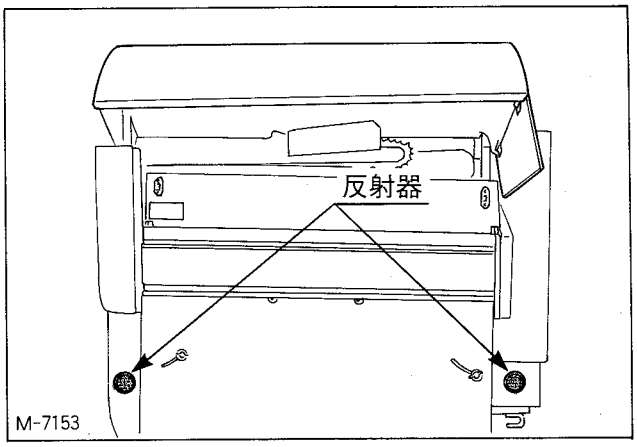
■マフラ排気管の清掃



■ベルトカバー内の清掃



■反射器の点検



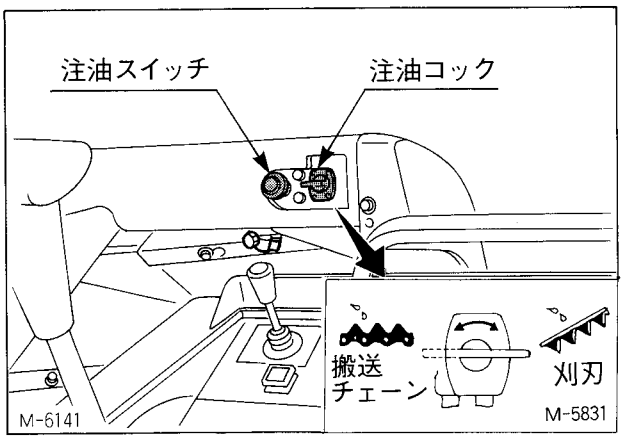
■集中注油装置による注油箇所

集中注油装置により，各作動部に注油できます。毎日の作業前に次の要領で注油してください。なお，オイルタンクの油量も確認してください。

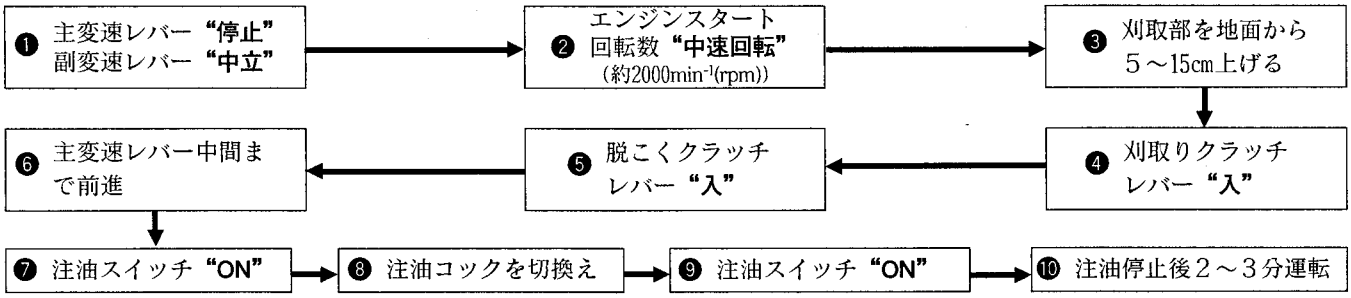
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル D10W30又は，D30	4.0L

重　要

＊指定オイル以外，又は廃油は使わないでください。ごみ類の混入は，ノズルの詰まり，バルブの不良の原因になります。



◆集中注油のやりかた



重　要

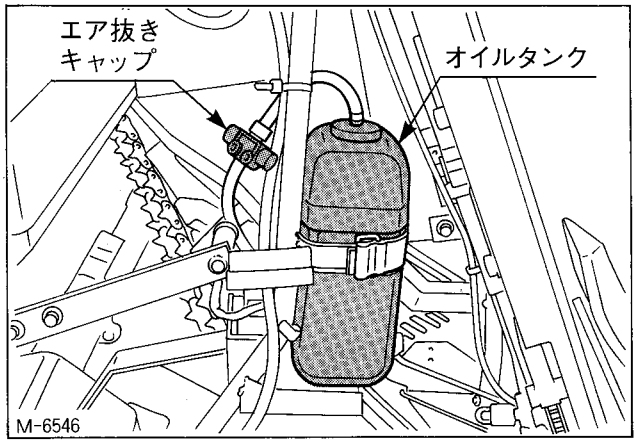
＊最初の１回目は配管内部にオイルがゆきわたり，配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約30秒かかりますので配管内部に充満したことを確認したあとチェーンで約７～10秒，刈刃で約５～７秒注油してください。不足の場合は更に繰返してください。

重　要

＊オイルタンクのオイル量を確認してから注油してください。空状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。
＊各チェーン部に巻付いたわらくずやごみはきれいに取除いてください。
＊各チェーン停止状態で注油スイッチを操作しないでください。油が１箇所に固まってベルトやカバーに付着し，スリップしやすくなります。
＊チェーンは中速回転で注油してください。その際２番警報が鳴りますが，異常ではありません。
＊必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。
＊気温が10℃以下になると各ノズルからの油の出かたが不均一になります。注油後，各チェーンの注油状態を確認し，不足箇所のないようにしてください。
＊万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り，注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は，エア抜きキャップをゆるめ，エア抜きしてから作動してください。

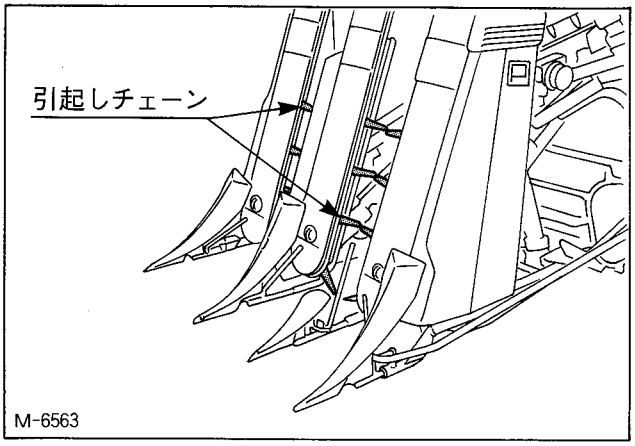
◆エア抜きの方法

図示のエア抜きキャップを外し，内部のゴムシールを外してから，注油スイッチを押して，油を送出してください。

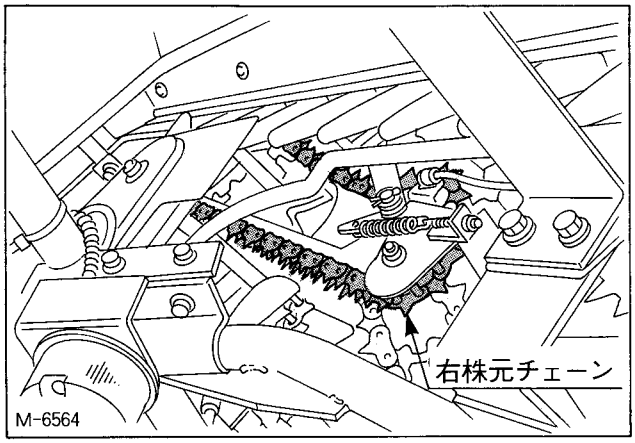


☆印部は集中注油で自動注油できます。

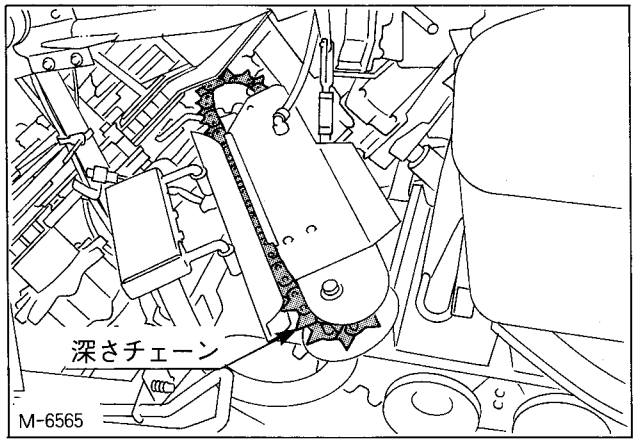
☆◆引起しチェーン



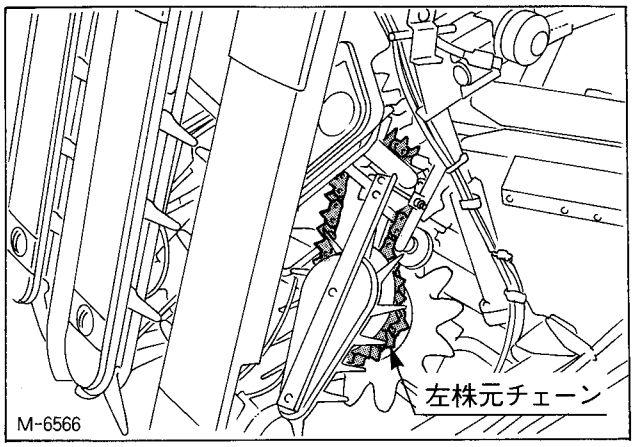
☆◆右株元チェーン



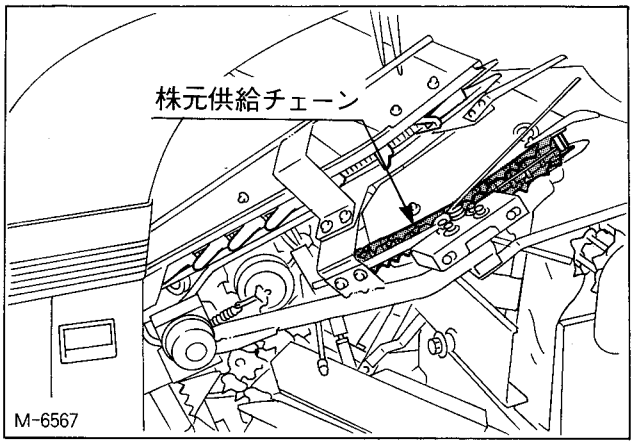
☆◆深さチェーン



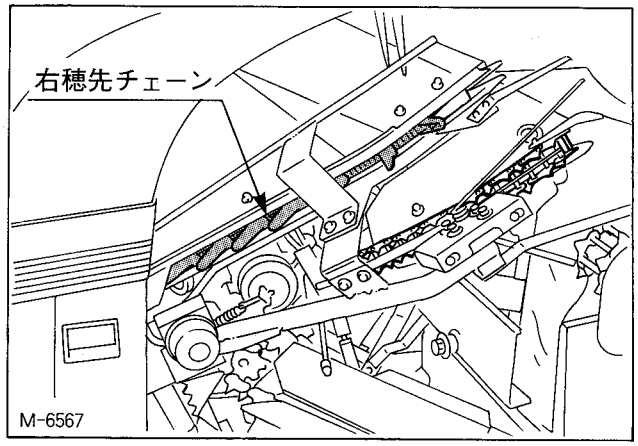
☆◆左株元チェーン



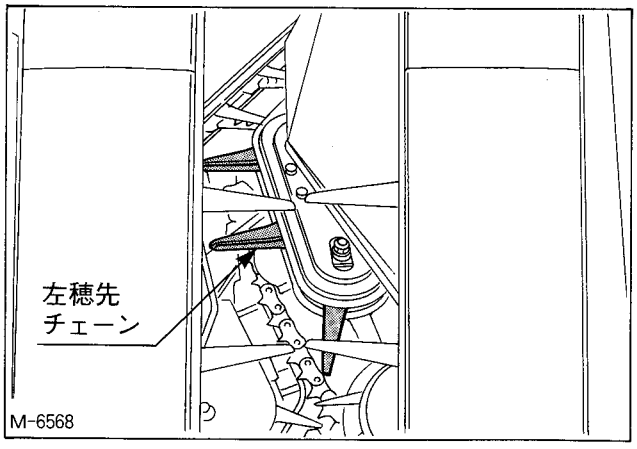
☆◆株元供給チェーン



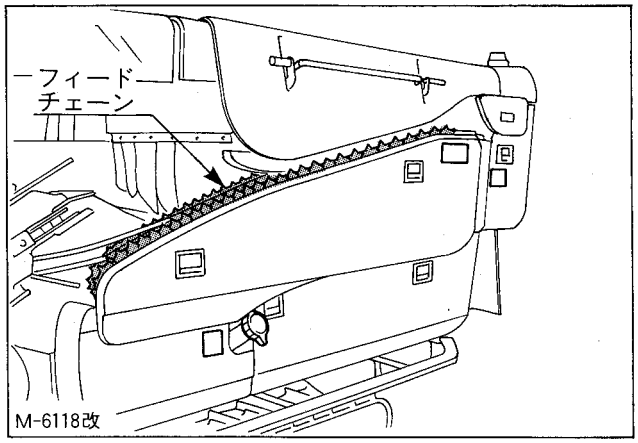
☆◆右穂先チェーン



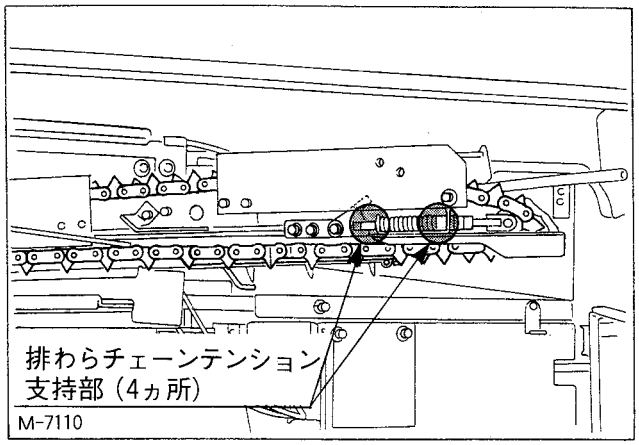
☆◆左穂先チェーン



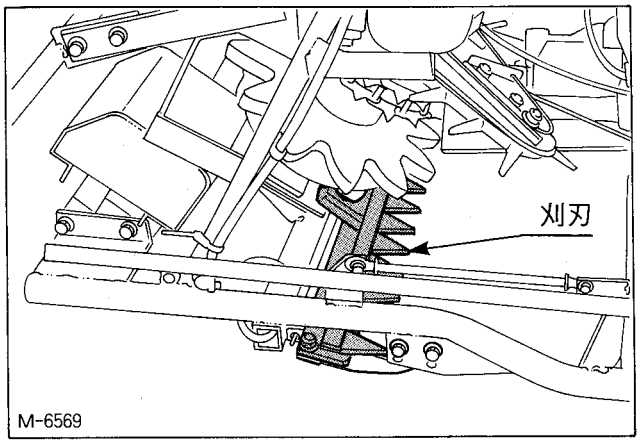
☆◆フィードチェーン



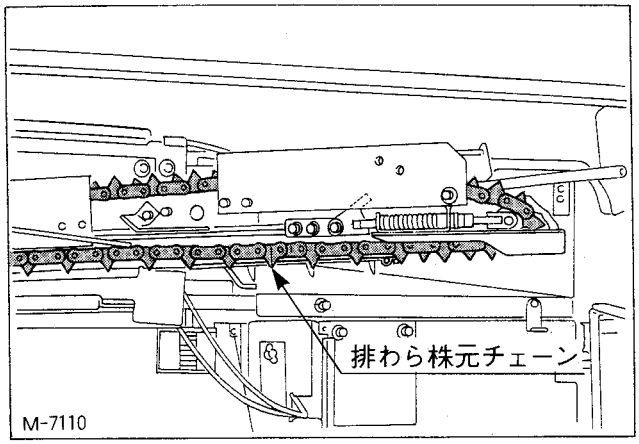
◆排わらチェーンテンション支持部



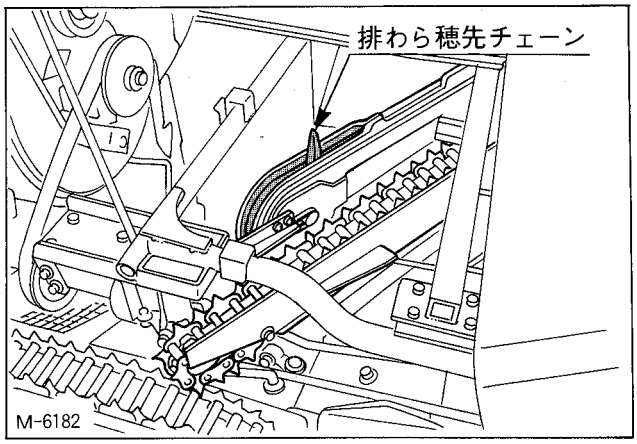
☆◆刈刃



☆◆排わら株元チェーン



☆◆排わら穂先チェーン



エンジンの始動と停止

注 意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊始動操作は運転座席に必ずすわってから，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。
＊各クラッチレバーを“切”又は“中立”，主変速レバーを“停止”にして，始動してください。

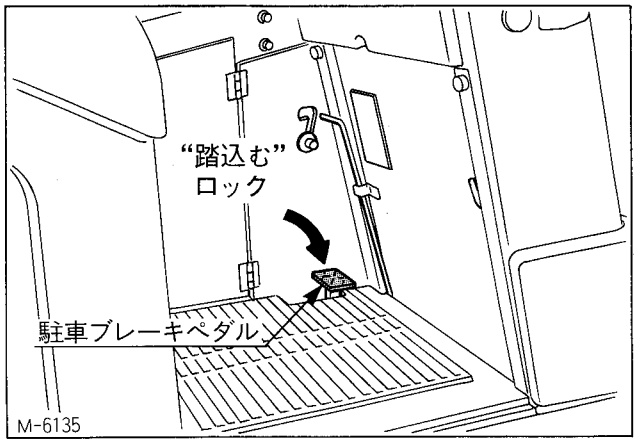
エンジンの始動

1 駐車ブレーキを掛ける

注 意

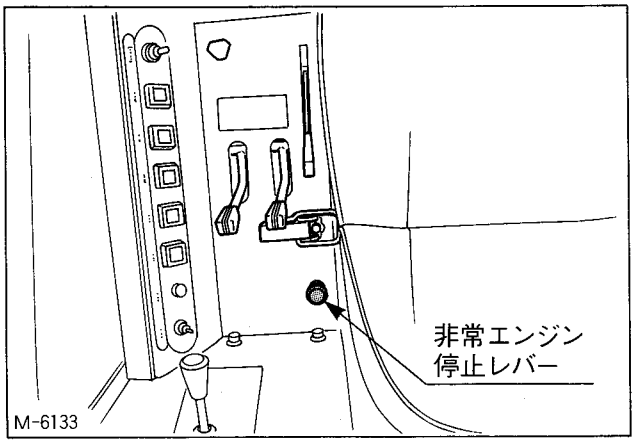
＊坂道で駐車するときは，副変速レバーを“中立以外”の位置にして木片などで車止めをし暴走を防いでください。

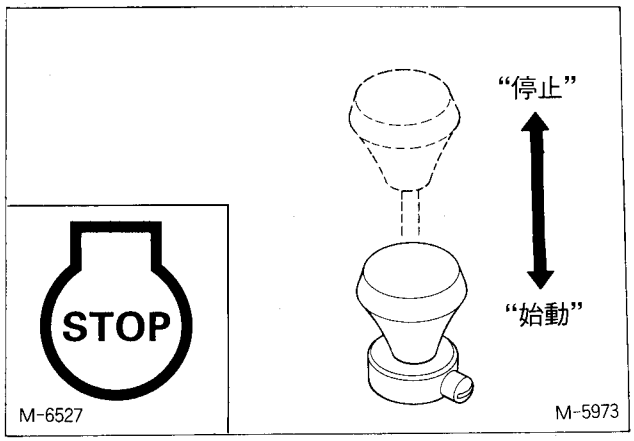
駐車ブレーキペダルをロック位置まで踏込んで駐車ブレーキを掛けます。



2 非常エンジン停止レバーを確認する

非常エンジン停止レバーが停止位置になっていたら，始動位置まで押込んでください。

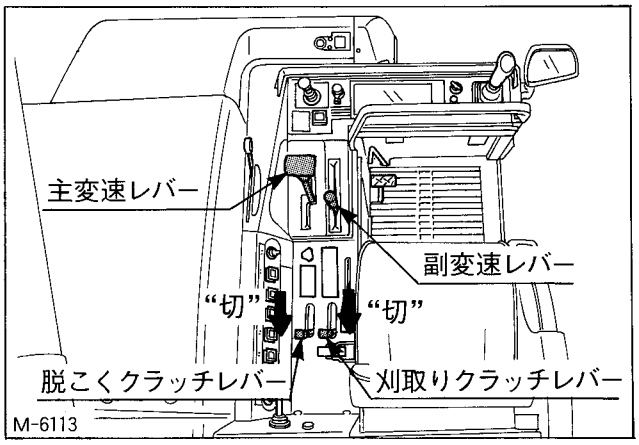




3 各種レバー位置を確認する

❶主変速レバーを“停止”にします。

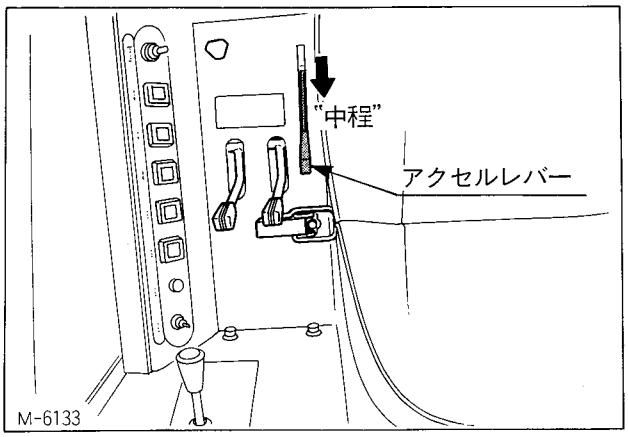
❷刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを“切”の位置にします。



補　足

＊主変速レバーが“停止”で脱こくクラッチレバーが“切”の位置にしなければエンジンは始動しません。

❸アクセルレバーを“中程”まで引きます。



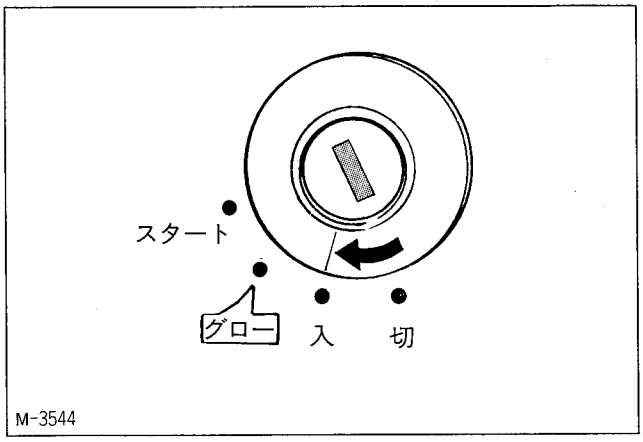
4 メインスイッチの操作

重　要

＊キーを“スタート”にし，セルモータを回して10秒たっても始動しないときは，いったんキーを“切”にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。

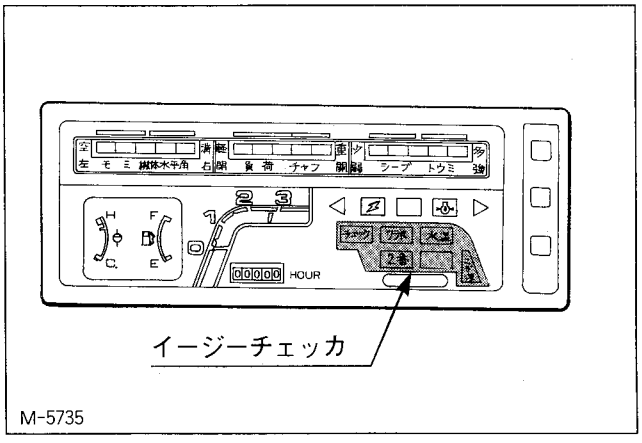
＊エンジンが始動すれば，暖機運転をしてください。

❶キーを差込み，“入”の位置にセットしてください。



◆メータパネルを点検してください

(1)エンジン停止中にキーを“入”にすると，イージーチェッカとレベルメータの全てのランプが点灯し，検知箇所に異常がなければ消灯します。ただし，オイルランプ，チャージランプは点灯したままで，エンジンを始動すると消灯します。



補　足

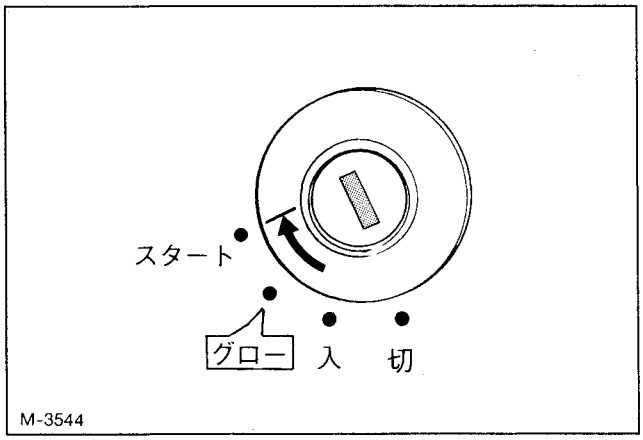
＊オイルランプ，チャージランプはランプチェックとは無関係です。

(2)エンジン回転中に検知箇所に異常があればランプが点灯又は点滅し異常を知らせます。

重 要

＊イージーチェッカのみで日常点検を済ませないで，点検は確実に行なってください。

❷周囲の人に始動の合図を送り，安全を確認してください。
❸キーを**“グロー”**まで回し，約４秒待ってください。
“スタート”までキーを回し，エンジンが始動すれば，キーから手を放してください。
❹エンジンが始動すれば，オイルランプ・チャージランプが消灯していることを確認してください。



◆暖機運転のしかた

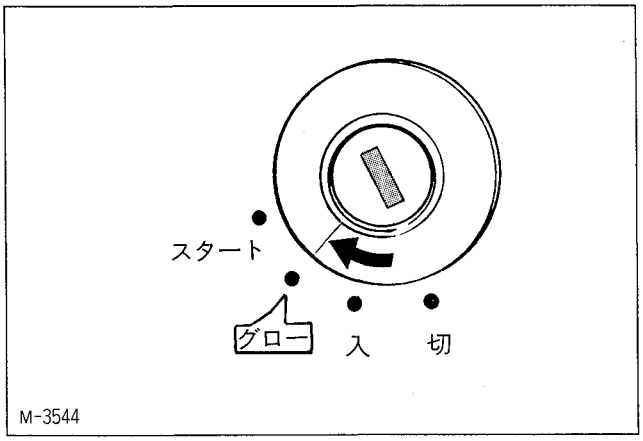
注 意

＊暖機運転中は必ず平地で駐車ブレーキを掛けて，主変速レバーを“停止”にして行なってください。

始動後，5～10分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

寒冷時のエンジン始動

エンジンが0℃以下に冷えきっているときは、キーを**“グロー”**の位置に回し、約５～10秒間予熱します。



重 要

＊暖機運転中はエンジン回転を約1500min^{-1}(rpm)に保ってください。
＊もし，エンジン，HST，トランスミッションのオイルを暖める前にコンバインを操作すると，コンバインの寿命が短くなります。

◆寒冷時の暖機運転とミッションオイルについて

このコンバインはＨＳＴ・油圧操向クラッチ・油圧ブレーキが採用されております。
特に寒冷地では，気温が下って冷えると粘度が高くなって，始動時に吸込みが悪く油圧の立上がりが遅かったり，正常な圧力が得られなかったりすることがあります。
このようなことをなくすため，次表のとおり暖機運転してください。
これを怠ると油圧系統の故障を引起し，方向変換不能の状態になります。

(1)暖機運転時間

気　温	暖機運転時間
－10℃	約10分
－10℃～－15℃	10～15分
－15℃～－20℃	15～20分
－20℃以下	20分以上

(2)ミッションオイル

メーカー名	オイル名
コスモ石油 日本石油	クボタ純オイルNEW･UDT又は スーパーUDT

■燃料切れ後の再始動のしかた

❶運転中に燃料切れで停止した場合は各クラッチを“切”にしてください。

❷燃料タンクに燃料を補給してください。

❸“エンジンの始動”の項1から4を確認の後，セルモータを回してください。エンジンが始動します。

補　足

＊燃料のエア抜きは自動で行なわれます。
メインスイッチを“入”にして5～10秒でエア抜きができます。

❹エンジン回転が安定したのを確認後，作業に入ってください。

エンジンの停止

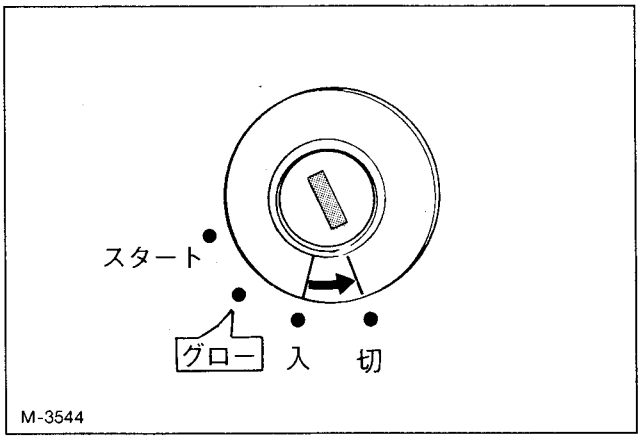
重　要

＊作業中は，脱こく，刈取クラッチレバーを“切”にした後，メインスイッチを“切”に戻してください。

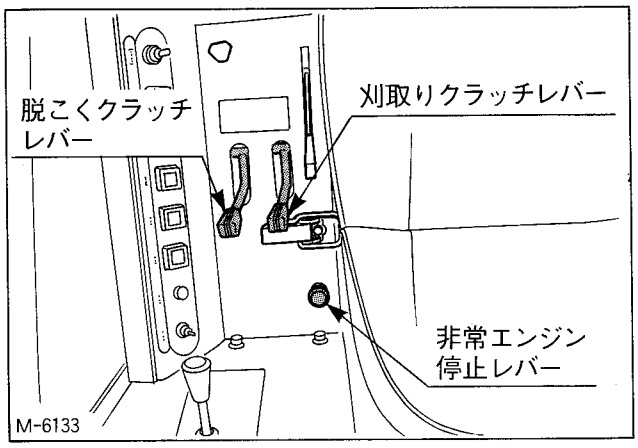
＊停止後，メインスイッチを，“入”で放置すると，電流が流れたままですので，“バッテリ上がり”の原因となります。

＊非常エンジン停止レバーは，メインスイッチにてエンジンが停止しないときなど非常時以外は，使用しないでください。

❶メインスイッチを“切”にしてください。エンジンが停止します。



❷電気系統の故障等により，メインスイッチを“切”にしてもエンジンが停止しない時は，運転席左後方の非常エンジン停止レバーを引いて，エンジンを停止させてください。



コンバインの運転

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取り作業は避けましょう。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■初期50時間のならし運転

＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊エンジンは規定刈取り作業回転数以上にセットしないでください。
＊高速での刈取り作業は避けてください。
＊整地されていない凹凸道路では適切な低速走行をしてください。
以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

◆油脂・フィルタ類の交換と チェーン・ベルトの張り調整

＊新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，油脂・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
＊チェーンやベルト類はならし運転中に初期伸びが発生します。初期20時間で張り調整をしてください。

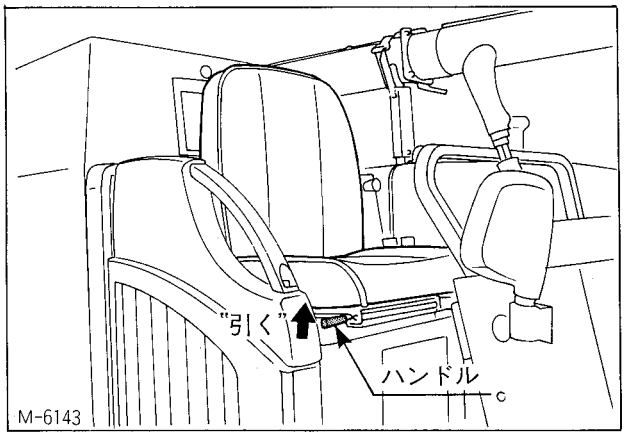
発進

注 意

＊始動操作は，運転席で行なってください。
＊周囲の人に合図をしてから始動してください。
＊各クラッチレバーを“切”にして始動してください。
＊運転者以外は運転席に乗せないでください。

1 シートの調整

適正な作業姿勢が得られるようにシートの位置を調節してください。
前後調節はシート右下のハンドルを矢印方向に引きながらずらしてください。



2 バックミラーの調整

後方視野がじゅうぶんに確認できる位置に調整してください。

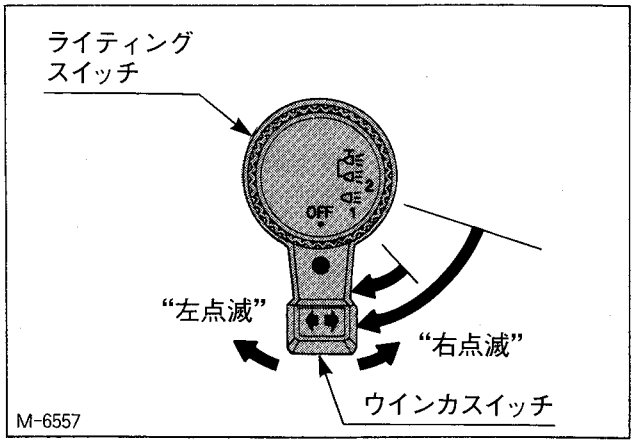
3 コンビネーションスイッチの操作

◆ライティングスイッチ

“OFF” ……ヘッドランプ・作業灯消灯位置。
1 ……ヘッドランプのみ点灯。
2 ……ヘッドランプ・作業灯点灯。

◆ウインカスイッチ

(1)旋回方向に操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内の案内ランプ(ウインカ用)が点滅します。
(2)旋回が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



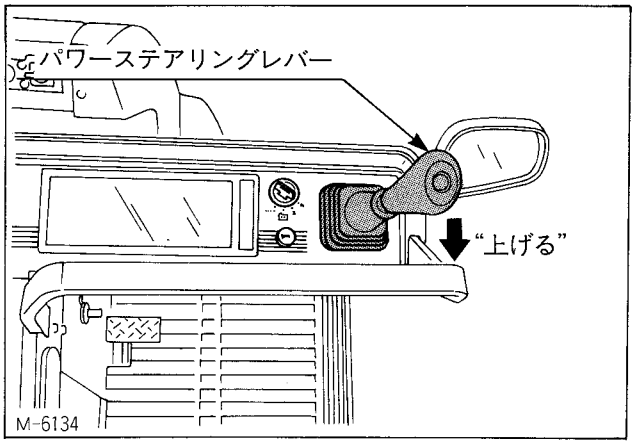
4 ホーンスイッチの操作

メインスイッチを**“入”**位置にしホーンスイッチを押してホーンを鳴らし，周囲の人に始動の合図を送り，安全を確認してください。

5 エンジンを始動する

6 刈取部を上げる

パワーステアリングレバーで刈取部を上げます。

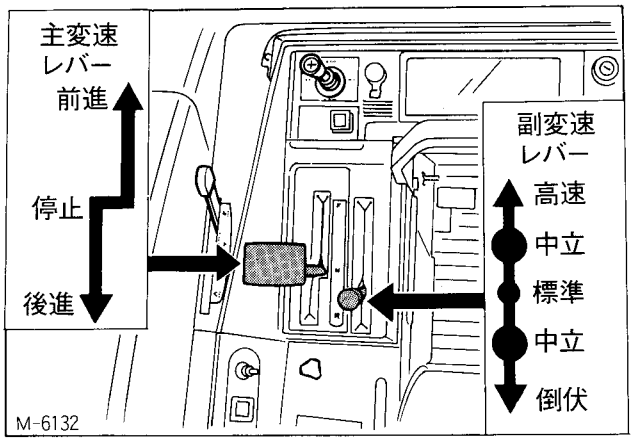


7 走行速度の選択

警 告

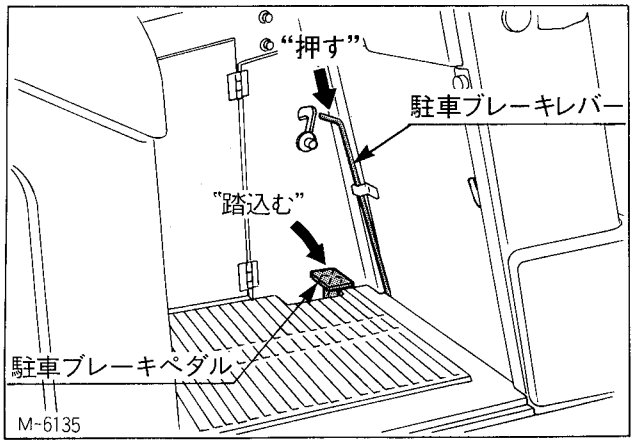
＊坂道で副変速レバーを操作すると機体が暴走する危険があります。坂道では，絶対に操作しないでください。
＊副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを“停止”位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

副変速レバーで速度の選定をします。



8 駐車ブレーキの解除

駐車ブレーキペダルを少し踏みながらブレーキレバーを押すとロックは解除されます。

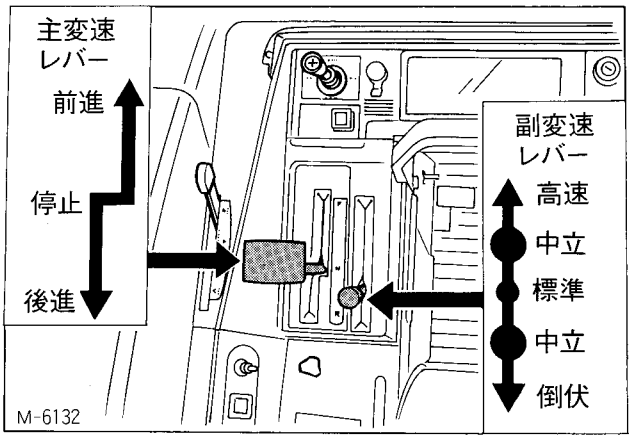


9 発進と走行

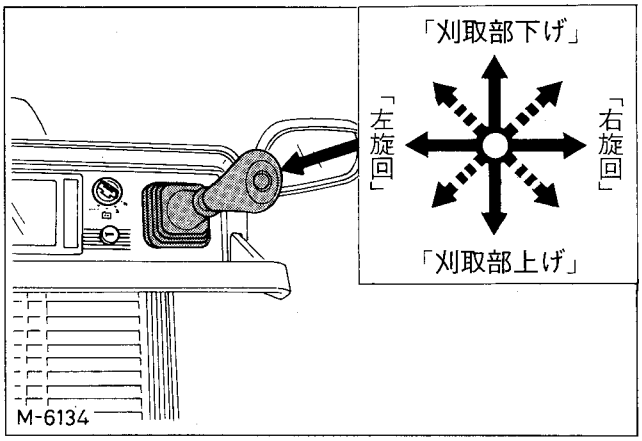
重 要

＊砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。
＊走行時は，エンジン回転数2000min^{-1}(rpm)以上で使用してください。
＊刈取部は，上げたまま長時間経過すると徐々に下降することがありますので注意してください。
＊副変速レバーの切換えは主変速レバーを**“停止”**位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

❶主変速レバーを徐々に前進側に倒すと**“前進”**しますので適当な速度で走行してください。
後進は主変速レバーを後進側に倒すと**“後進”**します。



❷方向変換のときは，パワーステアリングレバーを軽く左又は右に倒します。
強く倒すと急旋回しますので注意してください。



停車

警 告

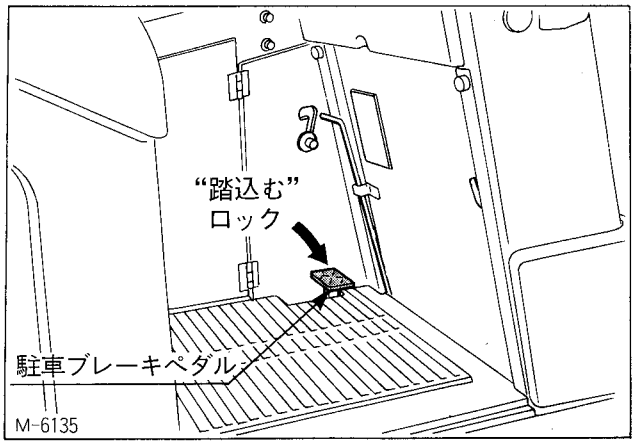
＊コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろしてエンジンを止め，駐車ブレーキを“ロック”してください。
＊駐車ブレーキペダルは走行中には使用しないでください。
緊急停止を要するときは，主変速レバーを“停止”の位置にしてください。
＊駐車ブレーキを掛けるときは必ず副変速レバーが“中立”位置以外の変速段に確実に入っていることを確かめてください。

注 意

＊坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

■停車のしかた

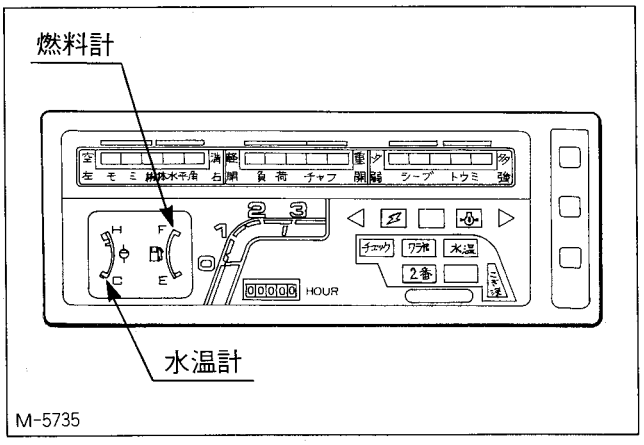
❶主変速レバーを**“停止”**にします。
❷駐車ブレーキペダルをロック位置まで踏込むと，自動的に駐車ブレーキが掛かります。



❸エンジンを停止してキーを抜いてください。

エンジン運転中の異常点検

1コンバインメータによる点検



◆燃料計

燃料計の指針が**“E”**に近づいたら早めに燃料を補給してください。

◆水温計

エンジン運転中にホーンが鳴り，水温ランプが点滅した場合は，オーバヒート状態ですから下記に従ってください。

注 意

＊オーバヒートなどでエンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。

❶作業を中止する。

❷エンジンを約５分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。

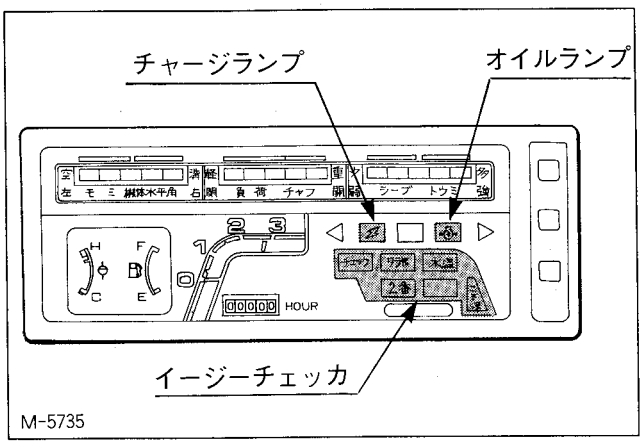
❸エンジン停止後30分以上経過してから開ける。

❹点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。

＊エンジンが冷えてないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

(1)冷却水の有無，もれ
(2)ファンベルトのゆるみ
(3)防じんカバー及びラジエータ，オイルクーラに泥やゴミが付着していないか
を点検してください。

2イージーチェッカによる点検



❶ オイルランプ
エンジン回転中で，点灯したままのときは，エンジンを停止させエンジンオイル量を点検してください。

❷ チャージランプ
エンジン回転中で，点灯したままのときは，エンジンを停止させ，充電系統を点検してください。

❸ 水温 水温ランプ
水温ランプが点滅し，ホーンが鳴った場合は，左記の**“◆水温計”**の内容に従ってください。

❹ ２番 ２番警報ランプ
ランプが点滅し，ホーンが鳴ったときは，２番口又は１番口の詰まりを取除いてください。

❺ ワラ詰 わら詰まり警報ランプ(自動停止)
ランプが点滅し，ホーンが鳴ったときは，フィードチェーンや，排わらチェーンのわら詰まりを取除いてください。

【結束機仕様の場合】
ランプが点滅し，ホーンが鳴ったときは，結束機のビルにひもが巻付いたり，ひも切れ，結束部の点検をしてください。

❻ こぎ深 こぎ深さ警報ランプ
ランプが点滅し，ホーンが鳴ったときは，穂先センサ部に雑草などがからまっていないか点検してください。

❼ チエック 自己診断警報ランプ
マイコンが自動装置の異常を検出すると点滅します。チェックランプが点滅を続けて消灯しないときには、お買上げいただいた販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

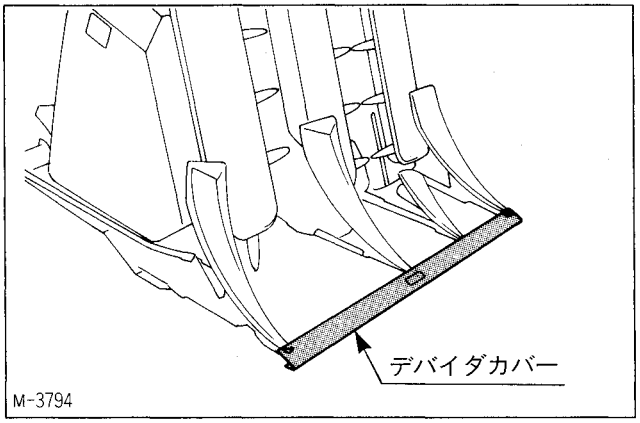
移動走行について

注 意

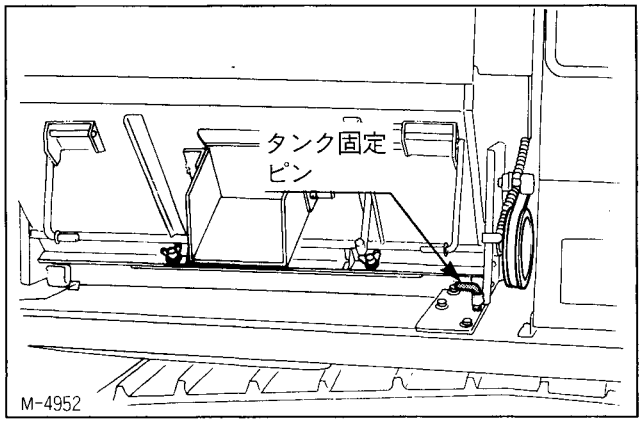
＊高速走行時，パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してからレバーを操作してください。
＊移動時は刈取部を最上昇位置にして，刈取り下降ロック金具で刈取部の下降防止を行なってください。
＊あぜの乗り越えは，もみを取出した状態(空の状態)で低速であぜに直角に進入してください。10cm以上のあぜ，又はコンクリートの畦畔は必ずあゆみ板を使用してください。
＊M仕様(自動車体水平制御)は機体を一番下げた状態にしてください。
＊溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊小型特殊自動車の型式認定を取得(ナンバプレート取付)していない場合やカッタ及び結束機を装着している場合は，“道路運送車両法”の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
＊運転者以外は運転席に乗せないでください。

■移動走行前の準備

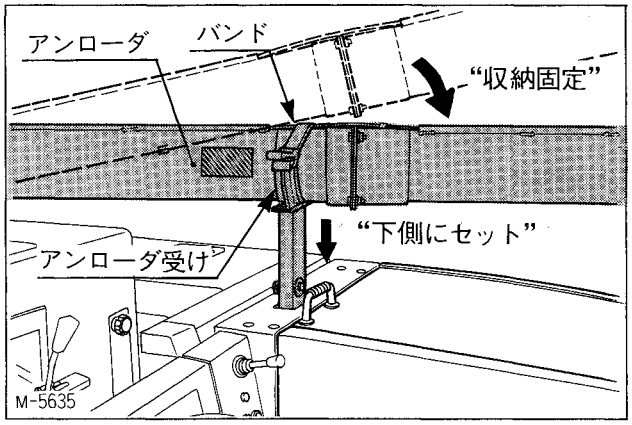
❶グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(**“こく粒排出作業のしかた”**の項参照)
❷デバイダカバー(標準付属品)を取付けます。



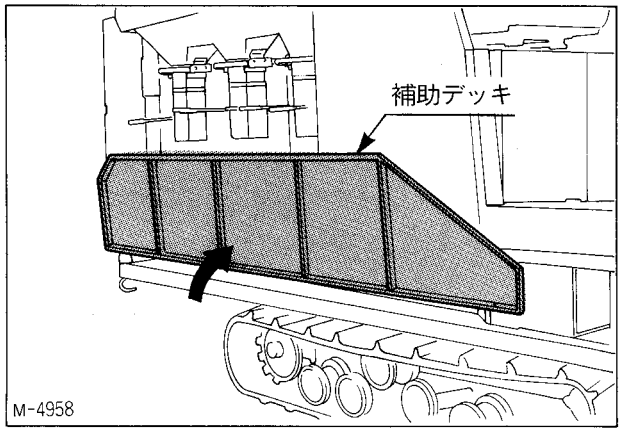
❸タンク固定ピンで固定します。**【G仕様】**



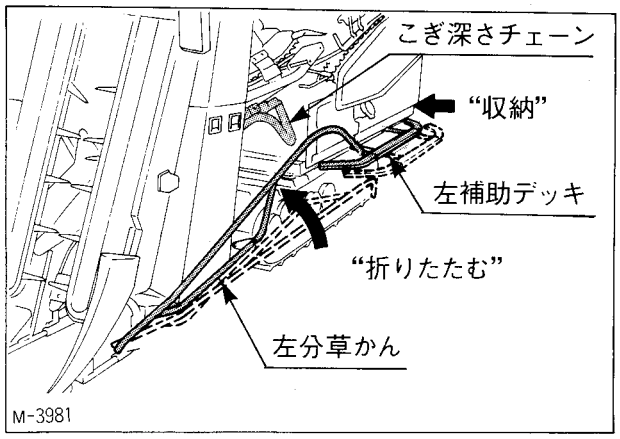
❹アンローダをアンローダ受けに収納し，バンドで確実に固定します。(アンローダ受けは下側にセットしてください) **【G仕様】**



❺補助デッキを折りたたみます。**【ホッパ仕様】**



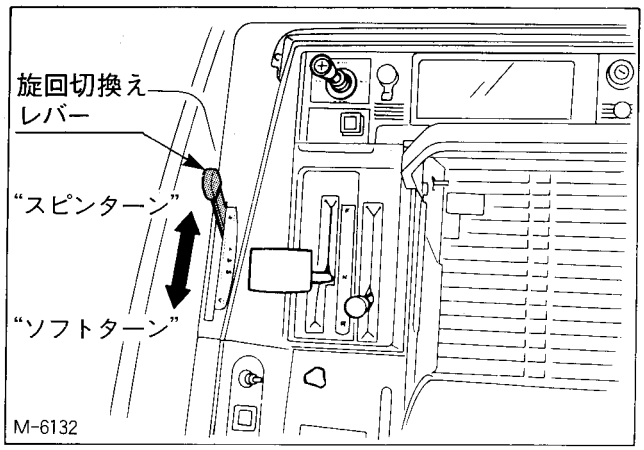
❻左補助デッキを収納し，左分草かんを折りたたみます。



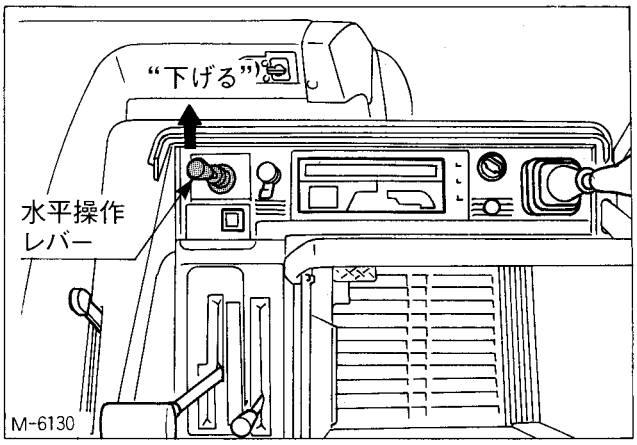
補　足

＊こぎ深さチェーンを最深状態にしてください。そうしないと，分草かんが自然に下がってくることがあります。

❼旋回切換えレバーを**“ソフトターン”**の位置にしてください。**【T仕様】**

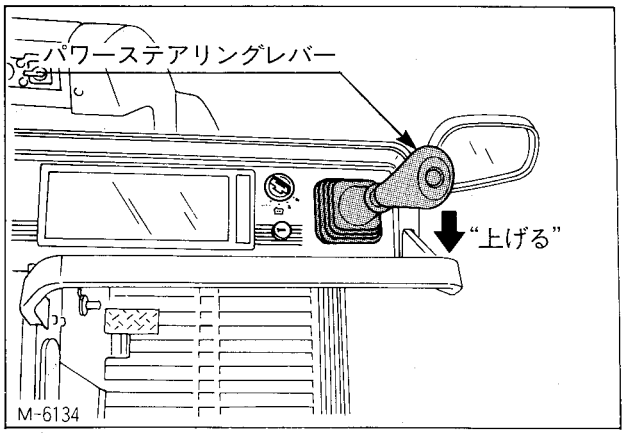


❽自動車体水平制御は，水平操作レバーで最も低い位置まで下げてください。**【M仕様】**



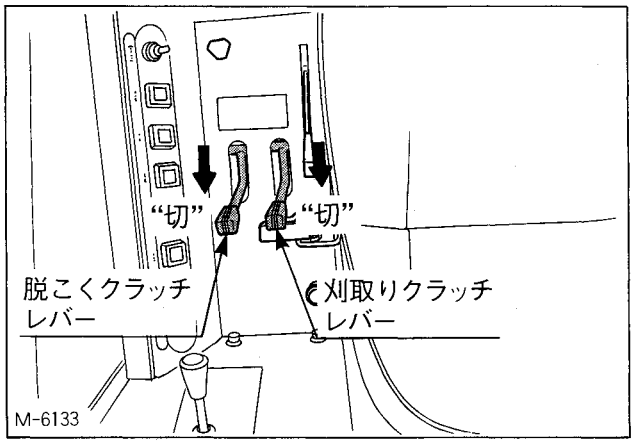
❾エンジンを始動します。

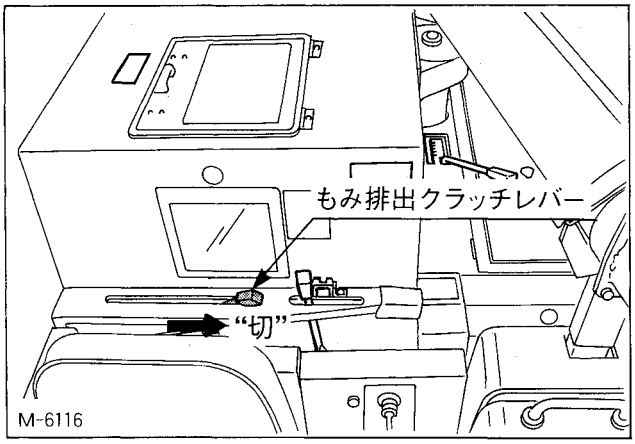
❿パワーステアリングレバーで刈取部を最上昇位置まで上げてください。



⓫刈取り下降ロック装置を上げて，走行時の刈取部の下降防止を行なってください。(**“刈取り下降ロック装置”**の項参照)

⑫各クラッチレバー(刈取りクラッチ，脱こくクラッチ，もみ排出クラッチ)を**“切”**にします。





■道路走行

警 告

＊道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

注 意

＊踏切を渡る場合は必ずいったん停止し，列車通過の有無を確認の上，速やかに渡ってください。

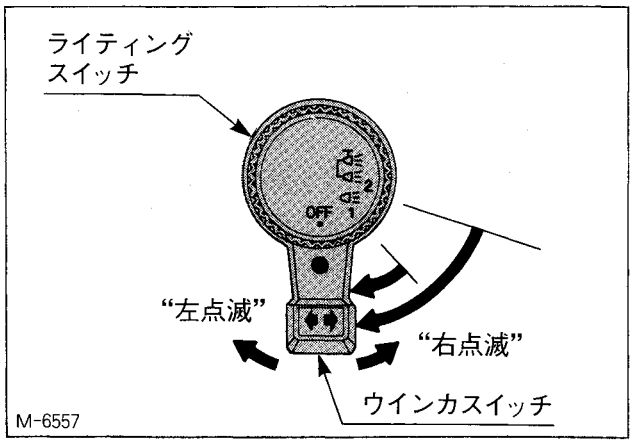
＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

道路走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。

◆ウインカスイッチ

(1)旋回方向に操作すると，ウインカランプ及びコンバインメータ内の案内ランプ(ウインカ用)が点滅します。

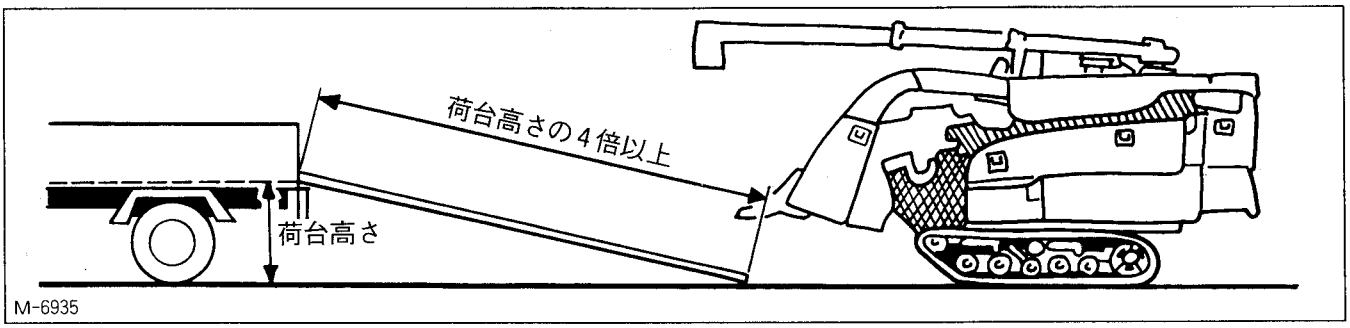
(2)旋回が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



■トラックへの積込み・積降しのしかた

注 意

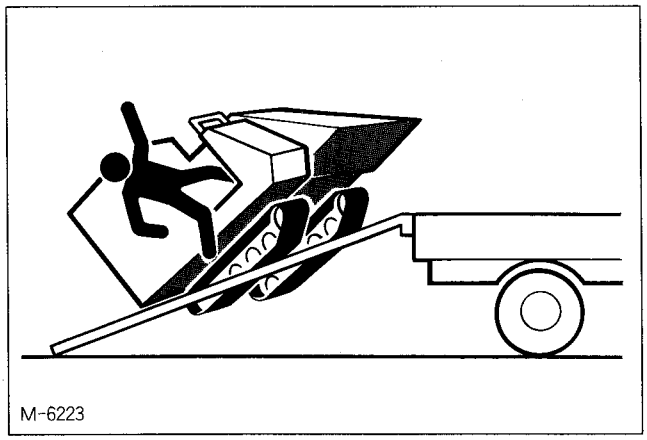
＊あゆみ板は，じゅうぶんな強度，幅(クローラの1.2倍以上)，長さ(高さの４倍以上)のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊積込みは前進で，積降しは後進で，低速で行ない周辺に人を近づけないでください。



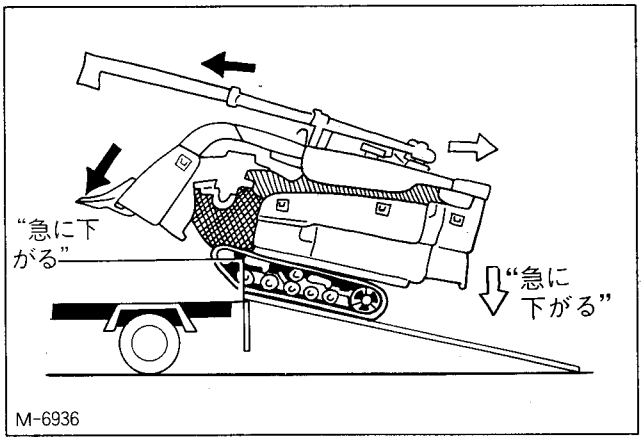
あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	55cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が1600kg以上の重量に耐えうる

＊あゆみ板のフックは，荷台に段差のないように，また，ずれないように確実に掛けてください。
＊パワーステアリングレバーの左右操作は，あゆみ板の上では行なわないでください。もし操作すると，急に方向転換し落下するおそれがあります。
＊あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・駐車ブレーキを操作すると，機械が急降下，落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。



＊平たん地を選び，できるだけ助手の 立合い誘導のもとに行なってください。また，コンバインの周辺に人を近づけないでください。
＊機体が凸部を越えるときは，急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



❶グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。
❷左分草かんとカッタの株元カバーを折りたたみ，左補助デッキを収納します。また，ホッパ仕様は補助デッキも折りたたみます。
❸自動車体水平制御は，水平操作レバーで最も低い位置まで下げてください。**【M仕様】**
❹パワーステアリングレバーで刈取部を上限まで上げます。
❺各作業クラッチレバーを**“切”**にします。
❻エンジンは2000min^{-1}(rpm)以上で使い，副変速レバーを**“倒伏”**位置にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速で使用してください。
❼あゆみ板の中央に左右のクローラを合せてから積込み・積降しをしてください。

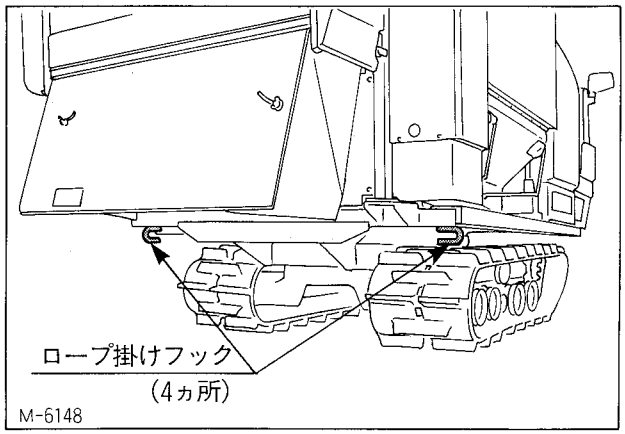
■輸送時の注意

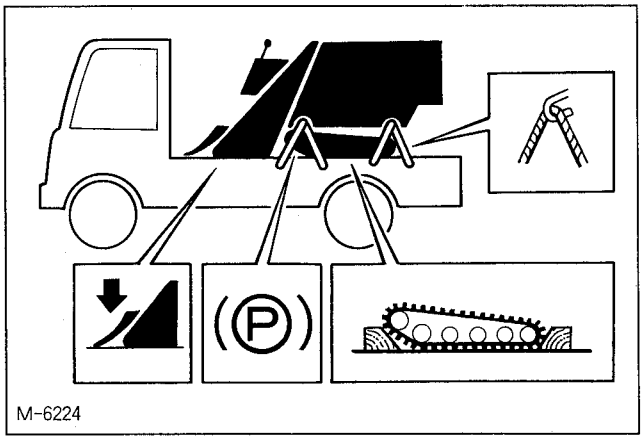
注　意

＊積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

＊トラックへの積込み・積降しは，平地を選んで，最低速で行なってください。

＊トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかり床に固定します。



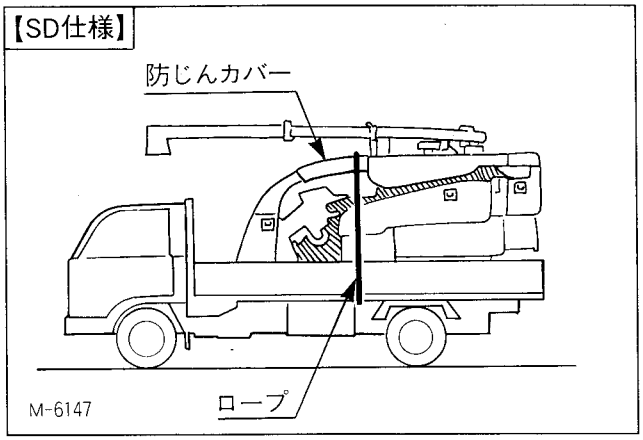


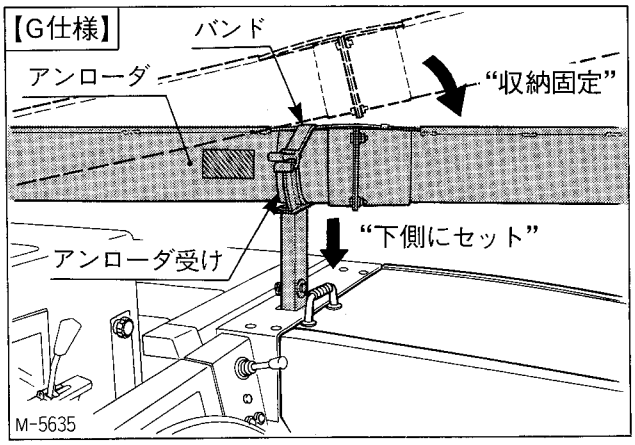
トラックで輸送する場合，風圧により防じんカバーが浮上がるので，破損防止のためロープを掛けてください。**【SD仕様】**

また，アンローダ受けを必ず下げてセットし，アンローダが浮上がらないようバンドで確実に固定してください。**【G仕様】**

補　足

＊防じんカバーに傷がつかないように，ロープはゆるく掛けてください。**【SD仕様】**

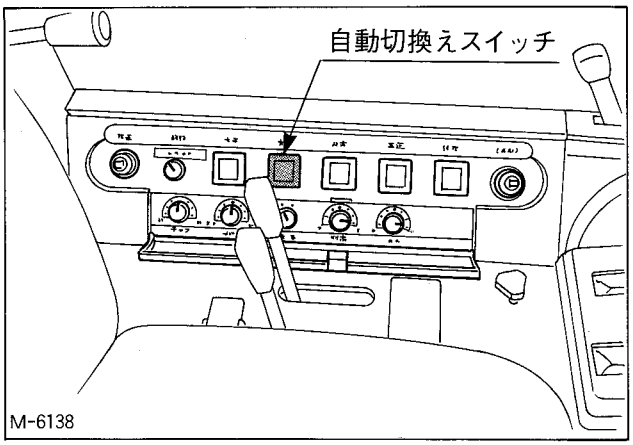




自動装置の使いかた

■自動方向制御の使いかた【SD仕様】

❶脱こくクラッチレバーを“**入**”にします。
（自動方向制御は刈取り作業中のみ作動します）
❷自動切換えスイッチを“**自動**”にし，自動ランプの点灯を確認します。
❸刈始めると，自動制御が作動します。



補　足

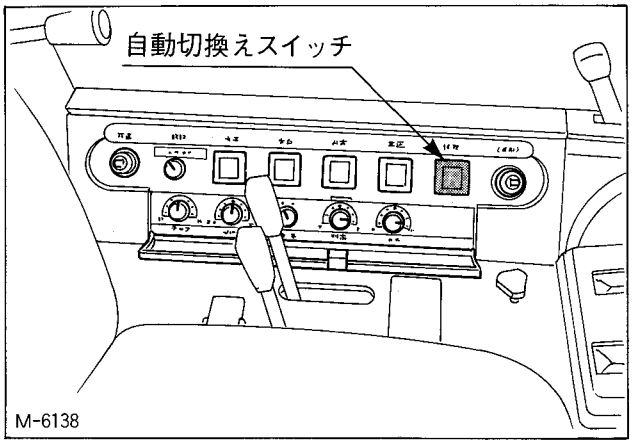
＊刈始めの条合せは手動で行なってください。
＊自動方向制御で中割作業を行なうと，植幅によって，デバイダが株に割込むことがあります。植幅が合わないときは，手動で行なってください。

◆使用上の注意事項

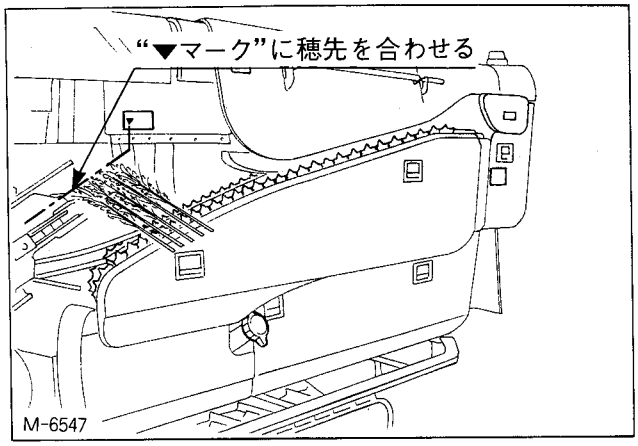
(1)切換えスイッチが“**自動**”のままでも，パワーステアリングレバーの操向操作が優先します。
(2)切換えスイッチ“**自動**”のまま横刈りをした場合は，刈始めの３～４秒間は自動制御により機体が振れますが，それ以降は自動制御を停止し直進します。

■自動こぎ深さ制御の使いかた

❶脱こくクラッチレバーを“**入**”にします。
（自動こぎ深さ制御は刈取り作業中のみ作動します）
❷刈取りクラッチレバーを“**入**”にし，刈取部を下げます。
❸自動切換えスイッチを“**自動**”にし，自動ランプの点灯を確認します。



❹刈始めると，こぎ深さ制御が作動します。
❺穂先が脱こく部入口の“**こぎ深さ指示（▼）マーク**”に合うように，こぎ深さ調節レバーを微調節します。



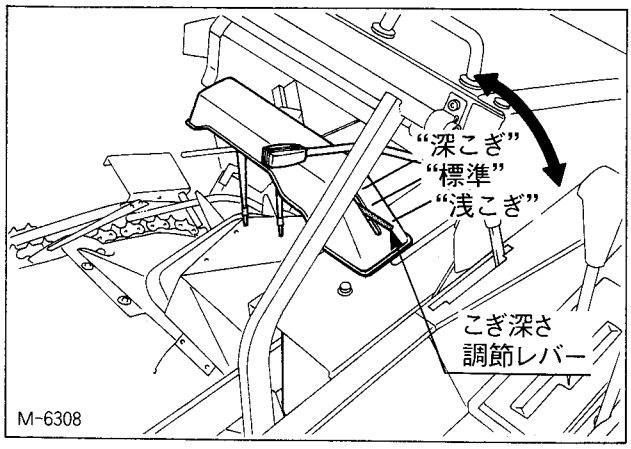
❻刈終ると，こぎ深さ制御は停止し，刈終りのこぎ深さを保持します。

補　足

＊穂先センサ部に浮わらや雑草が滞溜すると，イージチェッカのこぎ深さランプが点滅し，場合によってはホーンが鳴りますので取除いてください。

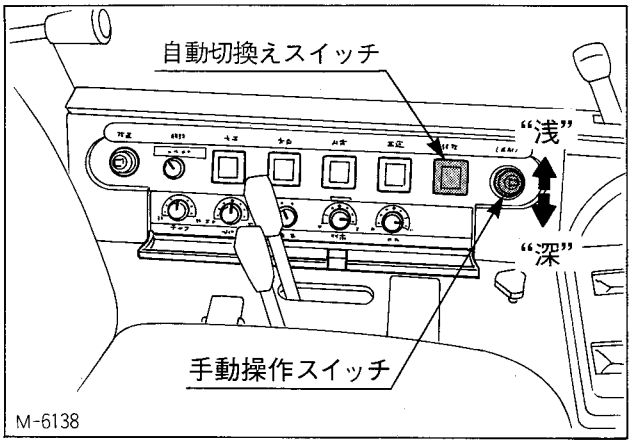
◆こぎ深さ調節レバー

(1)通常は**“ほぼ中央”**に合せてください。
(2)レバーを**“深”**の方向に倒すと，深気味に保持されます。
(3)レバーを**“浅”**の方向に倒すと，浅気味に保持されます。



◆手動操作スイッチ（手動こぎ深さスイッチ)

(1)手動でこぎ深さを調節するときに使用します。
(2)スイッチを**“深”**の方向に倒すと深こぎになります。
(3)スイッチを**“浅”**の方向に倒すと浅こぎになります。
(4)自動で作業中，手動操作スイッチを操作すると手動操作が優先されます。



◆使用上の注意事項

(1)刈取り中に作物全長が大幅に変化する場合は，こぎ深さ制御位置調節レバー又は，手動操作スイッチで補正してください。
(2)浮きわら・雑草の多いときは，手動で作業してください。

■自動刈高さ制御の使いかた【SD仕様】

注 意

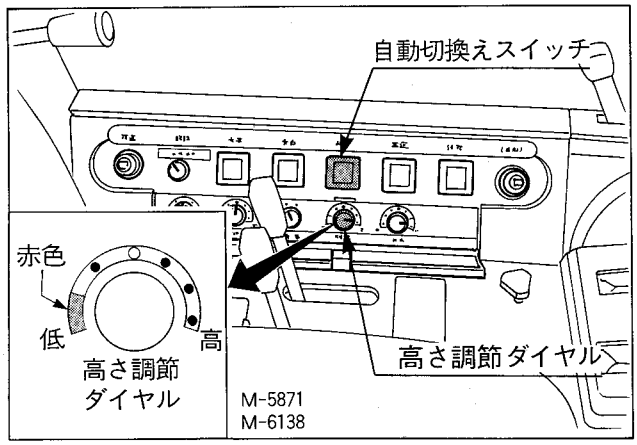
＊ワンタッチで下降するので足元に注意してください。

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。
❷自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。
❸パワーステアリングレバーを**“下げ”**にすると，自動制御が作動します。

補 足

＊刈取部が上がっているときに**“下げ”**にすると，刈取部は連続下降します。

❹刈終りにパワーステアリングレバーを**“上げ”**にすると，自動制御は停止し，刈取部は上がった位置を保持します。
❺手動で刈取り中に自動切換えスイッチを**“自動”**にしますと，自動ランプが点灯し自動制御が作動します。

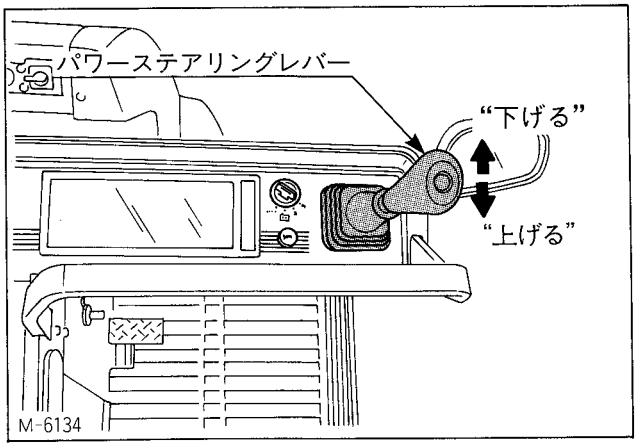


◆高さ調節ダイヤル

(1)高さ調節ダイヤルは通常**“O”**にセットしてください。
(2)ダイヤルを**“高”**の方向に回すと，高刈りとなります。
(3)ダイヤルを**“低”**の方向に回すと，低刈りとなります。
(4)高さ調節ダイヤルの赤色で表示された範囲では，地面の状態により，デバイダの突込みを生じる場合があります。その場合は赤色範囲以上で調節するか，パワーステアリングレバーで適正高さに修正してください。

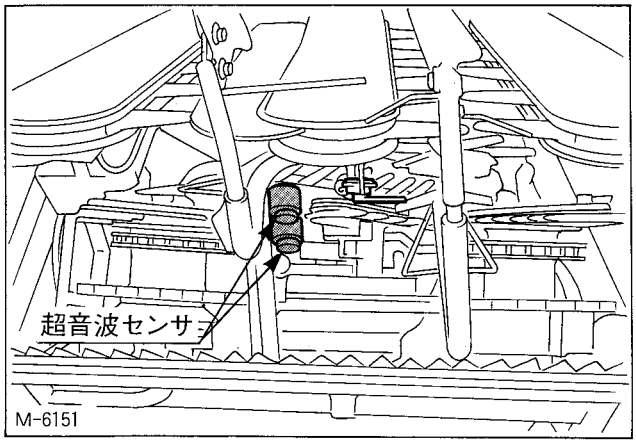
◆パワーステアリングレバー

(1)手動で刈取部を昇降するときに使用します。
(2)自動制御中でも手動が優先されます。



補　足

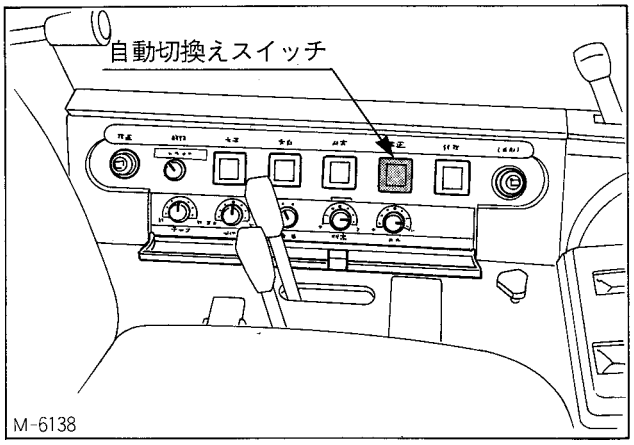
＊主変速レバーが**“停止”**位置にあるとき自動制御は停止します。ただし，高さ調節ダイヤルによる刈取部の調節は可能です。
＊刈始めに，切わらや土の盛上りをセンサが検知して刈取部が上昇する場合は，前進しながら，パワーステアリングレバーで適正高さに修正してください。
＊刈取部にからんだわらや雑草が，センサの下に来ると，誤動作をしますので取除いてください。
＊湿田や湛水田でセンサに水や泥が付着すると，誤動作をすることがありますので，柔かい布で取除いてください。
＊湿田で機体傾斜の激しいときには，自動制御は使用しないでください。
＊高さ調節ダイヤルを最低の付近で使用するときは，デバイダの突込みを生じやすいですから，機体傾斜や凹凸の激しい場所では手動にするかまたは車速を下げてください。
＊超音波センサの内部に異物が入ったときは誤動作を生じやすいので，内部の異物を柔かい布で取除いてください。



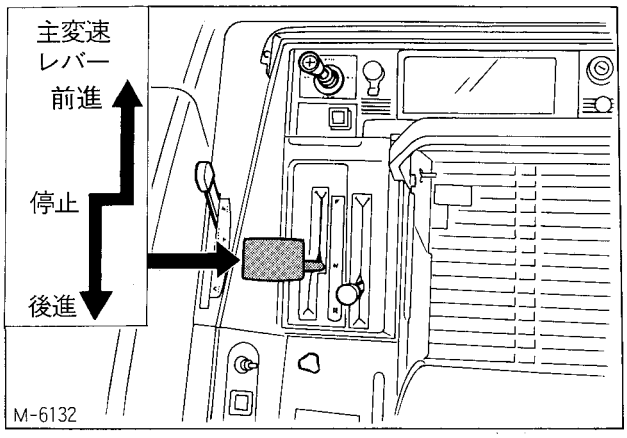
■自動車速制御(ピタコン)の使いかた【HD･SD仕様】

◆操作のしかた

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。
（自動車速制御は刈取り作業中のみ作業します）
❷刈取りクラッチレバーを**“入”**にし，刈取部を下げます。
❸自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。



❹主変速レバーを手動で操作して，走行します。



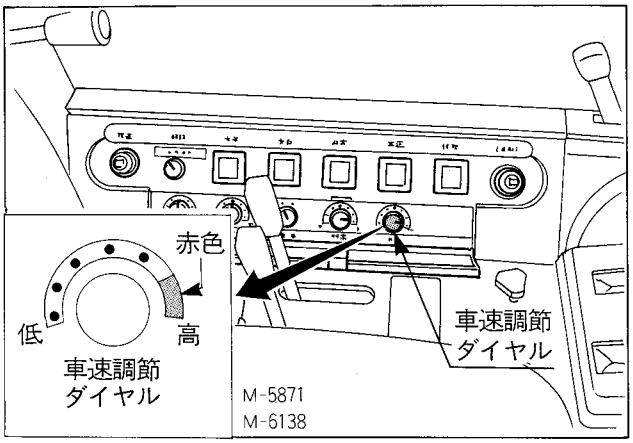
❺刈始めると自動制御が作動して，最適な車速になるように自動的に増減速します。
❻脱こく制御との連動により，脱こく機の能力をオーバしたとき自動的に車速を減速します。
❼刈終わって旋回するとき，エンジンに過負荷が生じると自動的に減速します。

◆車速調節ダイヤル

(1)車速調節ダイヤルを**“高”**の方向に回すと，自動制御の上限車速が高くなります。

(2)車速調節ダイヤルを**“低”**の方向に回すと，自動制御の上限車速が低くなります。

(3)車速調節ダイヤルは，車速が1.1m/s 以上(SR30)，0.80m/s以上(SR25)の位置は，赤色で表示しています。この範囲内は，作物条件により，負荷が大きくなる場合があります。その場合は，赤色範囲以下で調節してください。



◆手動操作での作業スピード調節

(1)手動で作業する場合は、**“3”**のランプまでの範囲で刈取作業を行なってください。

段階	負荷ランプ・ホーン	変速指示
1	1	加速可能
2	1 2	加速可能
3	1 2 3	適正速度
4	1 2 3 4	減速必要
5	1 2 3 4 5	減速必要
6	1 2 3 4 5，ホーン断続	即時減速

◆使用上の注意事項

(1)主変速レバーは手動優先になっていますので，緊急時には，主変速レバーを手動で**“停止”**に戻してください。

(2)刈取作業以外のときには，必ず自動切換えスイッチを**“手動”**にしてください。

■自動車体水平制御の使いかた【M仕様】

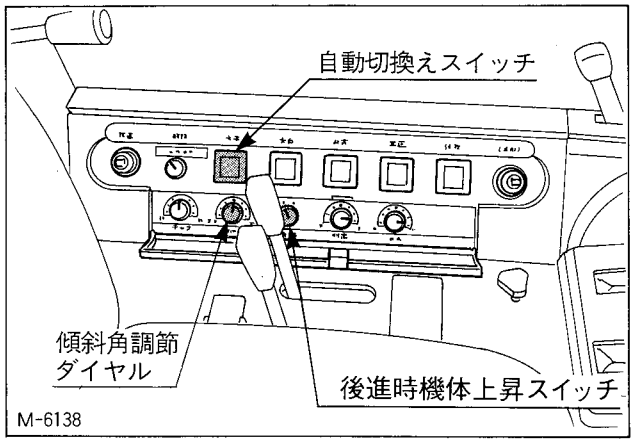
注 意

＊あぜの乗越時や移動走行時に，脱こくクラッチレバーを操作すると，機体が急に傾斜することがあるので，刈取り作業時以外は，各作業クラッチレバーは“切”の位置にしておいてください。

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。

❷自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。

❸この状態で水平制御が作動します。



◆傾斜角調節ダイヤル

❶通常は中央に合せてください。

❷ダイヤルを**“右上”**の方向に回すと，右上り気味に制御します。

❸ダイヤルを**“左上”**の方向に回すと，左上り気味に制御します。

❹湿田で機体が左又は右にそれて直進しない場合は，傾斜角調節ダイヤルで機体の傾斜を調節すると直進性が良くなります。

◆後進時機体上昇スイッチ

❶乾田では**“切”**にして使用してください。

❷湿田で後進時に機体が後上りになりバックしにくいときは，後進時機体上昇スイッチを**“入”**にしてください。

❸後進時機体上昇スイッチが**“入”**の状態では，後進時のみ機体が上昇すると同時に後バランスになりますので，機体の姿勢の変化が少なくなり作業しやすくなります。

❹このスイッチが**“入”**の状態でも，主変速レバーを前進側にしますと，機体は自動的に下降し通常の水平制御を行ないます。

◆水平操作レバー

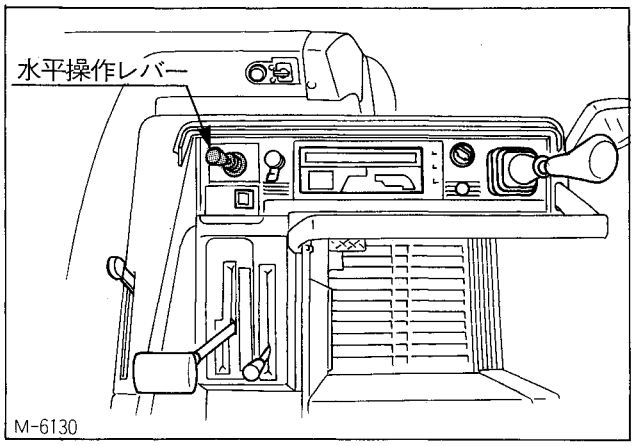
(1)レバーを**“機体上”**の方向に倒すと，機体の左右とも上がります。

(2)レバーを**“機体下”**の方向に倒すと，機体の左右とも下がります。

(3)レバーを**“左上”**の方向に倒すと，機体の左が上がり，右が下がります。

(4)レバーを**“右上”**の方向に倒すと，機体の右が上がり，左が下がります。

(5)自動制御で作業中でも水平操作レバーが優先されます。



重　要

＊使用する必要がなくなったときは，機体を必ず一番下まで下げてください。

＊自動で作業した後，脱こくクラッチレバーを**“切”**にするか，又は自動切換えスイッチを**“手動”**にすると，機体は左右ともいったん一番下まで下がります。

＊下降中に，水平操作レバーを操作すると停止します。

＊刈取り作業以外（特にあぜの乗越時，移動走行時，運搬時，格納時）の場合は各作業クラッチレバーは**“切”**にし，機体を一番下まで下げてください。

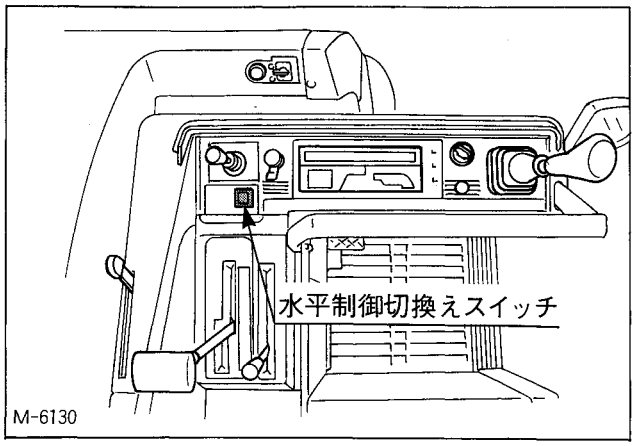
＊傾斜地では使用しないでください。

◆水平制御切換えスイッチ

自動切換えスイッチが**“自動”**で，脱こくクラッチレバーが**“入”**のとき，水平制御切換えスイッチは消灯状態になります。水平制御切換えスイッチは，押込まれた位置でロックされないスイッチです。スイッチの操作により，**“通常”**と**“上げ基準”**が交互に選択できます。**“上げ基準”**が選択されている場合にのみ，ランプが点滅します。

“消灯”… 機体最下げ状態を水平基準位置として，水平制御します。

“点滅”… スイッチを押すと，ランプが点滅し，機体最上げ状態を水平基準位置として，水平制御します。再びスイッチを押すと**“消灯”**状態になります。



【操作のポイント】

通常は**“消灯”**にて，作業してください。深い湿田での刈終り時に，旋回が困難な場合にスイッチを押して**“点滅”**状態にし，機体最上げ基準で水平制御させることにより，旋回が容易になります。直進刈取り状態になれば，再びスイッチを押して**“消灯”**にしてください。

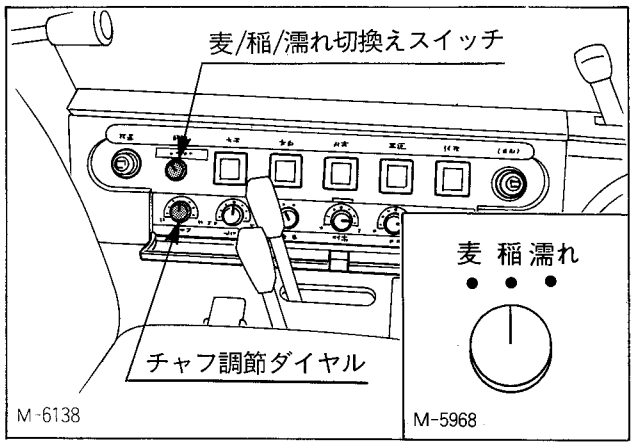
補　足

＊超湿田で**“上げ基準”**を選択したまま刈取り作業を行なうと、車体が深みにはまった場合、脱出不能となることがあります。超湿田の刈取り作業は**“通常”**か**“手動”**で行なってください。

＊後進時機体上昇スイッチが**“入”**でも**“切”**でも，このスイッチを押すと(スイッチ点滅時)常時**“上げ基準”**で水平制御します。

■自動脱こく制御の使いかた【D2仕様除く】

❶脱こくクラッチレバーを“入”にします。
❷麦／稲／濡れ切換えスイッチを作物に合せて設定します。



◆チャフ調節ダイヤル設定方法

刈始めは，“O”の目盛にセットしてください。
選別が悪い又は，ロスが多い場合はチャフ調節ダイヤルで調整してください。

	ロスが多い場合	選別を良くしたいとき
チャフ調節ダイヤルを回す方向	開の方へ	閉の方へ

補　足

＊切換スイッチを“濡れ”位置に設定すると，チャフシーブは全開位置に固定されます。またトウミは，排風板が全閉に固定され，風力が最大となります。このときチャフ調節ダイヤルの調節はできません。
＊作業中にイージーチェッカのシーブメータが“5”を表示したり，ホーンが鳴る場合は，減速又は受あみ・チャフシーブの目詰まりを取除いてください。

■アンローダ自動旋回制御の使いかた【G仕様】

注　意

＊自動・停止スイッチを押す前に，アンローダの可動範囲に障害物がないか確認してください。

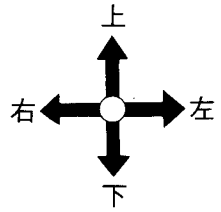
❶停止位置選択スイッチにより，排出位置を選択します。【HD, SD仕様】

補　足

＊作業に応じて左・右・後の３つの排出位置が選択できます。

❷自動・停止スイッチを押すとアンローダは上昇し，排出設定位置まで自動的に旋回します。
❸アンローダレバーを操作して，排出位置まで動かします。

◆アンローダレバー（手動操作）

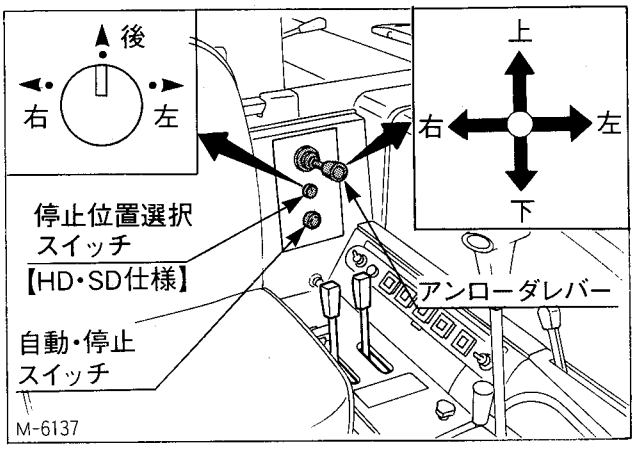


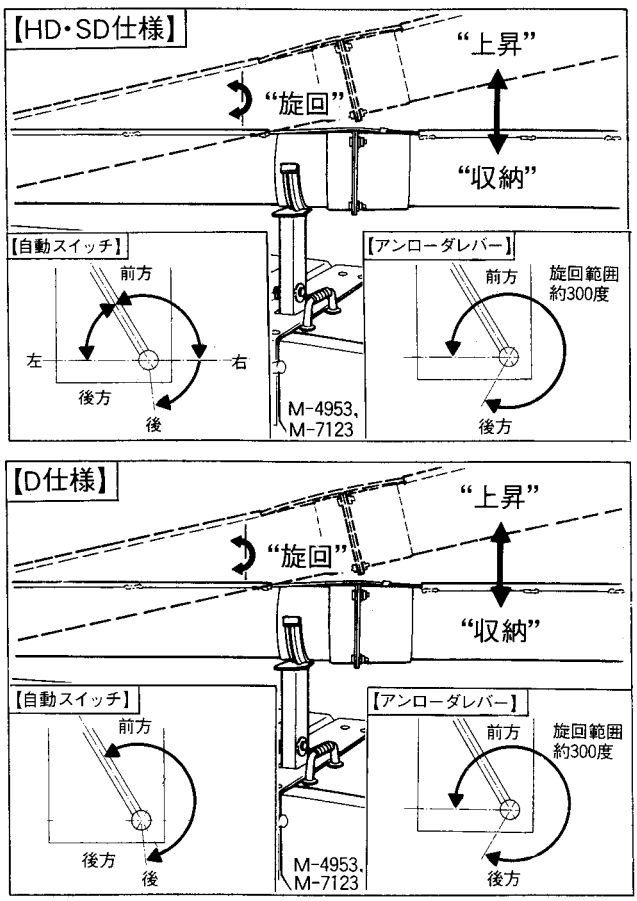
レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
左	左回り(反時計方向)に旋回
右	右回り(時計方向)に旋回

補　足

＊左・右の方向は，運転席に座って見たときです。

❹もう一度自動・停止スイッチを押すとアンローダは上昇し，収納位置に戻ります。





重　要

＊走行しながら，アンローダ自動旋回操作を行なわないでください。機械故障の原因になります。

＊コンバインが傾いている傾斜地などでは手動で操作してください。

補　足

＊自動制御でアンローダが格納位置に戻った直後に，自動・停止スイッチを押しても自動制御は作動しません。10秒程度待ってから自動・停止スイッチを押してください。

＊自動制御作動中，再度自動・停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。

＊手動操作でグレンタンクを通過させる場合は，アンローダを最上位置まで上げないと旋回できません。

＊自動制御作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

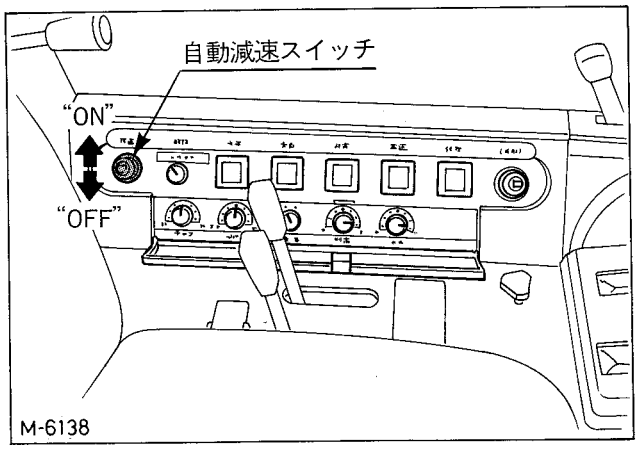
■自動減速装置の使いかた【HD・SD仕様】

自動減速スイッチ“ON”(入)にする。

◆使用上の注意事項

旋回時の自動減速中は，主変速レバーを無理に前側へ押さないでください。

〔自動減速を作動させたくない場合〕
自動減速スイッチを“OFF”(切)にする。



補　足

＊スピンターンで急旋回し過ぎると感じる場合やエンジン回転数の低下が大きい場合は，“ON”(入)で使用してください。【T仕様】

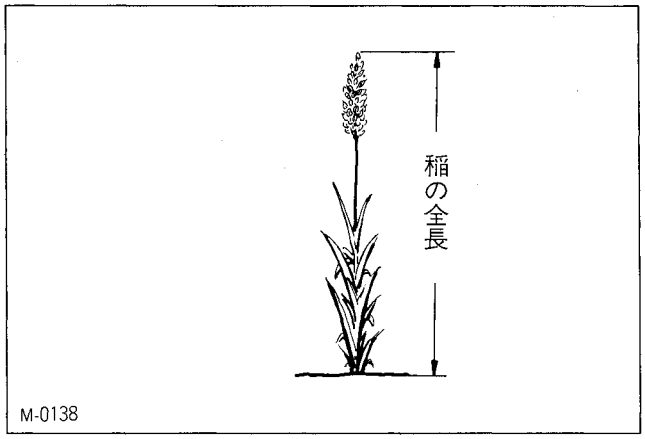
上手な収穫作業のしかた

コンバイン作業ができる作物とほ場の条件

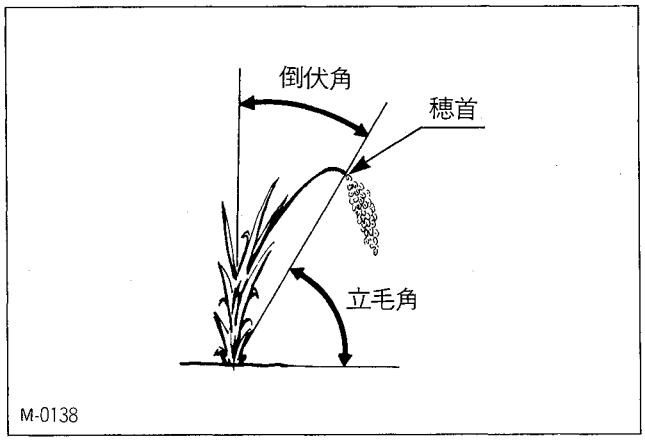
作物とほ場の条件によっては，正常なコンバイン作業ができないことがあります。先ず作物とほ場の条件を確認してください。

■作物の条件

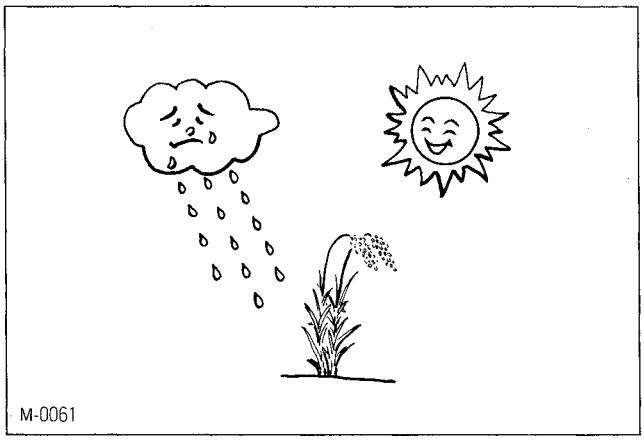
(1)作物の長さ……全長55～130cm



(2)作物の倒れ（倒伏角）…
「追い刈り…85度以下。
└向い刈り…70度以下。



(3)作物のぬれ……乾いていること。
（手でしごいてぬれない状態）



■ほ場の条件

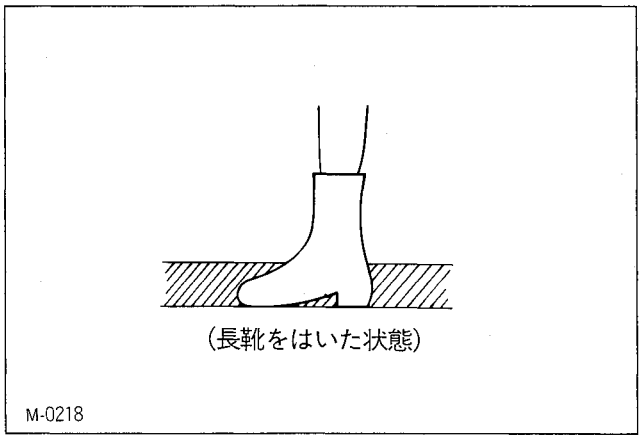
重　要

＊ほ場内に雑草が多いと刈取作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

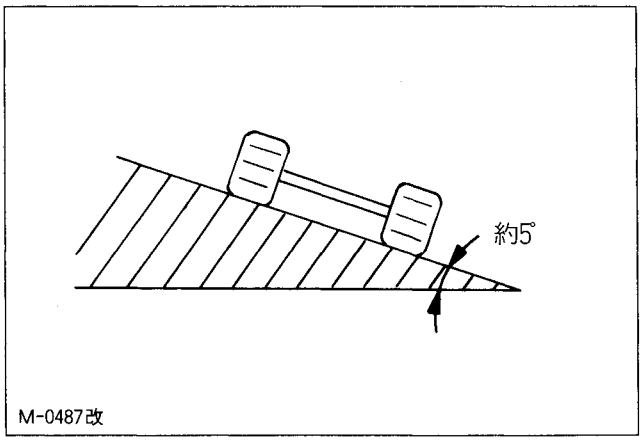
(1)ほ場のぬかる度合

足の沈み量の目安

標準仕様	10cm
M仕様	20cm
MT仕様	30cm



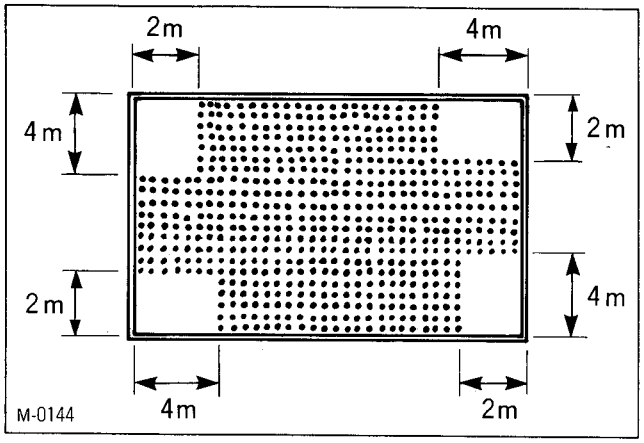
(2)機体の傾斜角度５度以上では，作業できません。



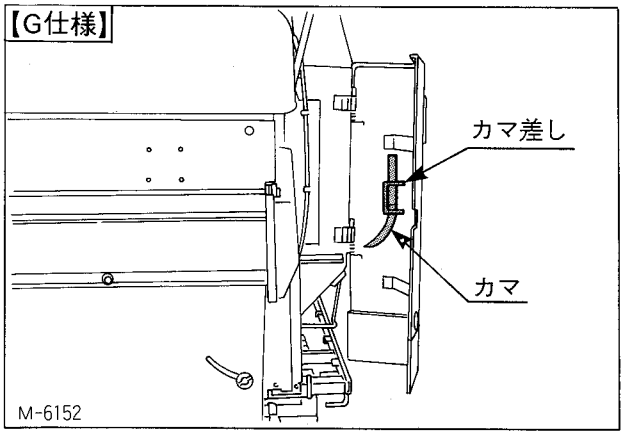
コンバイン作業前の準備

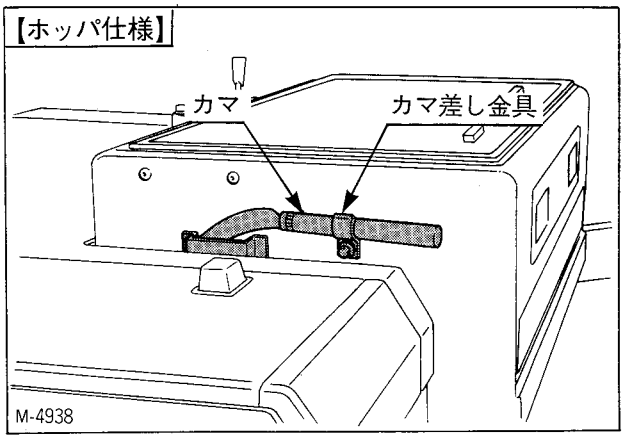
■ほ場の手刈り

能率よく作業を進めるには，コンバインをほ場に入れる前に，図のように四すみ（旋回できる範囲）を手刈りします。



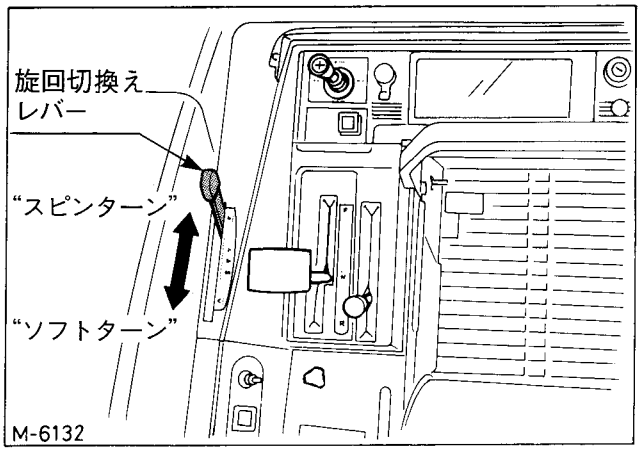
＊カマは下図の所に収納できます。





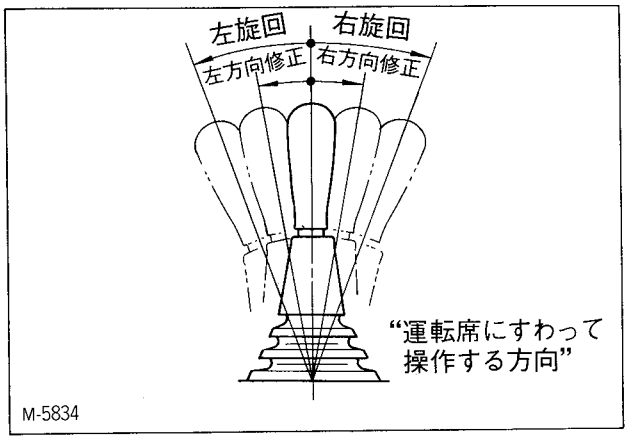
■旋回切換えレバーの選択【T仕様】

レバーを切換えることにより，**“スピンターン”**と**“ソフトターン”**の旋回方式を選択することができます。作業条件に応じて切換えてください。



【操作のポイント】

＊ソフトターンでのパワーステアリングレバー操作は，左右に一杯に倒した状態で使用してください。特に湿田では，方向修正の状態で使用しないでください。両輪での駆動でなくなるので，**“ソフトターン”**の効果が発揮できません。

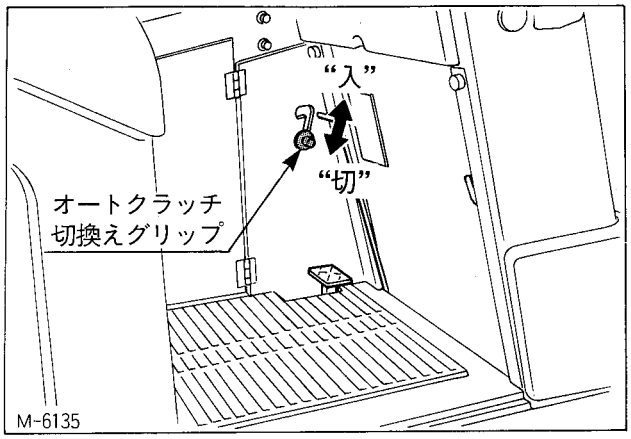


補　足

＊副変速レバーが**“高速”**のときは，**“スピンターン”**には入りません。また**“スピンターン”**のときは，副変速レバーは**“高速”**には入りません。

■刈取りオートクラッチ機構の取扱い【SD仕様】

刈取りオートクラッチ切換えグリップを**“入”**の位置にセットし，刈取部を上昇させると，刈取り・脱こくクラッチが入った状態で，自動的に刈取部およびフィードチェーンが止まります。また刈取部を下げると自動的に回り始めます。旋回時に刈取り搬送・フィードチェーンが自動的に停止しますので，搬送のみだれがなく，また排わらを踏みつけたりする心配がありません。

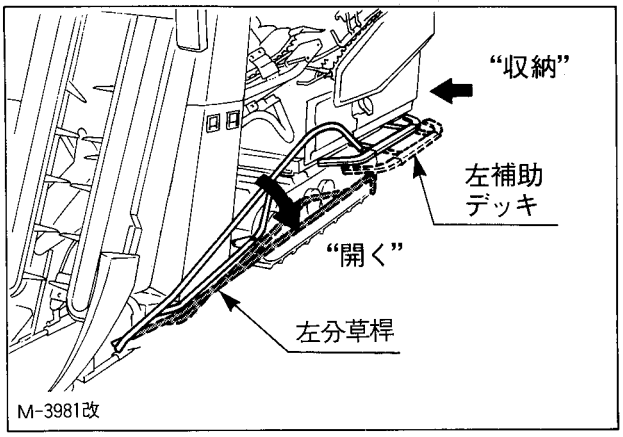


◆操作のしかた

❶刈取部を降ろす。
❷刈取りクラッチレバーを**“入”**にする。
❸オートクラッチグリップを**“入”**または**“切”**にする。

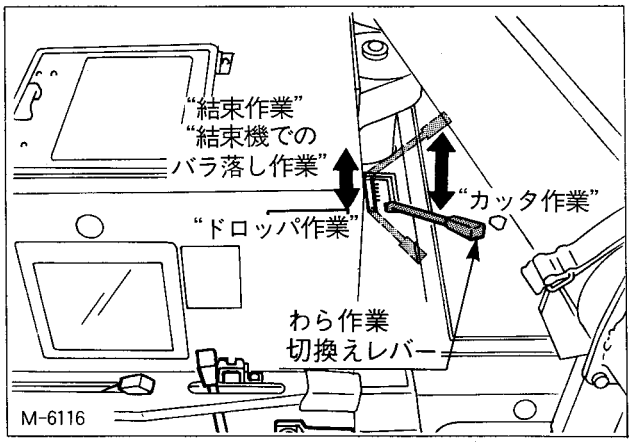
■左分草かんの取扱い

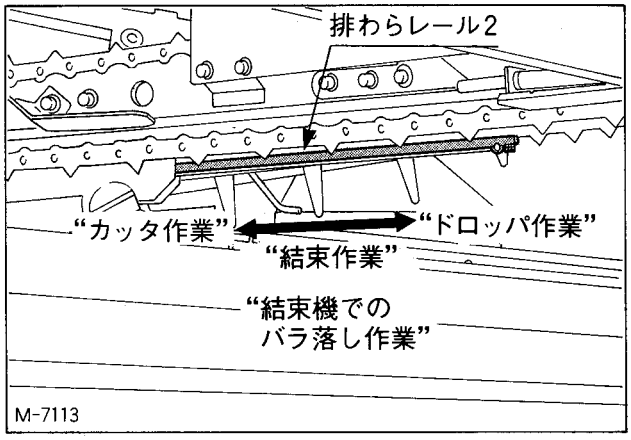
左補助デッキを収納し，左分草かんを開きます。



■排わら処理装置の選択

❶カッタ作業（排わらの切断），ドロッパ作業を切換えレバーで選択します。



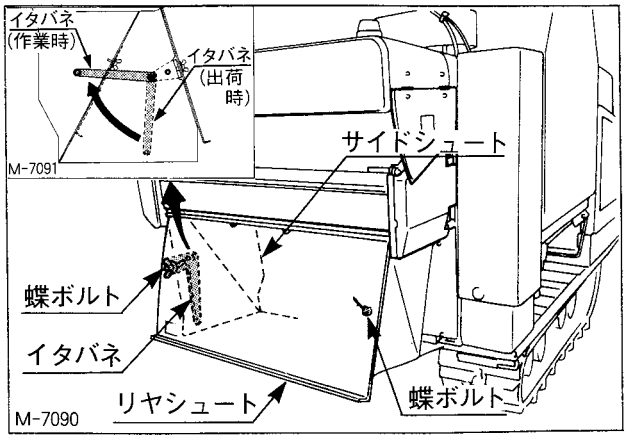


■リヤシュートの取扱い

重　要

＊カッタ・バラ落し(ドロッパ)作業いずれの場合でもリヤシュートは開いてください。

蝶ボルトをゆるめサイドシュートより外し，リヤシュートを後ろに広げます。
次に左サイドシュートのイタバネを作業時の位置に締付け，蝶ボルトで両サイドのシュートの金具を締付けます。

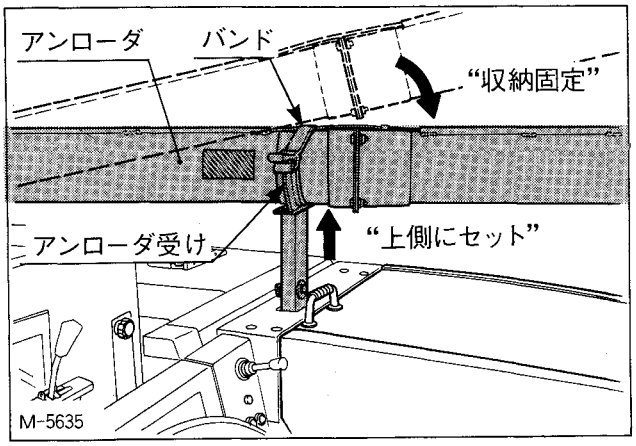


■グレンタンクの取扱い【G仕様】

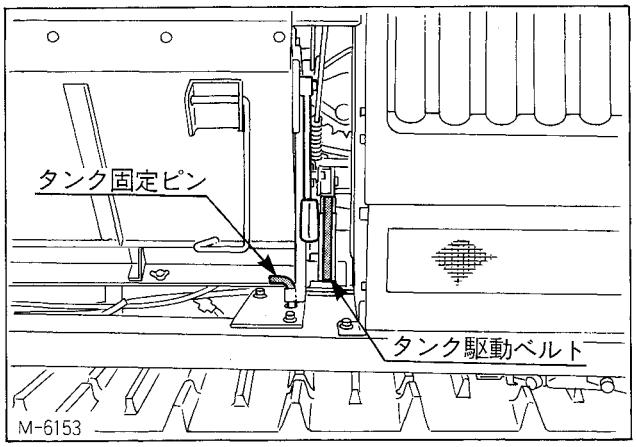
注 意

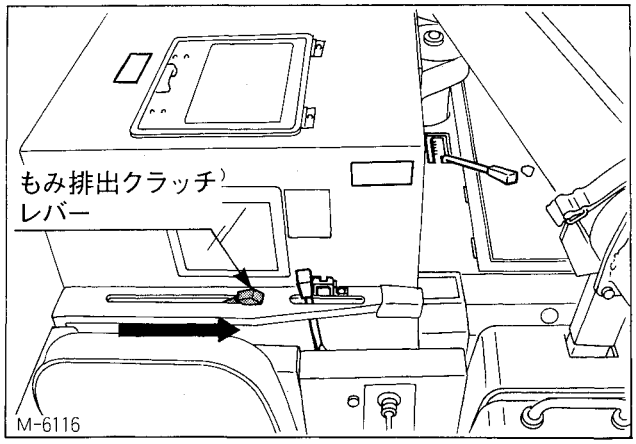
＊アンローダが中途半端な状態での作業は絶対にしないでください。

❶アンローダを固定しているバンドを外してください。アンローダを少し上昇させ，アンローダ受けを上側にセットしてください。アンローダはアンローダ受けに確実に収納してください。



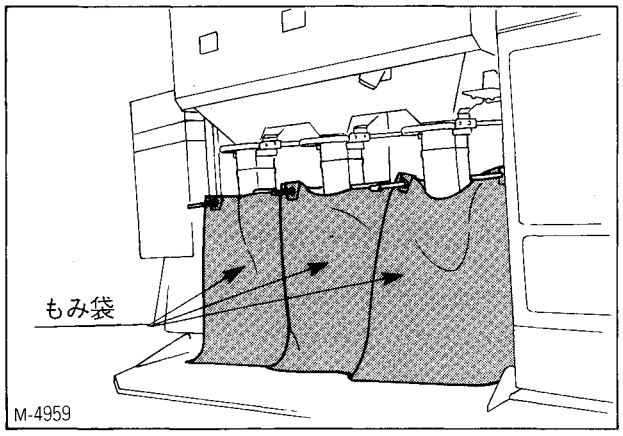
❷タンク駆動ベルトが外れていないか，タンク固定ピンを差し忘れていないか，もみ排出クラッチレバーが**“切”**の位置にあるか，確認してください。



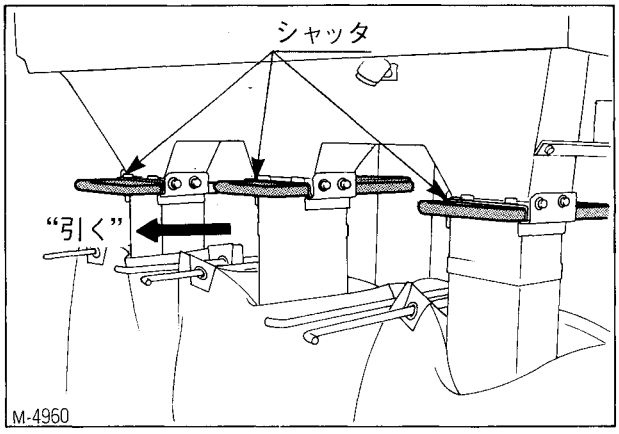


■もみ袋の取付け【ホッパ仕様】

❶もみ袋のファスナを開き，図のように，各袋掛け金具に取付けます。

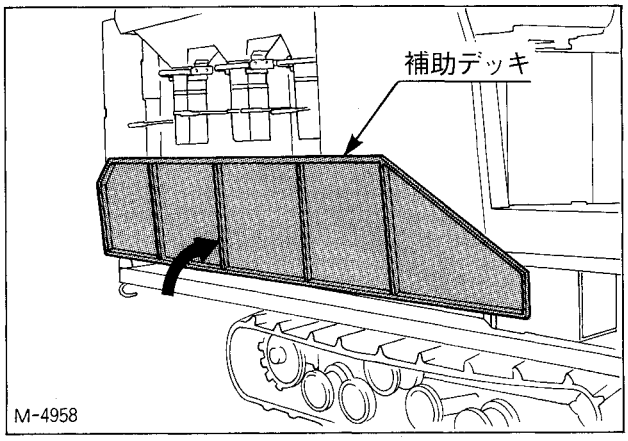


❷各吐出口のシャッタを開きます。



■補助デッキ【ホッパ仕様】

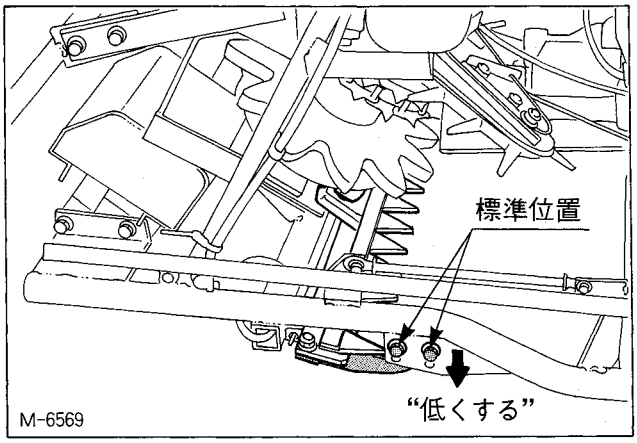
補助デッキは，中割り作業，あぜぎわ刈りのときは折りたたみます。



作物条件に応じた各部の調整

■刈刃の上下調節

刈刃の取付け位置を低くできますので，切株高さを低くしたいとき調節してください。



補　足

＊湿田・うねのある所では，刈刃に泥・土がかかりますので，標準位置にして使用してください。

■引起し爪高さの調節

重　要

＊組立てるときは，引起しカバーを最後まで押込んで，ロックハンドルを90°回してロックしてください。

脱粒しやすい品種を刈取りするときは，引起し爪の高さを，作物の穂首よりも下側になるよう調節してください。４段階に調節できます。

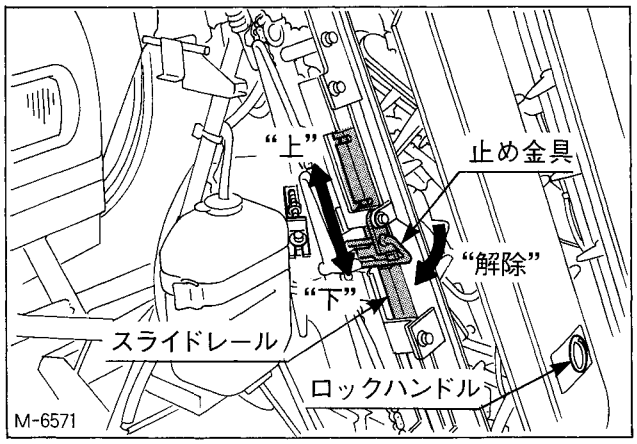
	高さの目安	引起し爪の調節
作物条件	長かん作物，倒伏作物	最上位置
	脱粒しやすい品種 わらちぎれ，雑草の多いとき	下位
	標準の作物	上から２段目

◆調節のしかた

❶引起し枠のロックハンドルを回して，引起しカバーのロックを解除してください。

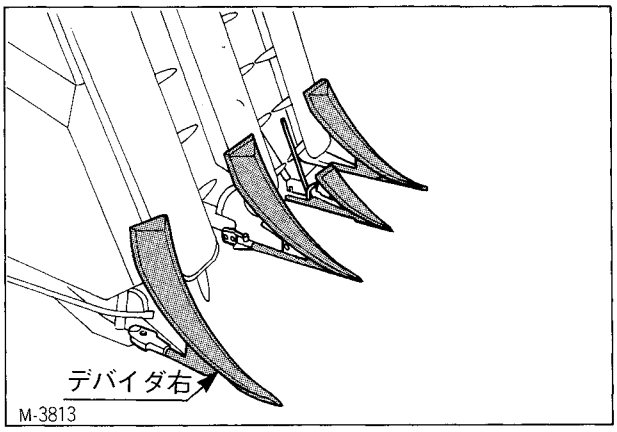
❷引起しカバーを下に引きながら外してください。

❸止め金具を解除しスライドレールを上下に移動し引起し爪の高さを調節してください。



■デバイダの調節方法

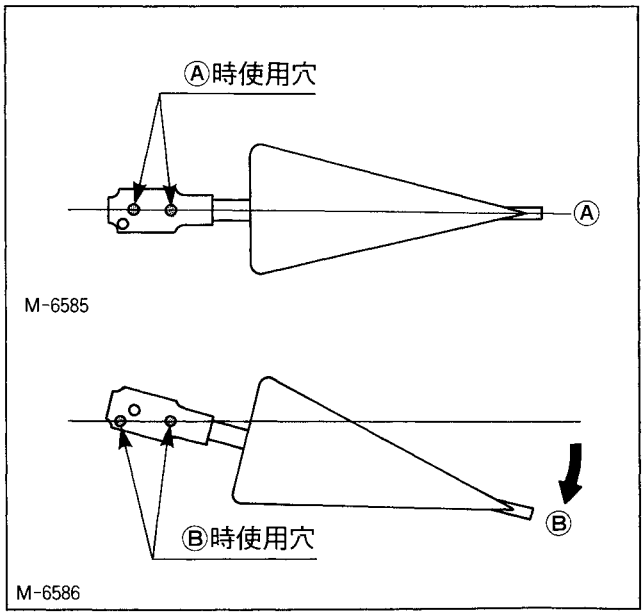
各デバイダの高さは必ず揃えてください。



◆左右調節のしかた

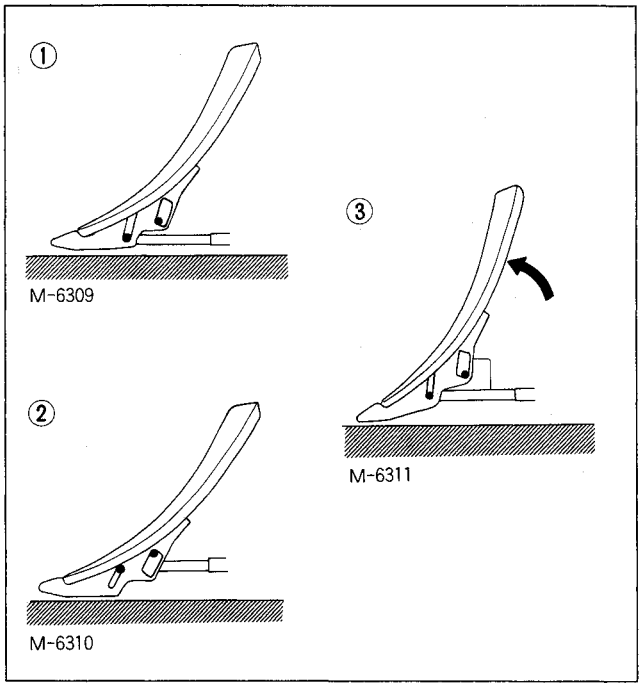
＊デバイダ右はⒶ位置が稲作業です。

＊植付け条間の広いほ場での中割作業および麦作業をするときは，Ⓑ位置にセットしてください。



◆上下調節のしかた

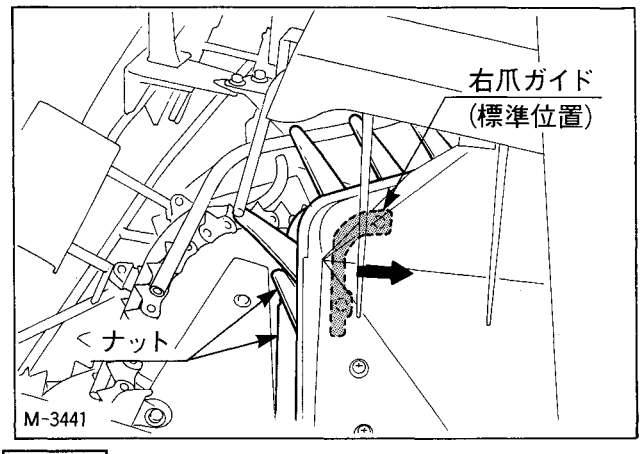
作物・ほ場条件	セット位置
標　準	①の位置
湿田で前上りになるとき	デバイダ先端を下げる ②の位置
うね作業のとき	
雑草が多く高刈りしたいとき	
横倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いときがあるとき	デバイダ先端を下げる ②又は③の位置



■右爪ガイドの調整

脱粒しやすい稲で，ロスを少なくしたいときに調整してください。

下図のように右爪ガイドの下のナット（ケース裏側，1コ）をゆるめ，➡方向に移動させてナットを締付けてください。



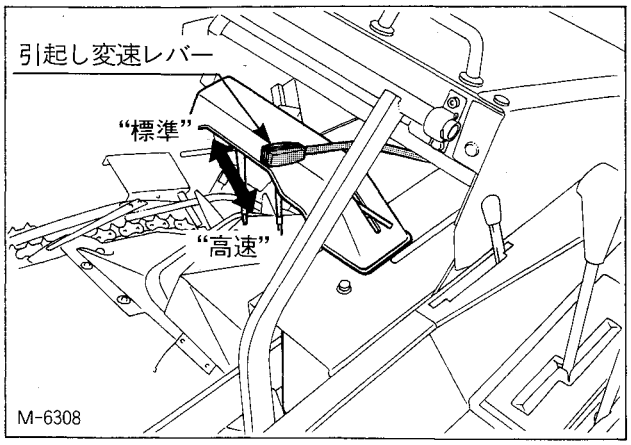
補　足

＊脱こくへの供給姿勢に乱れが多いときは，標準位置で使用してください。

■引起し変速・副変速の選定

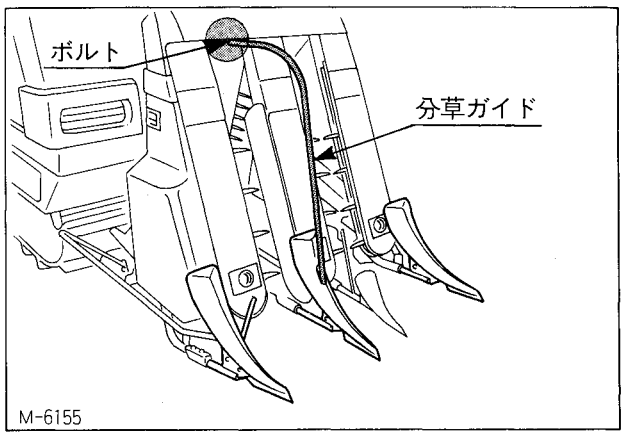
作物・使用状況によって，引起し変速レバーと副変速レバーの組合せを下表のように行ないます。

作物状態		変速レバー位置	
倒伏度合	その他の条件	副変速レバー位置	引起し変速レバー位置
直立	一般的作物	標　準	標　準
	周囲刈りなど低速走行作業	倒　伏 (又は標準)	
	脱粒しやすい作物 (麦穂切れ大も含む)	標　準	標　準
倒伏	45°以下の倒伏作物		標　準
	45°以上の倒伏作物 長かん作物	倒　伏 (又は標準)	高　速



■分草ガイドの取付けかた

長かんで倒伏した作物を刈取るときは，付属部品の分草ガイドをボルト（M８×14）で取付けてください。



コンバイン作業について

警 告

＊点検・整備時は必ずエンジンを停止してください。
＊エンジン回転中は，コンバインの回転部に手や身体を近づけないでください。
＊異常が発生したときは，必ずエンジンを停止してから点検してください。
＊外装部品(安全カバーなど)を取外しての作業は絶対にしないでください。

注 意

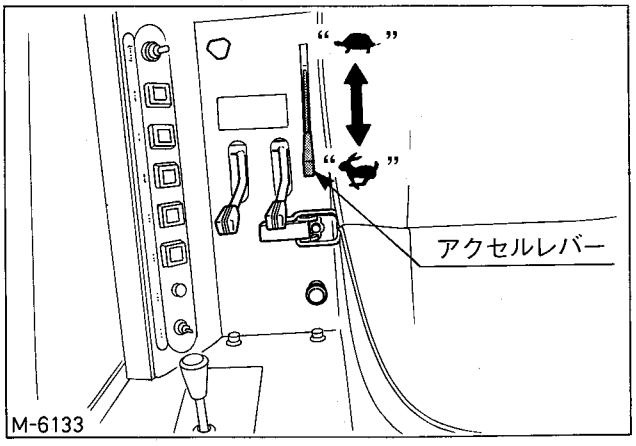
＊コンバインの周りに人を近づけないでください。
＊エンジンを始動したり，各クラッチを入れるときは，ホーン，その他の方法で補助者や周りにいる人に合図して，周りの安全を確認してください。
＊バックする場合は後方の人の安全確認，また後方に川(用水路)やがけのある場合は転落しないよう後方をよく注意してください。
＊あぜぎわがコンクリート畦畔の場合は，クローラをあぜに乗上げたり，急旋回などは絶対にしないでください。脱輪およびクローラ切損の原因となります。
＊機体が凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が急に変わるのでじゅうぶん減速してください。
＊コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。
＊エンジン・マフラ・脱こく機およびカッタ結束機のベルトカバー内，バッテリにわらくずがたまっていると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊コンバイン作業を終えて，シートをコンバインにかけるときは，火災の原因になることがありますので，マフラ・エンジンが冷えてからにしてください。
＊湿田で作業する場合特に一方刈りで何回もバックするときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらの無い場所をバックするか早めにわらを排出してください。
＊運転中および停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。またオーバヒートなどの高温時は，エンジンを停止し，30分以上経過するまでエンジンカバーを開けないでください。
熱湯が噴出し，高温部でヤケドするおそれがあります。
＊小さなほ場や，ほ場の隅では作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

重 要

＊脱こくクラッチは，エンジン回転が低速のときは絶対に入れないでください。脱こく機の詰まり，故障の原因になります。
＊カッタとドロッパ(オプション)の切換えは，脱こく部を止めてから行なってください。
＊作業中エンジン回りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど清掃してください。
防じん網全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊“スピンターン”で旋回時に，機体のショックが大きいほ場条件では，“ソフトターン”で作業してください。【T仕様】

■アクセルレバー操作のしかた

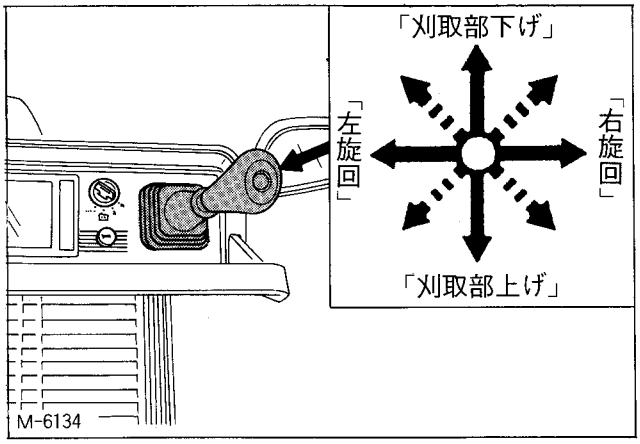
エンジンを始動し，アクセルレバーを“🐢”の位置にセットして暖気運転をしてください。
“🐢”……エンジン回転数“低速”。
“🐇”……エンジン回転数“高速”。



■パワーステアリングレバー操作のしかた

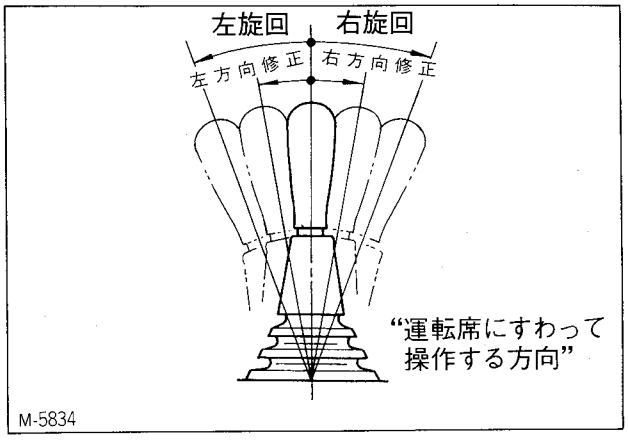
レバー１本で刈取部の上げ下げと方向修正・旋回ができます。また，各々の同時併用操作も可能です。

(1)レバーを前・後に操作すると，刈取部の上げ下げができます。



(2)レバーを左・右に操作すると，方向修正から旋回までできます。

＊ゆるやかな方向修正…左・右に軽く倒します。
＊コーナ旋回……左・右に一杯倒します。

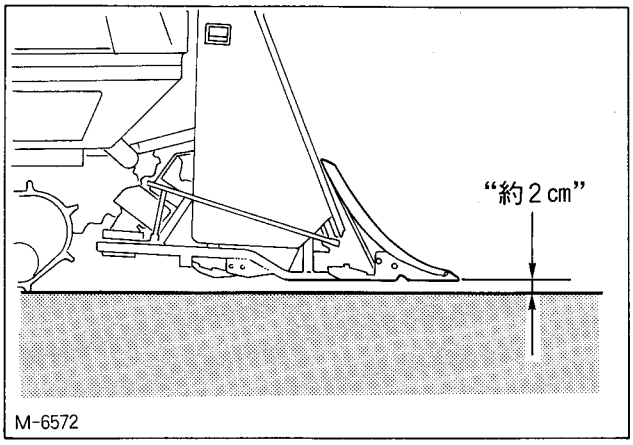


(3)レバーを斜方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行なえます。

補　足

＊刈取部は２秒足らずで最上位置まで上昇します。それ以上の時間操作し続けることは，エンジンに過負荷がかかりトラブルの原因となります。刈取部が最上になれば，**“中立”**に戻して旋回操作のみ行なってください。

(4)通常は，地面からデバイダの先端まで約２㎝になるようセットしてください。



(5)長かんや麦・雑草のある場合は高刈りしてください。

■ポジピタスイッチ操作のしかた

注　意

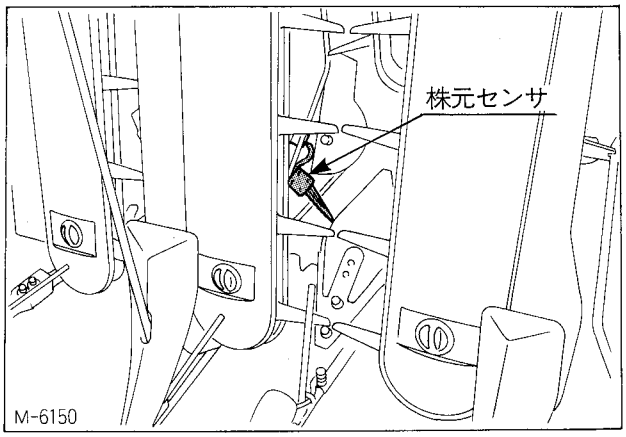
＊ワンタッチで上昇・下降しますので，周囲の安全にはじゅうぶんに注意してください。

ポジピタスイッチを使用すると，刈取り中にスイッチ１つで刈取部の上げ下げができます。

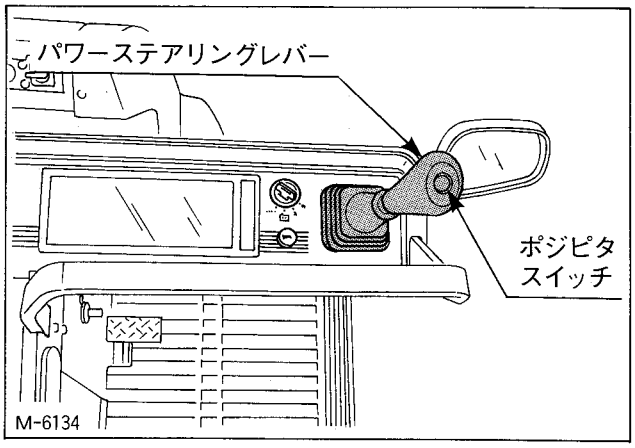
◆刈取部の昇降

(1)パワーステアリングレバーで，デバイダの先端が地面に接しないように少し持ち上げてください。
（自動刈高さ制御については**“自動刈高さ制御装置”**の項参照。）

(2)刈終り注)において，ポジピタスイッチを操作すると，刈取部が，上限まで上がります。
注）株元センサが作物に接触しているか，接触しなくなって４秒以内にポジピタスイッチを操作してください。
自動刈高さ制御が**“自動”**の場合，自動制御は停止します。



(3)刈取部が上限まで上がっているとき，再びポジピタスイッチを操作すると，刈取部が一定高さまで下がります。
自動刈高さ制御が**“自動”**の場合，自動制御が作動します。



◆使用上の注意事項

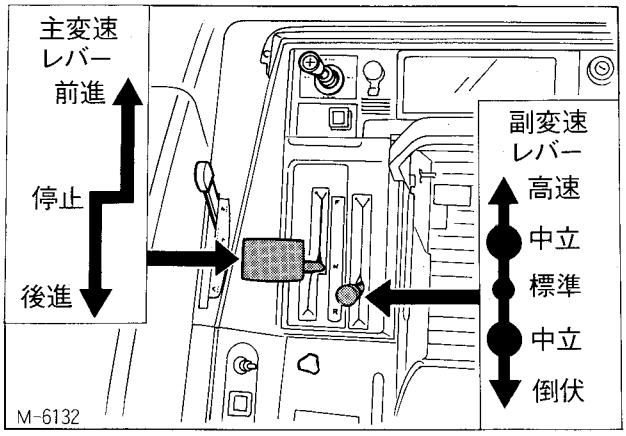
刈取り中に誤ってスイッチを押すと，思わぬ所で刈取部が上昇，又は下降します。パワーステアリングレバーの操作にはじゅうぶん留意してください。

■副変速レバー操作のしかた

重　要

＊副変速レバーの切換えは，必ず主変速レバーを**“停止”**位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

副変速レバーを**“標準”**位置にしてください。
ただし，作物が倒伏している場合は，**“倒伏”**位置にしてください。



補　足

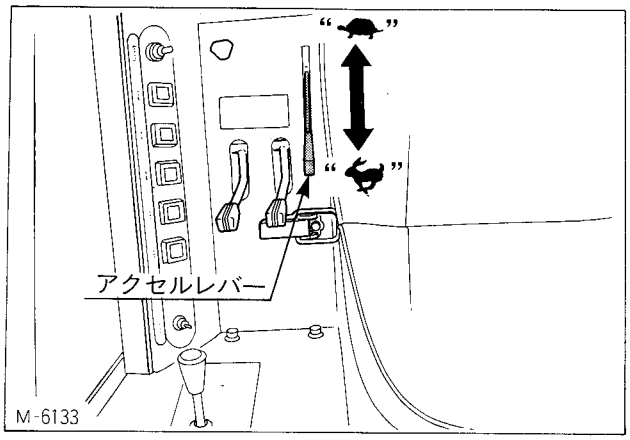
＊切換えがスムーズに入らないときは，駐車ブレーキペダルをロック位置手前まで踏込みながら，主変速レバーを少し**“前進”**側にします。
＊機械が動かないように，ペダルの踏込み量を確認してから，副変速レバーを操作すると変速しやすくなります。

■脱こくクラッチレバー操作のしかた

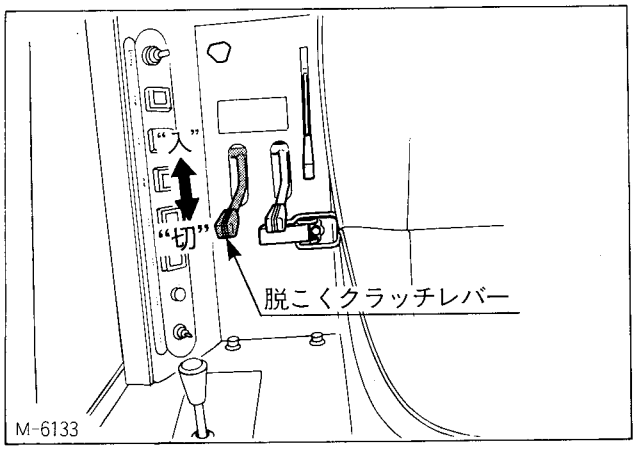
重　要

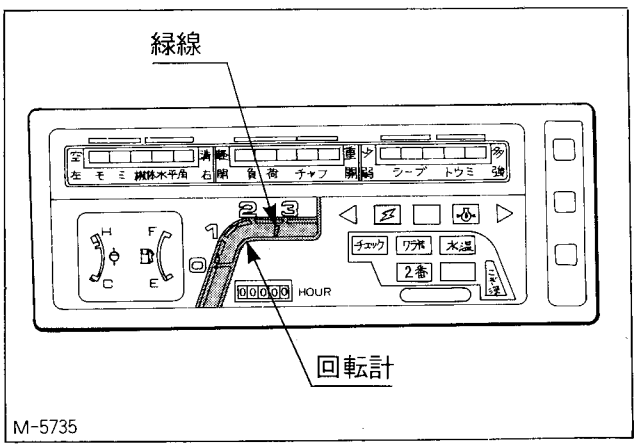
＊エンジン回転数は，脱こくクラッチを入れ，走行しない状態で合わせてください。

❶アクセルレバーでエンジン回転数を2000min^{-1}(rpm)にしてください。



❷脱こくクラッチレバーをゆっくり**“入”**にして，脱こく部を回転させてください。
❸回転数の調節は，回転計を見ながら緑線の上限まで徐々にアクセルレバーで調節してください。





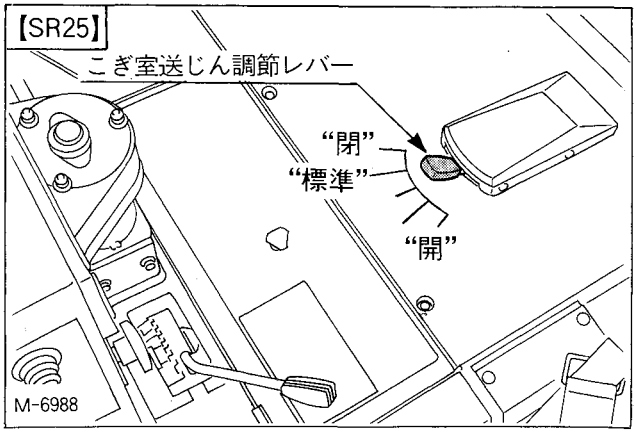
補　足

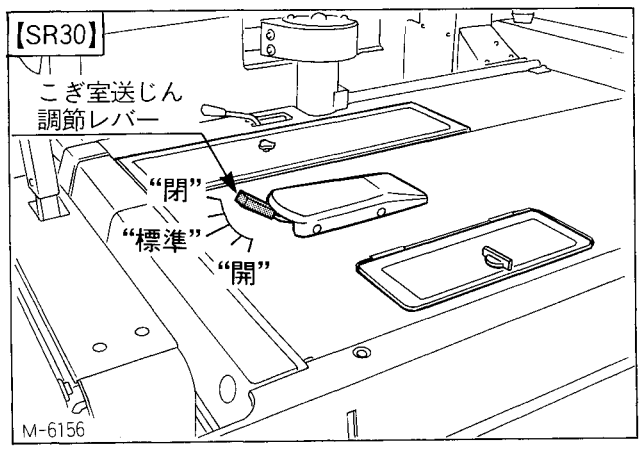
＊回転数が低すぎると警報ブザーが鳴ります。

■脱こく部の操作のしかた

◆こぎ室送じん調節のしかた

作業の状態をみて以下のように調節してください。





作　業　の　状　態	調節のしかた
倒伏した作物を刈取るとき こぎ胴負荷が大きいとき	開の方へ
通常作業	標　準
排じんロスが多いとき ササリ粒が多いとき	閉の方へ

◆トウミ・チャフ調節のしかた【D2仕様】

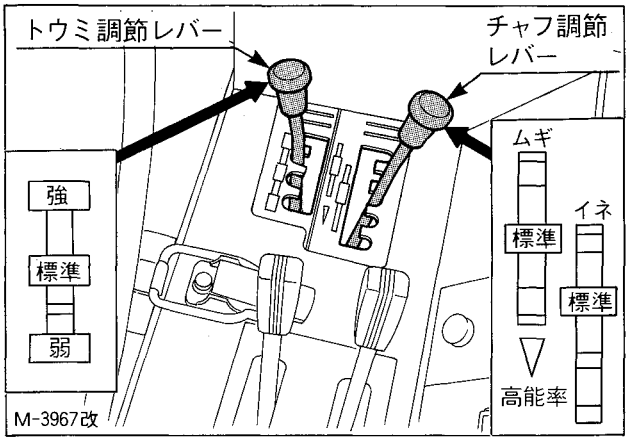
作物の状態やわらの脱こく状態に合わせて，下表を参考にして調節してください。

“トウミ調節”……標準位置にセットしています。

	調節位置	調節の目安
稲，麦作業	**“強”** 側へ	●選別を良くしたいとき。
	“弱” 側へ	●モミの飛散が多いとき。

“チャフ調節”……標準位置にセットしています。

	調節位置	調節の目安
稲作業	**“高能率”** 側へ	●高速で刈るとき。 ●高水分モミを刈るとき。 ●モミの損傷が多く出るとき。
	“高能率” の反対側へ	●枝梗，穂切れが多く発生するとき。
麦作業	**“高能率”** 側へ	●高速で刈るとき。 ●ビール麦で芽がとれるとき。
	“高能率” の反対側へ	●切れワラが多く混入するとき。

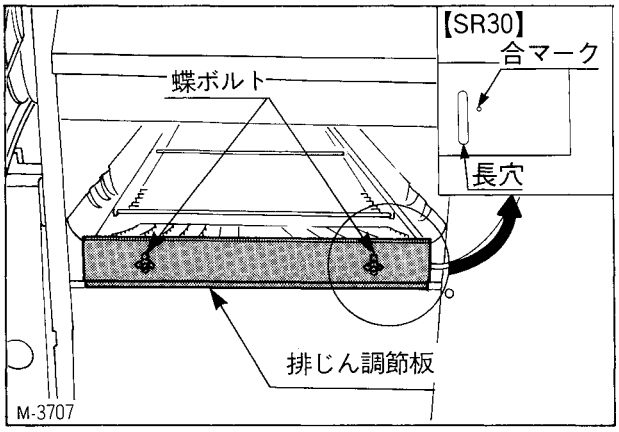


◆排じん調節板の使い方

注　意

＊エンジンを必ず停止して行なってください。

左右の蝶ボルト２本をゆるめて，下表の条件に合った位置で排じん調節板を固定してください。また，不調のときには，**“コンバインの不調と処置”**の項を参考に調節してください。



条　　件	セット位置
標準位置	【SR25】長穴の中央
	【SR30】合マークの位置
ロスを少なくしたいとき	上に上げる
濡れた作物のとき	下に下げる
雑草の多いとき	
能率を上げたいとき	

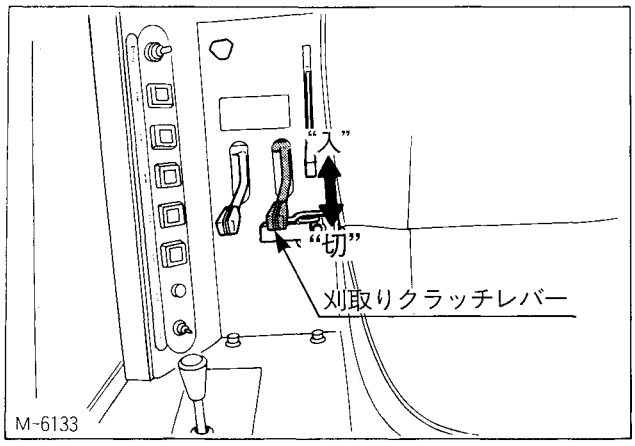
■刈取りクラッチレバー操作のしかた

重　要

＊副変速レバー**“高速”**位置での刈取作業は，トラブルの原因になりますので使用しないでください。

“入”……主変速レバーを前に動かすと，刈取部が駆動します。

“切”……刈取部が停止します。

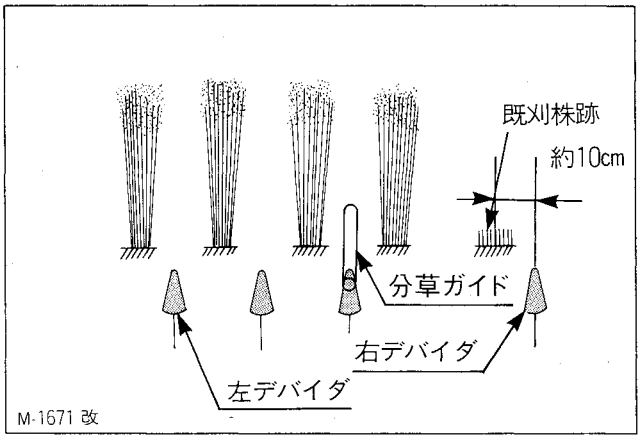


■刈取部の条合わせのしかた

右から２つ目のデバイダ又は，分草ガイドを株と株の間（中心）に入れるように条合わせを行なってください。

◆通常の回り刈りのとき

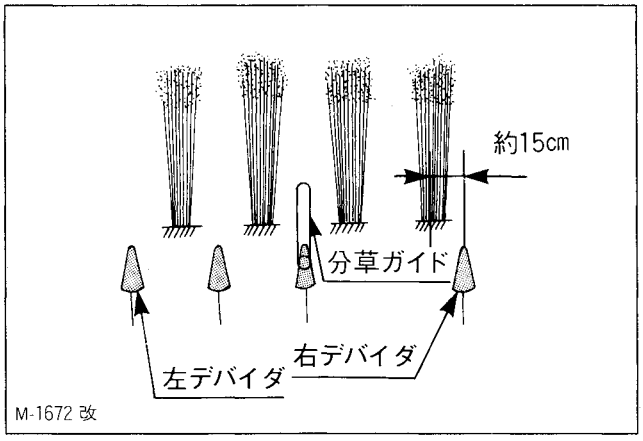
既刈側刈株跡に右デバイダを約10cm合せてください。



◆中割り作業のとき

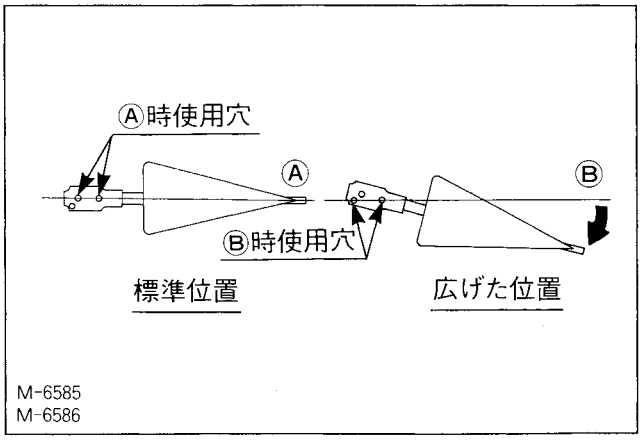
(1)右デバイダ基準で４条分刈取ってください。

(2)右デバイダを約15cmになるように合せてください。



(3)植付け条間が広いとき(33cm条間又は麦)

右デバイダを広げてください。（Ⓑ位置）

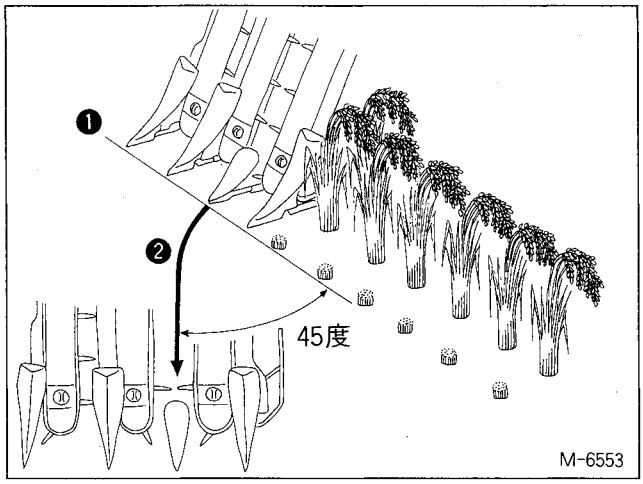


■ほ場内での旋回のしかた

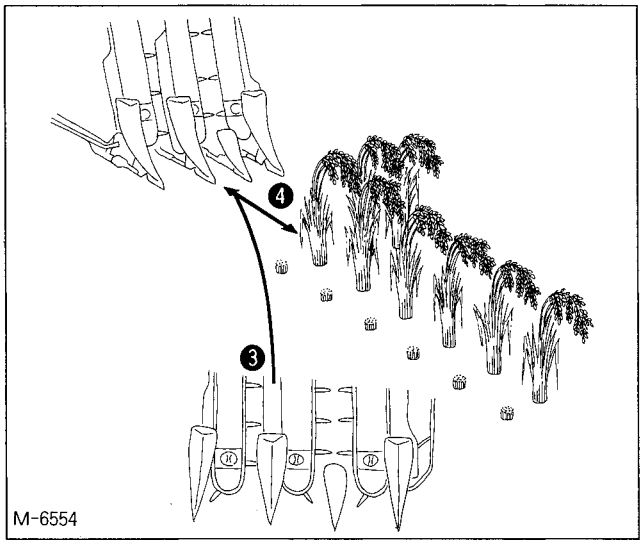
重　要

＊旋回するときは必ず刈取部を上げてください。
＊エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。

❶刈終ると，前進しながら刈取部を少し上げます。
（早く上げすぎないように注意してください）
❷パワーステアリングレバーを左に一杯倒し，45度くらい旋回した位置でストップします。



❸主変速レバーを**“後進”**側に入れ，バックしながらパワーステアリングレバーを右に一杯倒し，次に刈る方向にまっすぐに合わせます。
❹刈取部を下げ，前進します。



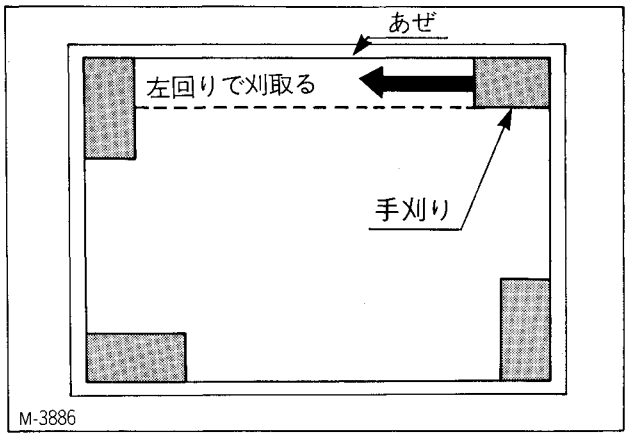
◆操作のポイント【SD仕様】

(1)刈終り時にポジピタスイッチを押すと，ワンタッチで，刈取部が上限位置まで上がります。刈始め時に，もう1度ポジピタスイッチを押すと，一定高さまで，ワンタッチで刈取部が下がります。
(2)刈取りオートクラッチを**“入”**にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部の回転が停止するため，旋回が楽に行なえます。

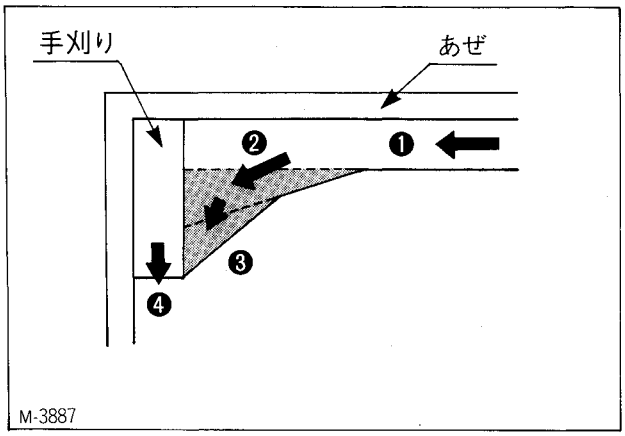
■あぜぎわ刈取り作業のしかた

◆一般的なほ場

(1)あぜぎわを左回りで刈取りします。



(2)回り刈り時のコーナ部の刈取りは下図のようにします。



重　要

＊❷，❸ の刈取りで旋回しにくいときや湿田では3～4回刈取りしてください。
＊あぜぎわ刈りのときデバイダを突込んだり，右分草かんをぶつけないように注意してください。
＊あぜが低い場合は，デバイダをあぜに突込まないように刈取部を上昇させながら，あぜぎわまで刈取りをすると手刈りを少なくできます。

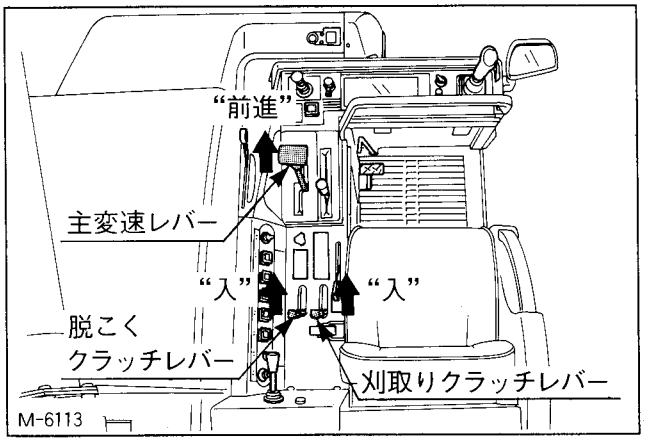
刈取り方法

■刈取り作業の手順

◆作業機部分の回転

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。
……脱こく機とカッタ部が回転する。

❷刈取りクラッチレバーを**“入”**にし，主変速レバーを**“前進”**側に倒します。
……刈取部が回転する。



◆走行速度の調整

❶作物やほ場の条件に合わせて，副変速レバーの位置，引起し変速レバーの位置を選びます。

❷主変速レバーを操作して，前進，後進の速度を調整し，最適速度で作業してください。
(自動車速制御**“ピタコン”**については**“自動車速制御装置（ピタコン）”**の項参照。)

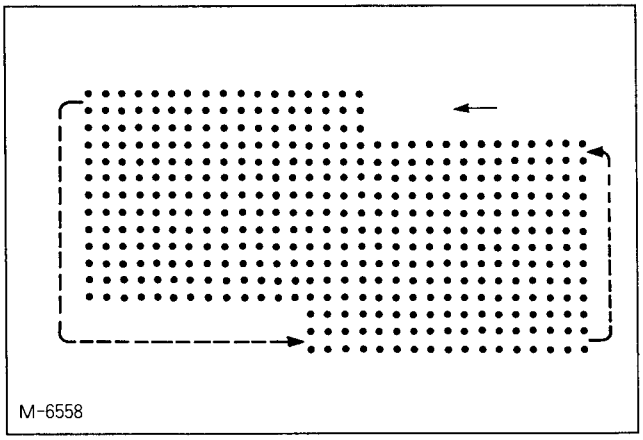
◆植付け状態に沿った方向制御

作物に合せて上手に刈取るために，パワーステアリングレバーを小刻みに操作して，植付け状態に沿って前進します。
(自動方向制御については，**“自動方向制御”**の項参照。)

■ほ場の大きさによる刈りかた

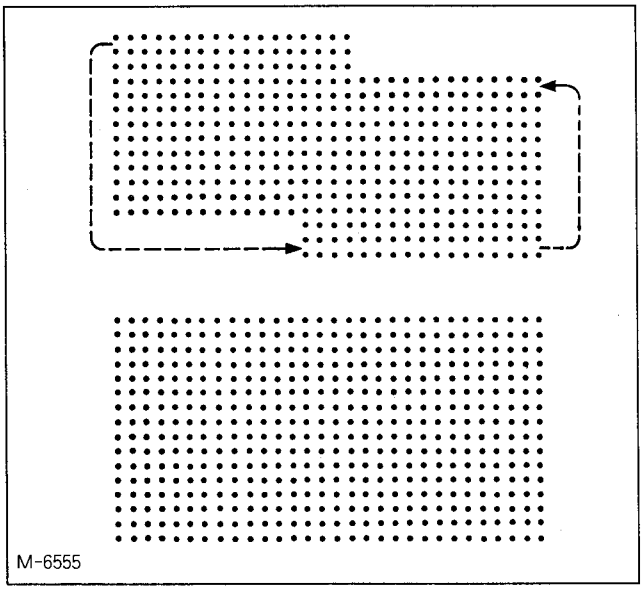
◆長方形のほ場

両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに旋回し，長い２方向のみ刈取ってください。能率が上がります。



◆広いほ場

中割り刈りで分割して，前記の長方形のほ場と同じ要領で刈取ります。



重　要

＊旋回中はエンジン回転を下げないでください。下げると**“選別を悪くしたり”** **“詰まりの原因”**になります。

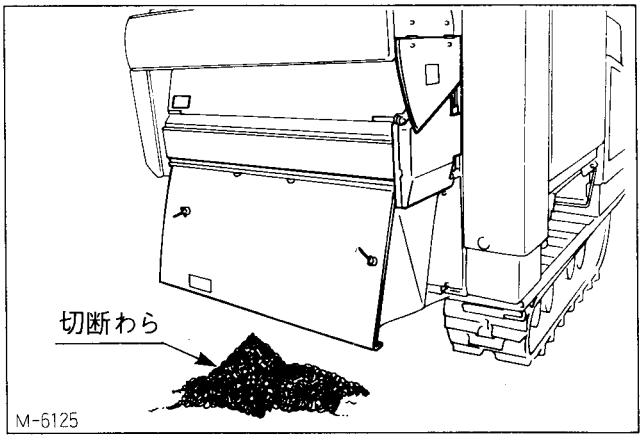
■手刈りの脱こくのしかた

警　告

＊そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
＊コンバインは平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキを掛けてください。
＊手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給を行なってください。
＊脱こく部入口のプレートの上にたまったわらやもみなどを脱こく部に押込むときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように注意して，少量ずつ押込んでください。

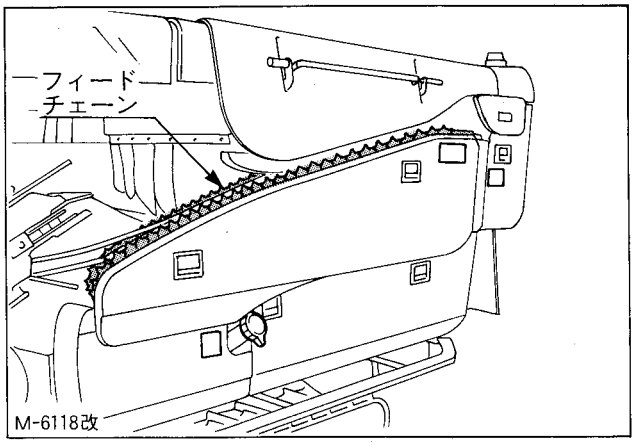
重　要

＊手こぎは一度に多量の供給をしないでください。
＊１箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を移動させてください。



＊切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めてください。

手刈りをした稲・麦は刈取り終了後に脱こくします。
❶主変速レバーを**“停止”**にします。
❷副変速レバーを**“中立”**にします。
❸刈取部をいっぱい下げます。
❹防じんカバーを開けます。**【SD仕様】**



❺エンジンを始動させて脱こくクラッチレバーを**“入”**にし，エンジン回転数をアワーメータの緑の目盛に合せます。

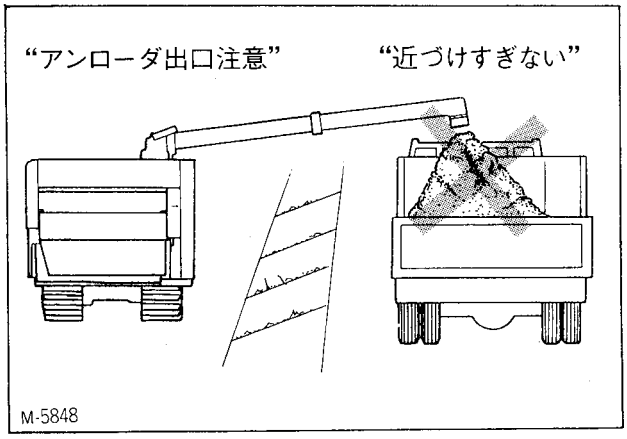
■こく粒排出作業のしかた

注　意

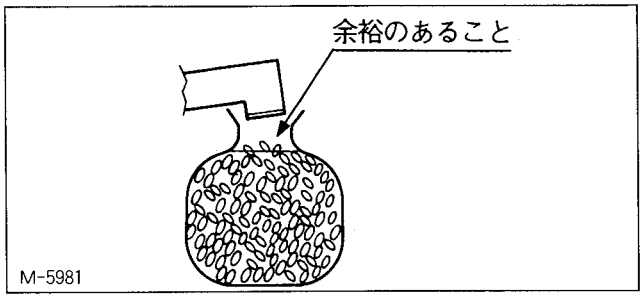
＊手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。

重　要

＊アンローダ吐出口をふさがないでください。



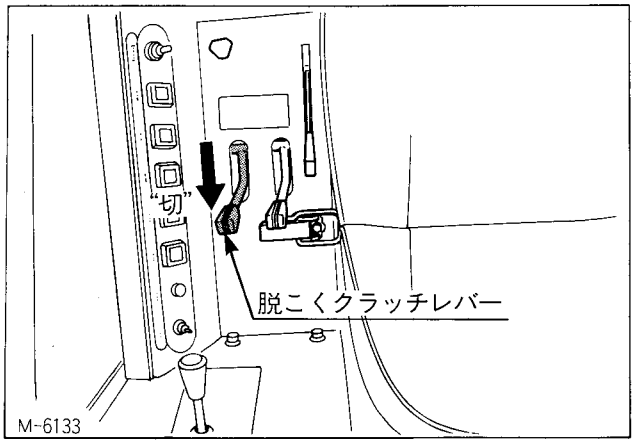
＊アンローダには，絶対物を吊るさないでください。
＊アンローダで袋詰め作業を行なうときは，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



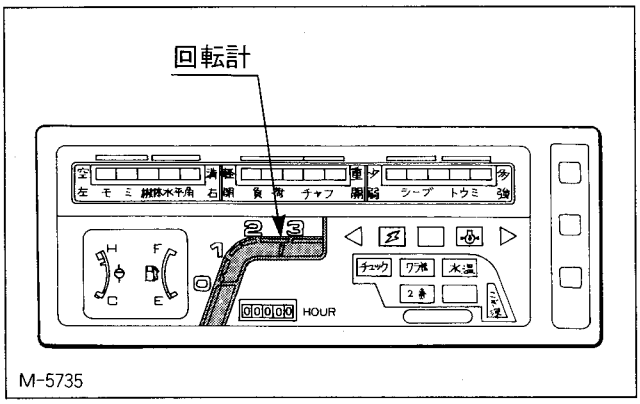
◆【G仕様】

●自動（自動・停止スイッチ）で排出する場合

❶グレンタンクがいっぱいになり，警報ブザーが断続して鳴ると，直ちに刈取り作業を中止し，20～30秒たってから，脱こくクラッチレバーを“切”にし，所定の排出場所に移動してください。



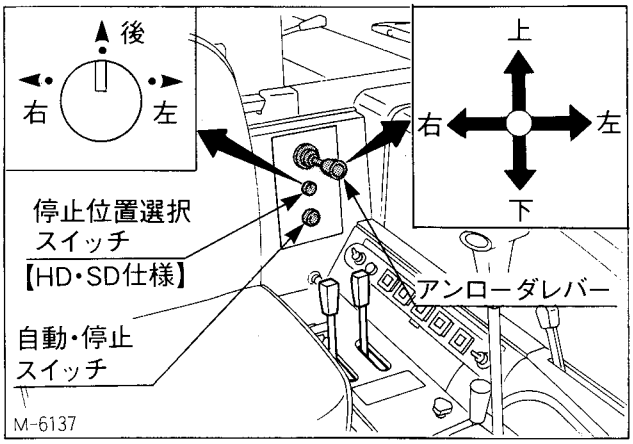
❷排出作業は刈取り作業時の回転のままでしてください。損傷のしやすい品種のときは，エンジン回転を2000min^{-1}(rpm)程度まで下げてください。



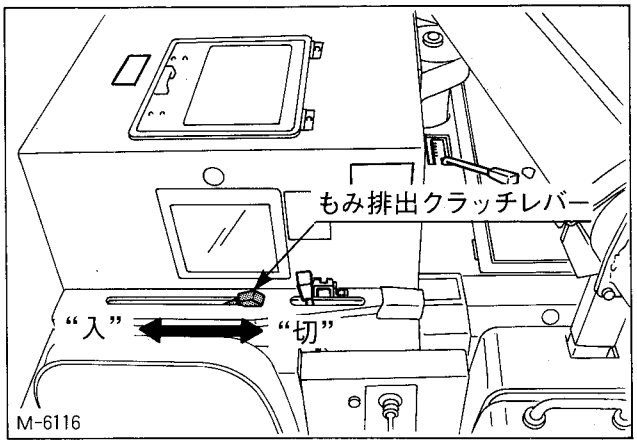
❸停止位置選択スイッチにより，排出位置を選択してください。【HD, SD仕様】

❹自動・停止スイッチを押すとアンローダは上昇し，排出設定位置まで自動的に旋回します。

❺アンローダレバーを操作して，排出位置まで動かしたあと，もみ排出クラッチレバーを“入”にし，こく粒を排出してください。



❻排出後，もみ排出クラッチレバーを“切”にし，自動・停止スイッチを押すとアンローダは上昇し，自動的に収納位置に戻ります。



●手動（アンローダレバー）で排出する場合

❶前述した“自動で排出する場合”の作業の❶と❷を行ないます。

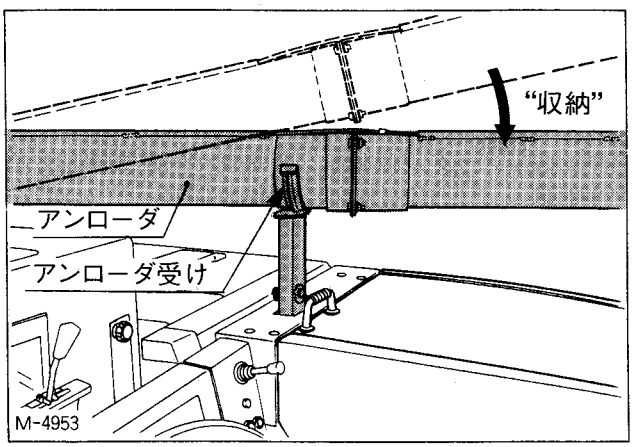
❷アンローダレバーを操作して，排出位置まで動かします。

補　足

＊アンローダは旋回する前に，必ず最上位置まで上げてください。また，運転席上方の旋回範囲では，最上位置でないと旋回しません。

❸もみ排出クラッチレバーを“入”にし，こく粒を排出してください。

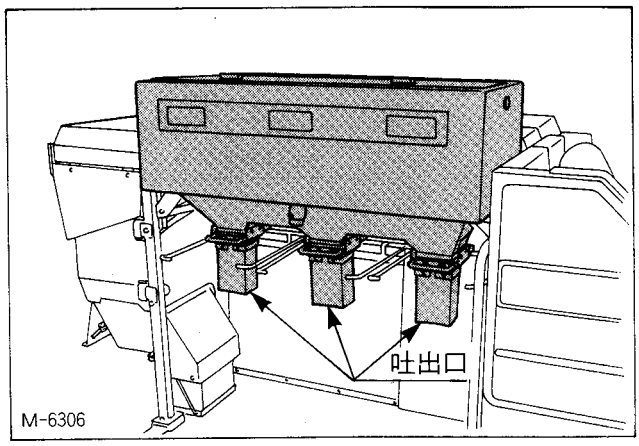
❹排出後，もみ排出クラッチレバーを“切”にし，アンローダを最上位置まで上げてから旋回させ，アンローダ受けに確実に収納してください。



◆【ホッパ仕様】

注　意

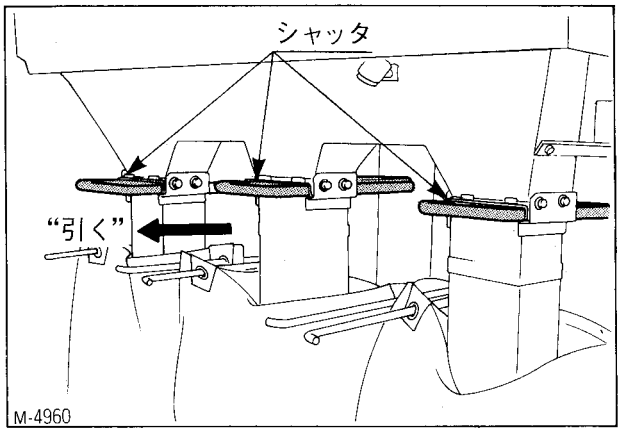
＊吐出口内に手を入れないでください。



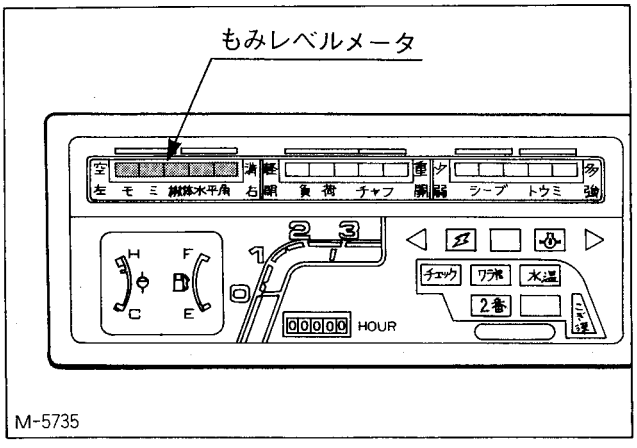
重　要

＊警報ブザーが鳴った後も刈取り作業を続けると，もみがあふれたり詰まったりして故障の原因となります。

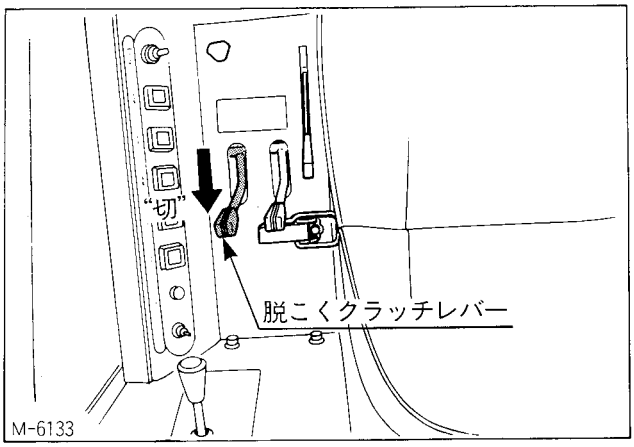
❶各シャッタを矢印の方向に**“ロック”**位置まで引き，吐出口を開いてください。



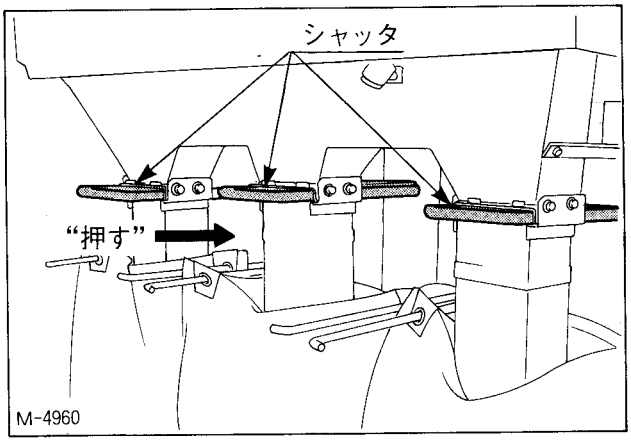
❷ホッパ下部のもみ袋とホッパがいっぱいになるともみレベルメータが点滅し，警報ブザーが断続して鳴ります。



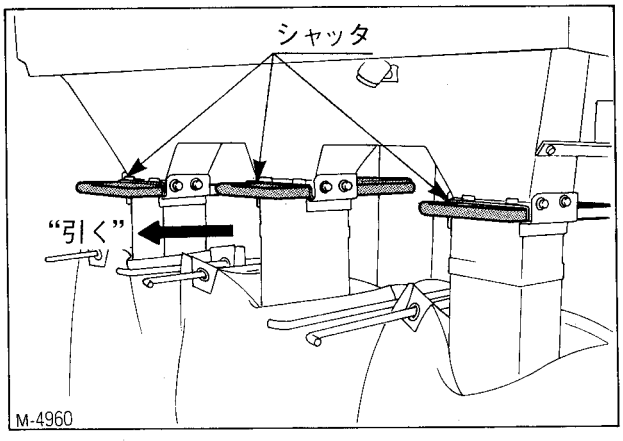
❸警報ブザーが断続して鳴ると，直ちに刈取り作業を中止し，20～30秒たってから脱こくクラッチレバーを切ってください。



❹シャッタを矢印の方向に押して閉じてからホッパ下部のもみ袋を取出してください。



❺各吐出口の下に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き，ホッパ内のもみを取出してください。



カッタの取扱いについて

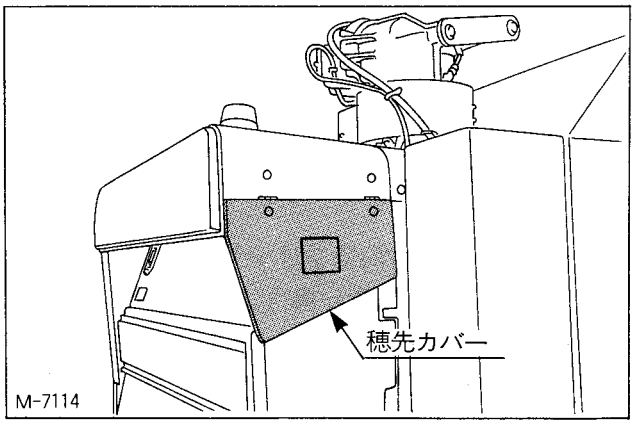
注 意

＊エンジンを必ず停止してから作業してく ださい。

■カッタ作業とドロッパ作業の切換え

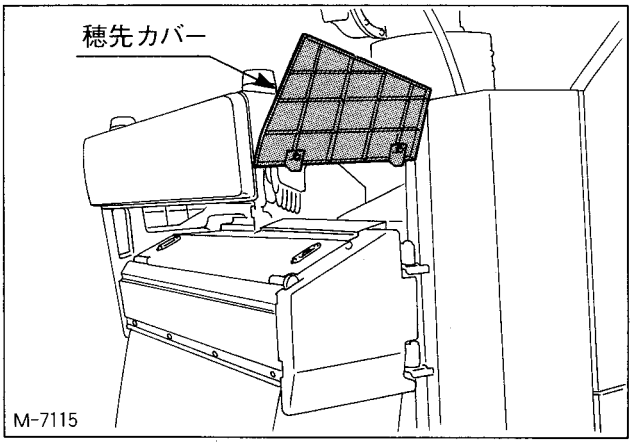
◆カッタ作業

❶切換えレバーを**“カッタ”**に切換えます。
❷穂先カバーを閉じます。



◆バラ落とし作業

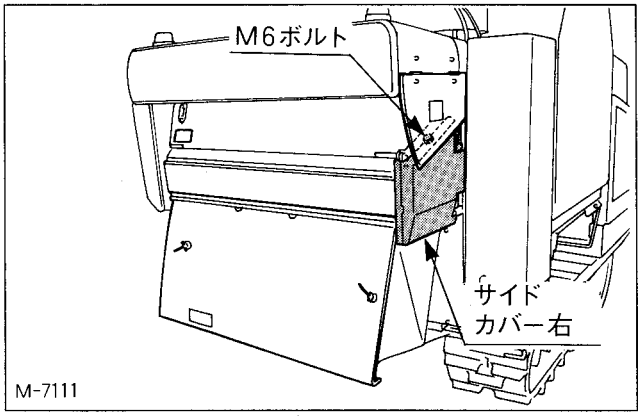
❶切換えレバーを**“ドロッパ”**に切換えます。
❷穂先カバーを開きます。



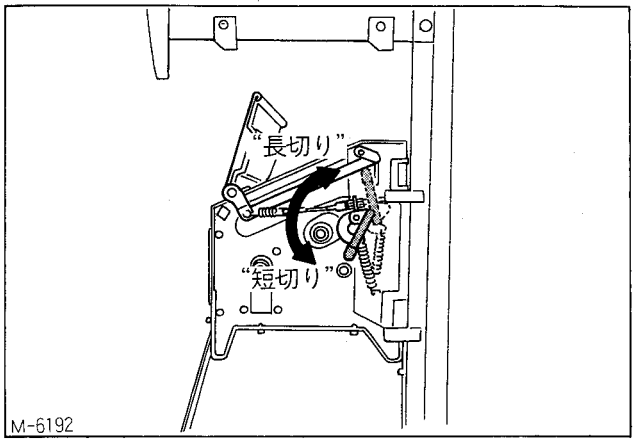
■切断長切換えのしかた

【S-30CH・SS-30CH】

❶M６ボルト１本を外し，サイドカバー右を外します。



❷サイドカバー内部の切換えレバーを回転させ，**“短切り⇔長切り”**に切断わら長さを変えてください。



コンバイン作業の注意事項

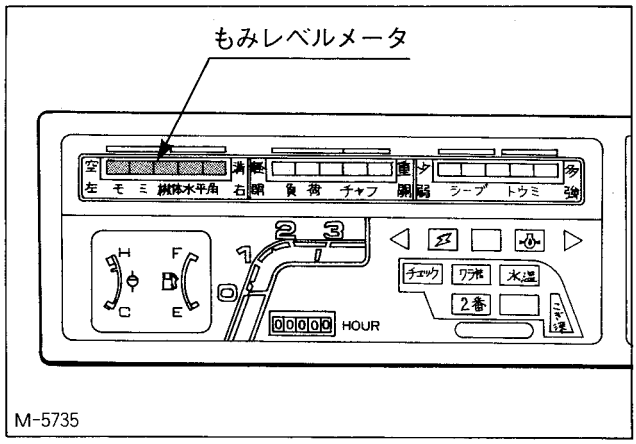
■刈取り作業中の注意事項

重 要

＊もみ警報が鳴った後も刈取りを続けると，もみがあふれたり詰まったりして，故障の原因になります。

❶雨などでほ場が湿田になったときは，ほ場を２周せずに１周でこく粒の排出をするなど，工夫してください。

❷グレンタンク，ホッパがいっぱいになるともみレベルメータが点滅し，警報ブザーが断続して鳴ります。このときは直ちに刈取り作業を中止し，こく粒を排出してください。



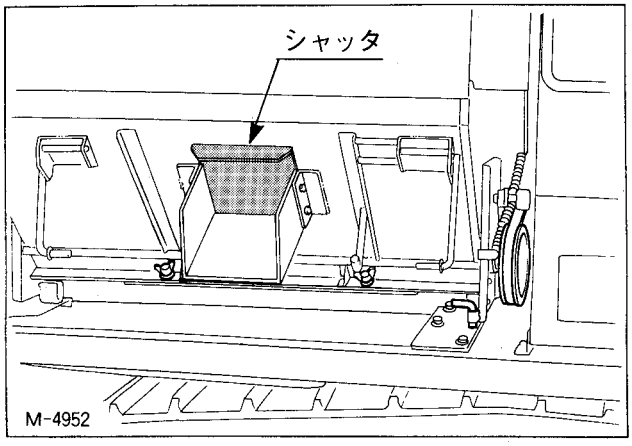
■アンローダが詰まった場合

エンジンを停止し，原因を確めてください。

(1)異物がかみ込んでいる場合は，掃除口を開いて異物を取除き，異常がないか確認の上，再度タンククラッチを入れてください。

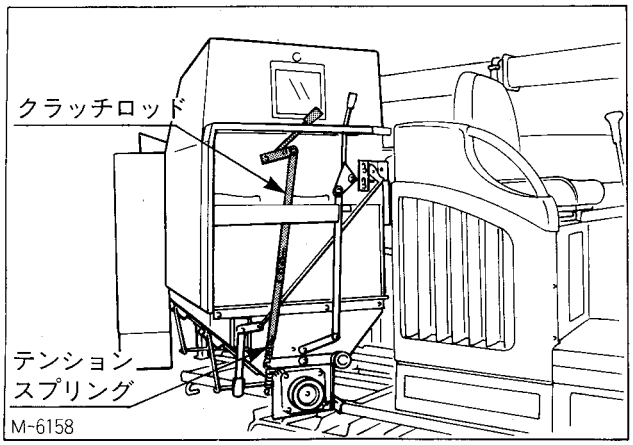
(2)ベルトの駆動不足により,タンク内にもみが一杯詰まっている場合は,次の要領で調整してください。

❶シャッタを開き，もみを取出した後，グレンタンクオープンしてください。



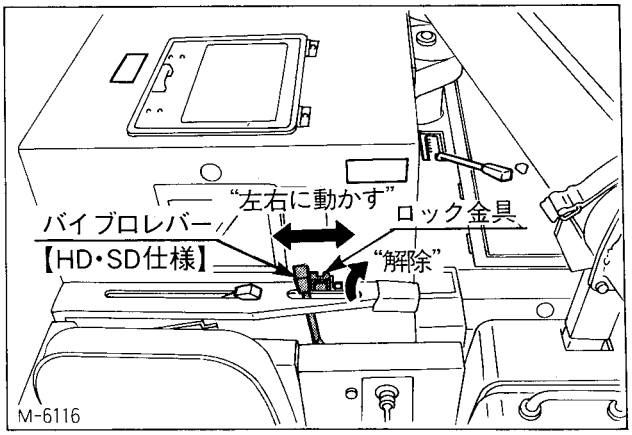
❷テンションクラッチのクラッチロッドの長さを張り気味に調整してください。

❸調整後，もみ排出クラッチレバーを**“入”**にして，こく粒を排出してください。



◆濡れもみでタンク内でブリッジして流れない場合

ブリッジを起して流れない場合は，バイブロレバーを左右に２～３回動かしてください。(重い場合は少しずつ動かしてください)



◆損傷が多い場合

エンジン回転を少し下げるか，排出量調整板を下げてください。

■こく粒排出量の調節【G仕様】

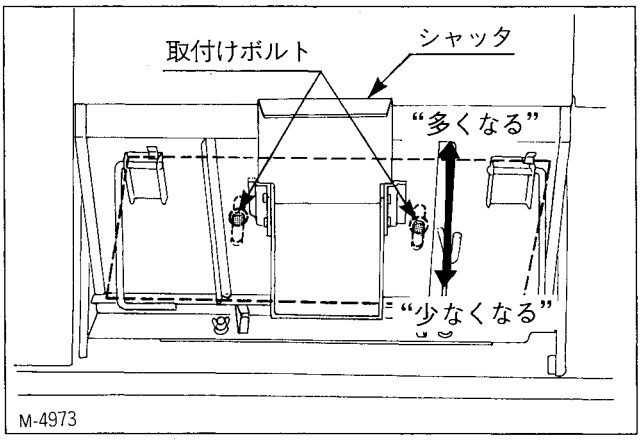
注 意

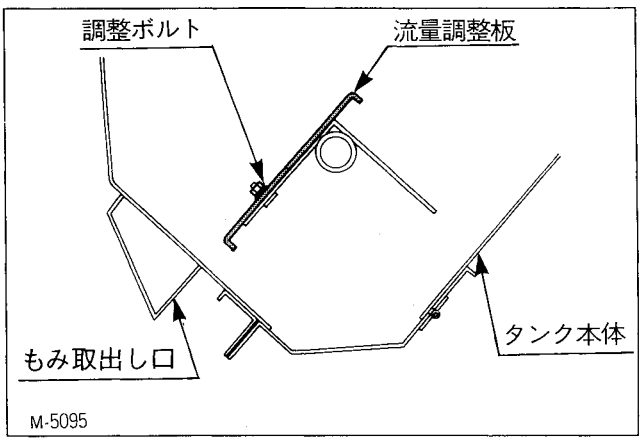
＊必ずエンジンを停止してから行なってください。

シャッタを開け，もみ取出し口より内部にある排出量調整板を取付けボルトをゆるめて上下に移動させることによって，排出量を変えることができます。

(1)こく粒の流れが悪い場合は，調整板を上げてください。

(2)損傷のしやすい品種の場合は，調整板を下げてください。

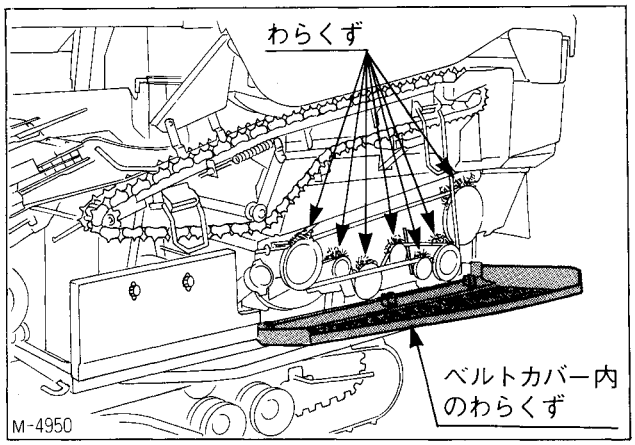


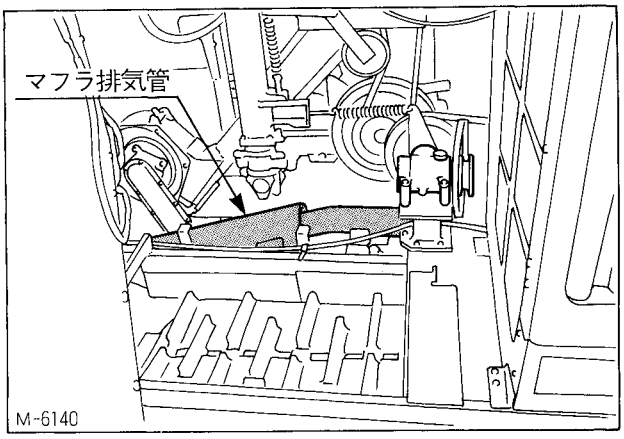


1日の作業終了後の注意事項

❶平たんな場所にコンバインを停めてください。

❷カバー類を外し，わらくずを取除いてください。





❸アンローダを受けにセットしてください。**【G仕様】**

❹水平操作レバーを**“機体下”**にし，最下降位置にしてください。**【M仕様】**

❺パワーステアリングレバーを**“下げ”**にし，刈取部を地面につくまで下降させてください。

❻駐車ブレーキを掛けてメインスイッチのキーを抜取ってください。

❼エンジンがじゅうぶん冷えてからボディカバーをかけてください。

メンテナンス

定期点検と処置

警 告

＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，必ずエンジンを停止させ，各レバー類を“切”にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。
＊バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。

注 意

＊オイル補給中は火気厳禁です。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。
＊エンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジンを停止する。
❷エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
❸点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
エンジンが冷えてないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。
＊刈取部を上げた状態で作業をするときは，刈取り下降ロック装置で刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊刈刃やカッタの点検・清掃時は刃部に注意してください。
＊機械は平たんで，回りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

重 要

＊ベルト類は亀裂又は帆布のはがれたとき必ず交換してください。
＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，販売店・JA農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

燃料・オイル量の点検・補給・交換

＊点検・補給・交換するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な燃料・オイル量の点検・補給・交換ができません。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，指定の**“クボタ純オイル”**を必ず使用してください。

補 足

定期点検は，下記の時間ごと（○，●又は△，▲印）に整備をしてください。
定期点検一覧表は一般的な目安です。異常を感じたときはそのつど，調整をしてください。
下記の項目について処置をしたら，√印をつけてください。
○，●印は点検，調整，△，▲印は交換をしてください。

■定期点検と調整一覧表

●：ならし運転後の点検と調整
○：点検と調整

項目	時間	アワーメータ表示時間																				2年	参照ページ
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	
エンジン部	エアクリーナエレメントの点検		○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	○	○		○	○		18
	ラジエータの点検			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		18
	ラジエータホースの締付け点検					○				○				○				○				○		87
	燃料系ゴムホースの締付け点検				○			○			○			○			○			○				87
	オイルドレーンゴムホースの締付け点検				○			○			○			○				○						87
	ファン駆動ベルトの点検		●		○			○		○														87
	防じんあみ,ラジエータフィン,オイルクーラフィンの清掃		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		88
	インレットパイプ類の締付け点検				○			○			○			○				○						88
走行・操作部	駐車ブレーキワイヤの調整			○		○		○		○				○		○		○		○				88
	クラッチワイヤの調整			○		○		○		○				○		○		○		○				88
	リリーフワイヤの調整			○		○		○		○				○		○		○		○				89
	切換えワイヤの調整			○		○		○		○				○		○		○		○				89
	刈取り駆動ベルトの調整	●		○		○		○		○				○		○		○		○				94
	脱こく駆動ベルトの調整	●		○		○		○		○				○		○		○		○				94
	ミッション駆動ベルトの張り調整	●		○		○		○		○				○		○		○		○				94
	クローラの張り調整		○		○		○		○		○			○		○		○		○				95
	ワイヤハーネス,バッテリ⊕コードの点検	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	91
	ヒューズの点検と交換			○		○		○		○		○		○				○		○		○	○	92
	スローブローヒューズの点検と交換			○		○		○		○		○		○				○		○		○	○	92
	ランプ(電球)の点検			○		○		○		○		○		○				○		○		○	○	92
	ホーンスイッチの点検			○		○		○		○		○		○				○		○		○	○	92
	ケーブル(コンバインメータ)の点検					○				○				○				○				○		92
刈取部	突起付ベルトの調整	●		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		94
	右穂先チェーンの調整		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		95
	右株元チェーンの調整		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		96
	左穂先チェーンの調整		○	○		○		○		○				○		○		○		○		○		96
	左株元チェーンの調整		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		96
	引起しチェーンの調整		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		97
	株元供給チェーンの調整		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		96
	深さチェーンの調整		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		98
	刈刃のすき間の調整			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		99

(又は6ヵ月ごと)

●：ならし運転後の点検と調整
○：点検と調整

項目＼時間		アワーメータ表示時間																					2年	参照ページ
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000		
脱こく部	こぎ胴駆動ベルトの張り調整	●		○		○		○		○				○		○		○		○		○		93
	揺動駆動ベルトの張り調整	●		○		○		○		○				○		○		○		○		○		93
	2番，チェーン駆動ベルトの張り調整	●		○		○		○		○				○		○		○		○		○		93
	排わら駆動ベルトの張り調整	●		○		○		○		○				○		○		○		○		○		93
	フィードチェーンの張り調整		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○			98
	排わら株元チェーンの張り調整		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		98
	排わら穂先チェーンの張り調整		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		98
タンクグレン部	スクリュ駆動ベルトの調整	●		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		93
	クドウケース駆動ベルトの調整	●		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		93
カッタ部	排わら切換えワイヤの調整		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		90
	カッタ駆動ベルトの張り調整	●			○			○			○			○			○			○				93

■定期交換一覧表

▲：ならし運転後の交換

△：交換（交換は販売店又はJA農協の整備工場で行なってください。）

項目 ＼ 時間		アワーメータ表示時間																					2年	参照ページ
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000		
エンジン部	エアクリーナエレメントの交換							△						△						△				101
	フューエルフィルタの交換									△								△						101
	エンジンオイルフィルタカートリッジの交換		▲							△				△				△				△		101
	ラジエータホースの交換																						△	87
	燃料系ゴムホースの交換																						△	87
	オイルドレーンゴムホースの交換																						△	87
	ファン駆動ベルトの交換						△					△					△					△		☆
	インレットパイプ類の交換																						△	88
走行・操作部	駐車ブレーキワイヤの交換											△										△	△	88
	クラッチワイヤの交換											△										△	△	89
	リリーフワイヤの交換											△										△	△	89
	切換えワイヤの交換											△										△	△	89
	刈取り駆動ベルトの交換							△						△						△				93
	脱こく駆動ベルトの交換							△						△						△				93
	ミッション駆動ベルトの交換							△						△						△				93
	クローラの交換											△										△		95
	HSTオイルフィルタの交換		▲					△						△						△				102
	油圧オイルフィルタの交換		▲					△						△						△				102
	足回りシールの交換											△										△	△	95
	ブレーキシューの交換																							102
	ケーブル(コンバインメータ)の交換																	△						92
刈取部	突起付ベルトの交換							△						△						△				94
	右穂先チェーンの交換							△						△						△				95
	右株元チェーンの交換							△						△						△				96
	左穂先チェーンの交換							△						△						△				96
	左株元チェーンの交換							△						△						△				96
	引起しチェーンの交換							△						△						△				97
	株元供給チェーンの交換							△						△						△				96
	深さチェーンの交換							△						△						△				98
	引起しローラの交換							△						△						△				97
	引起しスライドレールの交換																					△		97

＊参照ページが☆の整備項目については，最寄りの販売店又は整備工場で行なってください。

▲：ならし運転後の交換

△：交換（交換は販売店又はJA農協の整備工場で行なってください。）

項目 ＼ 時間		アワーメータ表示時間																					2年	参照ページ
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000		
刈取部	引起しクッションゴムの交換																					△		97
	株元センサの交換											△										△		103
	穂先センサ(1，2)の交換											△										△		103
	刈刃の交換							△						△						△				99
	刈刃クランクピンの交換							△						△						△				☆
	刈刃クランクローラの交換							△						△						△				☆
	パッカの交換											△										△		☆
脱こく部	こぎ胴駆動ベルトの交換							△						△						△				93
	揺動駆動ベルトの交換							△						△						△				93
	2番，チェーン駆動ベルトの交換							△						△						△				93
	排わら駆動ベルトの交換							△						△						△				93
	フィードチェーンの交換									△								△						98
	排わら株元チェーンの交換							△						△						△				98
	排わら穂先チェーンの交換							△						△						△				98
	排わら穂先搬送爪の交換							△						△						△				103
	わら切り刃の交換					△				△				△				△				△		103
	こぎ歯の交換							△						△						△				－
	縦スクリュの交換									△								△						－
	1番スクリュの交換											△											△	－
	ケース（2番処理）の交換									△								△						－
	ツース（2番固定歯）の交換							△						△						△				－
	ツース（2番回転歯）の交換							△						△						△				－
	スクリュケース（2番縦）の交換											△											△	－
	スクリュ軸（2番縦）の交換									△								△						－
	スクリュ軸（2番）の交換											△											△	－
	フロントハンプの交換									△								△						－
	樹脂受けあみの交換 (弓金･取付けボルト)							△						△						△				－
	打抜きあみの交換【SR30】											△											△	－
グレンタンク部	クドウケース駆動ベルトの交換							△						△						△				93
	スクリュ駆動ベルトの交換							△						△						△				93
	底スクリュ軸の交換							△						△						△				104
	縦スクリュ軸の交換							△						△						△				104
カッタ部	排わら切換えワイヤの交換											△										△		90
	カッタ刃の交換											△										△		105
	カッタ駆動ベルトの交換							△														△		93

＊参照ページが☆の整備項目については，最寄りの販売店又は整備工場で行なってください。

■点検・給油（水）一覧表

▲：ならし運転後の交換　○：点検・補給　△：交換

項目＼時間		毎作業前	アワーメータ表示時間															参照ページ
			35	50	100	200	300	350	400	500	550	600	650	700	800	900	1000	
エンジン部	燃料	○																18
	冷却水	○	作業毎に点検，２年毎に交換 冬期停止時は排出又は不凍液（50%）を入れること															18
	エンジンオイル	○		▲	△	△	△		△	△		△		△	△	△	△	18,85
走行部	トランスミッションケースのオイル			▲			△					△				△		86
	油圧オイルタンクのオイル			▲			△					△				△		86
	刈取一方クラッチのグリース	分解時に給油																84
	バッテリ液	作業シーズンの前・後に点検，補給																80
	水平制御アーム支点軸受け部のグリース【M仕様】	長期格納時に補給																83
刈取部	集中注油タンクのオイル	空になる前に給油																20
	各ギヤーケースのグリース	分解時補給																82
	各チェーン及び刈刃部	○																20~22
脱こく部	こぎ胴ケースのオイル				○		○			○				○		○		84
	フィードチェーン駆動ケースのオイル				○		○			○				○		○		84
	縦スクリュベベルケースのグリース	分解時に補給																82
	排わらベベルケースのグリース																	
	２番ベベルケースのグリース																	
	２番チェーンケースのグリース																	
	フィードチェーン	○																21
	排わらチェーンテンション支持部	○																21
グレンタンク部【G仕様】	アンローダケースツナギのグリース	長期格納前に補給																83
	アンローダケース３のグリース																	83
	アンローダケース１のグリース	分解時に補給																84
	アンローダケース３のグリース																	84
	アンローダケース４のグリース																	84
	グレンタンク駆動ケースのグリース																	—

各部の開閉のしかた

“刈取部の脱着”“エンジンルームオープン”“こぎ胴オープン”“グレンタンクオープン”“カッタオープン”が容易にできますので，**機械内部の点検整備**がやりやすくなりました。

警　告

＊各部の開閉を行なうときは，必ずエンジンを停止してから行なってください。

注　意

＊オーバヒートなどでエンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。

❶作業を中止する。

❷エンジンを約５分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。

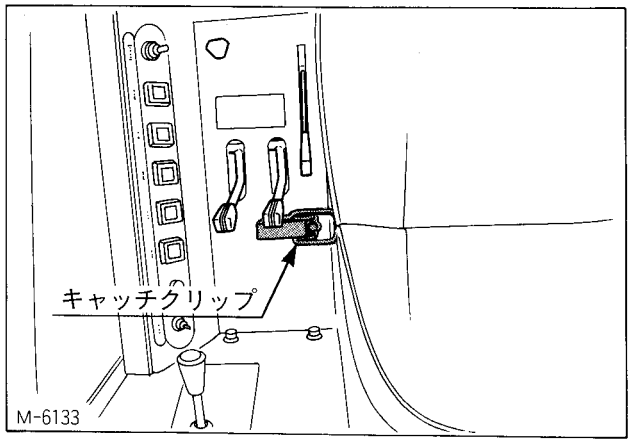
❸エンジン停止後30分以上経過してから開ける。

❹点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。

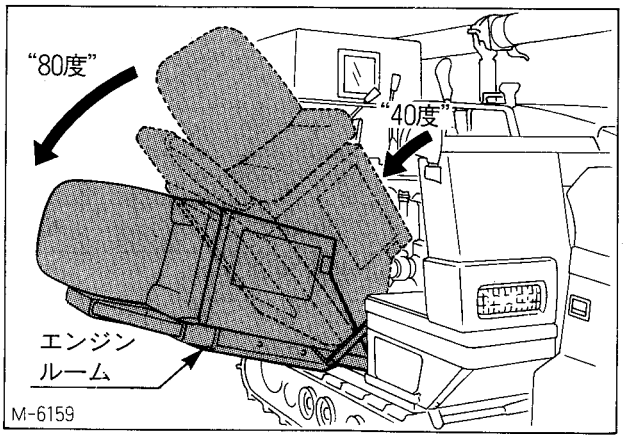
＊エンジンが冷えてないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

■エンジンルームオープン

❶シートフレーム部のキャッチクリップを外します。



❷ロックレバーを上にあげ，エンジンルームを外側に倒して，エンジンルームを開放します。
エンジンルームは安全のため，40度開放で一度止まります。さらに80度までオープンするためには，ロックレバーを再度，上に上げると開きます。



■こぎ胴オープン

警　告

＊中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めること。

注　意

＊こぎ胴をオープンして，受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは，こぎ胴が落下して身体がはさまれることがあるので，オープンストッパで必ず固定してください。

重　要

＊ロックハンドルが“閉”の位置にセットされていない状態で刈取り作業をすると，こぎ室フレームが変形することがあります。必ず閉の位置にあることを確認してください。

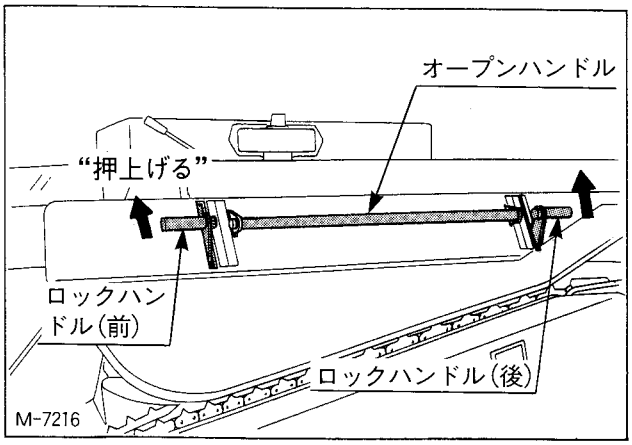
(1)レールにわらが詰まったときや，こぎ室内にわらくずが詰まったときの清掃に，こぎ胴をオープンすると便利です。

(2)こぎ胴受あみを脱着するときにも，こぎ胴をオープンして行ないます。

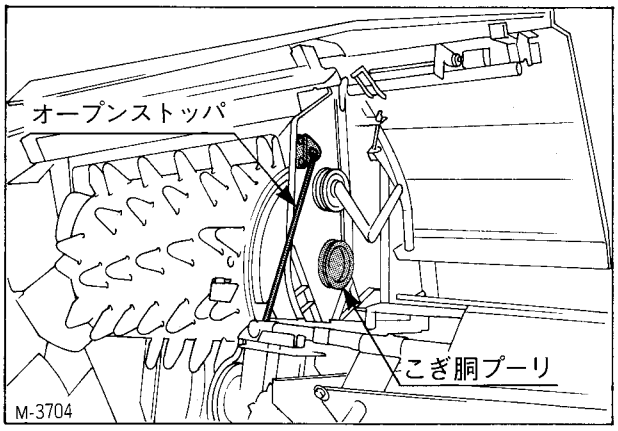
◆こぎ胴オープンのしかた

❶ロックハンドル前と後を上に押上げて，ロックを解除します。

❷オープンハンドルを持って，こぎ胴を上に押上げます。



❸排わら駆動ベルトをこぎ胴プーリから外し，オープンストッパをセットします。



◆こぎ胴セットのしかた

重　要

＊前後のロックハンドルが**“閉”**の位置にセットされていない状態で刈取り作業をすると，こぎ室フレームが変形することがあります。
必ず**“閉”**の位置に位置していることを，確認してください。

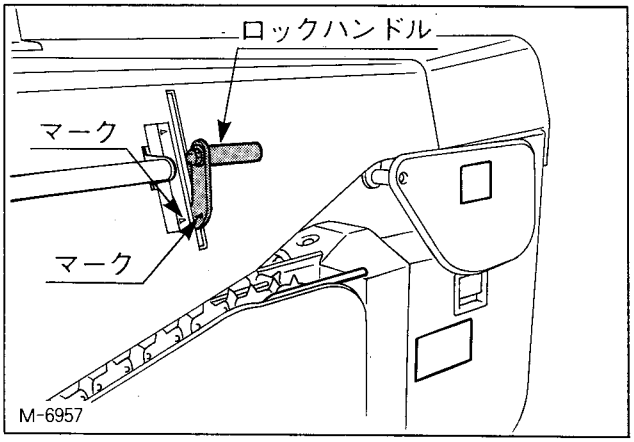
❶オープンストッパを外し，確実に収納してください。

❷排わら駆動ベルトをプーリにかけてください。

❸オープンハンドルを両手で持って，こぎ胴を下へ押下げてください。

❹ロックハンドルの“◁”印が**“閉”**の“▷”印に合っていることを確認してください。

❺ロックハンドルの“◁”印が**“閉”**の“▷”印に合っていなければ，必ず**“閉”**の“▷”印に合わせてください。



■こぎ胴受あみの脱着

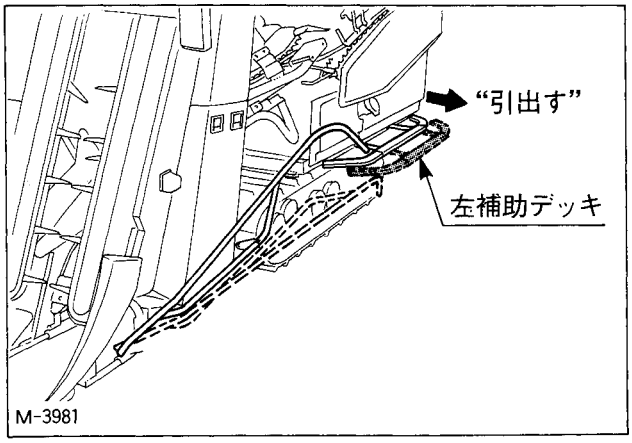
重 要

＊組付け方を間違うと故障の原因になりますので，必ず下記の要領に従って組込んでください。

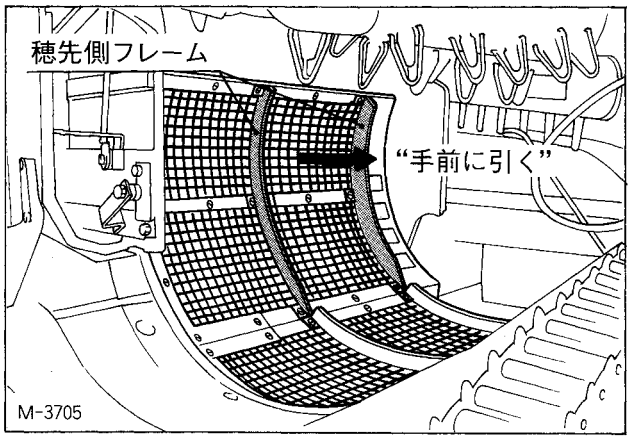
◆外し方

❶こぎ胴をオープンしてください。

❷左補助デッキを出して，デッキ中央部に乗ります。

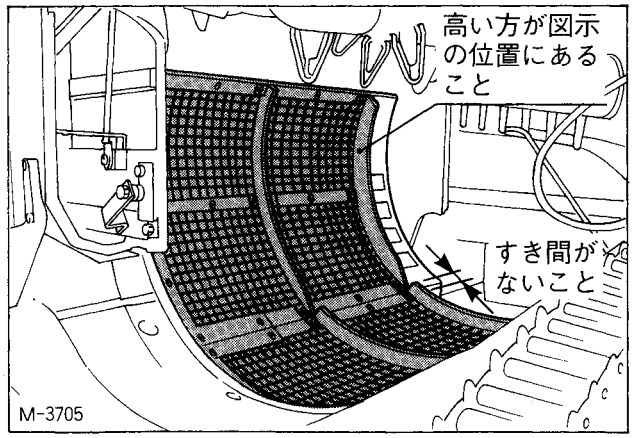


❸受あみの穂先側のフレームを持って，手前に引くと外れます。



◆セットのしかた

受あみは２枚に分れています。入れる方向を間違えると故障の原因になります。図のようにセットしてください。



■グレンタンクオープン

注 意

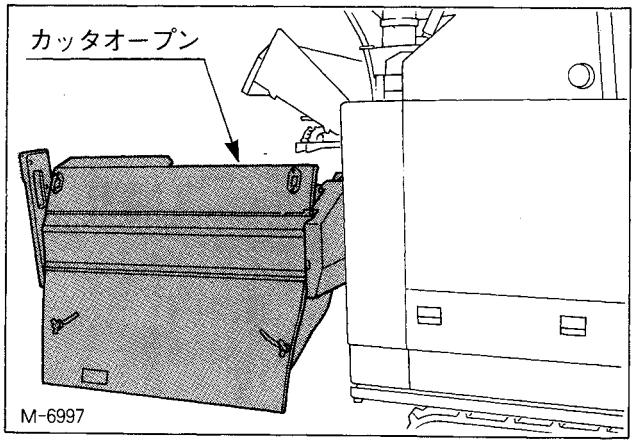
＊グレンタンクの開放は必ずタンク内のもみも空にして行なってください。

＊主変速レバーを“停止”，刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバー・もみ排出クラッチレバーを“切”にしてください。

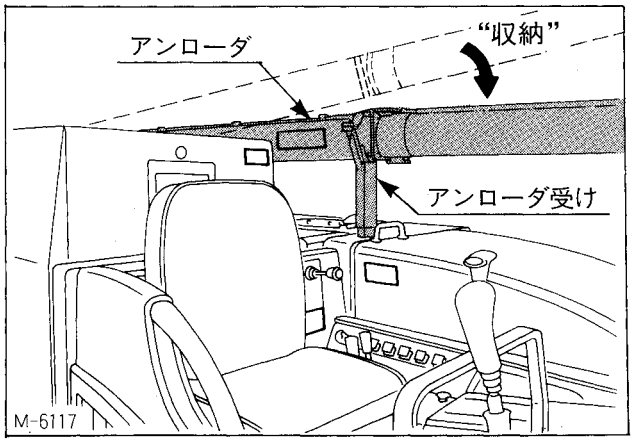
＊コンバインが傾いている傾斜地などでは，グレンタンクオープンをしないでください。

重 要

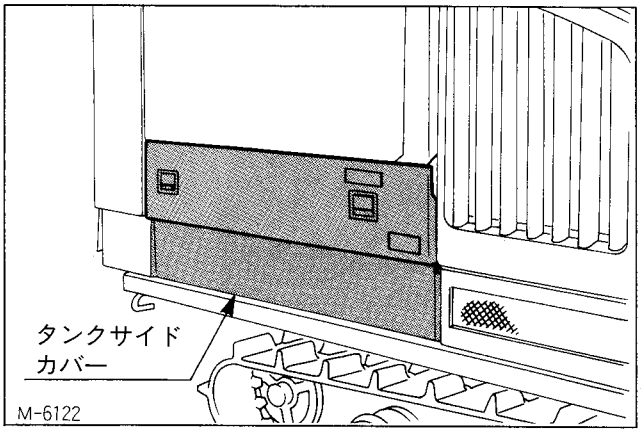
＊カッタがオープンされているときは，グレンタンクをオープンしないでください。

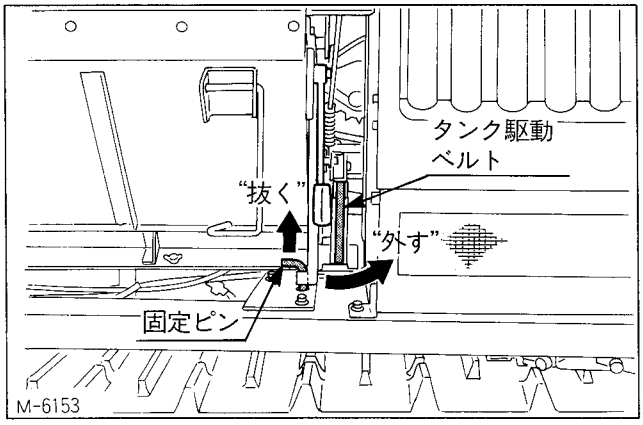


❶アンローダをアンローダ受けに収納します。



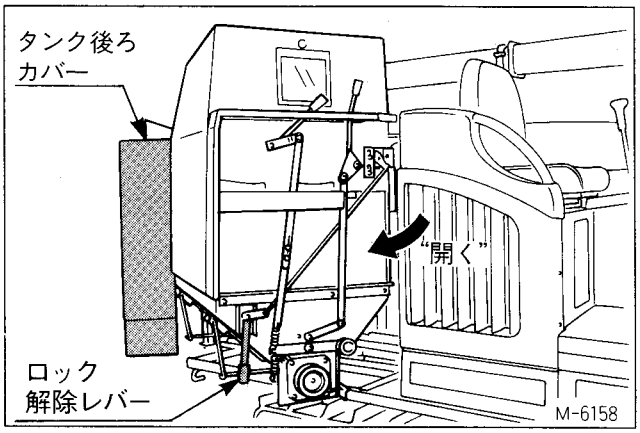
❷タンクサイドカバーを外し，タンク駆動ベルト及びタンク固定ピンを抜きます。



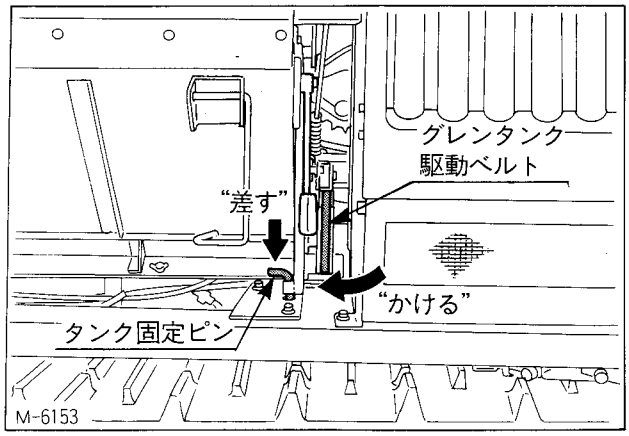


❸タンク後ろカバーを開けます。

❹ロック解除レバーを引いてグレンタンクを開けます。



❺グレンタンクを閉じるときは，前述の逆の順番で確実にグレンタンクを固定し(タンク固定ピン)，ベルトをかけ忘れないようにしてください。



■カッタオープン

◆カッタを開く場合

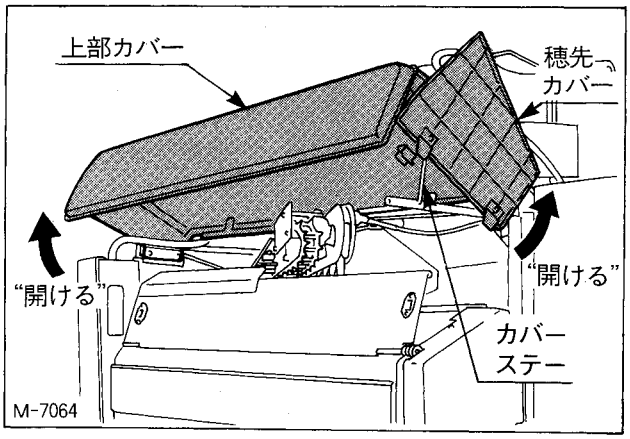
警 告

＊カッタ部を開く場合は，エンジンを必ず止めてください。
＊カッタの開放時は，刃物にじゅうぶん注意してください。

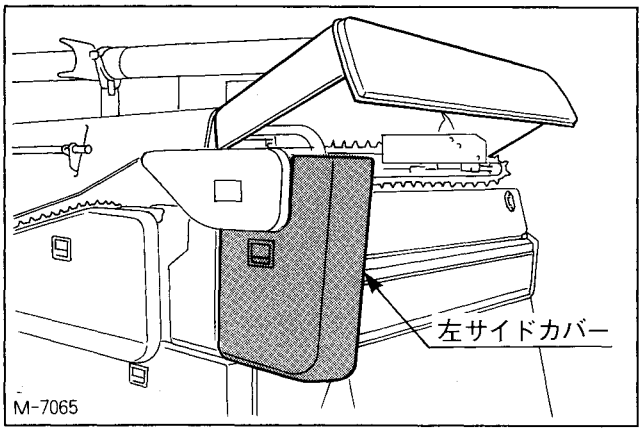
注 意

＊傾斜地でのカッタの開閉はしないでください。
＊グレンタンクオープンされているときは，カッタオープンをしないでください。

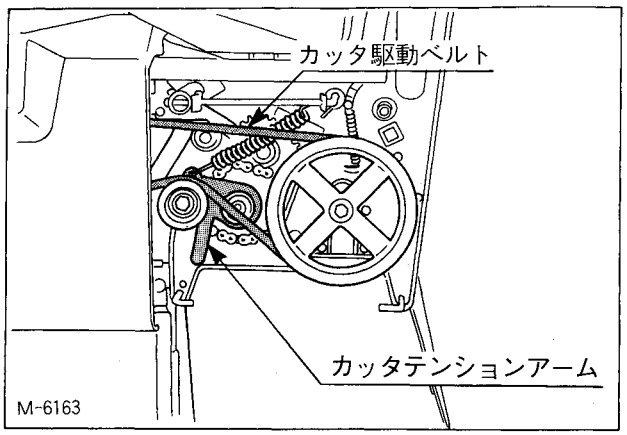
❶上部カバーを開けカバーステーをセットし，穂先カバーを開きます。



❷左サイドカバーを外します。

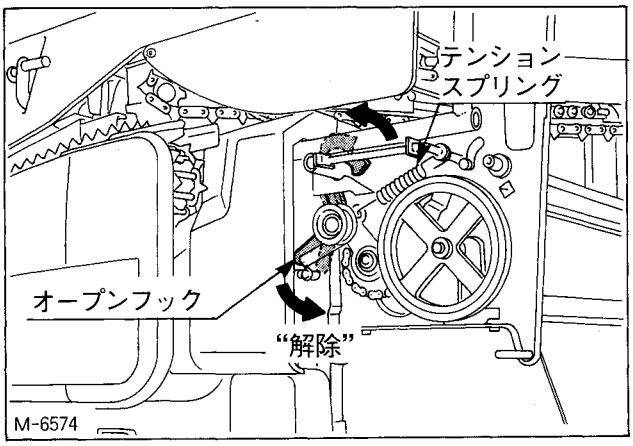


❸カッタテンションアームを引き，カッタ駆動ベルトを外します。

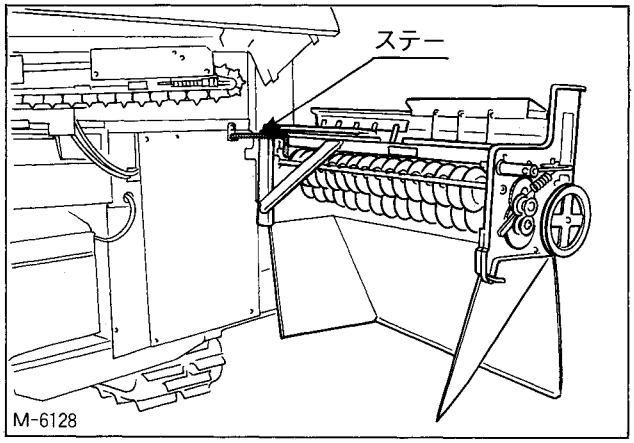


❹カッタテンションアームのスプリングの上側のフックを外し，テンションアームを下側に下げてください。

❺オープンフックを回動させ，ロックを解除します。



❻カッタを静かに回動させステーを脱こく部の穴に差込みます。



◆カッタを閉じる場合

❶カッタを開く場合の逆の手順で行なってください。
❷オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。
❸ベルトを掛ける際は，掛け間違いのないよう行なってください。

各部の脱着のしかた

■シーブケースの脱着

注 意

＊シーブケースは重いので脱着作業は，２人で行なってください。

◆抜出しかた

❶カッタをオープンしたあと，ステーで必ず固定してください。

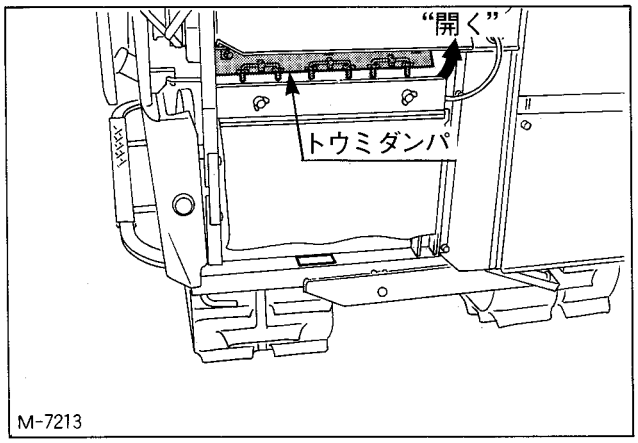
❷トウミダンパを開きます。**【SR30】**

(開いているときは不要)

(1)エンジンを始動し，脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。

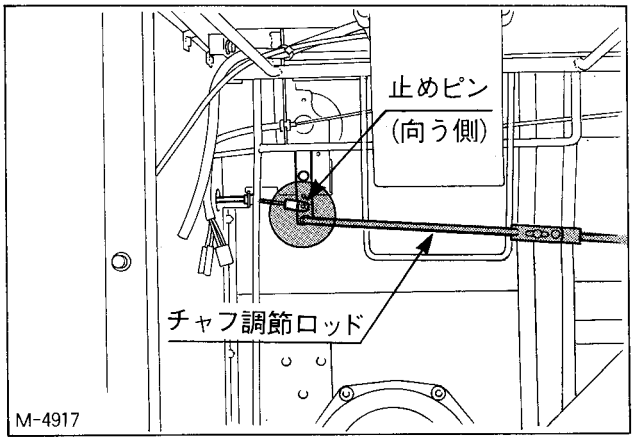
(2)麦／稲／濡れ切換えスイッチを**“濡れ”**にします。

(3)トウミダンパが開いたことを確認し，脱こくクラッチレバーを**“切”**にしてエンジンを**“切”**にします。

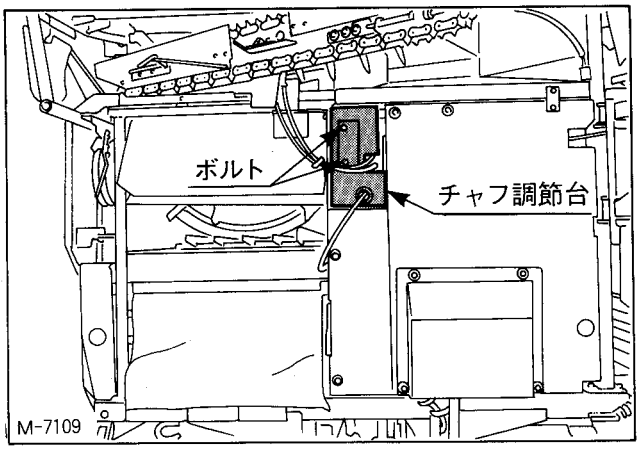


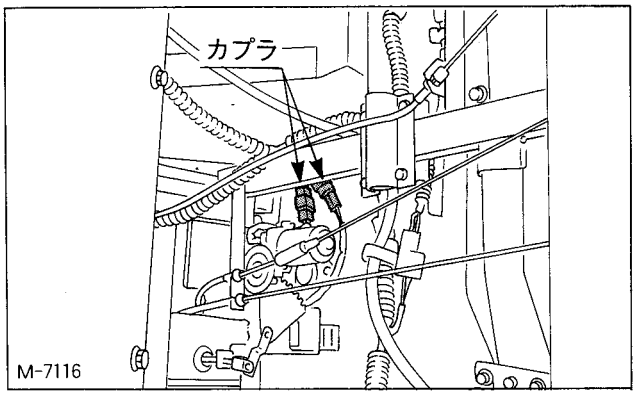
❸チャフ調節ロッドを外します。**【D2仕様】**

(止めピンを抜きます)



❹チャフ調節台取付けボルト（ボルト２本）を外したあと，ハーネスのカプラ（２個）を外して，手前に抜きます。**【D2仕様除く】**





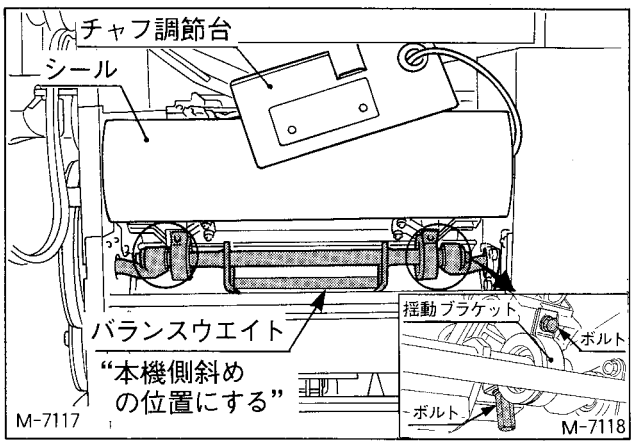
補 足

＊G仕様はグレンタンクをオープンして，ハーネスを外してください。

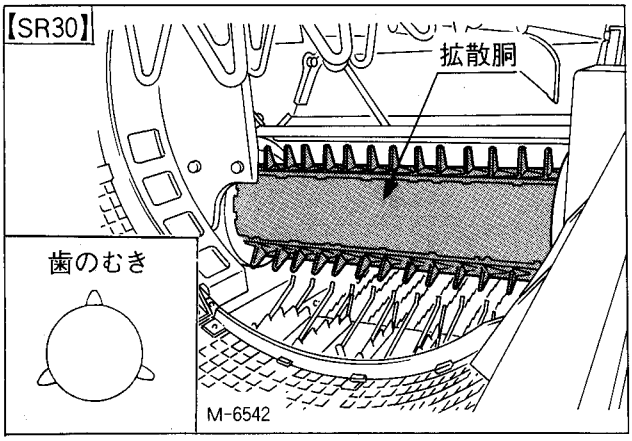
❺シールをめくり上げたストローラックの上にチャフ調節台を載せます。

❻揺動ブラケット(左･右)取付けボルト(４本)を外します。

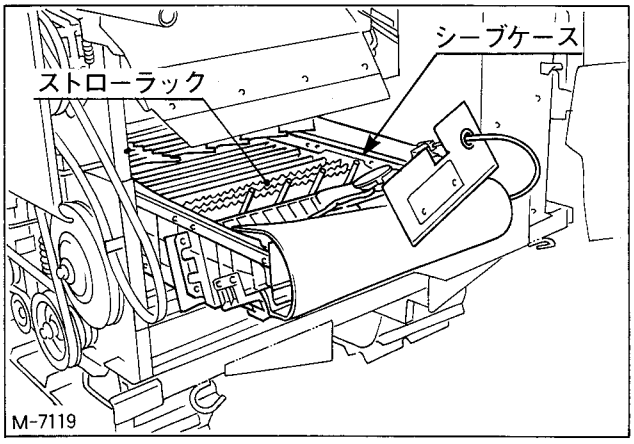
❼こぎ胴を回して揺動軸のバランスウエイトを後方斜め下の外しやすい位置にします。



❽拡散胴を回転させて歯のむきを図のようにします。
【SR30】



❾シーブケースを取出します。(ストローラックやトウミダンパ【SR30】の引っ掛かりに注意してください)



◆取付けかた

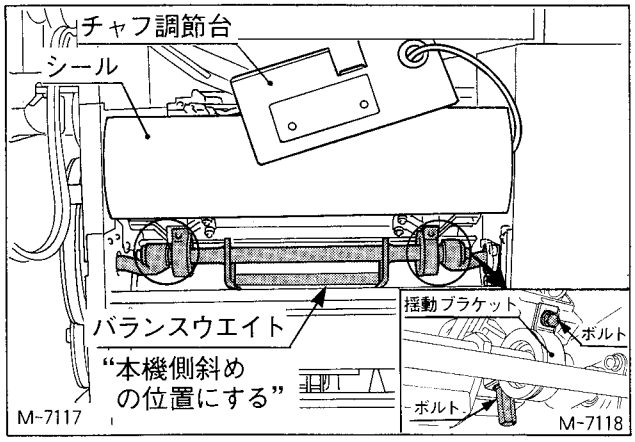
❶シールをめくり上げたストローラックの上にチャフ操作台をのせます。

❷拡散胴の歯のむきを合せます。【SR30】

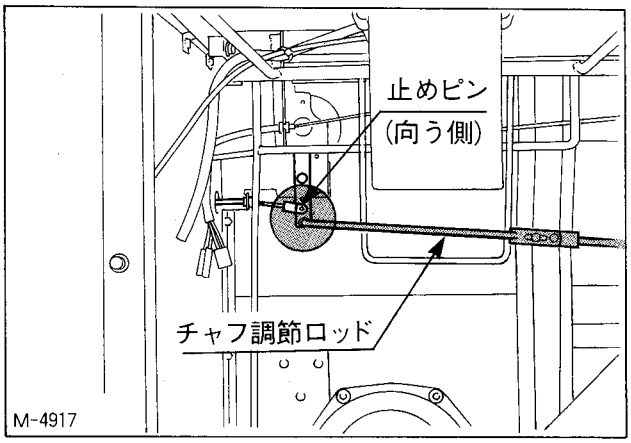
❸揺動軸のバランスウエイトを取付けやすい位置にします。

❹シーブケースをそう入します。(ストローラックの引っかかりに注意してください)

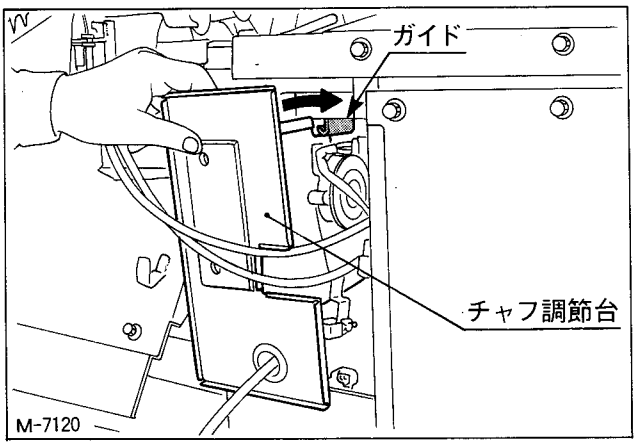
❺揺動ブラケットの組付け方向に注意して，ボルトで確実に締付けてください。



❻チャフ調節ロッドを組付け，止めピンで止めます。
【D2仕様】



❼チャフ調節台をガイドに載せて組込み，ボルトで締付けます。(モータにハーネスがくい込まないように注意してください)【D2仕様除く】

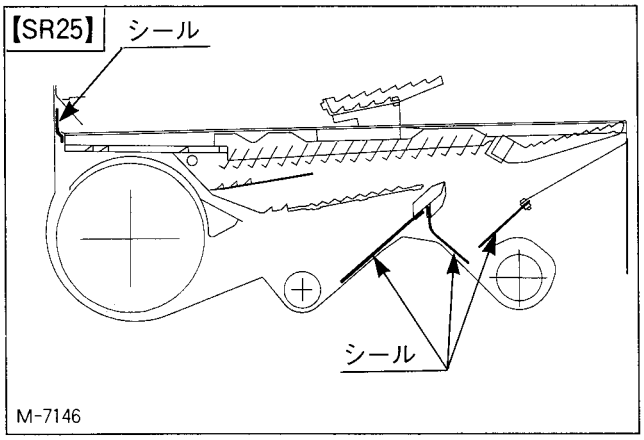


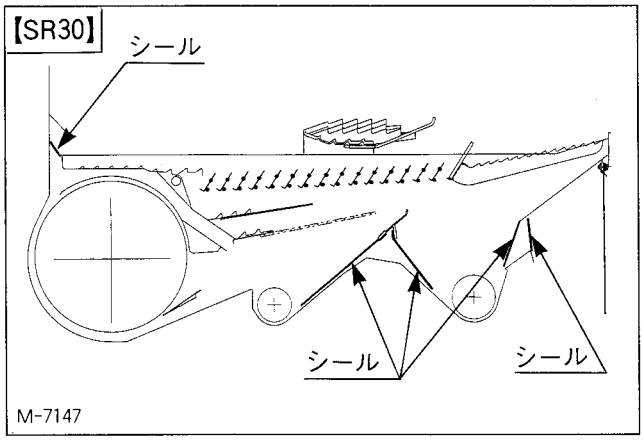
❽ハーネスのカプラ（２個）をはめます。
【D2仕様除く】

❾麦／稲／濡れ切換えスイッチを作物条件に合わせます。

重 要

＊こぎ胴をオープンして，こぎ胴受あみを外し，前部のシールを図のように組付けてください。





■カッタ部の脱着

警 告

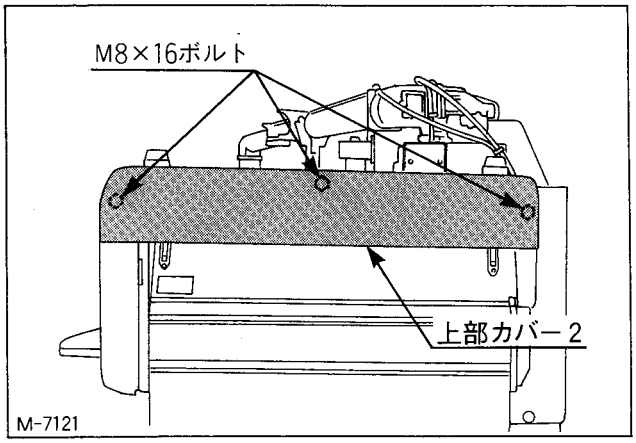
＊カッタ部を脱着するときは，エンジンを必ず止めてください。

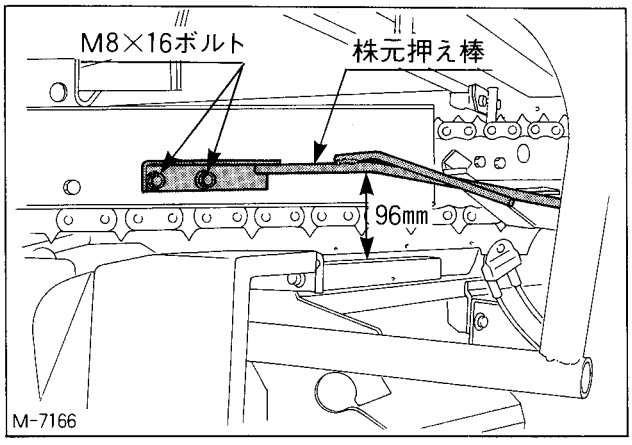
＊カッタ部の重量は約40kgあります。脱着するときは，次のことを厳守してください。

- **大人２人以上で持ち，脱着してください。**
- **カッタの刃に接触すると，手や指をケガをするので，刃に絶対触れないでください。**
- **脱着は平たんな場所で行ない，足元は整理・整頓してから行なってください。**

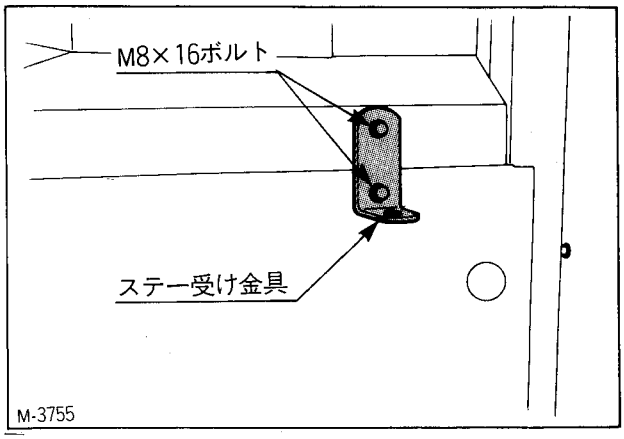
❶上部カバー１に，上部カバー２を取付けます。
（M８×16ボルト……３個）

❷株元押え棒を取付けます。
（M８×16ボルト……２個）

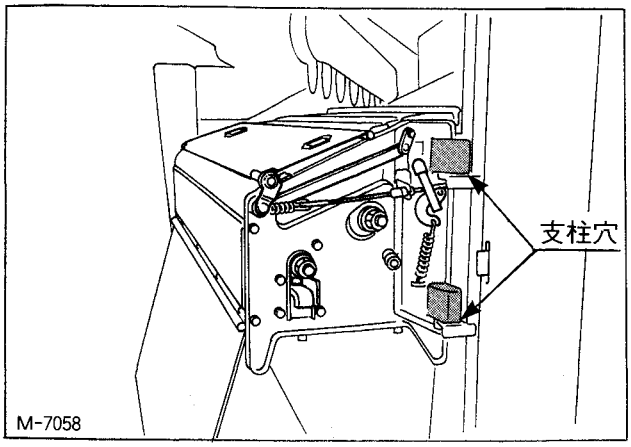




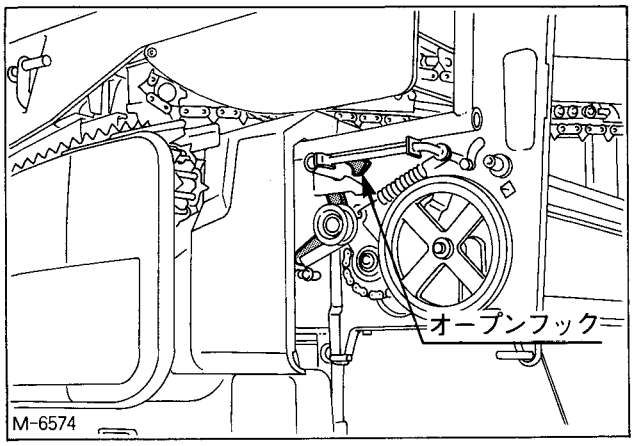
❸ステー受け金具を取付けます。
（M８×16ボルト……２個）



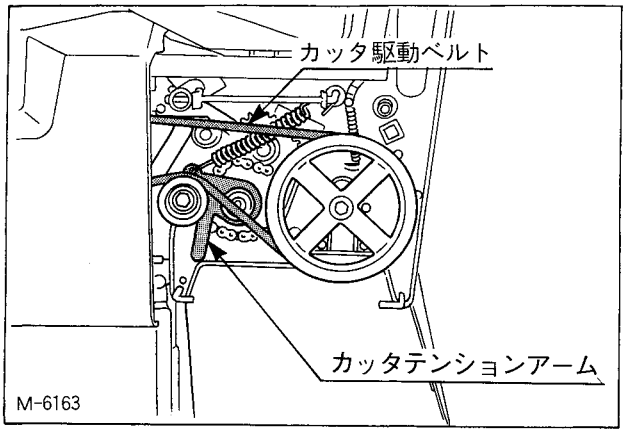
❹カッタを持ち，コンバインへ取付けます。
（脱こく側の支柱の穴にピン部を入れます。）



❺カッタを回転させ，オープンフックを確実にロックしてください。



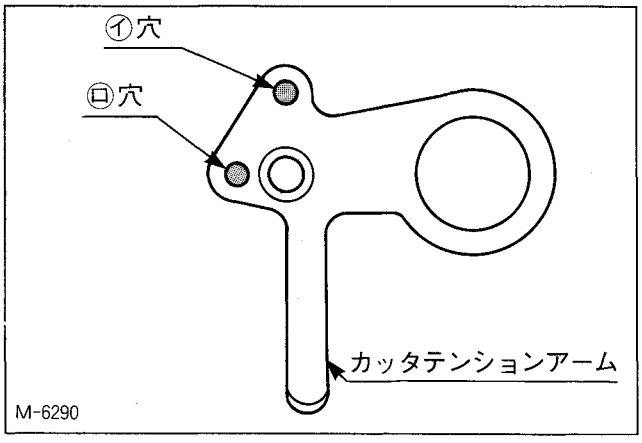
❻駆動ベルトを取付けます。



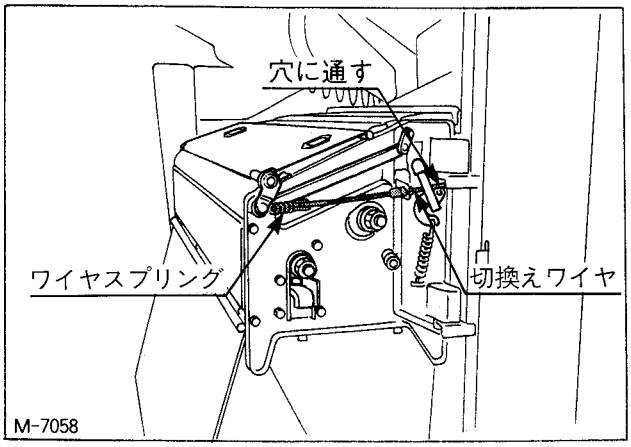
補　足

＊カッタテンションバネ取付け

- 通常セット位置 …… ㋑穴
- ベルトがのび駆動力が低下したとき …… ㋺穴



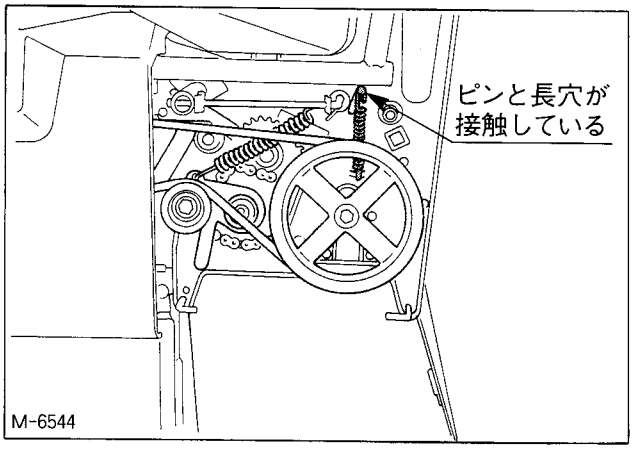
❼切換えワイヤをもみデッキカバーの穴に通し，ワイヤスプリングを連結します。



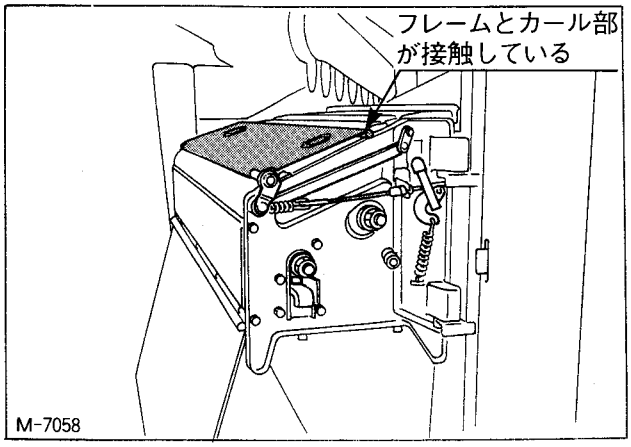
補　足

＊必ず次の項目を確認してください。

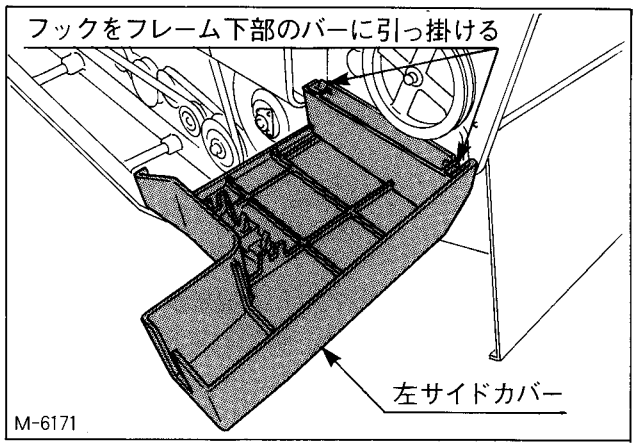
(1)切換えレバーを**“カッタ”**に切換えます。



(2)切換えレバーを**“ドロッパ”**に切換えます。



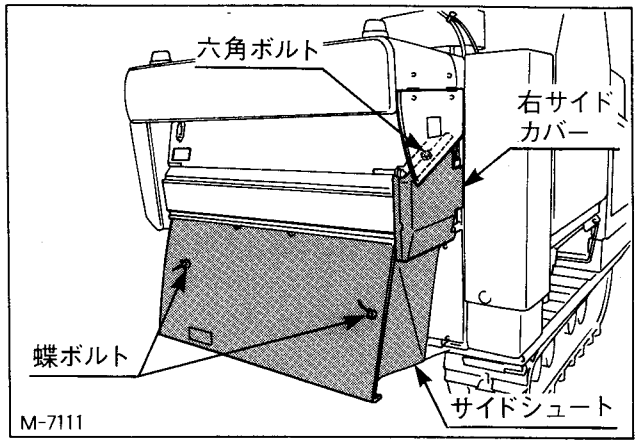
❽左サイドカバーを取付けます。



❾右サイドカバーを六角ボルト(M6×16)で固定します。

❿サイドシュートから蝶ボルトを外し，リヤシュートを後ろに広げます。

次に蝶ボルトで両サイドシュートの金具を締付けます。



⓫カッタの取外しは，取付けの逆の順序で行なってください。

機内の掃除のしかた

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終ったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

警　告

＊清掃する場合は，回転物など大変危険ですので，必ず脱こくクラッチを切り，必ずエンジンを停止してから行なってください。

注　意

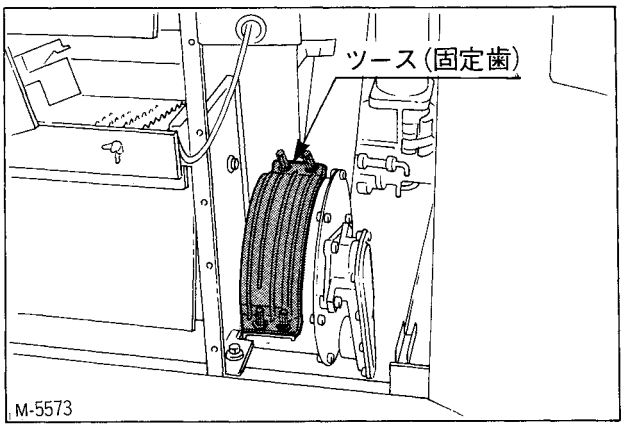
＊空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，グレンタンク及びカッタを閉じてください。

重　要

＊水洗するときは，電装品にできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊掃除口を閉じるときは，レバーを２・３回動かして掃除口にこく粒の付着がないことを確めてから閉じてください。
＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。
＊掃除の後，掃除口には確実にふたをしておいてください。ふたを忘れるとこく粒が飛散します。
＊湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてからレバーを動かしてください。
＊スクリュ掃除口レバーを**“開”**位置のままで，走行しないでください。
＊トウミ軸や排じんファン巻付き防止板部のわらくずなども取除いてください。

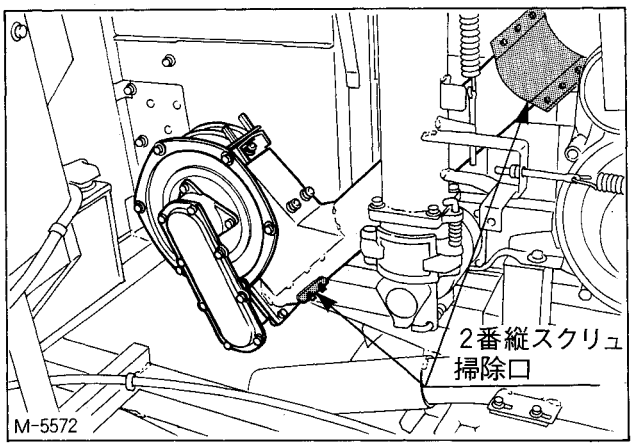
❶３分間空運転します。
❷脱こくクラッチを切り，必ずエンジンを停止してください。
❸こぎ胴をオープンし，受あみを外します。
❹こぎ胴をセットします。
❺カッタを開きます。
❻シーブケースを抜出します。
❼カッタを閉じます。
❽グレンタンクを開きます。**【G仕様】**
❾縦スクリュ，接続ケースの掃除口を開きます。
❿２番縦スクリュの掃除口を開きます。
⓫グレンタンクを閉じます。**【G仕様】**
⓬脱こく入口部，脱こく機内，排わら部，ホッパ内部のこく粒を取除きます。
⓭１番スクリュ，２番スクリュの掃除口を開きます。
⓮１～３分間の空運転の後，脱こくクラッチを切り，必ずエンジンを停止した後で，カッタ・グレンタンク**【G仕様】**を開き，お手持ちの動力散布機や，コンプレッサ・ブロワを使ってきれいに掃除してください。他の掃除口も開いて掃除すると，より効果があります。

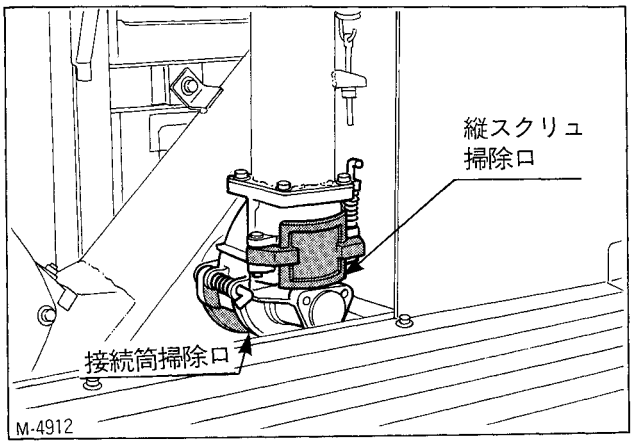
■掃除口の箇所

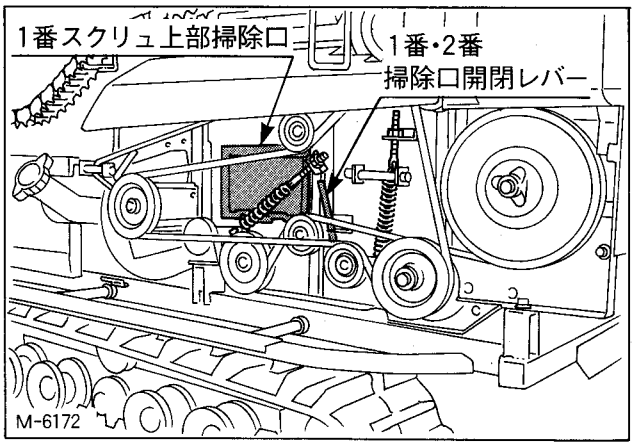


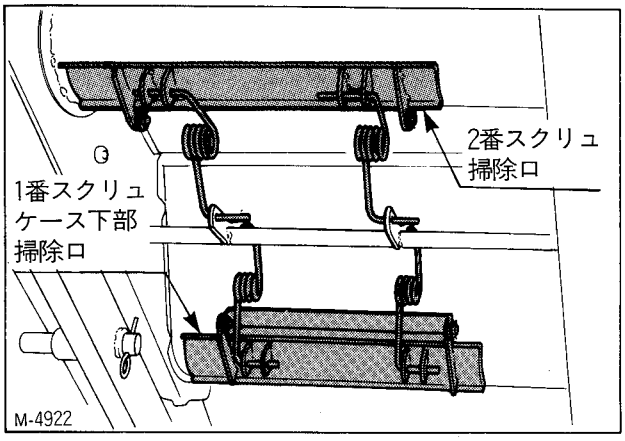
重　要

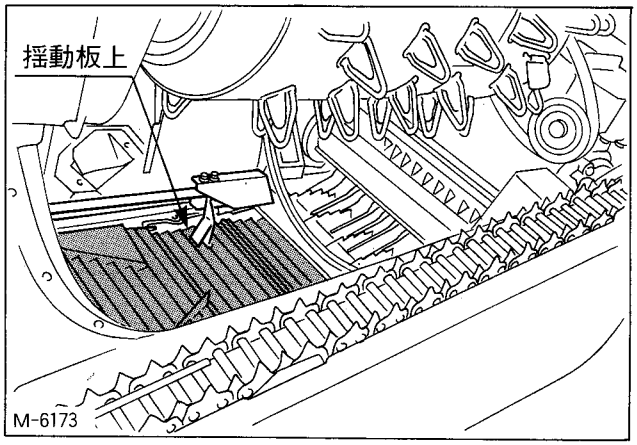
＊２番処理ケースが詰まったとき，ツース（固定歯）を外して掃除しますが，異物が混入した場合には，ツース（回転歯）やツース（固定歯）に変形がないか確認してください。



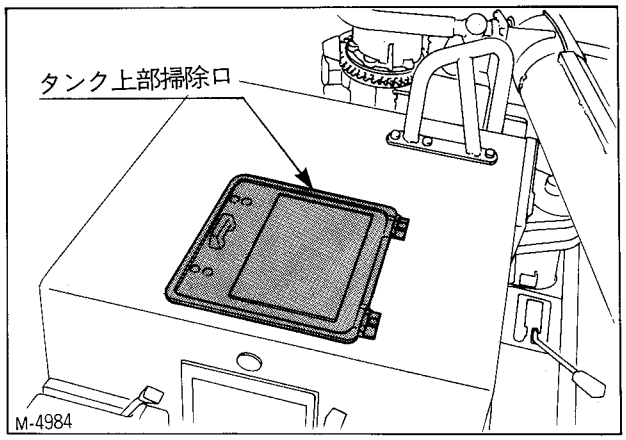


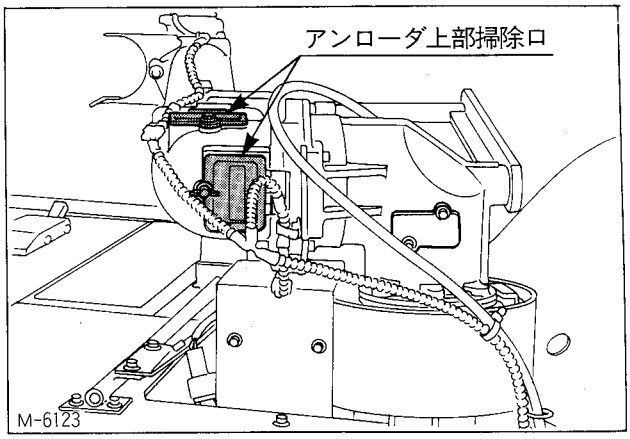

1番スクリュ上部掃除口
1番・2番
掃除口開閉レバー
M-6172

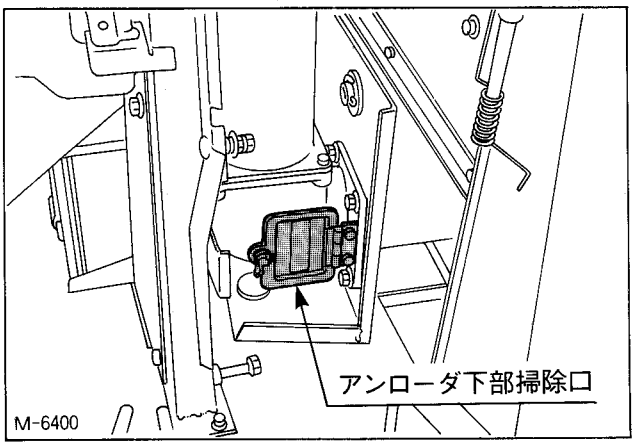

G
2番スクリュ
掃除口
1番スクリュ
ケース下部
掃除口
M-4922

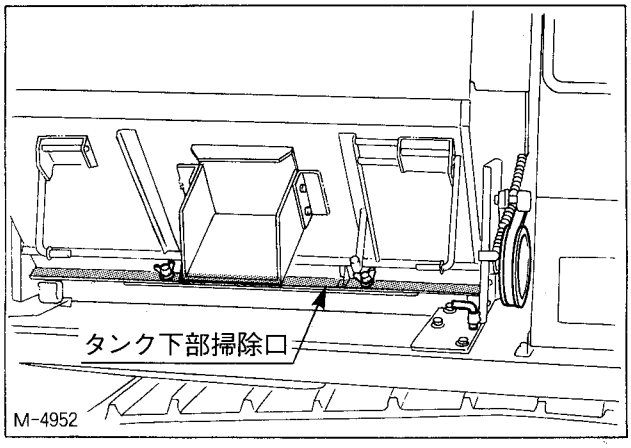

揺動板上
M-6173

【G仕様】

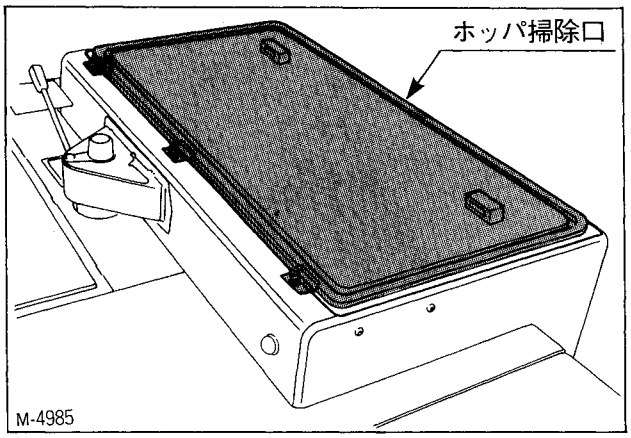

タンク上部掃除口
M-4984


アンローダ上部掃除口
M-6123


アンローダ下部掃除口
M-6400

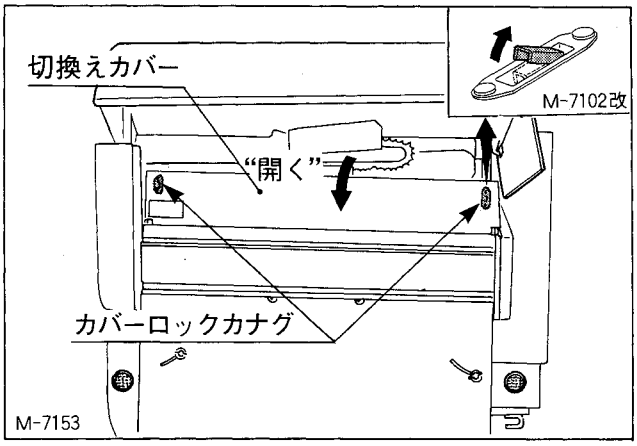

タンク下部掃除口
M-4952

【ホッパ仕様】

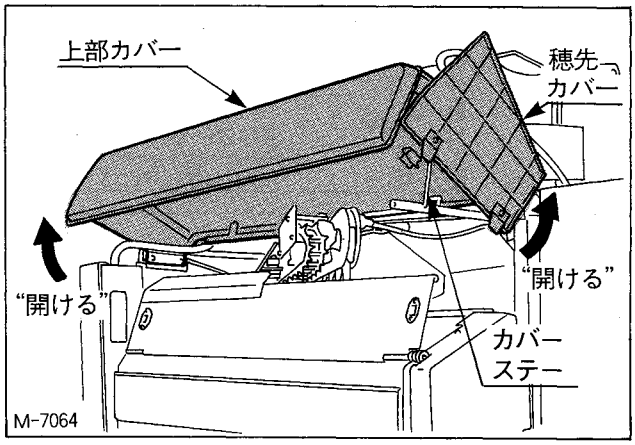


◆排わらチェーン部，カッタ部の掃除のしかた

❶カッタの切断部の点検・掃除はカバーロックカナグを外し，切換えカバーを開けます。



❷穂先側の点検・掃除は上部カバーを開けカバーステーをセットする。穂先カバーを上に開きます。



バッテリのメンテナンス

■バッテリの点検と交換

危　険

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。希硫酸によってヤケドすることがあります。

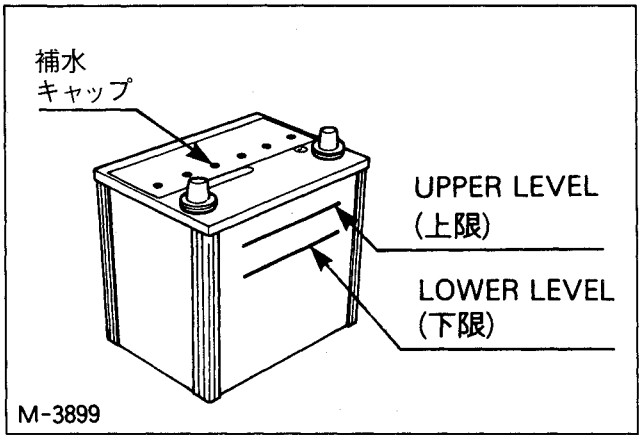
＊バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを"切"にしてください。

◆バッテリ液の点検

バッテリのバッテリ液が液面線の間にあるかどうか点検し，不足のときは精製水を補充してください。



重　要

＊バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

＊精製水を多く入れすぎるとこぼれ出て，機体を傷めます。必ず液面線内に入れてください。

＊バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。

＊エンジンの始動がしにくくなったり，ライトが暗くなってきましたら，早めに補充電をしてください。

◆MF(メンテナンスフリー)バッテリの補水のしかた

(1)バッテリ上ふたの補水キャップ(6個)を外します。

(2)6個の補水穴から精製水をまんべんなく上側の線(レベル)まで補水します。

(3)キャップを元の穴に押込みふたをします。

◆バッテリの補充電

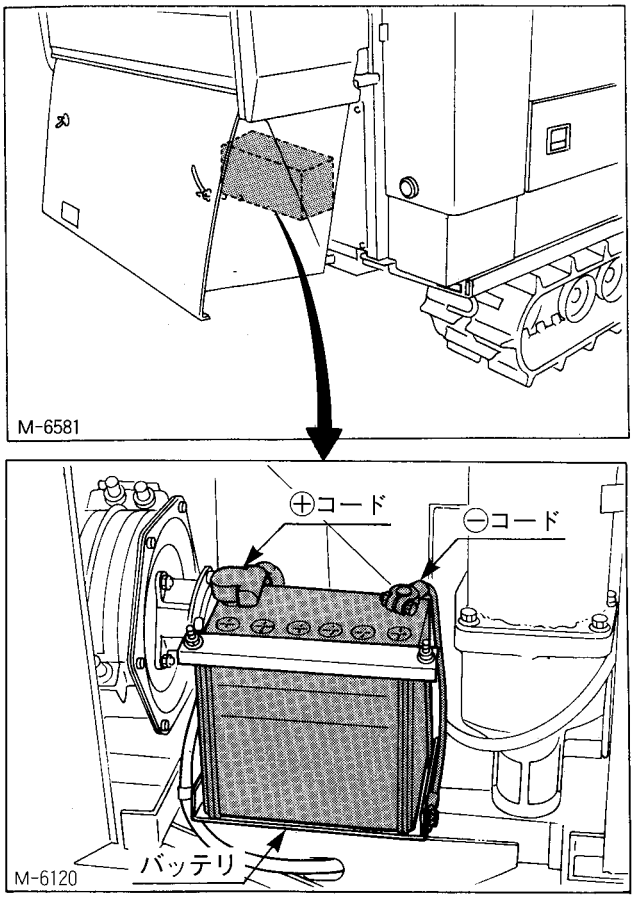
注　意

＊作業中バッテリコード先端がフレームに接触すると，ショートする危険性がありますので，絶対に接触させないでください。

(1)充電は必ず本体からバッテリを取外して行なってください。電装品や配線を傷めることがあります。
(2)充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して，普通充電法で行なってください。
(3)大電流を通して短時間で充電する急速充電法を応急処置として行なったときは，作業後必ず補充電してください。

◆バッテリの取外し，取付け方法

(1)バッテリからコード線を外す場合は，必ず⊖側から外してください。逆にすると，工具などが接触したときショートします。
(2)バッテリを取付けるときは，⊕側を先に接続し，次に⊖側を接続してください。
(3)バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違うと，電気系統の故障の原因になります。
(4)指定外のバッテリは使用しないでください。
バッテリ形式：65D23L-MF



(5)⊕⊖のコードをもとどおりの配線にしてください。⊕コードは他の部品の鋭利な物に触れないよう，確実に組み付けてください。

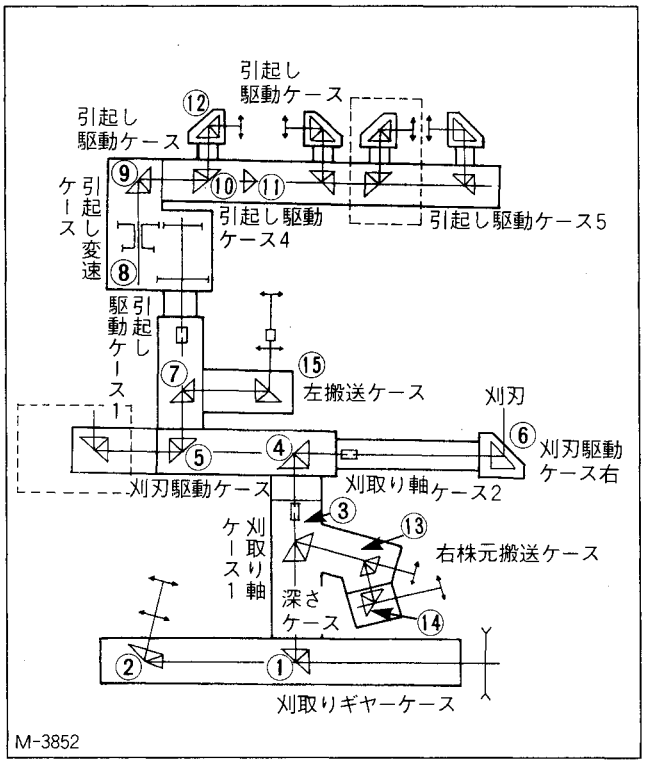
各部グリース・オイルの補給

■各部グリースの補給

分解時にクボタスペアグリースを補給してください。

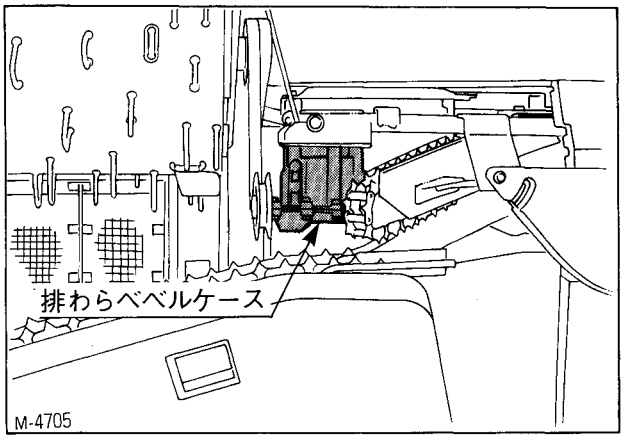
◆刈取部

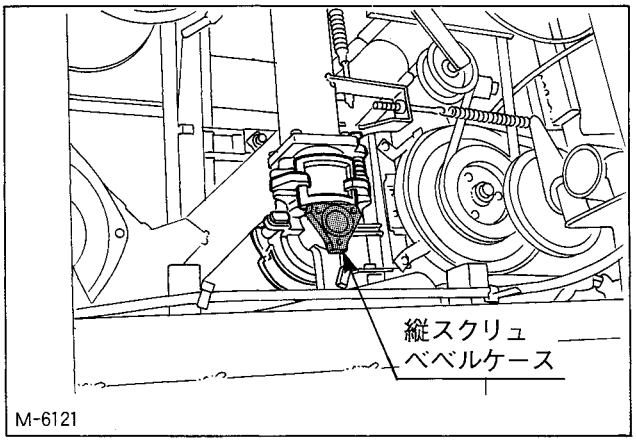
部　所	図No.	グリース封入量
刈取りギヤーケース	①	120g
	②	100g
刈取り軸ケース1	③	150g
刈刃駆動ケース	④	100g
	⑤	100g
刈刃駆動ケース右	⑥	50g
引起し駆動ケース1	⑦	100g
引起し変速ケース	⑧	150g
	⑨	50g
引起し駆動ケース4,5	⑩	50g × 3
	⑪	50g
引起し駆動ケース	⑫	50g × 3
右株元搬送ケース	⑬	70g
深さケース	⑭	50g
左搬送ケース	⑮	70g
深さ回動ケース (深さモータ取付け部)	図示なし	50g及び歯面塗布

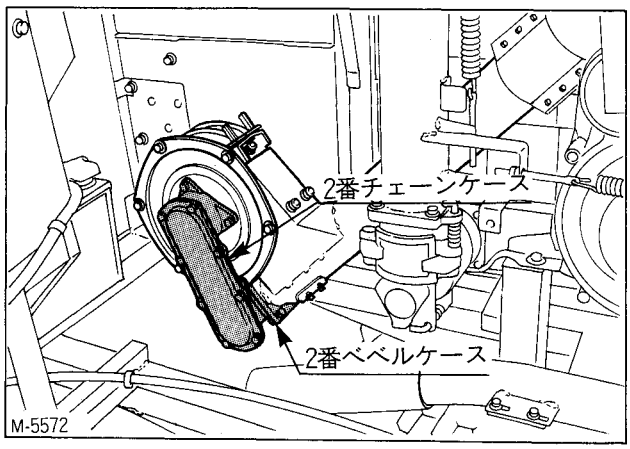


◆脱こく部

＊排わらベベルケース	30 g
＊縦スクリュベベルケース	50 g
＊２番ベベルケース	15 g
＊２番チェーンケース	50 g

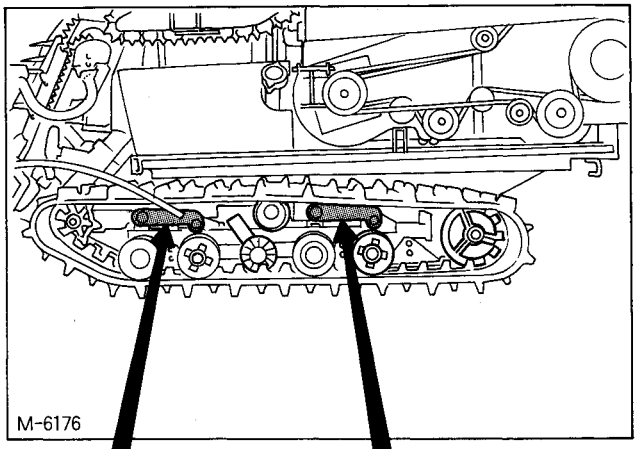


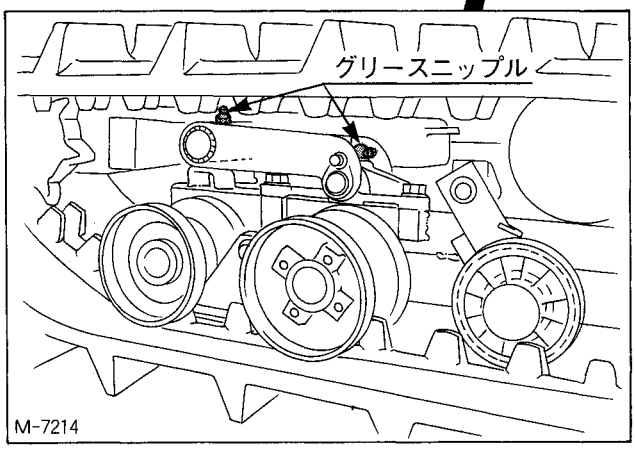


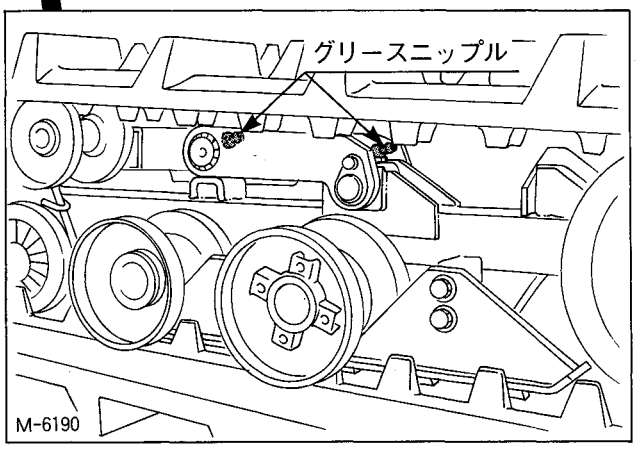


■車体水平制御アーム軸受け部へのグリース【M仕様】

長期格納前又は分解時にグリースアップ及びオイル補給をしてください。（左右合計８ヵ所）







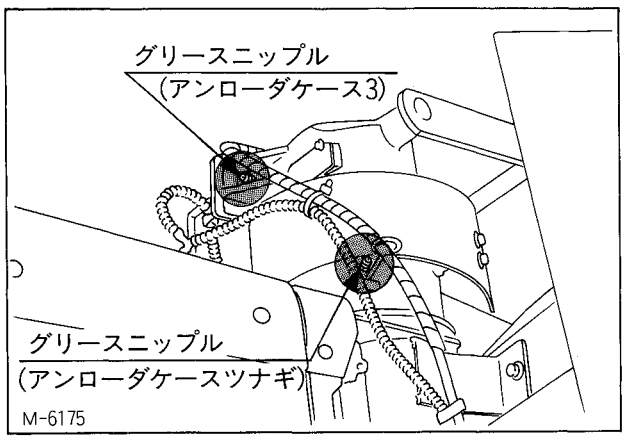
■アンローダ部へのグリース【G仕様】

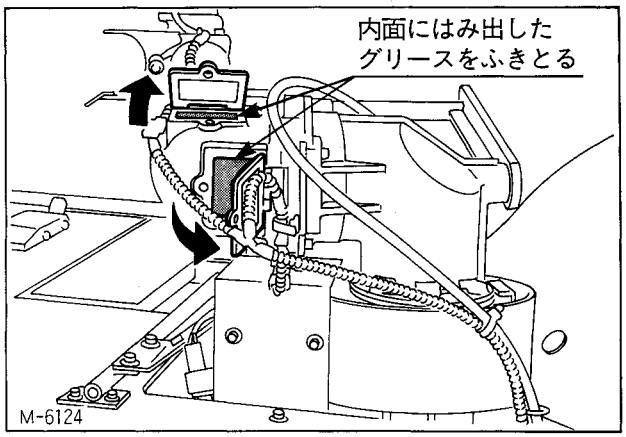
❶長期格納前にアンローダ回動部にクボタスペアグリースを補給してください。

＊アンローダケースツナギ

＊アンローダケース３

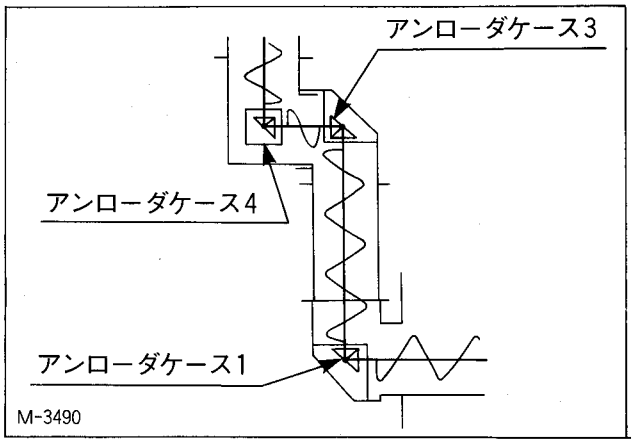
アンローダケース３にグリース補給後は，掃除ふたを外して，内面にはみ出しているグリースをきれいにふきとってください。





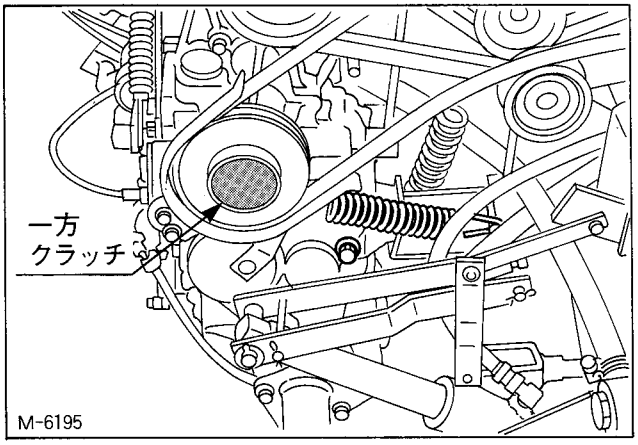
❷分解時にクボタスペアグリースを補給してください。

＊アンローダケース１　60g
＊アンローダケース３　60g
＊アンローダケース４　60g



■刈取一方クラッチのグリース

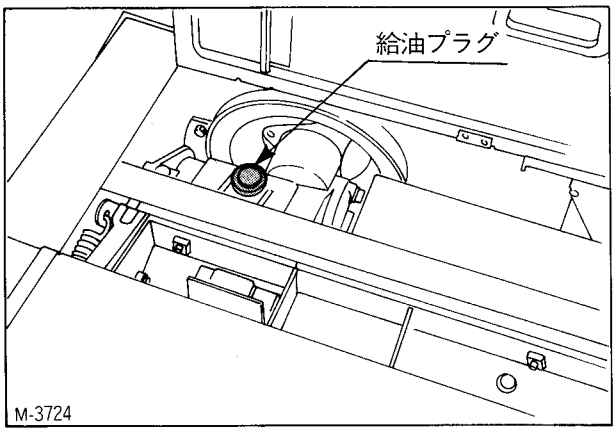
分解時，一方クラッチ及びベアリングボール部にグリースを封入してください。



■こぎ胴駆動ケースのオイル

給油プラグを外して，オイルが入っているか点検してください。

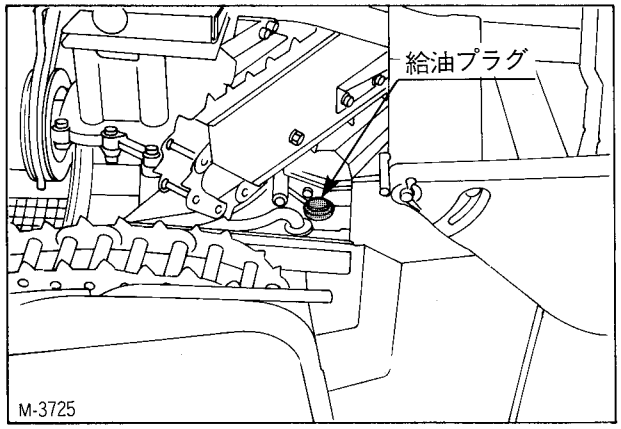
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル M90又はM80B	0.15 L



■フィードチェーン駆動ケースのオイル

給油プラグを外して，オイルが入っているか点検してください。

オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル M90又はM80B	0.3 L



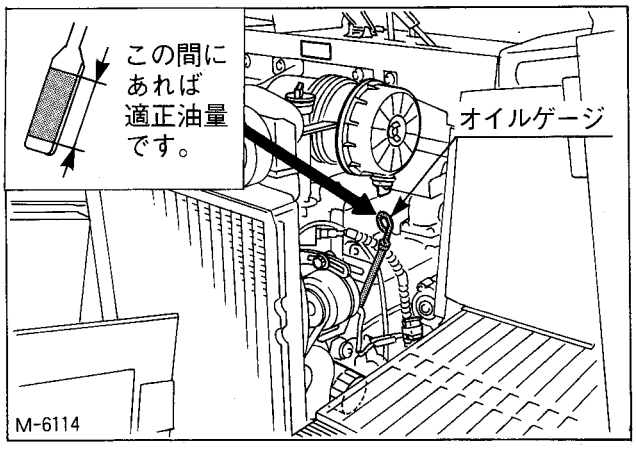
定期点検と調整・交換

■エンジンオイルの点検と交換

重 要

＊指定のオイル以外は使用しないでください。指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。

◆点検とオイルの種類



気温	オイルの種類	オイル量
15℃以下のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W30	上限線　約6.0L 下限線　約4.2L
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W30	

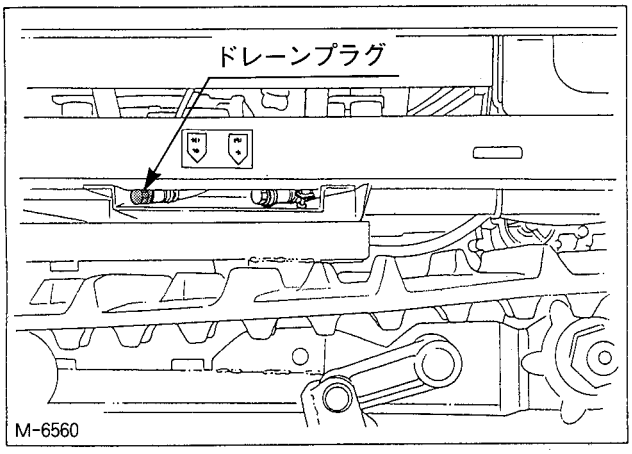
クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気　温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W－30
0～25℃	SAE20又は10W－30
25℃以上	SAE30又は10W－30

10W－30はオールシーズン用です。

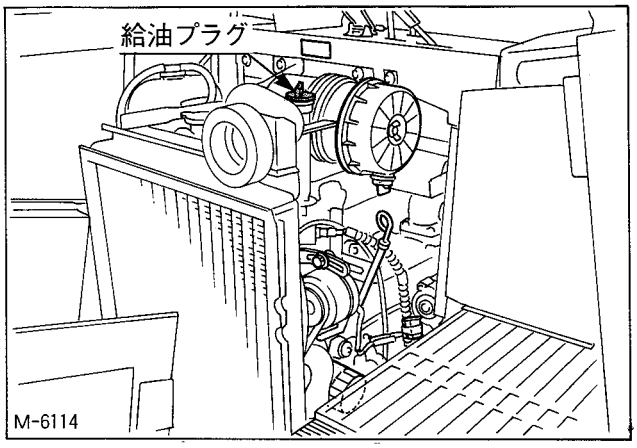
◆排油のしかた

オイル給油プラグを外してから，ドレーンプラグを外し，オイルを排出してください。
給油プラグを閉めたままでは完全に排出できません。
エンジンの暖かいうちに排出しますと，オイルの流動性がよく早く抜取ることができます。



◆給油のしかた

ドレーンプラグを締付けて，給油口から適正量給油し，オイル給油プラグをきちんと締付けてください。
（付属のじょうごを使用してください）



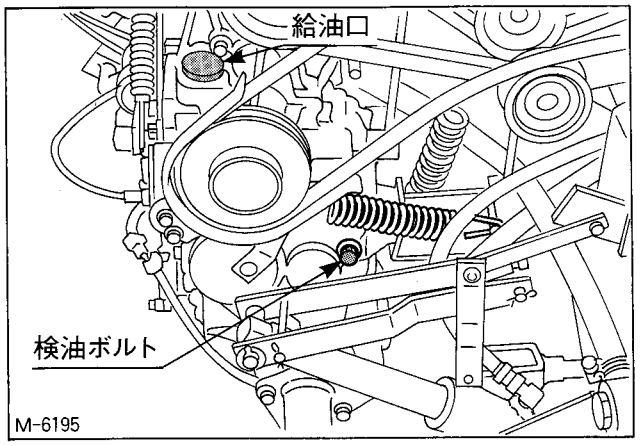
■トランスミッションケースオイルの点検と交換

重　要

＊湿式ブレーキのオイルと共通ですので，他のオイルは使用しないでください。
＊ミッションオイルを補給・交換するときは，給油口の回りをきれいにしてください。ミッションケース内にドロなどが混入すると故障の原因になります。

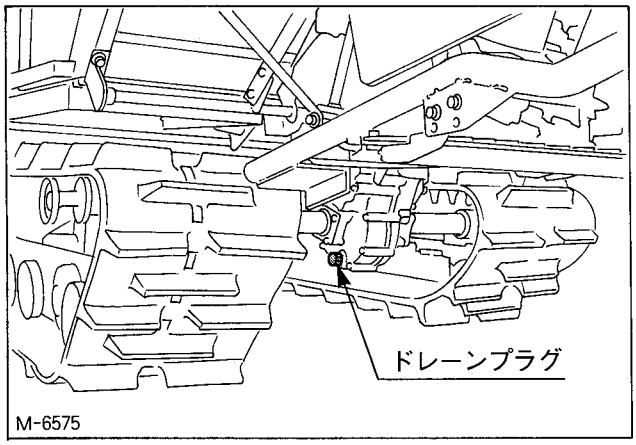
◆点検

検油ボルト（M8）を外してオイルが出てくれば適正量です。
不足のときは，給油口から付属のじょうごを使用して補給してください。



◆交換

トランスミッションケース下部のドレーンプラグを外して古いオイルを排出させ，排出後はドレーンプラグを元のように締付けてください。
その後，給油口から給油してください。



オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルNEW·UDT又はスーパーUDT	6.5 L

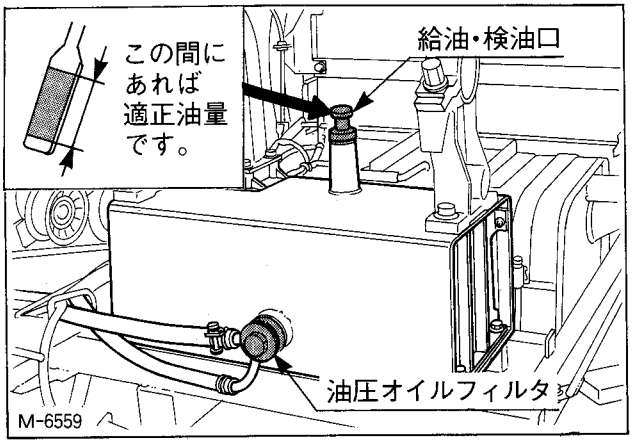
■油圧オイルタンクオイルの点検と交換

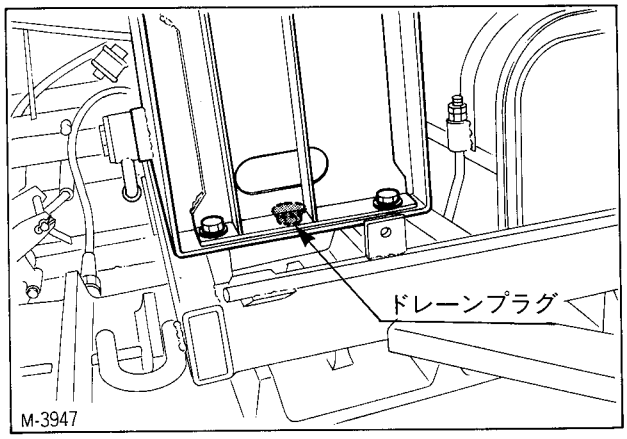
重　要

＊給油後，エンジンを始動するときは，アイドリング回転で始動し，1分間以上アイドリング回転で運転してください。

◆点検

検油栓についているオイルゲージでチェックしてください。
不足のときは，給油口から付属のじょうごを使用して補給してください。





◆交換

ケースの左下側のドレーンプラグを外し，古いオイルを排出させ，排出後はドレーンプラグを元のように締付けてください。その後，給油口から給油してください。

オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルNEW·UDT又はスーパーUDT	12 L

■パイプ・ホース類の点検

注　意

＊運転中ラジエータホースが外れると熱湯が噴き出して危険です。

＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起しますので，必ず点検してください。

▶もし怠ると・・・・・

火災など傷害事故の危険があります。

＊オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付を起します。

重　要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

◆ラジエータホースの点検・交換

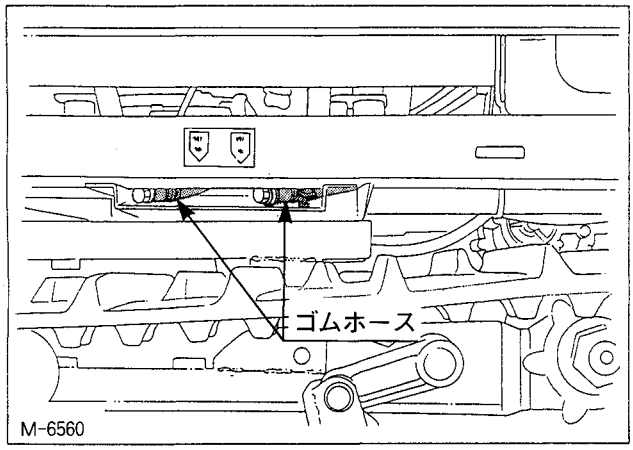
(1)ラジエータホースの締付点検は，200時間運転ごと又は６ヵ月ごとに行なってください。
締付けバンドがゆるんでいたり，水もれのある場合はバンドを確実に締付けてください。

(2)ラジエータホースが膨れたり，固くなったり，ひび割れしているときにはホースを交換し，バンドを確実に締付けてください。

(3)２年ごとにラジエータホース及びバンドを交換してください。
それ以前でもチェックしたとき，ラジエータホースが膨れたり，固くなったり，ひび割れしていれば交換してください。

■フューエルパイプ及びオイルドレーンゴムホースの締付け点検・交換

燃料系ゴムホース製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年（オイルドレーンゴムホースは300時間又は２年）ごと又は傷んだときに新品と交換する必要があります。パイプ・ホース類が傷んだり締付けバンドがゆるんでいないか常に注意してください。



補　足

＊フューエルパイプ交換後のエア抜きは自動で行なわれます。メインスイッチを**“入”**にして５～10秒でエア抜きができます。

■ファン駆動ベルトの点検・調整

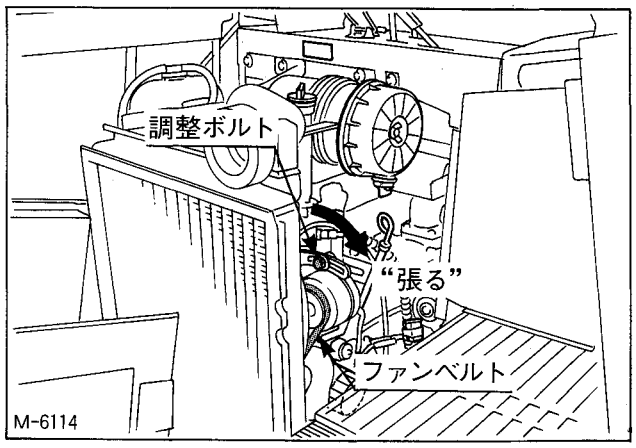
◆ファン駆動ベルトの点検

ひび割れ，破損がないか点検してください。

◆ファン駆動ベルトの調整

ダイナモの取付けボルトと調整ボルトをゆるめ，ダイナモを手で引っ張りながら，取付けボルトを締付けます。

ベルト中央部のたわみ	5～10㎜



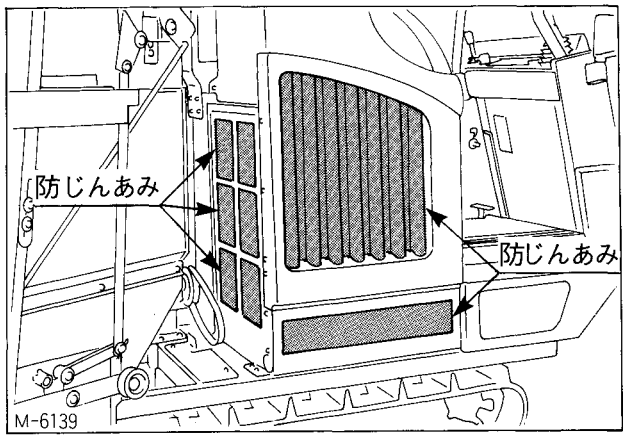
■防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィンの清掃

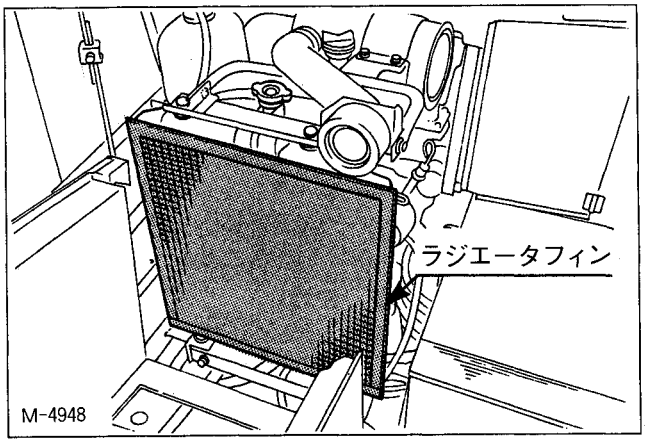
重　要

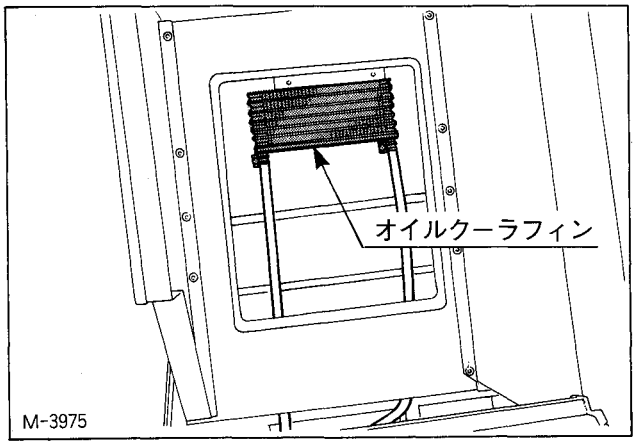
＊ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。特殊フィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

＊エアクリーナの吸入口には絶対水をかけないでください。エンジン不調又は破損の原因となります。

防じんあみとラジエータフィンおよびオイルクーラフィンの目詰まりを清掃してください。（この場合，必ずエンジンを停止して行なってください。）
圧縮圧気を利用すればすみずみまで清掃できます。







■インレットパイプ類の締付け点検・交換

ひび割れ，破損および締付けバンドがゆるんでないか点検し，傷んだり，バンドがゆるんでいれば交換してください。

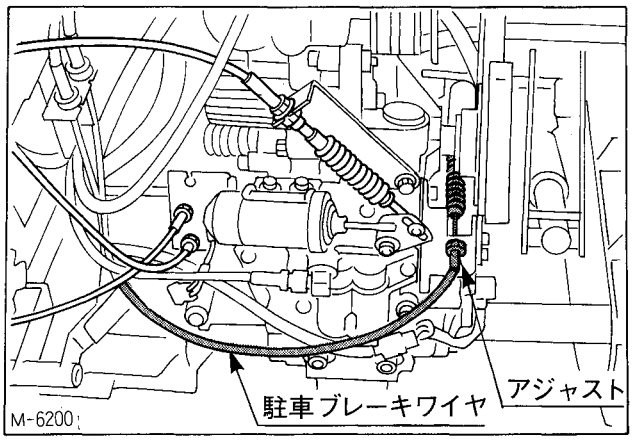
■各部ワイヤの調整・交換

注　意

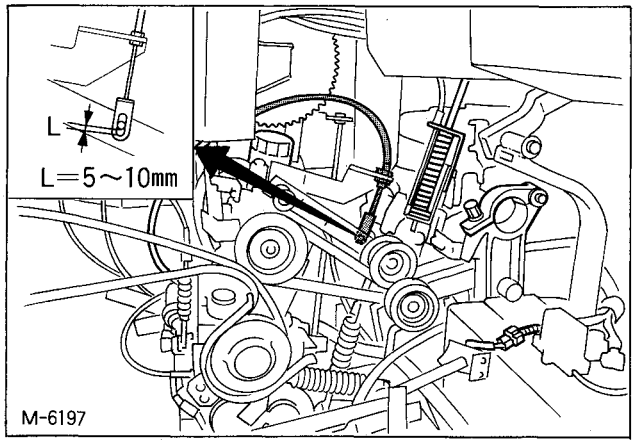
＊点検・調整時は，刈取りクラッチを“切”にしてください。

◆駐車ブレーキワイヤ・クラッチワイヤの調整・交換

(1)駐車ブレーキワイヤの調整は，ペダルロックした状態で，ワイヤバネの伸びが17～19㎜となるようにアジャストで調整してください。



(2)クラッチワイヤの調整は，ペダルを作動させないでインナワイヤの遊びが１㎜以下で下図のＬ＝５～10㎜になるようにアウタワイヤ取付け部を調整してください。

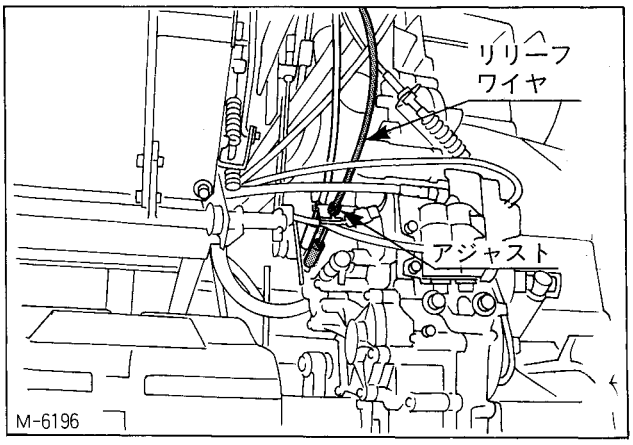


補　足

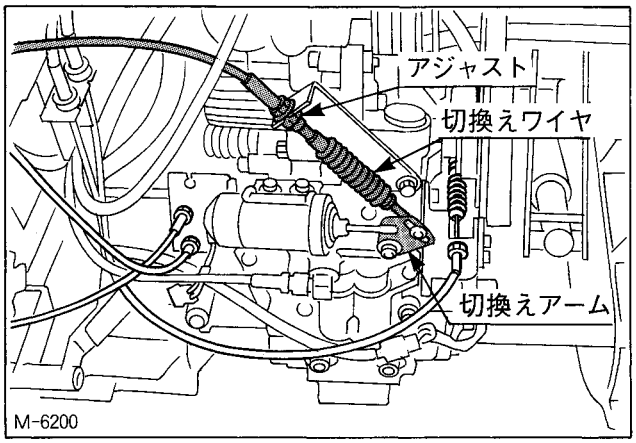
＊定期交換部品ですので500時間目又は２年ごとに交換してください。

◆リリーフワイヤ，切換えワイヤの調整・交換

(1)リリーフワイヤの遊びは，4.5～6.5㎜となるようにアジャストで調整してください。



(2)切換えワイヤの先端は，切換えアームの長穴の中心になるようにアジャストで調整してください。



補　足

＊定期交換部品ですので500時間目又は２年ごとに交換してください。

◆刈取りオートクラッチワイヤ及び
刈取りクラッチの調整・交換

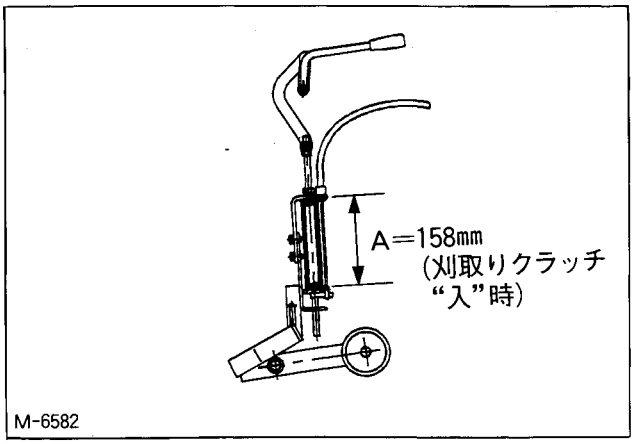
注　意

＊点検・調整時は，刈取りクラッチを“切”にしてください。

(1)フィードチェーンクラッチと刈取りクラッチのタイミングがずれた場合，次の要領で調整してください。

❶刈取部を下げてオートクラッチ切換えグリップを**“入”**にします。

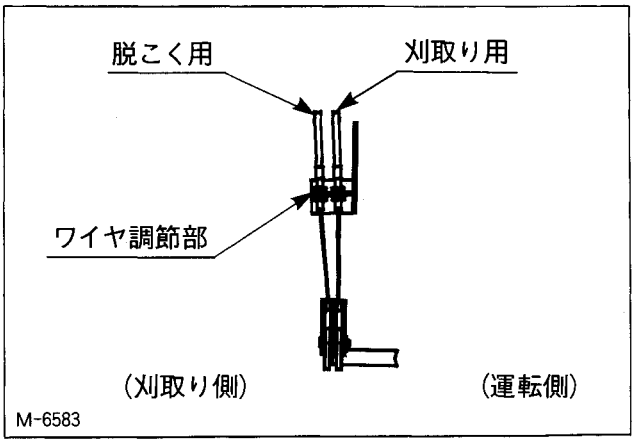
❷オートクラッチワイヤの調整前にまず刈取りクラッチのスプリング長さの確認をします。



❸次にオートクラッチ用ワイヤの調整を行ないます。刈取部を上昇時，刈取部がフィードチェーンと同時又はやや早目に切れ，刈取部を下降時はフィードチェーンが刈取部と同時又は早く作動するように調節します。

“切”を早くしたい場合
……ワイヤを張る方向に調整

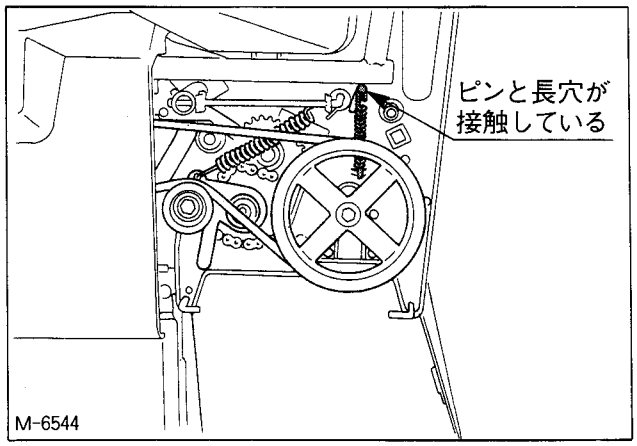
“切”を遅くしたい場合
……ワイヤをゆるむ方向に調整

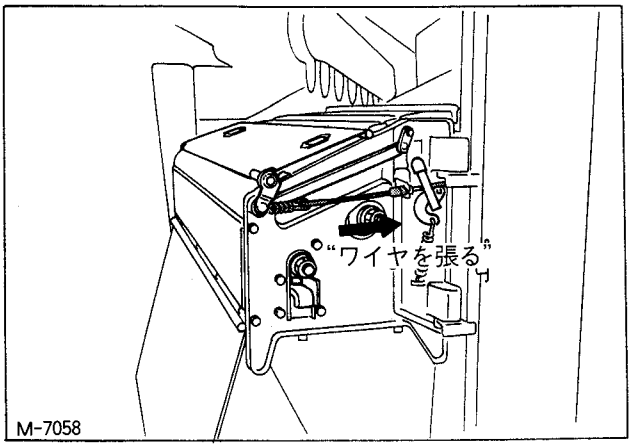


◆排わら切換えワイヤの調整・交換

● カッタ

ストッパに当るまでワイヤを張ってください。

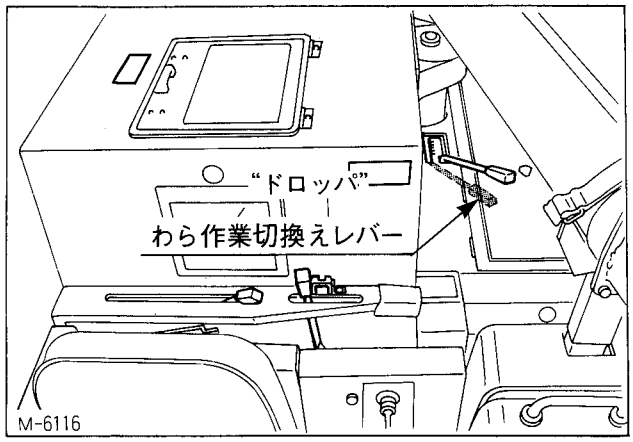


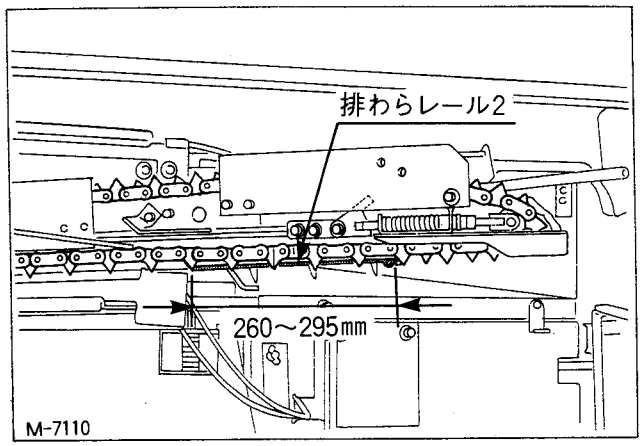


● 排わらレール２

わら作業切換えレバーを**“ドロッパ”**の位置にして排わらレール２の出代が260～295㎜になるように調整してください。

排わらレール２の出代 (ドロッパの位置)	260～295㎜

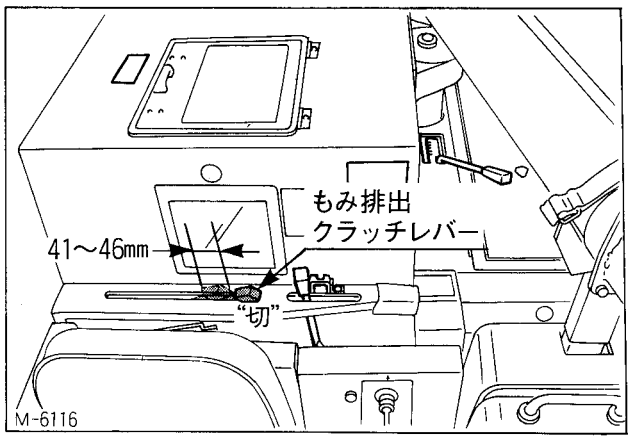


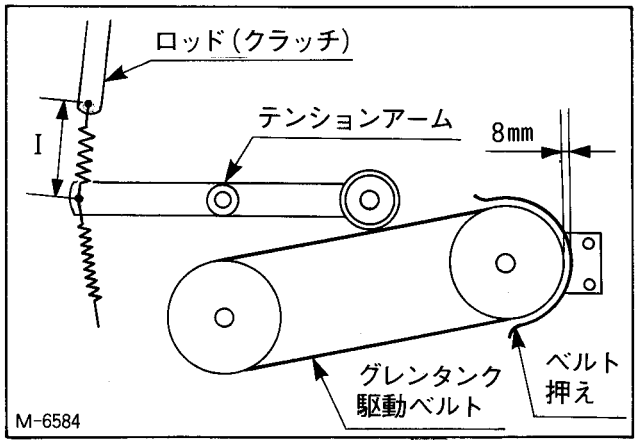


◆もみ排出クラッチの調整・交換【G仕様】

もみ排出クラッチを**“入”**にした場合，テンションスプリングの長さが，I寸法（283～287㎜）になるようにターンバックルで調整してください。

もみ排出クラッチレバーを41～46㎜動かしたときに，テンション荷重がかかるように調整してください。





■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検

注　意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
▶もし怠ると……
火災，損傷の危険があります。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプにゆるみがないこと。

(2)ターミナル，ブロック（ソケット)の接続部のゆるみがないこと。

(3)各スイッチが確実に作動すること。

■電気配線とヒューズの点検・交換

◆電気配線の点検

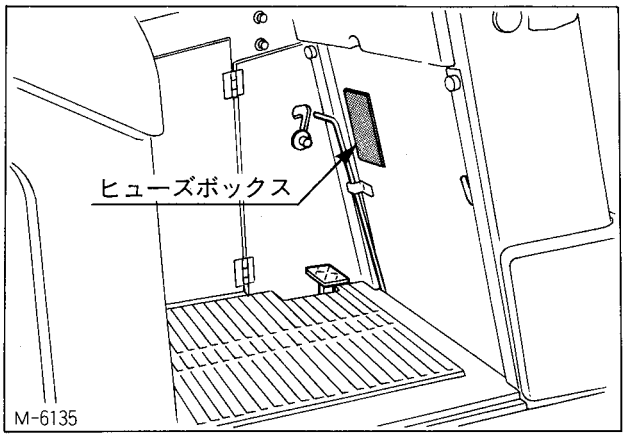
配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート(短絡)，ろう電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，販売店かJA農協で点検・修理してください。

◆ヒューズの点検・交換

❶ヒューズボックスのふたを外します。
❷ヒューズを外します。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換します。

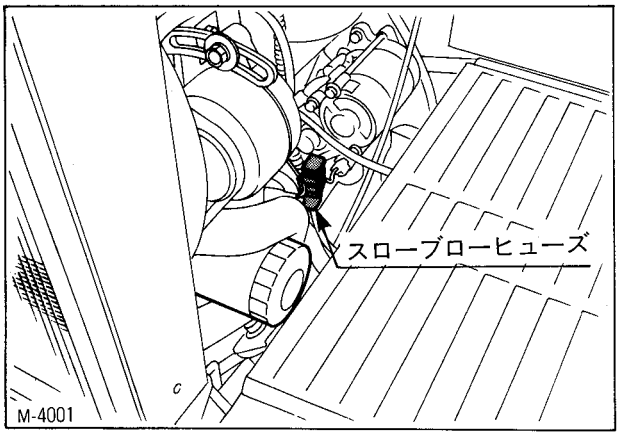


マイコンユニットAESリレー	15A
レギュレータ	20A
こぎ深さモータ	15A
トウミモータ	15A
チャフモータ	15A
車速モータ	15A
マイコンユニットメータパネル	20A
ライトフラッシャ	20A
結束機	15A
アンローダ【G仕様】	25A

● 予備ヒューズは，10A 1 本，15A 1 本，20A 1 本，25A 1 本【G仕様】が入っております。

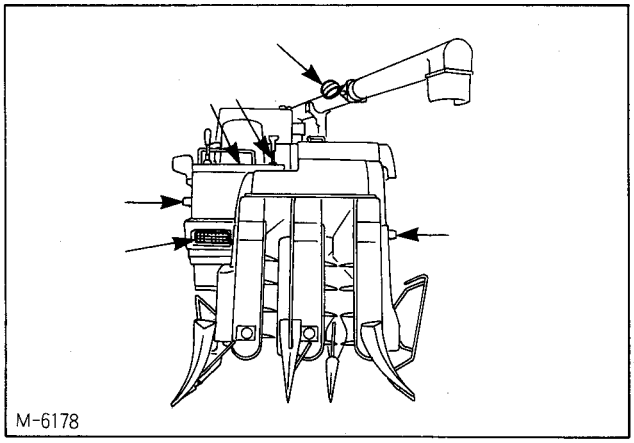
◆スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは配線を保護するためのものです。他の部品と当らないようにしてください。もし切れた場合は，必ず切れた原因を調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

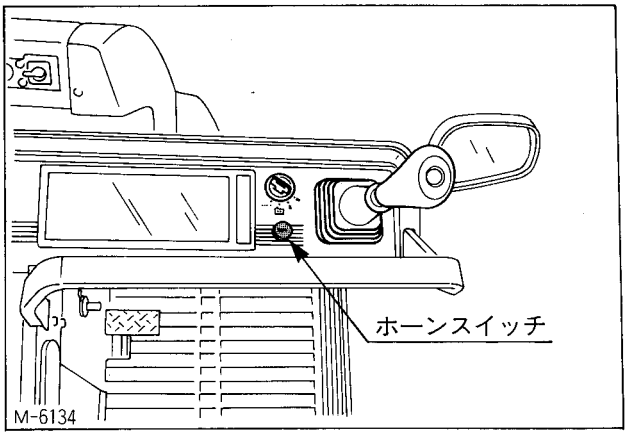


■ランプ（電球）の点検

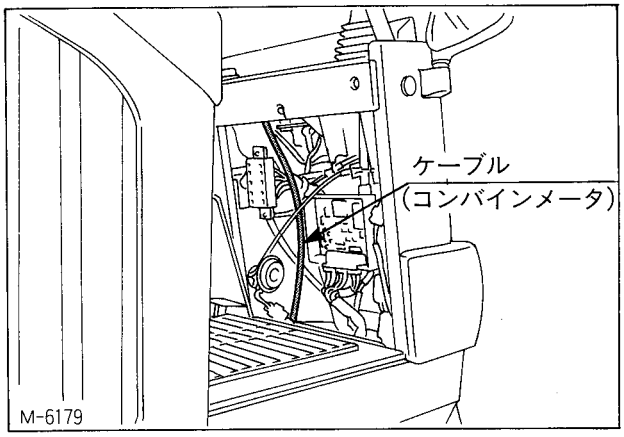
球切れがないか作業前に点検してください。



■ホーンスイッチの点検



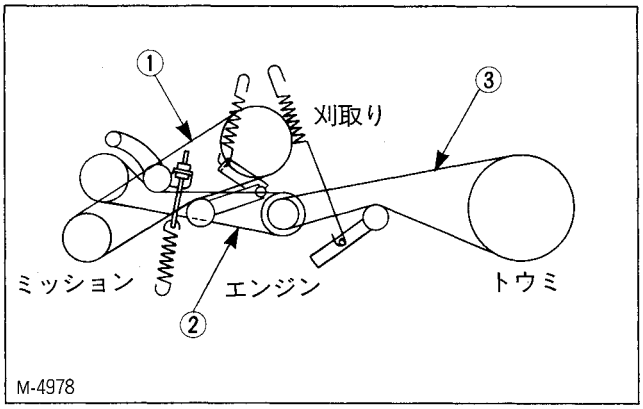
■ケーブル (コンバインメータ)の点検・交換

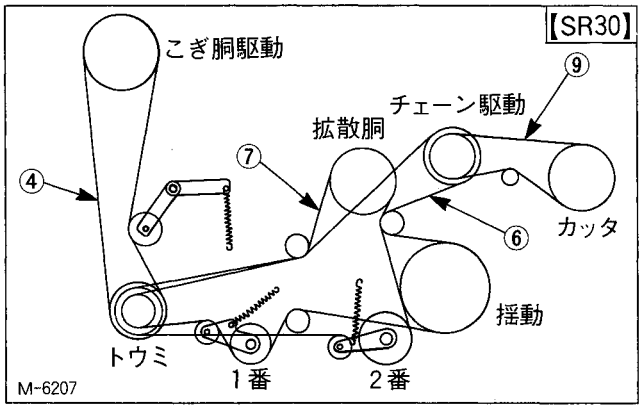


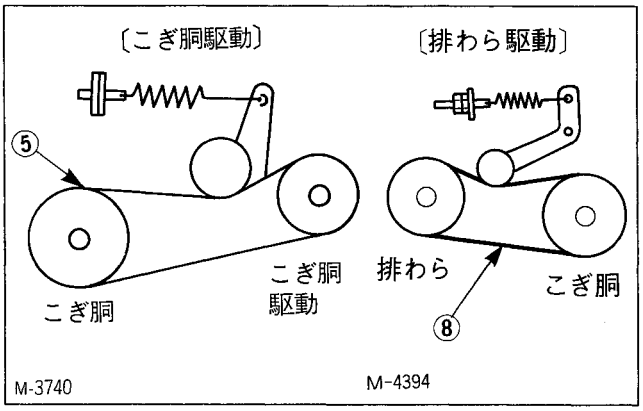
■各部ベルトの張り調整・交換

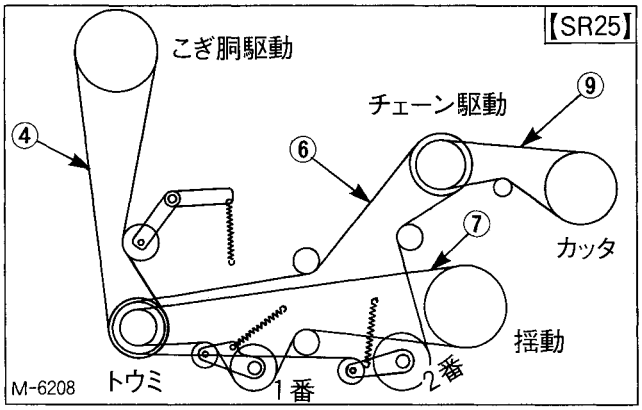
※印寸法は圧縮スプリング取付け長さ

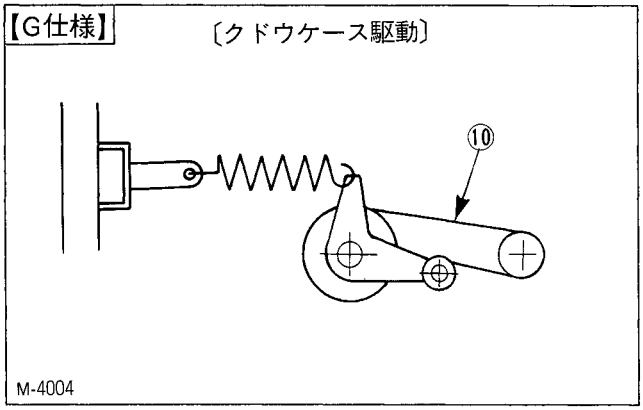
No.		ベルトの名称	サイズ SR25	サイズ SR30	スプリング取付け長さ（寸法はフック内側間）
エンジン周辺部	①	刈取り駆動ベルト	特B61		200～205mm 【SD仕様】 ※154～158mm（クラッチON時）
	②	ミッション駆動ベルト（２本掛）	特B53	特B54	208～213mm
	③	脱こく駆動ベルト	特C74		499～504mm
脱こく部	④	こぎ胴駆動ベルト	特C84	特C85	180～185mm
	⑤	こぎ胴駆動ベルト	特B55		143～147mm
	⑥	２番，チェーン駆動ベルト	特B114	特B122	188～193mm
	⑦	揺動，１番駆動ベルト	特B94	特B123	175～180mm
	⑧	排わら駆動ベルト	特B38		155～160mm
カッタ部	⑨	カッタ駆動ベルト	特B52		223～233mm スプリングの掛かえ
グレンタンク部	⑩	クドウケース駆動ベルト【G仕様】	特B58	特B57	210～215mm
	⑪	スクリュ駆動ベルト【G仕様】	特B36		113～117mm

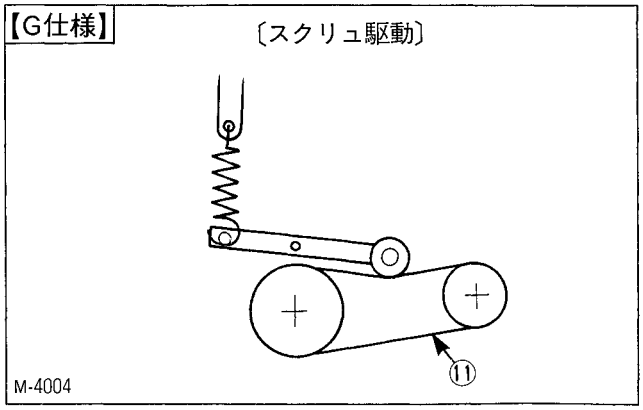




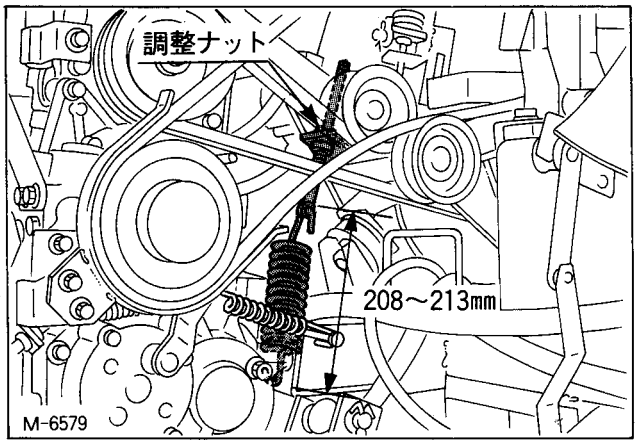








◆ミッション駆動ベルトの張り

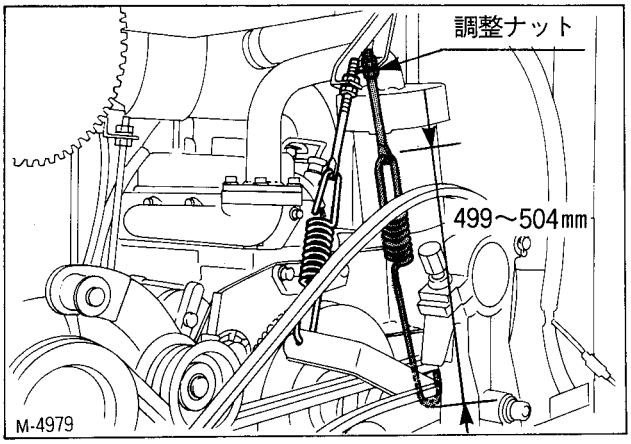


補　足

＊ベルト２本掛けであり初期変化が大きいため，ベルト交換後は，20時間で再調整してください。

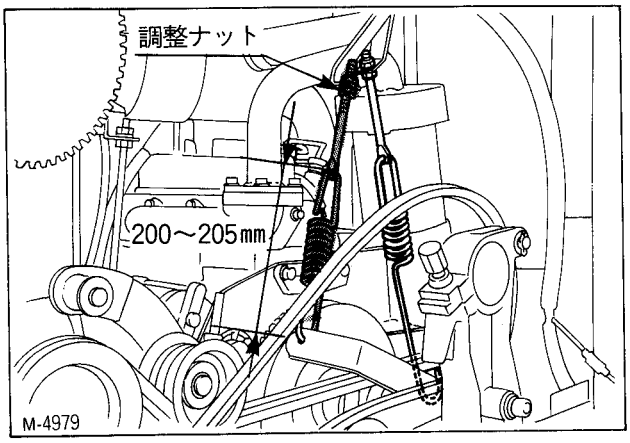
◆脱こく駆動ベルト

脱こく駆動ベルトがスリップするときは，脱こくクラッチレバーを“入”にして，スプリング長さが499～504㎜になるよう調整ナットを締込んでください。



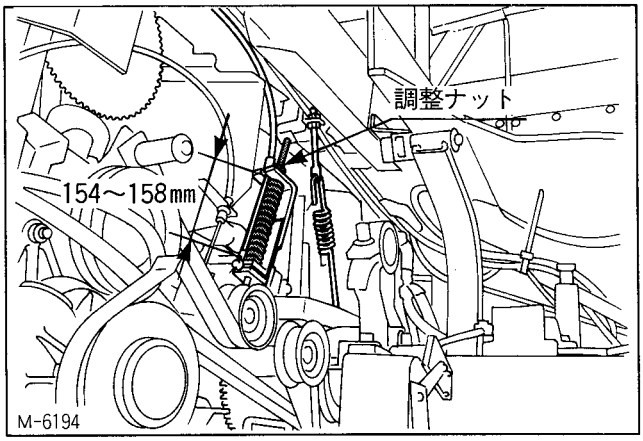
◆刈取り駆動ベルト

刈取り駆動ベルトがスリップするときは，刈取りクラッチレバーを“入”にして，スプリング長さが200～205㎜になるよう調整ナットを締込んでください。



【SD仕様】

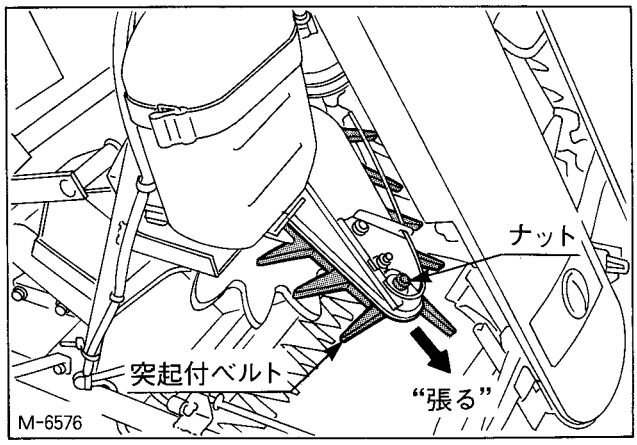
オートクラッチグリップを“入”にします。



◆突起付ベルト

アイドラプーリの取付けネジ(M10)をゆるめ，ベルトを引っ張って張り，ネジを締付けます。

ベルト中央部のたわみ	5～10㎜



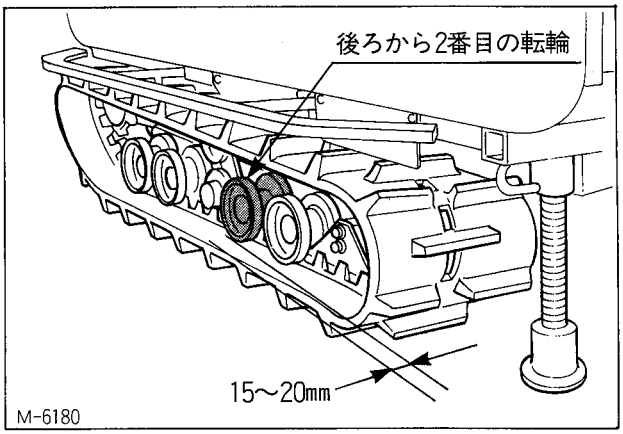
■クローラの張り調整・交換

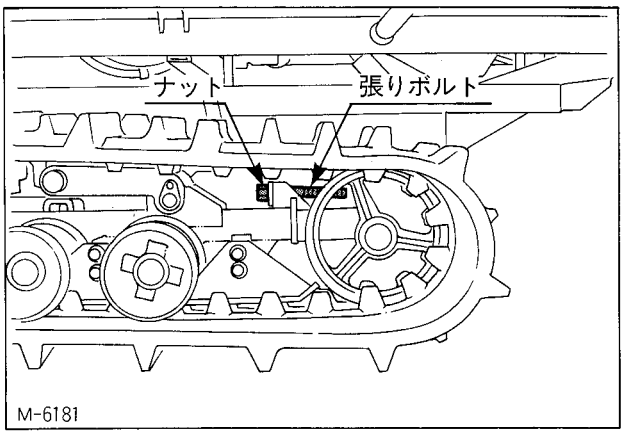
❶クローラ張り用ナットをゆるめて，張りボルトを締めます。

❷バックして停止し，フレーム後部をジャッキアップし，後から２番目の転輪とクローラのすき間を15～20㎜になるように調整します。

❸左右同じ張りぐあいになっているか確認してください。

２番目の転輪とクローラとのすき間	15～20㎜以内



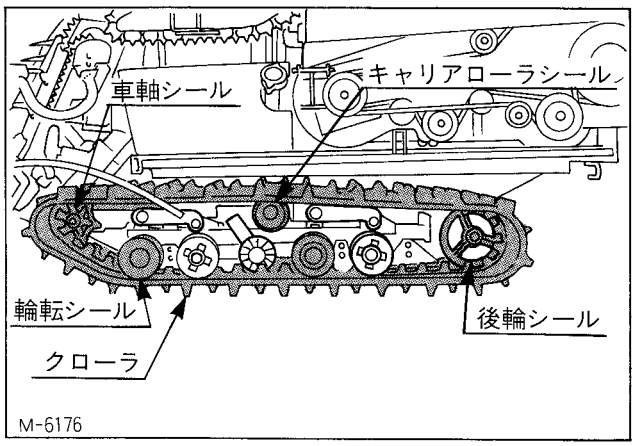


■足回りシールの定期交換

(1)足回りの軸受シールは500時間目又は２年ごとに交換してください。

(2)交換箇所

- ●車軸シール
- ●後輪シール
- ●転輪シール
- ●キャリアローラシール



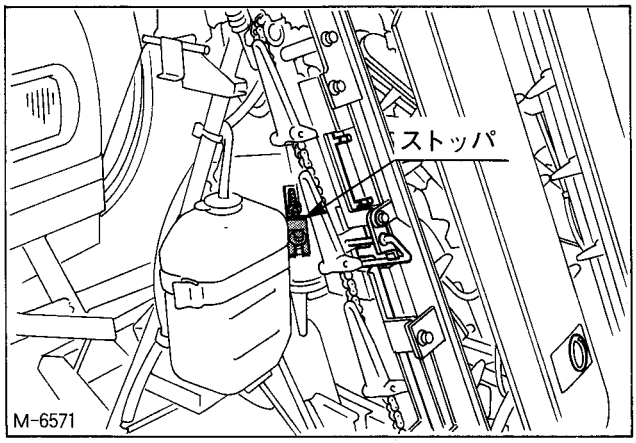
■各部チェーンの張り調整・交換

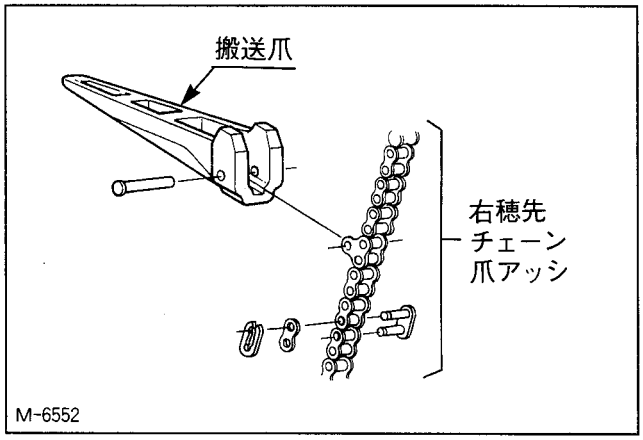
◆右穂先チェーン

重　要

＊チェーンが伸びてシャフト頭が長穴端に当ると自動テンションがきかなくなります。チェーン２リンク(25.4㎜)を外してください。

自動テンションになっていますが，チェーンが伸びて，チェーン張力がなくなる前に，ホルダを調節して，チェーン張力を強めてください。



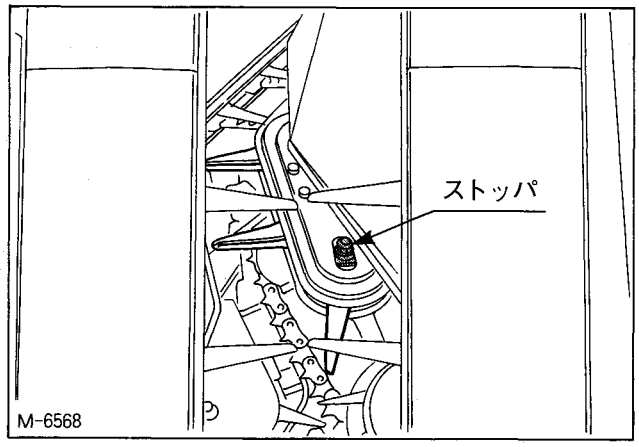


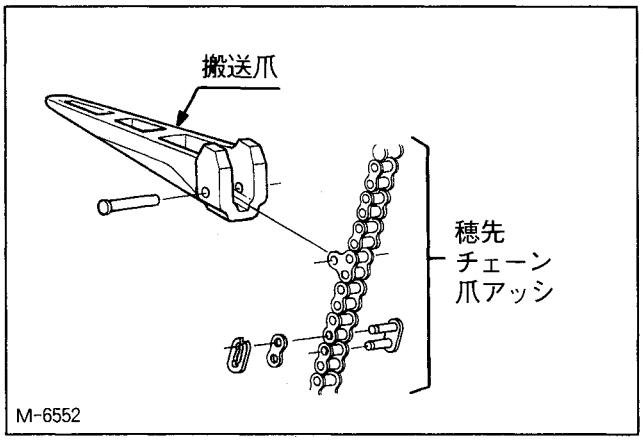
◆左穂先チェーン

重　要

＊チェーンが伸びて自動テンションがきかなくなったら、チェーン2リンク（25.4㎜）を外してください。

自動テンションになっています。



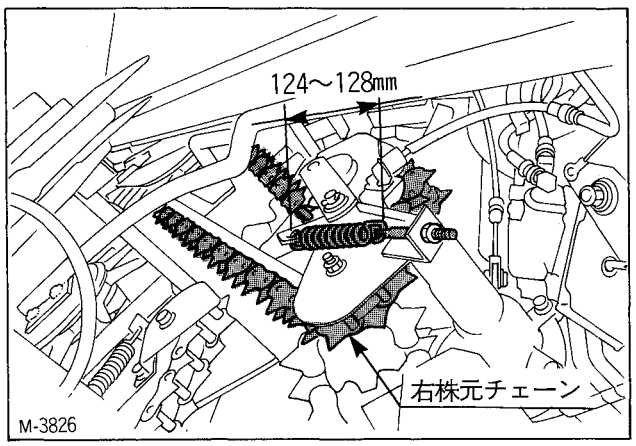


◆右株元チェーン

重　要

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン半コマ(33㎜)を外してください。

スプリング取付け長さ	124～128㎜

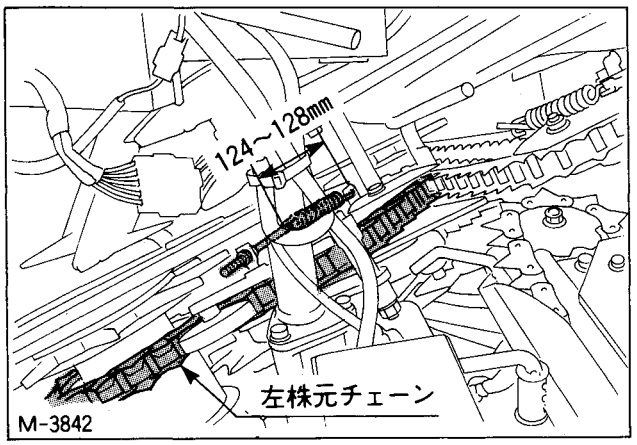


◆左株元チェーン

重　要

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン半コマ(33㎜)を外してください。

スプリング長さ	124～128㎜

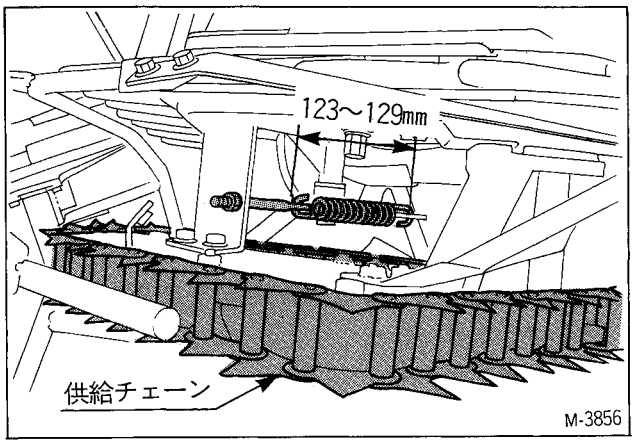


◆株元供給チェーン

重　要

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン半コマ(33㎜)を外してください。

スプリング取付け長さ	123～129㎜



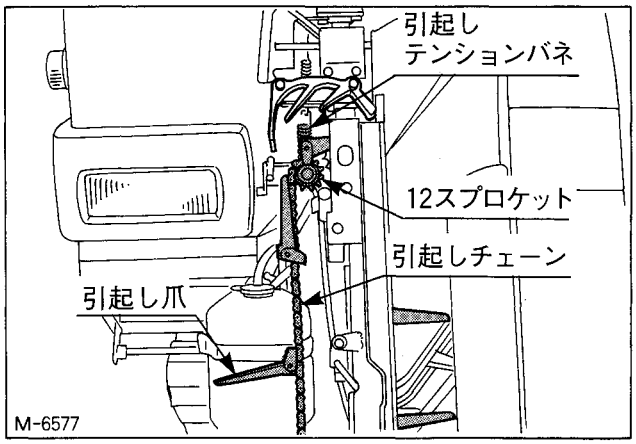
◆引起しチェーン

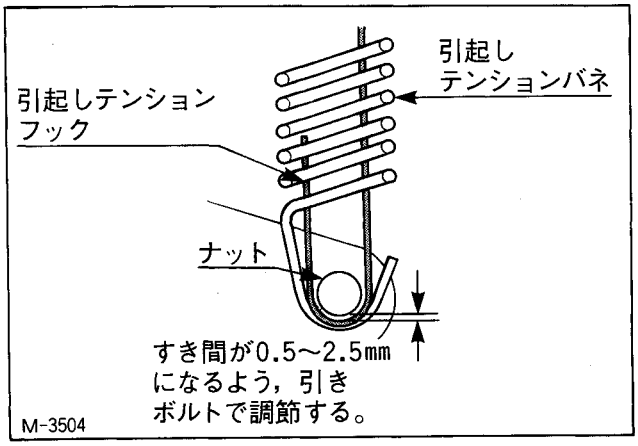
重 要

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン2リンク（25.4㎜）を外してください。

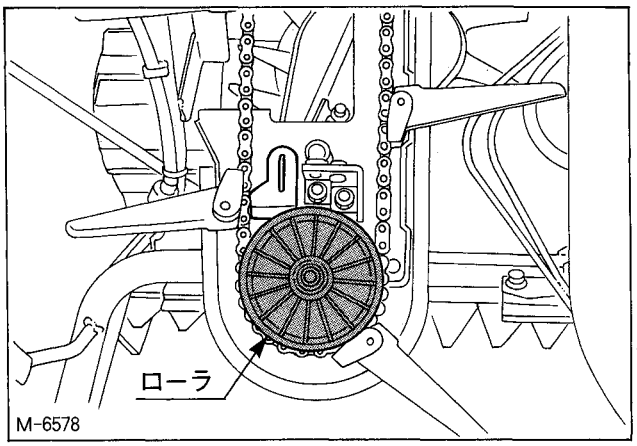
＊間違って組付けると，爪起立時，左右の爪が当り破損します。

すき間	0.5～2.5㎜

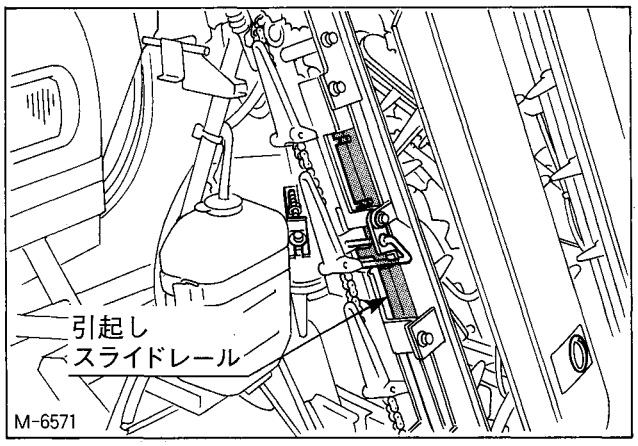




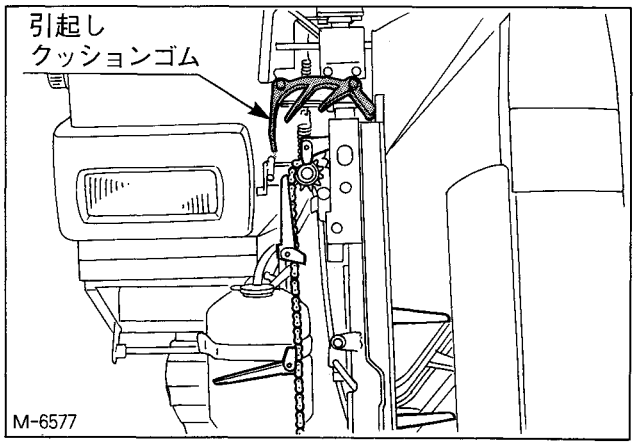
●引起しローラの交換



●引起しスライドレールの交換

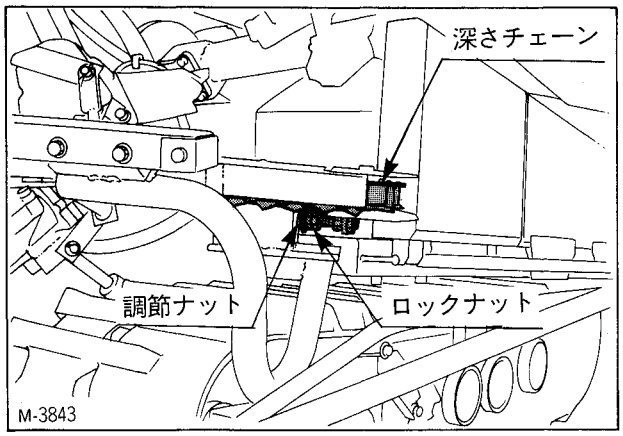


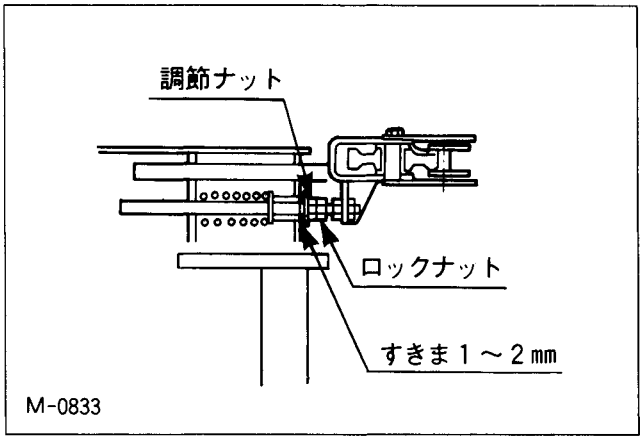
●引起しクッションゴム



◆深さチェーン

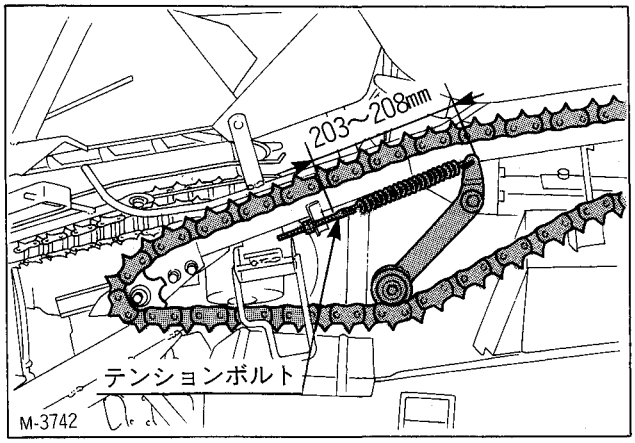
すき間	1～2㎜





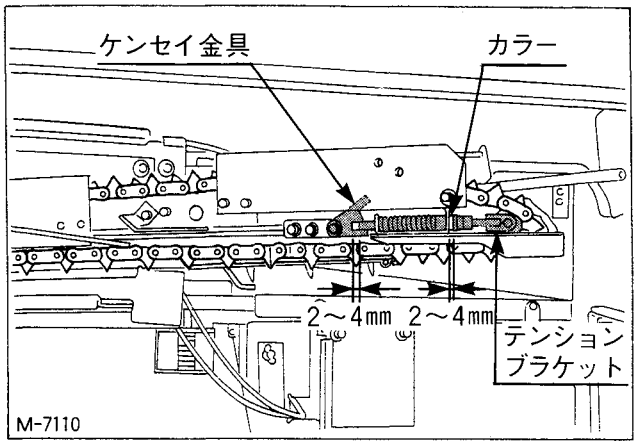
◆フィードチェーン

スプリング取付け長さ	203～208㎜



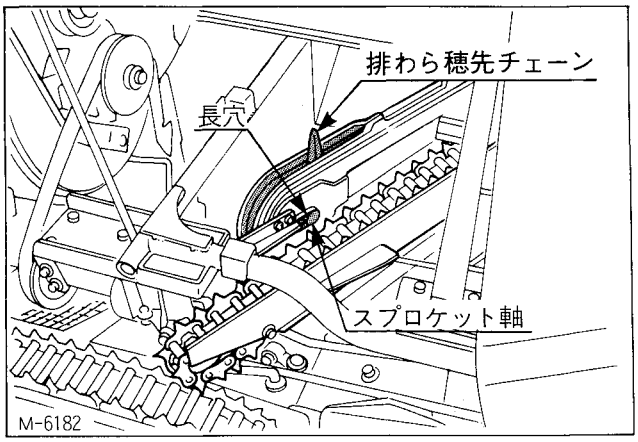
◆排わら株元チェーン

カラーの出代	2～4㎜
テンションブラケットと ケンセイ金具のすき間	2～4㎜



◆排わら穂先チェーン

スプロケット軸が長穴の端部まで動いたら自動テンションが効きません。チェーンの半コマを抜いてください。



■刈刃の調整・交換

注 意

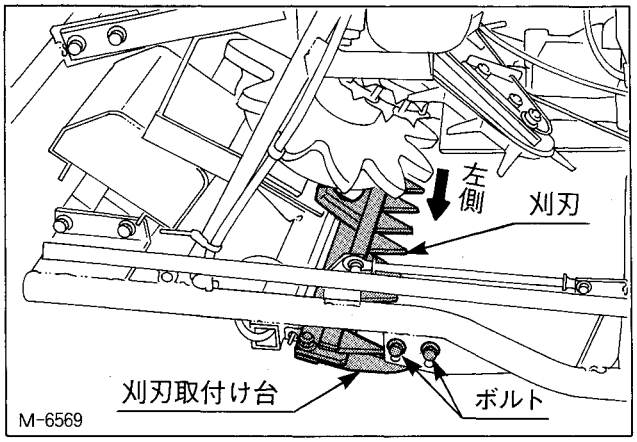
＊刈取部を上げて，刈取り下降ロック装置で刈取部の下降防止を行なってください。
＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊危険ですので，手袋をして，２人で刈刃の両端をもって，着脱作業をしてください。

重 要

＊刃が摩耗すると刈跡が見苦しくなったり，刈取り搬送姿勢が悪くなって無駄な動力を費やしますので，刈刃全体を交換してください。

◆刈刃の取外し

❶刈刃取付け台（左右）のボルトを外して，刈刃が垂直になるまで回動します。
❷左側に移動して，止めピンから外します。

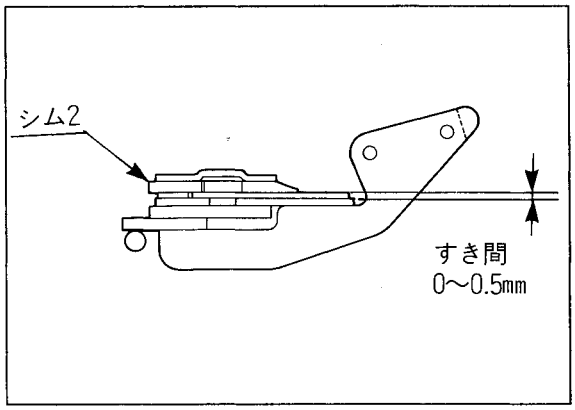


◆刈刃の取付け

❶刈刃を垂直にして，右側の止めピンから差し込み，中央・左側の順に穴に合せてから，刈刃全体を右側に移動させます。
❷刈刃取付け台の前を持上げ，左右のナイフヘッドとローラの位置を合せてから，ボルト穴まで持上げてください。

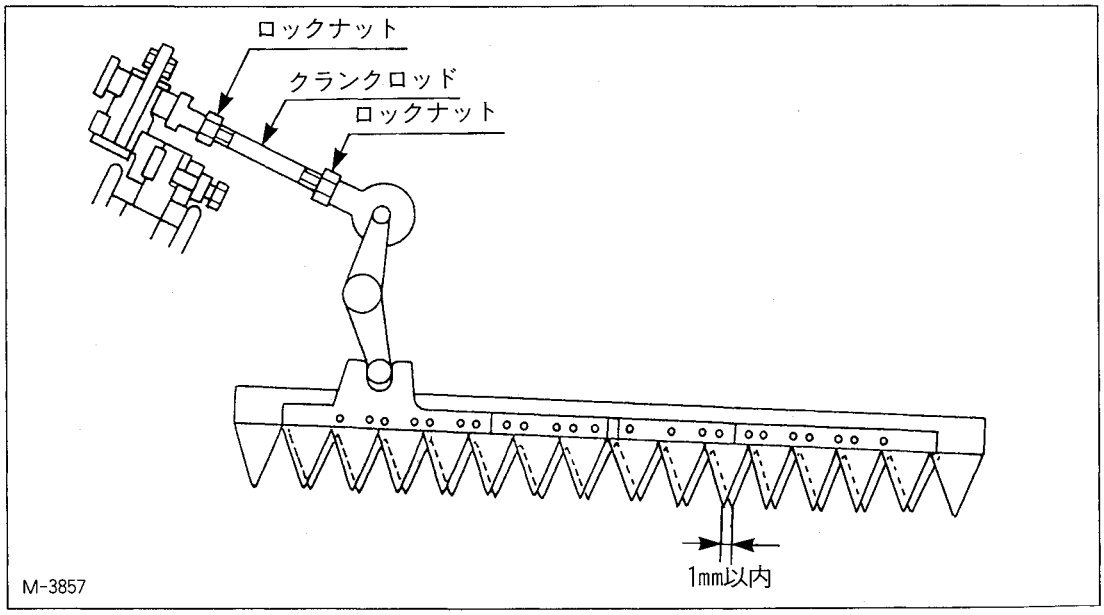
◆刈刃のすき間調整

❶受刃台からナイフクリップを取外します。
❷泥などを取除きます。
❸刈刃と受刃のすき間が０～0.5mmになるよう調整し，刈刃が手で動くようにしてください。（シム２の増減で調整します。）



◆刈刃クランクロッドの調整

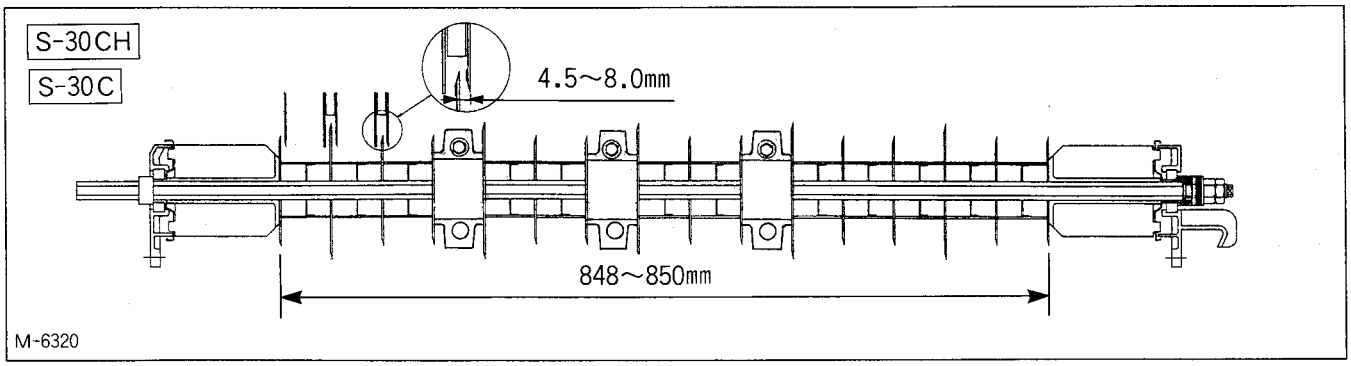
❶刈刃が最大移動するところで，刈取部の回転を停止します。
❷クランクロッドの左右のロックナット２個をゆるめます。（左・右ネジがあるので注意してください）
❸クランクロッドを回して，刈刃と受刃のセンタずれが１mm以内になるよう，調整してください。
❹ロックナットを締付けます。ネジロックを塗布してください。

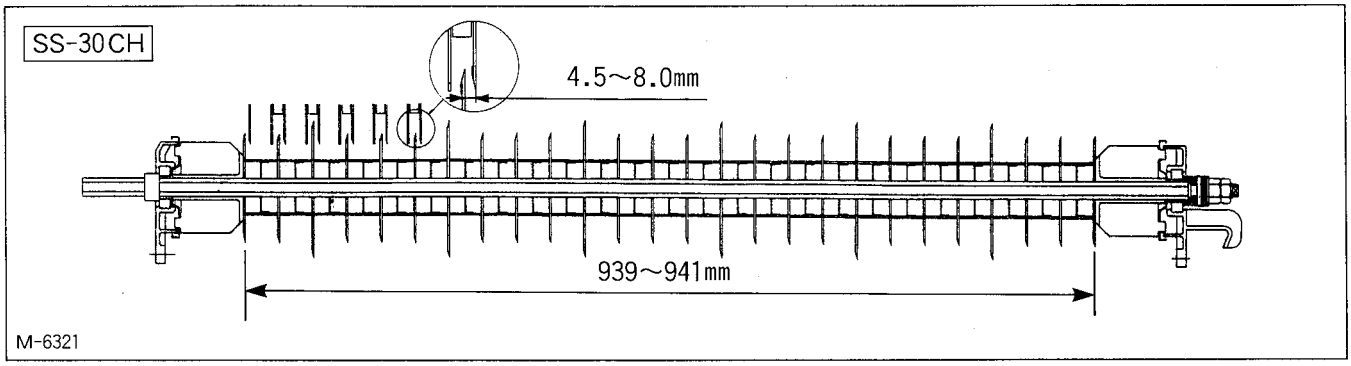


■カッタ刃の調整

警 告

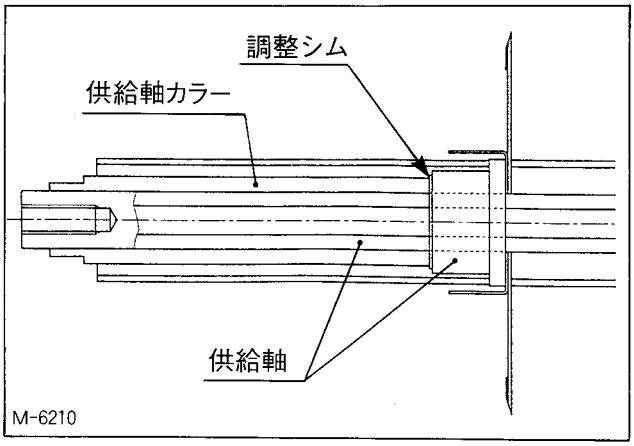
＊カッタ刃を調整するときは，エンジンを必ず止めてください。





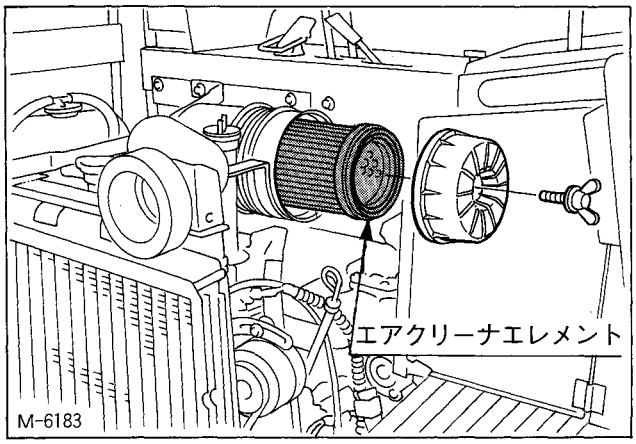
◆カッタ刃のすき間調整（4.5～8 mm）

供給軸カラーと供給軸の間に**“調整シム”**を適宜使用して，すき間を調整します。



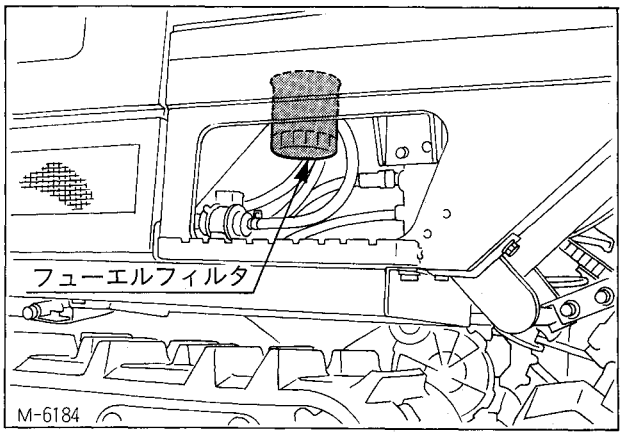
定期交換

■エアクリーナエレメントの交換



■フューエルフィルタの交換

フューエルフィルタのカートリッジは，400時間ごとに交換をしてください。
特に水又はゴミが混入した場合以外は，清掃の必要はありません。
新しいカートリッジを組付けたときは，パッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。

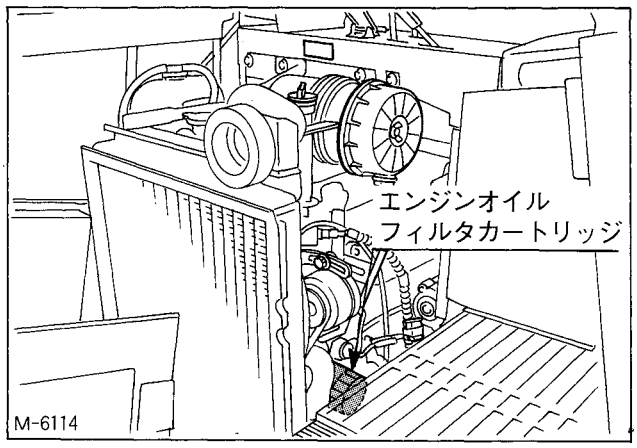


補　足

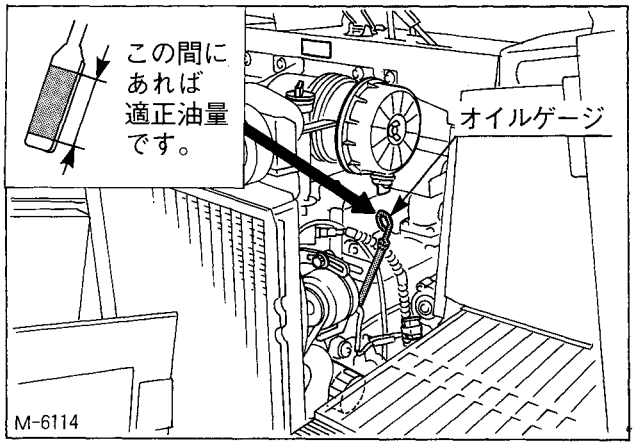
＊燃料内にチリやホコリなどが混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗します。
＊清掃は，燃料タンクを満杯にする前に行なってください。
＊交換後のエア抜きは自動で行なわれます。
メインスイッチを**“入”**にして５～10秒でエア抜きができます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

(1)200時間ごとに販売店・ＪＡ農協で，専用工具で交換してください。
(2)新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。

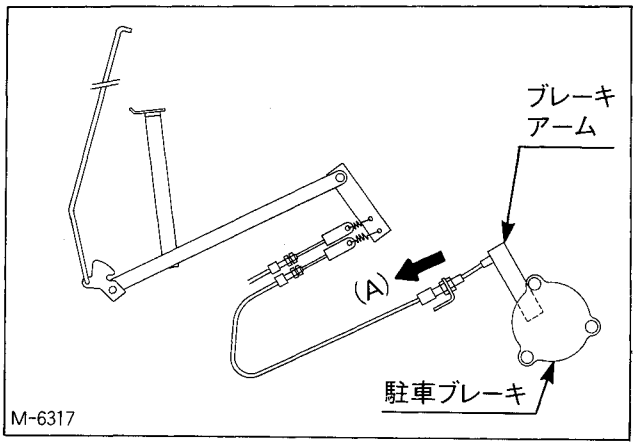


(3)オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。
オイルゲージの上の刻線までオイルを補給した後，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



■駐車ブレーキシューの交換

駐車ブレーキを交換するときは，ブレーキアームを（A）方向に手でいっぱい引っ張った状態でボルト（M8，3本）を締込んでください。

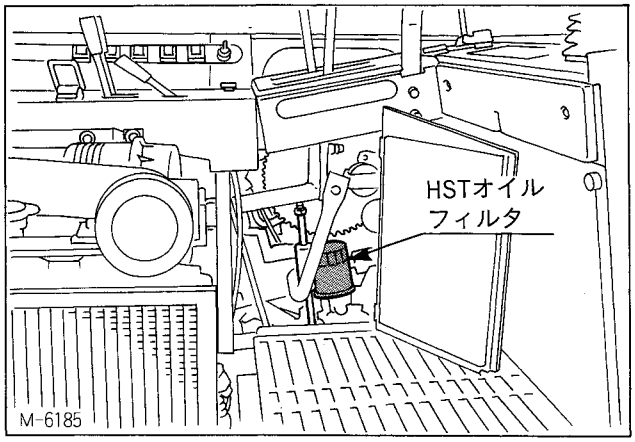


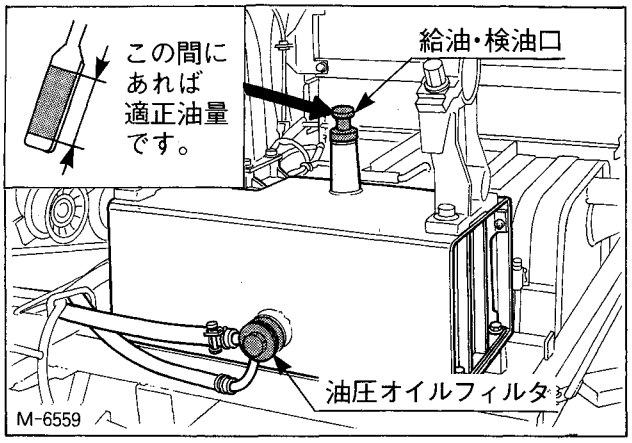
■HSTオイルフィルタ及び油圧オイルフィルタの交換

重　要

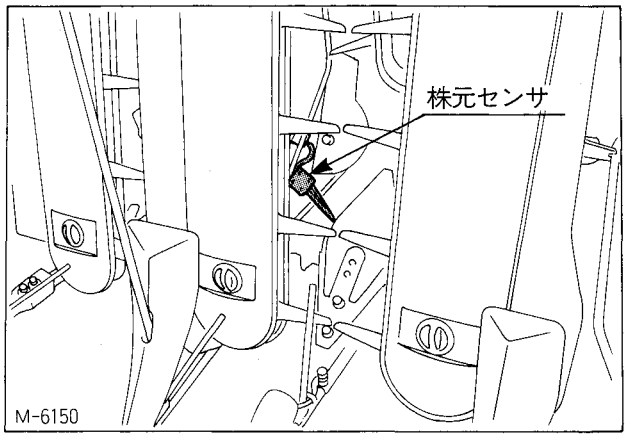
＊HST及び油圧オイルフィルタは，必ず指定品番のものをご使用ください。
＊カートリッジの交換時，オイルタンクのオイルも交換してください。

❶ドレーンプラグを抜いてタンク内のオイルを排油します。
❷オイルフィルタを外します。
❸新しいカートリッジをフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。（フィルタのガスケットにオイルを薄く塗る）
❹オイルフィルタは，最初は50時間使用後に，以後は300時間使用ごとに交換してください。

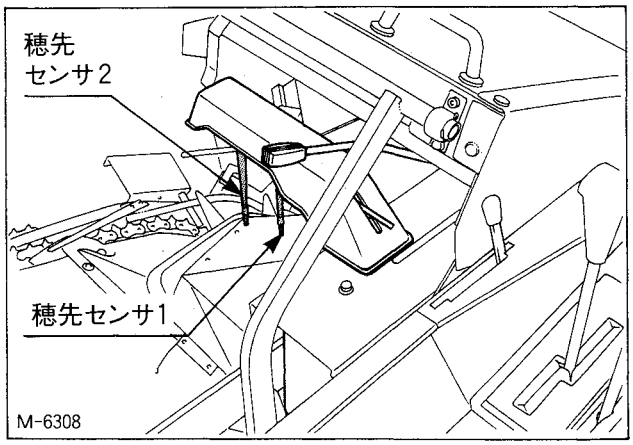




■株元センサの交換



■穂先センサ（１・２）の交換



■わら切刃の交換

注　意

＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。

＊危険ですので，手袋をして，着脱作業をしてください。

◆わら切刃の外し方

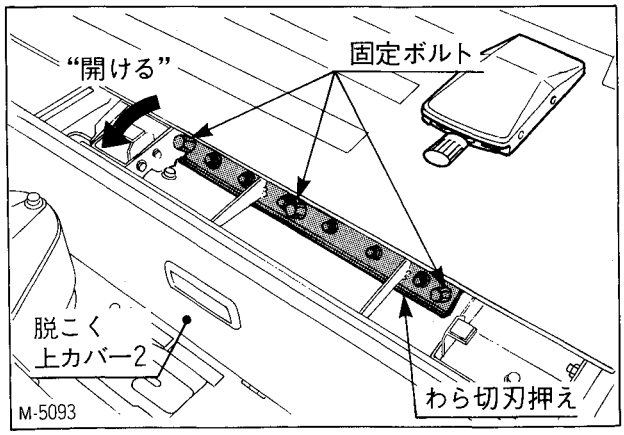
(1)穂先側わら切刃

❶わら作業切換えレバーを結束作業側にします。

❷脱こく上カバー２を開けます。

❸わら切刃押えの固定ボルト（３コ）を外します。

❹わら切刃押えを取出します。

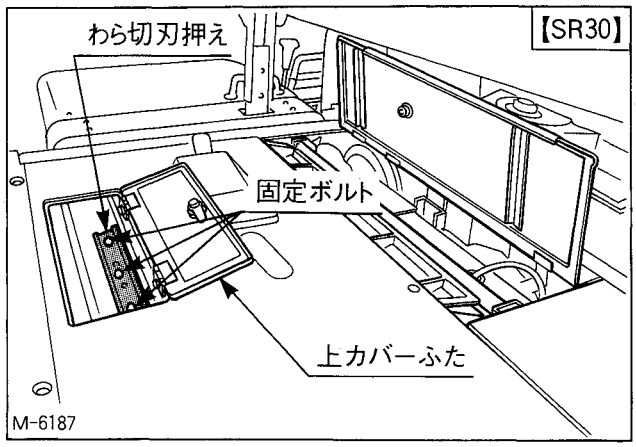


(2)株元側わら切刃【SR30】

❶上カバーふたを開けます。

❷わら切刃押えの固定ボルト（３コ）を外します。

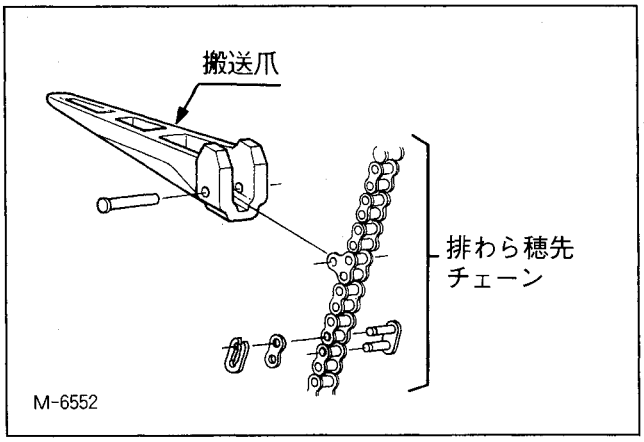
❸わら切刃押えを取出します。



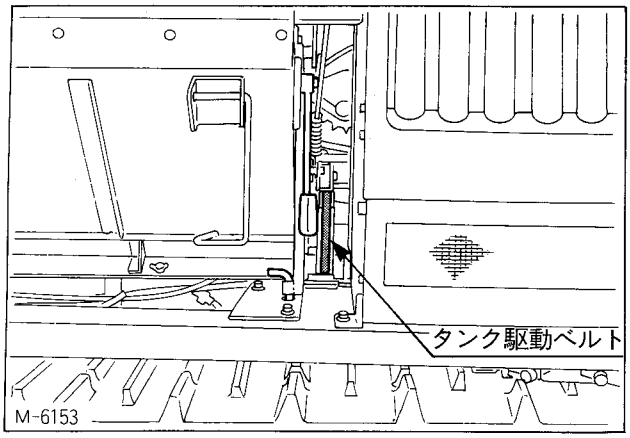
重　要

＊わら切刃を取付けるときは，取付方向を確認して，正しく取付けてください。

■排わら穂先搬送爪の交換



■グレンタンク駆動ベルトの交換【G仕様】



■アンローダスクリュ組付け時の注意事項【G仕様】

【水平部アンローダ】

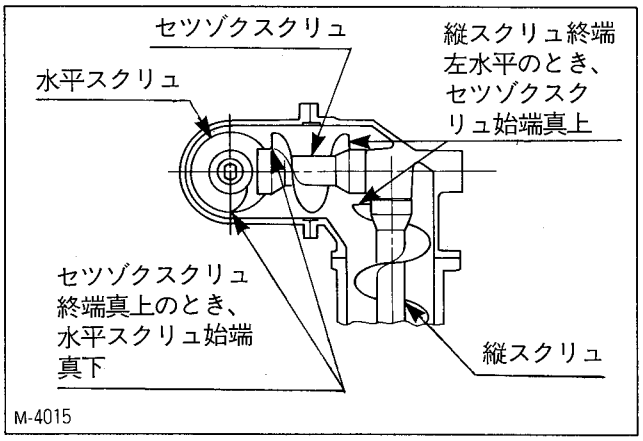
水平部アンローダを分解し，再度組付けするときは，スクリュの位置が下記の位置になるように組付けてください。（90°遅れた位置）

❶縦スクリュ終端部が左水平にくるようにセットします。（後方より見て左側）

❷セツゾクスクリュ始端部が真上になるように組付けます。（後方より見て向う側）

❸セツゾクスクリュ終端部が真上になるようにセットします。（後方より見て向う側）

❹横スクリュ始端部が真下になるように組付けます。



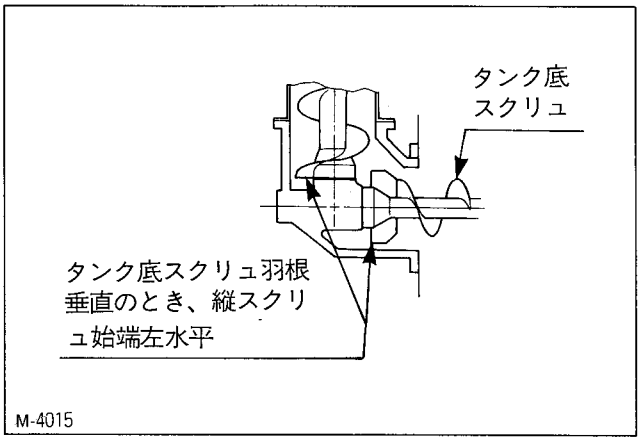
【グレンタンク底スクリュ】

グレンタンクの底スクリュを抜き，再度組付けするときは，スクリュの位置が下記の位置になるように組付けてください。（90°遅れた位置）

❶底スクリュ終端部が垂直になるようにセットします。

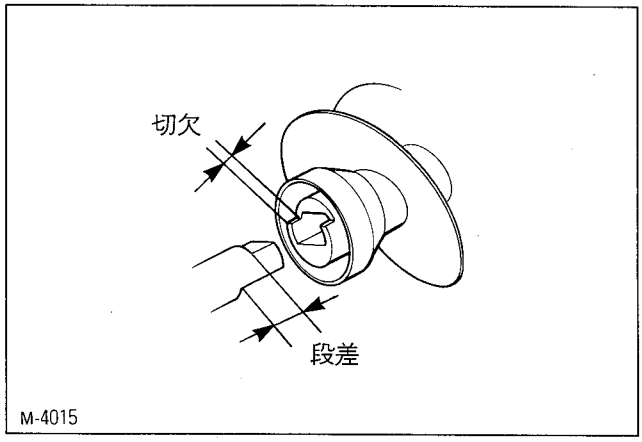
❷縦スクリュ始端部が左水平になるようにセットします。（側方より見て手前側）

❸上記の位置関係が狂わないように組付けてください。



補　足

● スクリュ軸の組付けは，穴側の切欠と軸側の段差を図のように合せてください。



■カッタ刃の交換のしかた

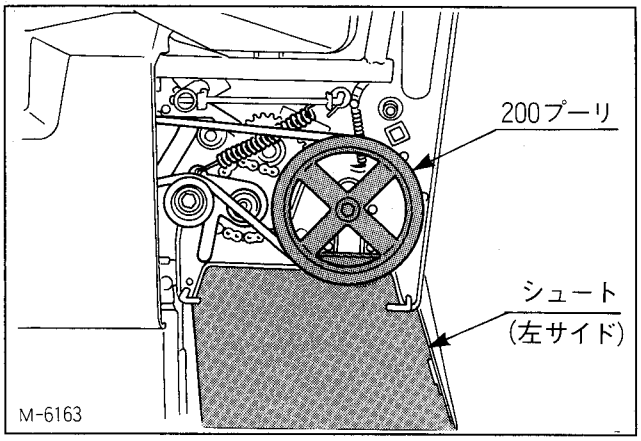
警　告

＊カッタ刃を交換するときは，エンジンを必ず止めてください。
＊手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。
＊切断軸完備を外すときは，２人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。

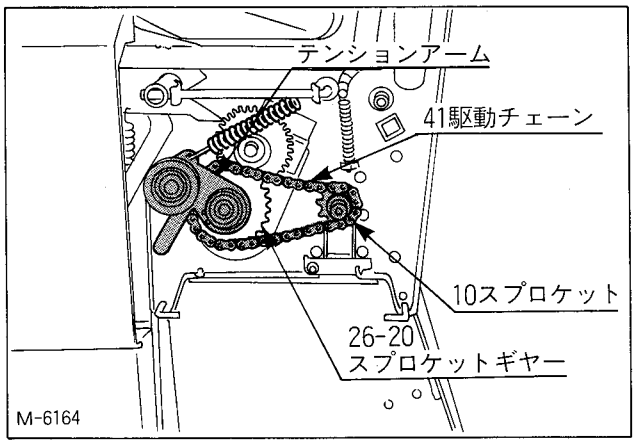
重　要

(1)軸の締付けトルクは，下記の通りです。確実に締付けてください。
締付けトルク　…　49～59N·m(500～600kgf・cm)
組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。
(2)軸を垂直に立てて組んでください。組付け後の軸振れが無くなります。
(3)刃の向き，組合せが逆にならないよう特に注意してください。
(4)組付け後，刃と刃が接触していないか軽く回して確かめてください。

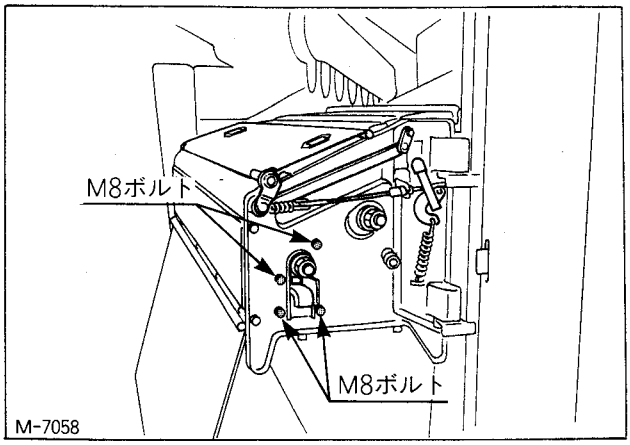
❶左サイドカバー・右サイドカバー（Ｍ６ボルト１個），左右サイドシュート（Ｍ６ボルト各２個）を外します。
❷カッタ駆動ベルトを外します。
❸200プーリを外します。（M10ボルト１個）



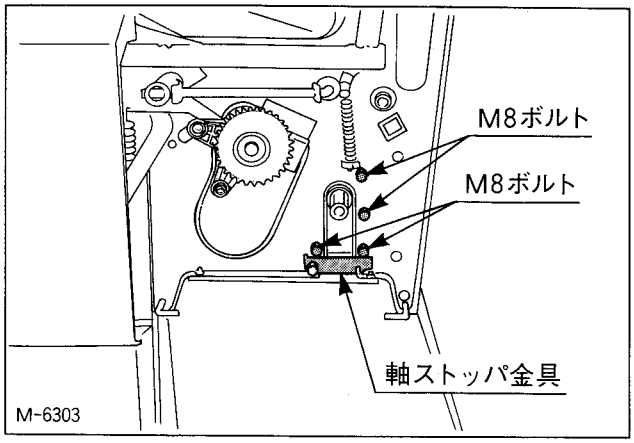
❹テンションアーム・カラー（15－12）を外します。（Ｍ６ボルト１個）
10スプロケット・26－20スプロケットギヤー・41駆動チェーンを外します。



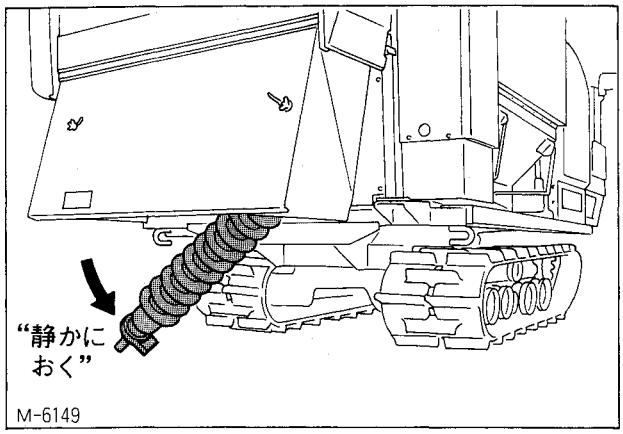
❺穂先側の軸受けのＭ８ボルトを先に外します。（Ｍ８ボルト４個）



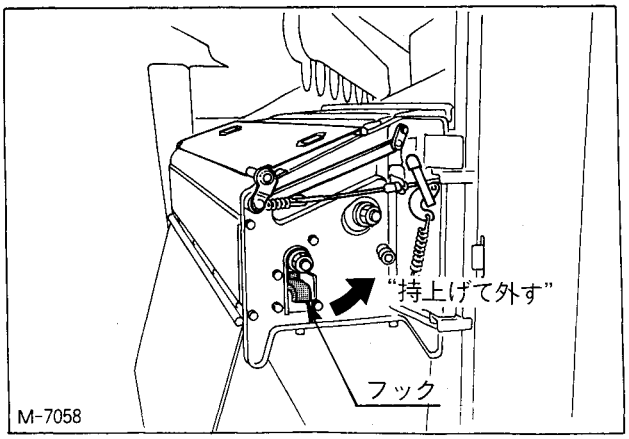
❻株元側（伝導側）の軸受けのＭ８ボルトを後で外します。（Ｍ８ボルト４個）



❼株元側の軸端を持ち，軸ストッパ金具を上にあげ，軸端を静かに地面におきます。

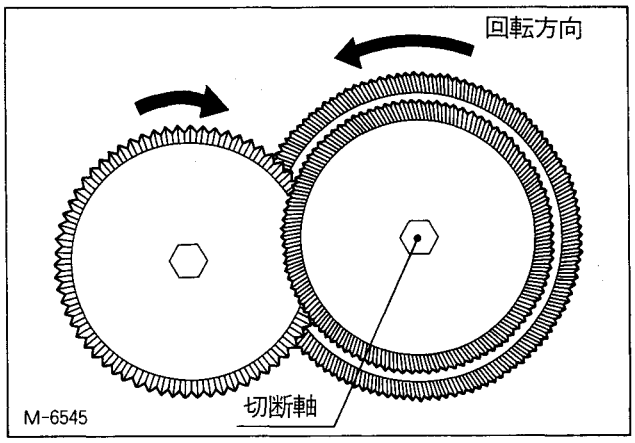


❽穂先側の軸受けフック部をフレームから外し，軸アッシを取出します。



❾軸アッシを安定した所に置き六角ナットをゆるめ，順に分解します。

❿刃の交換ができたら，分解した順序をまちがえないよう組立ててください。
なお，歯の向きと回転方向は下図のようになります。

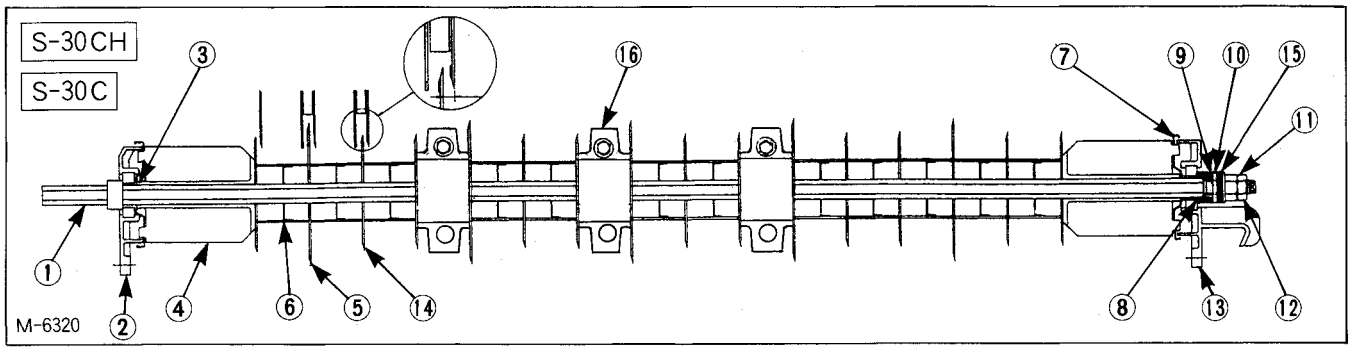


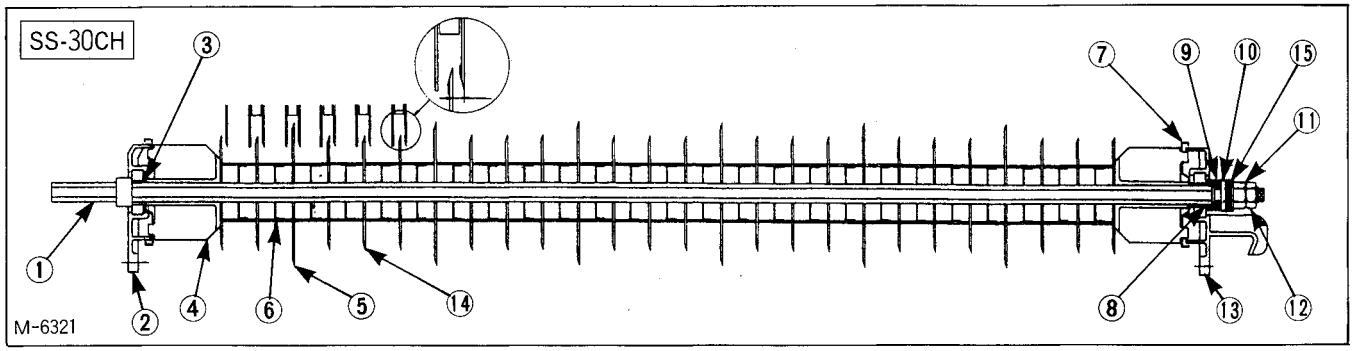
⓫刃の向き，切断刃と供給刃のすき間調整は，**“カッタ刃のすき間調整”**の項を参照してください。

補　足

＊このカッタには高耐久セラミック切断刃を使用していますので従来の切断刃に比べ耐久性が非常に優れています。

図番	品　番	品　　名	個　　数		
			S−30C	S−30CH	SS−30CH
①	57783-2111-4	セツダンジク	1	1	1
②	57783-2112-3	セツダンジクウケ　ヒダリ	1	1	1
③	57783-2118-0	ベアリングカラー　1	1	1	1
④	57783-2119-3	ハイシュツ　ハネ	2	2	—
	57793-2119-3	ハイシュツ　ハネ	—	—	2
⑤	57748-9111-1	セツダンバ　(150×17セラミック)	—	5	6
	57783-2121-1	150　セツダンバ	5	—	—
⑥	57748-2120-2	パイプ，コンプ（55）	15	15	—
	57738-2120-0	パイプ，コンプ（36）	—	—	25
⑦	57783-2115-0	カバー（ジクウケ）	1	2	2
⑧	57783-2124-2	32　スリーブ	1	1	1
⑨	57783-2125-2	スライド　スプリング	1	1	1
⑩	57783-2144-0	32－16.5　ヒラザガネ	1	1	1
⑪	57783-2126-0	M16サラバネツキナット	1	1	1
⑫	02052-50160	ナット	1	1	1
⑬	57783-2143-2	セツダンジクウケ　ミギ	1	1	1
⑭	57748-9112-1	セツダンバ（130×17セラミック）	—	11	20
	57784-2223-1	セツダンバ（130）	11	—	—
⑮	57781-5218-0	サラバネザガネ16	3	3	3
⑯	57784-2129-1	ハネ（Ø125カキダシ）	6	6	—





長期格納のしかた

■各部の清掃と補修

(1)各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
(2)各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。
(3)各回転部分や摩擦しゅう動部分には，じゅうぶん注油し，さびないよう配慮してください。
(4)各チェーンにもじゅうぶん注油して，さびないよう配慮してください。
(5)各部にこく粒やわらくずが残っていると，ネズミの巣になったり配線部をかじられて，次の年の作業にさしつかえますからきれいに取除いてください。
(6)塗料のはげた所には補修塗料を塗って，さびがでないようにしてください。

■ラジエータ冷却水

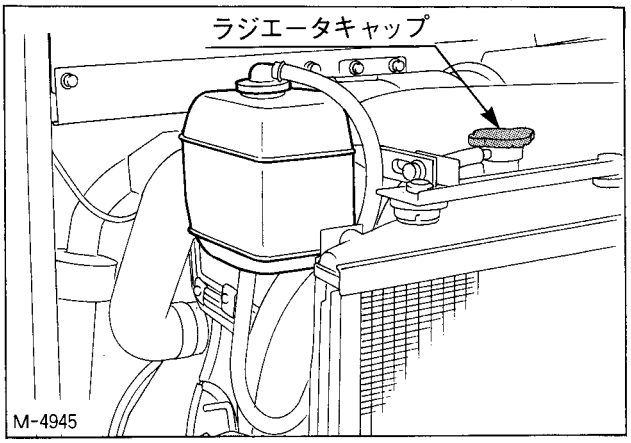
ラジエータの冷却水は冬期の凍結割れ防止のため，排水するか，不凍液（ロングライフクーラント）を水に混ぜて入れてください。冷却水を抜取るときは，次の要領で行なってください。

(1)冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも50％以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。
(2)不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
(3)不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
(4)クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

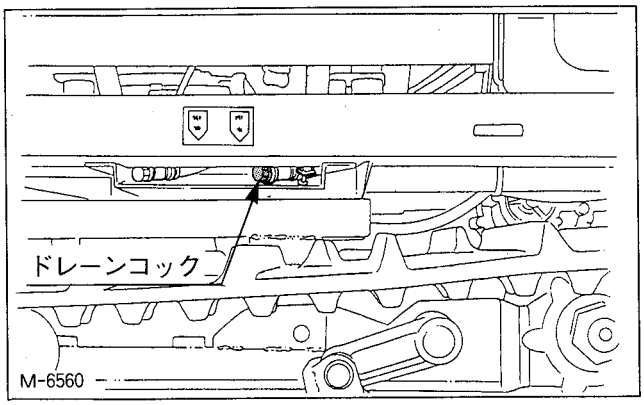
注　意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後メインスイッチ“入”で水温計が“C”の位置であることを確認してからにしてください。

❶ラジエータのキャップを開きます。



❷排水用ドレーンコックを開きます。



❸リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。
❹ドレーンコックは開いたままにし，キャップに**“水なし”**と書いた札をかけておきます。
❺排水・洗浄後，給水するときはドレーンコックを閉め，ラジエータをいっぱいにし，リザーブタンクに適量給水してください。

■バッテリ

危　険

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。希硫酸によってヤケドすることがあります。
＊バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊バッテリの取外し時には，エンジンを停止し，メインスイッチを“切”にしてください。

バッテリは機体から取外して，液を規定量にしてから充電し，直射日光の当たらない乾燥したところに保存してください。バッテリは保存中でも自然放電するので，夏は１カ月に１回，冬は２カ月に１回補充電する必要があります。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側（⊖側）を外してください。

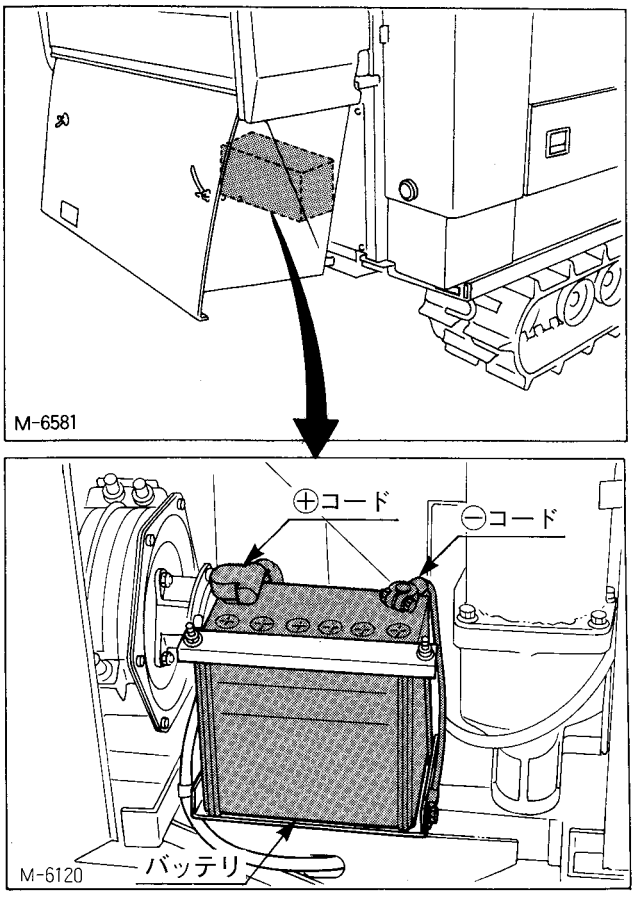
◆バッテリの取外し，取付け方法

(1)バッテリからコード線を外す場合は，必ず⊖側から外してください。逆にすると，工具などが接触したときショートします。

(2)バッテリを取付けるときは，⊕側を先に接続し，次に⊖側を接続してください。

(3)バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違うと，電気系統の故障の原因になります。

(4)指定外のバッテリは使用しないでください。
指定バッテリ：65D23-MF



(5)⊕⊖のコードを元どおりの配線にしてください。⊕コードは他部品の鋭利な角に触れないよう，確実に組付けてください。

■各種レバー類とその他

重 要

＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

(1)エンジンは，必ずアクセルレバーをいっぱい戻して止めておいてください。

(2)メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管してください。

(3)刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーは**“切”**にしておいてください。

(4)戸外におく場合は，雨水がかからないようにシートでおおっておいてください。

(5)麦/稲/濡れ切換えスイッチを**“稲”**にて脱こく機を回し，エンジンフル回転で脱こく機を止めてください。

(6)次の箇所にグリースを補充してください。
＊車体水平制御アーム軸受部**【M仕様】**
＊アンローダ部**【G仕様】**

使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは御買上げのＪＡ農協や販売店の修理工場に依頼してください。
結束部(ケッセツブカンビ)・電気系統

使用済廃棄物の処分について

機械の廃油や，使用後のフィルムなどの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。
機械から廃油を抜く場合は，容器に受けてください。地面へのたれ流しや川，沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・冷却水・ブレーキ液・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは，販売店，又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起こったら！

ページ

ビービーと断続ブザーが鳴る 111

ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる 112

エンジンがかからない 113

作物を刈取らずに押倒していく 114

作物を搬送しない，搬送姿勢が乱れる 115

刈りあとが悪い 116

こぎ残りがでる 116

モミの飛散が多い 117

2番処理ケースが詰まる 117

選別が悪い 118

カッタの切れわらが長くなった 119

チェックランプが点滅する 119

警 告

＊各部の調整，点検，交換などを行なうときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

注 意

＊各クラッチは，“切”にしてください。
＊エンジン始動時は合図をし，安全を確認してください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。またオーバヒートなどの高温時は，エンジンを停止し，30分以上経過するまでエンジンカバーを開けないでください。熱湯が噴出したり，高温部でヤケドするおそれがあります。
＊刈刃やカッタの清掃時は刃部に注意してください。
＊燃料やオイルがこぼれた場合は，火気に注意しきれいにふき取ってください。

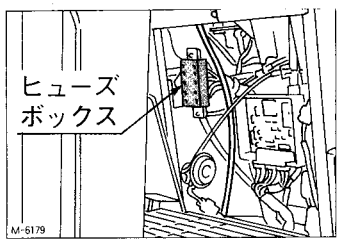
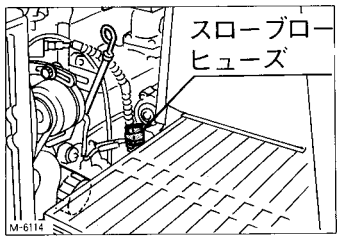
ビービーと断続ブザーが鳴る

すぐにすること			原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
＊イージーチェッカとレベルメータを見る。	負荷メータが点滅している。	減速する。	負荷がかかり過ぎている。	＊こぎ深さ調節レバー（自動のとき） ＊手動こぎ深さスイッチ（手動のとき）	＊こぎ深さ制御位置が適正か確認する。	36, 37ページ
				わら切刃	＊わら切刃が摩耗していないか点検し，摩耗しているときは交換する。	103ページ
				こぎ室送じん	＊こぎ室送じん調節を**“標準”**又は**“開”**にする。	52ページ
	もみメータが点滅している。	刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを**“切”**にする。	ホッパ又はグレンタンクが満杯。	グレンタンク もみ袋	＊もみを排出する。 ＊もみ袋を交換する。	55～58ページ
	２番ランプが点滅している。		２番処理ケースが詰まっている。	２番処理ケース	＊ケース内及び筒の中のもみ・わらを取除く。	78, 79ページ
	シーブメータが点滅している。		シーブ上に詰まりが発生している。	シーブケース	＊チャフシーブ・受けあみを清掃する。	73~75ページ
	こぎ深さ警報ランプが点滅している。		こぎ深さセンサ部に浮わら・雑草がからんでいる。	こぎ深さセンサ	＊浮わら・雑草を取除く。	――
	水温ランプが点滅している。 ＊水温計がHの位置にある。		冷却水の温度が上がりすぎている。	冷却水	＊冷却水の有無・漏れの点検をする。	18ページ
				ファンベルト	＊ゆるみ損傷がないか点検する。	87ページ
				防じんカバー ラジエータ オイルクーラフィン	＊泥やゴミが付着していれば取除く。	88ページ

ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる

すぐにすること		原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，イージーチェッカをみる。 ＊刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを“切”にする。	わら詰ランプが点滅している。	排わら搬送チェーンが詰まっている。	搬送部	＊搬送部（フィードチェーン，排わらチェーンのバトンタッチ部・カッタの入口部）にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。 ＊フィードチェーンの詰まりは，こぎ胴をオープンして取除く。	68, 69ページ
		カッタ部が詰まっている。	カッタ部	＊カッタの刃が摩耗していないか点検し，摩耗している場合は交換する。	105ページ
		結束作業において，ビルにひもが巻付いているか又はひも切れ，ひもがなくなっている。	結節部 結束ひも	＊結節部にひも，わらなどが巻付いていないか点検し，巻付いていれば取除く。 ＊ひもがなければ補充する。	――
		結束部が詰まっている。	結束部	＊結束部にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。	――

エンジンがかからない

すぐにすること	原因		点検箇所	処置	参照ページ
＊メインスイッチを“切”の位置にする。	セルモータは回る	燃料がない。	燃料ゲージ	＊燃料があるか点検し，ない場合は補給する。（**火気厳禁**）	18ページ
		フューエルフィルタ	フューエルフィルタ	＊フューエルフィルタの目詰まりがないか点検し，洗浄する。 ＊フューエルパイプの折れ，破損を点検し，異常があれば交換する。	101ページ
		燃料の種類	燃料の種類	＊ディーゼル軽油を補給する。	18ページ
	セルモータが回らない	主変速レバーが“**停止**”になっていない。	主変速レバー	＊主変速レバーを“**停止**”にする。 （主変速レバーを“**停止**”にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しない構造になっています。）	24ページ
		脱こくクラッチレバーが“**切**”になっていない。	脱こくクラッチレバー	＊脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 （脱こくクラッチレバーを“**切**”にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しない構造になっています。）	——
		バッテリが上がっている。	バッテリ (ホーンの音が小さい)	＊補充電する。 ＊バッテリ液を点検し，不足の場合は市販のバッテリ精製水を補給する。	81ページ
		ヒューズ・スローブローヒューズが切れている。	ヒューズボックス スローブローヒューズ	＊点検し，切れている場合は予備ヒューズと取替える。（**アンペア数に注意**） （スローブローヒューズはエンジンルームのオイルゲージ付近にあります。）  	92ページ

作物を刈取らずに押倒していく

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーを切る。 ＊必ずエンジンを止める。 **重　要** ＊株の抜けた作物は，根をカマで切り，直接脱こく機のフィードチェーンに供給してください。	刈刃や搬送部に根・株・泥・石や木片などの異物がかみ込んでいる。	刈刃部	＊異物を取除き，刈刃部を点検する。	――
		搬送部	＊異物を取除き，周辺を点検する。	――
	刈取り駆動ベルトがスリップしている。	刈取り駆動ベルト 刈取りクラッチ （オートクラッチがついていますので，刈取部を下げて点検する。）	＊刈取りクラッチを張る。	89ページ
	株の引抜きにより，搬送詰まりしている。	自動車体水平制御装置	**〔自動の場合〕** ＊刈取りフレームが地面に平行になるよう，傾斜角調節ダイヤルにより修正する。 **〔手動の場合〕** ＊手動操作レバーで，修正する。	39, 40ページ
		デバイダ	＊デバイダの先端が同じ高さになるよう調節する。	47, 48ページ
		作業速度	＊倒伏ほ場での作業速度は，デバイダが株に突込まないよう，操作のできる適正な速度で刈取ってください。	47, 48ページ

作物を搬送しない，搬送姿勢が乱れる

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーを切る。 ＊必ずエンジンを止める。	チェーンや突起付ベルトがゆるんでいる。	チェーンのテンション 突起付ベルト	＊適正な張り調整を行なう。	94~98ページ
	こぎ深さ調節が適正でない。	＊自動こぎ深さ制御装置(自動のとき) ＊手動こぎ深さスイッチ(手動のとき)	＊こぎ深さ調節レバーを調整して，脱こく供給口の**“こぎ深さ指示（▼）マーク”**に穂先が合うように調節する。 （作業中確認してください。）	36,37ページ
	引起し部で搬送姿勢が乱れる。	引起し変速レバー 副変速レバー	＊引起し変速レバー，副変速レバーを切換える。	8,48ページ
		スライドレール	＊引起しフレームのスライドレールを調整する。	47ページ
	低速作業で搬送姿勢が乱れる。	副変速レバー	＊通常は**“標準”**で作業しますが，あぜぎわ刈りなどで低速(0.1～0.3m/秒)での作業時，フィードチェーンで株元が引っ張られる場合は，副変速レバー**“倒伏”**で作業してください。	8,48ページ

刈りあとが悪い

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチ・脱こくクラッチを切る。 ＊必ずエンジンを止める。	刈刃部に土・草がたまっている。	刈刃部	＊取除く。	―
	刈刃が浮き上がっている。	刈刃部	＊刈刃と受刃のすき間を調節する。	99ページ
	刈刃が刃こぼれ又は折れている。	刈刃部	＊刈刃を交換する。	99ページ

こぎ残りがでる

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止し，搬送部にある作物を流しきる。	こぎ深さが浅い。	＊こぎ深さ調節レバー（自動のとき） ＊手動こぎ深さスイッチ（手動のとき）	＊こぎ深さ制御位置調節レバーで，脱こく機入口の**“こぎ深さ指示（▼）マーク”**の位置に穂先を合せる。	36, 37ページ
	エンジンの回転数が低い。	回転計	＊回転を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	51ページ
	こぎ胴の回転数が低い。	脱こくクラッチのテンションスプリング こぎ胴のテンションスプリング	＊表をみてテンションを張る。	93ページ

モミの飛散が多い

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，搬送部にある作物を流しきる。	エンジン回転数が高い。	回転計	＊回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	51ページ
	こぎ室送じん調節が開きすぎ。	こぎ室送じん調節	＊こぎ室送じん調節を**“標準”**又は**“閉”**の方へ調節する。	51ページ
	脱こく制御の調節が不適当。	麦／稲／濡れ切換えスイッチ チャフ調節ダイヤル	＊麦／稲／濡れ切換えスイッチを作物の状態に合せる。 ＊チャフ調節ダイヤルを**“開”**の方へ調節する。	41ページ
	排じん調節板が**“下”**になっている。	排じん調節板	＊排じん調節板を**“標準”**又は**“上”**の位置に調節する。	53ページ
	＊トウミ調節が強すぎる。　**【D2仕様】** ＊チャフ(選別板のすきま)調節を閉めすぎる　**【D2仕様】**	＊トウミ調節レバー ＊チャフ(選別板のすきま)調節レバー	＊トウミ調節レバーを**“標準”**又は**“弱”**の方に調節する。 ＊チャフ調節レバーを**“標準”**又は**“高能率”**の方に調節する。	52ページ

２番処理ケースが詰まる

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊脱こくクラッチを切って，エンジンを止める。	２番処理ケースに異物かみこみ。	２番処理ケース	＊ツース（固定歯）を開けて異物を取除く。	78ページ
	２番スクリュの回転数が不足。	ベルトの張り	＊表を見て，テンションを張る。	93ページ

選別が悪い

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
[稲] ＊小枝梗が多い。 ＊穂切が多い。 [麦] ＊のげが取れない。 ＊稈が取れない。 (脱皮しない)	エンジン回転数が低い。 こぎ室送じん調節が開きすぎ。	回転計 こぎ室送じん調節	＊回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。 ＊こぎ室送じん調節を**“標準”**又は**“閉”**の方向へ調節する。	51ページ 51ページ
[稲・麦] 切わら・ごみが入る。	エンジン回転数が低い。 チャフ調節が開きすぎている。 トウミ調節が弱すぎる。 **【D2仕様】**	回転計 チャフ調節ダイヤル チャフ調節レバー **【D2仕様】** トウミ調節レバー	＊回転計を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。 ＊チャフ調節ダイヤルを**“閉”**の方向へ調節する。 ＊チャフ調節レバーを**“標準”**又は**“高能率”**の反対側の方へ調節する。 ＊トウミ調節レバーを**“標準”**又は**“強”**の方に調節する。	51ページ 41ページ 52ページ 52ページ
	シーブケースの１番流し板部のハンプが正しく組込まれていない。	シーブケースの１番流し板のハンプ	＊シーブケースの１番流し板部のハンプを正しくセットする。	73~75ページ
[稲・麦] こく粒の傷みが多い。	エンジン回転数が高い。 こぎ室送じん調節が閉めすぎ。	回転計 こぎ室送じん調節	＊回転計をみながらアクセルレバーで，指針を緑目盛の最下限に合せる。 ＊こぎ室送じん調節を**“開”**の方向へ調節する。	51ページ 51ページ

カッタの切れわらが長くなった

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業をやめ，エンジンを必ず止める。	カッタの刃が切れない。	カッタの刃	＊カッタ刃が摩耗していないか点検し，摩耗している場合は交換する。	105ページ
	こぎ深さが深くなりすぎている。	＊こぎ深さ調節レバー（自動のとき） ＊手動こぎ深さスイッチ（手動のとき）	＊こぎ深さ調節レバーで脱こく機入口の**“こぎ深さ指示(▼)マーク”**の指示の位置に穂先を合せる。	36, 37ページ
	カッタ刃のすき間が広い。	刃のすき間	＊すき間の調節	100ページ

チェックランプが点滅する

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバーを切る。 ＊必ずエンジンを止める。	＊自動装置の異常（チェックランプ）	―	＊販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。	―

付　表

主要諸元

農機型式名			クボタR9506		クボタR9506G						
商品名			S R 25(ホッパ仕様)		S R 25G(グレンタンク仕様)						
区分		W	SDW	SDMW	D2W	DW	HDW	SD(T)W	DMW	HDMW	SDM(T)W
		LW	—	—	—	DLW	HDLW	SDL(T)W	DMLW	HDMLW	SDML(T)W
機体寸法	全長(mm)		3780								
	全幅(mm)		1690								
	全高(mm)		1770		1990						
	質量(kg)	W	1540	1680	1690				1830		
		LW	—	—	1710				1850		
エンジン	名称		V1505-C-2								
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル								
	総排気量L(cc)		1.498（1498）								
	出力/回転速度 kW(PS)/min^{-1}(rpm)		18.4 (25) / 2400								
	使用燃料／タンク容量 (L)		ディーゼル軽油 / 32								
走行部	クローラ中心距離(mm)	W	935								
		LW	935								
	クローラ幅×接地長(mm)	W	420×1205	420×1300	420×1205				420×1300		
		LW	–	–	–	420×1430			420×1480		
	平均接地圧 KPa(kgf/cm^2)	W	14.9 (0.15)	15.1 (0.15)	16.4 (0.17)				16.4 (0.17)		
		LW	–	–	–	14.0 (0.14)			14.6 (0.15)		
	最低地上高(mm)		180	180～310	180					180～310	
	変速方式		スカイロードマチックHST								
	変速段数		前進無段（副変速３）・後進無段（副変速３）								
	走行速度(m/s)	前進	倒0～0.59，標0～0.95，走0～2.02								
		後進	倒0～0.59，標0～0.95，走0～2.02								
	旋回方式		ブレーキ（スピン，ソフト）								
刈取部	刈幅(mm)		1170～1220								
	刈取り条数(条)		3								
	刈刃幅(mm)		1150								
	適応作物範囲(全長)(mm)		550～1300								
	倒伏適応性(度)		追刈り：85度以下・向刈り：70度以下								
	変速段数(刈取り・引起し)		走行副変速同調２段＋引起し２段								
脱こく部	脱こく方式		下こぎ，単胴，軸流式								
	こぎ胴	径×幅(mm)	ø424×600								
		回転数 min^{-1}(rpm)	480（480）								
	処理胴 径×幅(mm)		ø250×106 (ツースバー処理方式)								
	処理胴 (2) 径×幅(mm)		——								
	２番還元		スクリュ方式								
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引・ストローラック方式								
メンテナンス			こぎ室受あみ工具なし脱着，１番・２番受樋オープン，こぎ胴オープン，カッタオープン，刈刃オープン，エンジンルームオープン，わら切刃カセット交換，シーブケーススライド脱着								

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタR9506		クボタR9506G						
商品名			S R 25 (ホッパ仕様)		S R 25G (グレンタンク仕様)						
区分		W	SDW	SDMW	D2W	DW	HDW	SD(T)W	DMW	HDMW	SDM(T)W
		L W	—	—	—	DLMW	HDLW	SDL(T)W	DMLW	HDMLW	SDML(T)W
こく粒取出し部	タンク容量 (L)(袋)		720(約15)								
	排出方式·旋回範囲 (度)		アンローダ・300								
	排出時間 (秒)		85								
	排出昇降範囲 (度)		45								
	アンローダ	旋回方式	電動モータ								
		昇降方式	油圧								
	タンクフルオープン		○								
	ホッパ容量 (口数×袋)		3 × 4								
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機　又は，●カッタ＋ドロッパ カッタ切断長さ： 35／150mm切換え式(D2仕様除く)　又は，50／150mm切換え式(全仕様) 又は，50mm(D2仕様のみ) 切断刃：標準切断刃（D2,D,DM仕様）　セラミック切断刃（D2,D,DM仕様以外）								
	オプション		●35㎜切断カッタ　●50㎜切断カッタ　●35/150㎜切換え式カッタ　●50/150㎜切換え式カッタ （カッタ刃は，標準カッタ刃／セラミックカッタ刃あり）　●集束ドロッパ ●ドロッパ　●標準結束機　●ストンパ結束機　●単体標準結束機　●単体ストンパ結束機								
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動脱こく制御	○	○	×	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	×	×	○	○	×	○	○
		自動方向制御	○	○	×	×	×	○	×	×	○
		自動刈高さ制御	○	○	×	×	×	○	×	×	○
		自動車体水平制御	×	○	×	×	×	×	○	○	○
		自動減速	○	○	×	×	○	○	×	○	○
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		アンローダ自動旋回制御	×	×	○	○	○	○	○	○	○
		排出位置選択	×	×	×	×	○	○	×	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	×	×	×	○	×	×	○
	ポジピタスイッチ		○	○	×	×	×	○	×	×	○
	バイブロシャッタ(手動)		×	×	×	×	○	○	×	○	○
	刈取り防じんカバー		○	○	×	×	×	○	×	×	○
	集中注油装置 (電動)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	警報装置		負荷表示，油圧チャージ，２番詰まり，こぎ深さ， チャフ詰まり警報，もみ満杯，排わら詰まり，水温								
	作業能率 (分/10a)		21～40								

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタR9507		クボタR9507G					
商品名			S R 30(ホッパ仕様)		S R 30G(グレンタンク仕様)					
区分		W	SDW	SDMW	DW	HDW	SD(T)W	DMW	HDMW	SDM(T)W
		LW	—	—	DLW	HDLW	SDL(T)W	DMLW	HDMLW	SDML(T)W
機体寸法	全長(mm)		3880							
	全幅(mm)		1690							
	全高(mm)		1770		1990					
	質量(kg)	W	1580	1720	1730			1870		
		LW	—	—	1750			1890		
エンジン	名称		V1505-C-3							
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル							
	総排気量 L(cc)		1.498（1498）							
	出力/回転速度 kW(PS)/min^{-1}(rpm)		22.1 (30) / 2800							
	使用燃料／タンク容量(L)		ディーゼル軽油/ 32							
走行部	クローラ中心距離(mm)	W	935							
		LW	935							
	クローラ幅×接地長(mm)	W	420×1205	420×1300	420×1205			420×1300		
		LW	—	—	420×1430			420×1480		
	平均接地圧 KPa(kgf/cm^2)	W	15.3 (0.16)	15.4 (0.16)	16.8 (0.17)			16.8 (0.17)		
		LW	–	–	14.3 (0.14)			14.9 (0.15)		
	最低地上高(mm)		180	180～310	180				180～310	
	変速方式		スカイロードマチックHST							
	変速段数		前進無段（副変速３）・後進無段（副変速３）							
	走行速度(m/s)	前進	倒0～0.75，標0～1.20，走0～2.55							
		後進	倒0～0.75，標0～1.20，走0～2.55							
	旋回方式		ブレーキ（スピン，ソフト）							
刈取部	刈幅(mm)		1170～1220							
	刈取り条数(条)		3							
	刈刃幅(mm)		1150							
	適応作物範囲(全長)(mm)		550～1300							
	倒伏適応性(度)		追刈り：85度以下・向刈り：70度以下							
	変速段数(刈取り・引起し)		走行副変速同調２段＋引起し２段							
脱こく部	脱こく方式		下こぎ，単胴，軸流式							
	こぎ胴	径×幅(mm)	ø 424×600							
		回転数 min^{-1}(rpm)	506（506）							
	処理胴 径×幅(mm)		ø 250×106 (ツースバー処理方式)							
	処理胴 (2) 径×幅(mm)		ø 140×490 (拡散胴)							
	２番還元		スクリュ方式							
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引・ストローラック方式							
メンテナンス			こぎ室受あみ工具なし脱着，１番・２番受樋オープン，こぎ胴オープン，カッタオープン，刈刃オープン，エンジンルームオープン，わら切刃カセット交換，シーブケーススライド脱着							

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタR9507		クボタR9507G					
商品名			S R 30 (ホッパ仕様)		S R 30G (グレンタンク仕様)					
区分		W	SDW	SDMW	DW	HDW	SD(T)W	DMW	HDMW	SDM(T)W
		L W	—	—	DLW	HDLW	SDL(T)W	DMLW	HDMLW	SDML(T)W
こく粒取出し部	タンク容量 (L)(袋)		850(約17)							
	排出方式·旋回範囲 (度)		アンローダ・300							
	排出時間 (秒)		100							
	排出昇降範囲 (度)		45							
	アンローダ	旋回方式	電動モータ							
		昇降方式	油圧							
	タンクフルオープン		○							
	ホッパ容量 (口数×袋)		3 + 4							
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機　又は，●カッタ＋ドロッパ カッタ切断長さ：35／150mm切換え式　又は，50／150mm切換え式 切断刃：セラミック切断刃							
	オプション		●35㎜切断カッタ　●50㎜切断カッタ　●35/150㎜切換え式カッタ　●50/150㎜切換え式カッタ （カッタ刃は，標準カッタ刃／セラミックカッタ刃あり）　●集束ドロッパ ●ドロッパ　●標準結束機　●ストンパ結束機　●単体標準結束機　●単体ストンパ結束機							
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	○	○	×	○	○	×	○	○
		自動方向制御	○	○	×	×	○	×	×	○
		自動刈高さ制御	○	○	×	×	○	×	×	○
		自動車体水平制御	×	○	×	×	×	○	○	○
		自動減速	○	○	×	○	○	×	○	○
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○	○
		アンローダ自動旋回制御	×	×	○	○	○	○	○	○
		排出位置選択	×	×	×	○	○	×	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	×	×	○	×	×	○
	ポジピタスイッチ		○	○	×	×	○	×	×	○
	バイブロシャッタ		×	×	×	○	○	×	○	○
	刈取り防じんカバー		○	○	×	×	○	×	×	○
	集中注油装置 (電動)		○	○	○	○	○	○	○	○
	警報装置		負荷表示，油圧チャージ，２番詰まり，こぎ深さ， チャフ詰まり警報，もみ満杯，排わら詰まり，水温							
	作業能率 (分/10a)		17～37							

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

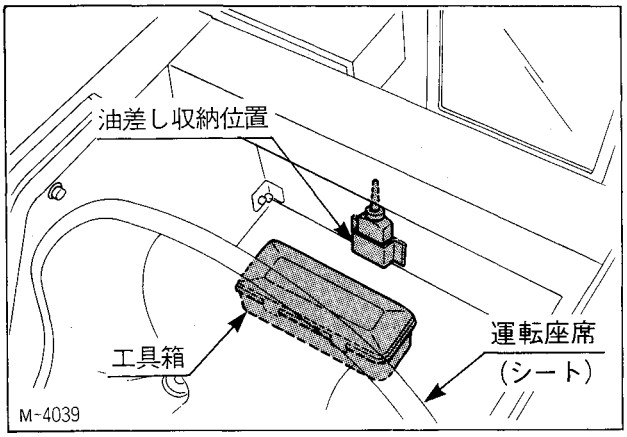
付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊サービスブック	1
＊取扱説明書	1
＊ボディカバー	1
＊小物部品	1セット
＊デバイダ	1式
＊デバイダカバー	1
＊分草ガイド	1

＊工具	
10－12スパナ	1
12－14スパナ	1
14－17スパナ	1
⊕⊖ドライバ	1
プライヤ	1
油差し	1
じょうご	1
給油パイプ	1
工具箱	1

◆油差し・工具箱収納位置（運転座席後部）



特別付属品（別売）

■標準結束機

品　番	品　名
57963-00000	NK-30SY

■単体標準結束機

品　番	品　名
57171-00000	NK-20Y

■ストンパ結束機

品　番	品　名
57987-00000	NK-30SRストンパ結束機

※M付き仕様はLW仕様のみに装着してください。

■単体ストンパ結束機

品　番	品　名
57181-00000	NK-20R

※M付き仕様はLW仕様のみに装着してください。

■カッタ後付けドロッパ

品　番	品　名
57257-00000	D-30 ドロッパ

■標準結束機後付け集束ドロッパ

品　番	品　名
57872-00000	DNK-35 集束ドロッパ

■結束ひも

品　名		品　番
小径ひも	ヒモ(ジュート・テザック)	50080-9441-1
	ヒモ(ジュート・コイズミ)	50080-9442-1
	ヒモ(ハッポウ・テザック)	50080-9421-1
	ヒモ(ハッポウ・コイズミ)	50080-9422-1
	ヒモ(ハッポウ・ツカサ)	50080-9423-1
	ヒモ(ハッポウ・ダイニチ)	50080-9424-1
大径ひも	ヒモ(ジュートダイケイ・テザック)	57961-9441-1
	ヒモ(ハッポウダイケイ・テザック)	57961-9421-1
	ヒモ(ハッポウダイケイ・ダイニチ)	57961-9424-1

■50㎜・35㎜切断カッタ

品　番	品　名
57726-00000	S-30F(S-30)カッタ(50㎜切断)
57725-00000	S-30Hカッタ (50㎜切断 セラミック刃)
57727-00000	SS-30カッタ(35㎜切断)
57735-00000	SS-30Hカッタ (35㎜切断 セラミック刃)

■50/150㎜・35/150㎜切断長切換えカッタ

わらの切断長さがレバー1本で簡単に約50㎜と約150㎜，約35㎜と約150㎜に切換えができます。

品　番	品　名
57728-00000	S-30C切換えカッタ (50/150㎜切断)
57748-00000	S-30CH切換えカッタ (50/150㎜切断 セラミック刃)
57729-00000	SS-30C切換えカッタ (35/150㎜切断)
57738-00000	SS-30CH切換えカッタ (35/150㎜切断 セラミック刃)

■セラミック切断刃

品　番	品　名	個数／台			
		S-30	S-30C	SS-30	SS-30C
57748-9112-0	セツダンバ(130×17 セラミック)	—	11	—	20
57748-9111-0	セツダンバ(150×17 セラミック)	16	5	26	6

■スイスイデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。３連式にする場合は２連式に１連式を右側に取付けてください。

	品　番	品　名
２連式	58181-00000	SRM30スイスイデバイダ
１連式	58182-00000	SRM30-Rスイスイデバイダ

■グレンタンク用延長アンローダ【G仕様】

品　番	品　名
58056-91100	延長アンローダアッシ

■作業灯ランプ【G仕様】

アンローダ先端に取付けます。

品　番	品　名
58056-91400	ランプ（作業灯アッシ）

■キャノピ

グレンタンク装着型の雨よけ，日よけです。

品　番	品　名
5H099-00000	CP-20 キャノピ

■防じんカバー

運転席側へ飛散してくるゴミやちりを防ぐカバーです。

品　番	品　名
59900-95100	カバー，アッシ(ボウジン)

■種子用交換部品

品　番	品　名
53682-9330-0	25,アッシ(シュシヨウ)【SR25】
53681-9330-0	30,アッシ(シュシヨウ)【SR30】

■湿田用泥玉防止スクレーパ

湿田走行時，大きな泥玉の発生が少なくなります。

品　番	品　名
59900-92100	スクレーパ，アッシ

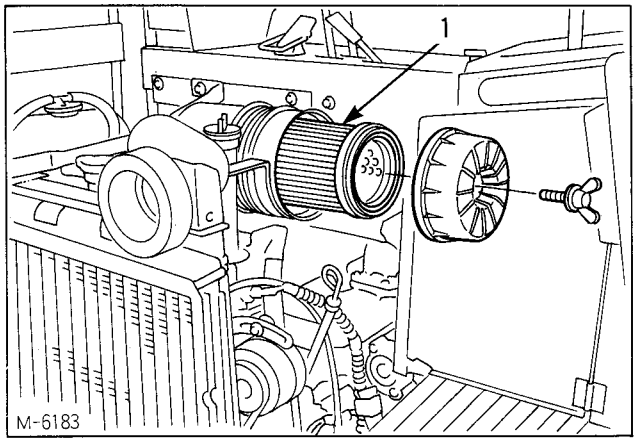
■湿田用左分草かん

標準の分草かんに連続して機体後部まで分草していきますので(取付け角度調整式)，湿田での作物への泥の付着も少なくなり作業しやすくなります。

品　番	品　名
59900-92200	デバイダ，アッシ(湿田)

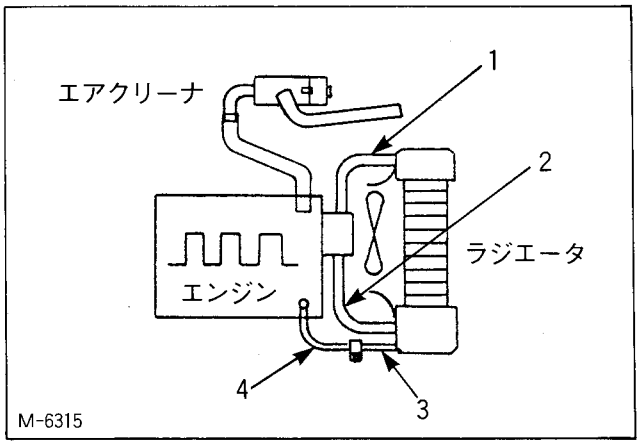
消耗部品

◆エアクリーナエレメント



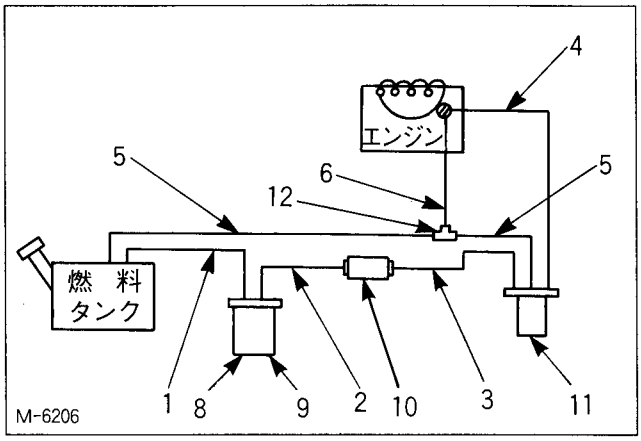
図番	品　名	品　番
1	フィルタ，コンプ(エアクリーナ)	T0070-1632-0

◆ラジエータホース



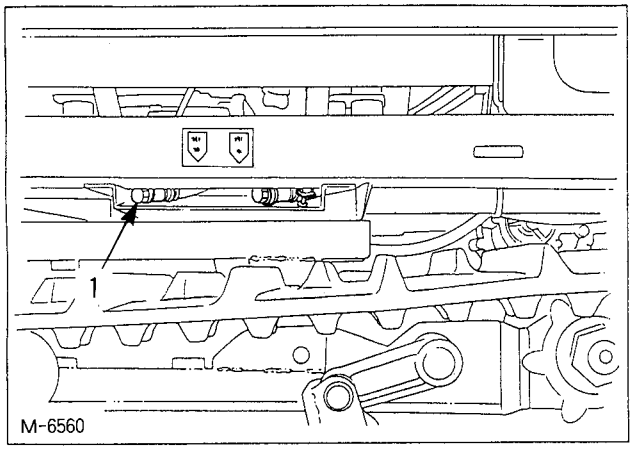
図番	品　名	品　番
1	ホース(1，ウォータ)	52000-2571-2
2	ホース(2，ウォータ)	52000-2572-0
3	ホース(ハイスイ)	52000-2574-0
4	ホース(ウォータリターン)	52000-2573-0

◆フューエルパイプ



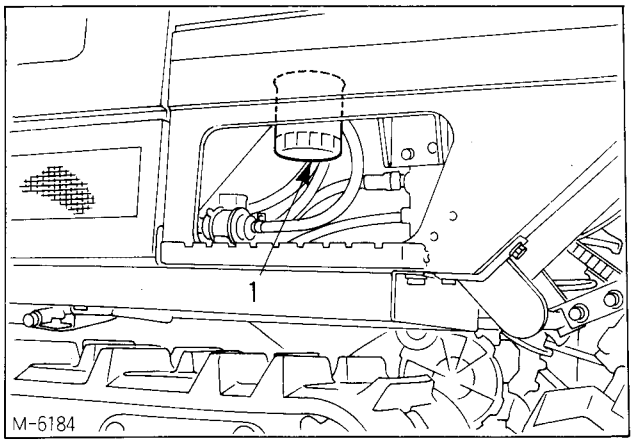
図番	品　名	品　番
1	フューエルチューブ	09661-71850
2	フューエルチューブ	09661-70550
3	フューエルチューブ	09661-70600
4	フューエルチューブ	09661-71100
5	フューエルチューブ	09661-70900
6	フューエルチューブ	09661-70380
7	フューエルチューブ	09661-70950
8	フューエルフィルタアッシ	52000-2680-0
9	フィルタエレメント	15221-4317-2
10	フューエルポンプアッシ	16851-5203-2
11	フューエルフィルタアッシ	16271-4301-3
12	カンツギテ	15101-4257-2

◆オイルドレーンゴムホース



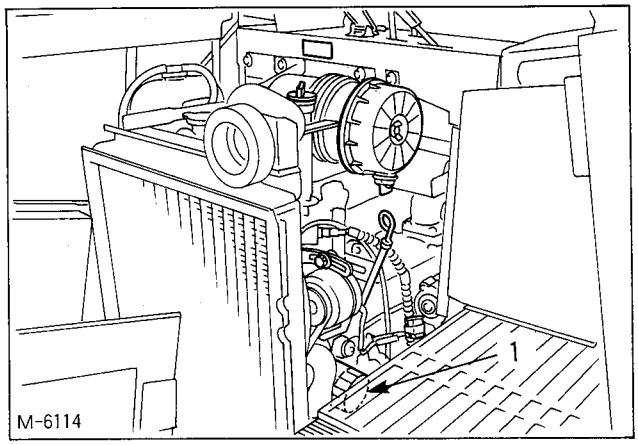
図番	品　名	品　番
1	オイルドレーンホース	52600-2531-2

◆フューエルフィルタアッシ



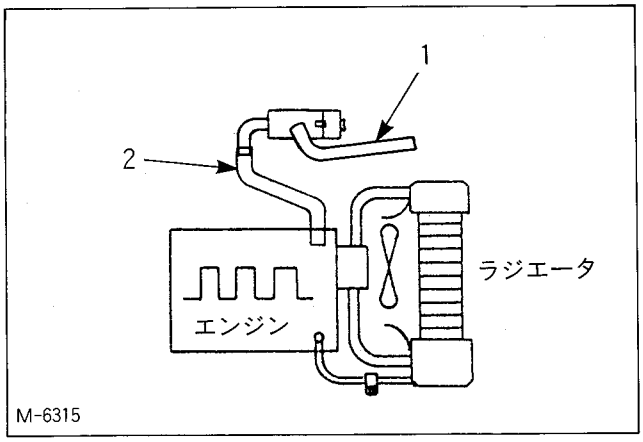
図番	品　名	品　番
1	フューエルフィルタアッシ	52000-2680-0

◆オイルフィルタカートリッジ



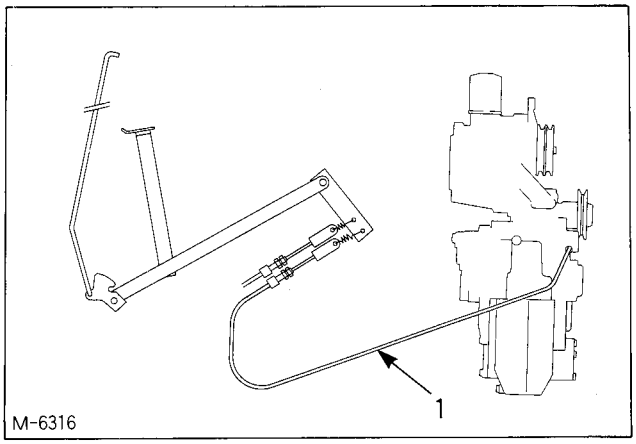
図番	品　名	品　番
1	フィルタアッシ(オイルカートリッジ)	15241-3209-3

◆インレットパイプ



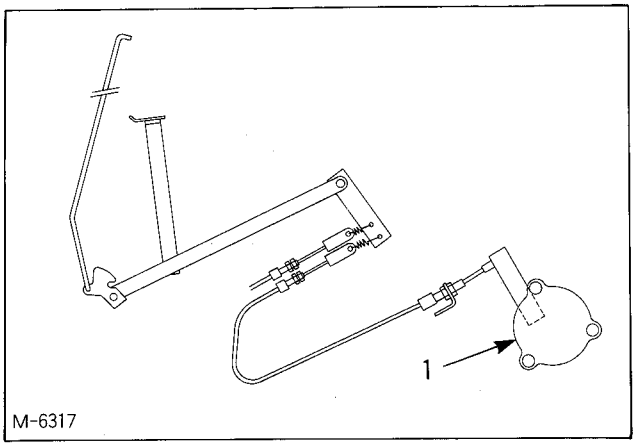
図番	品　名	品　番
1	ホース(1，インレット)	52000-2631-0
2	ホース(2，インレット)	52000-2632-0

◆駐車ブレーキワイヤ



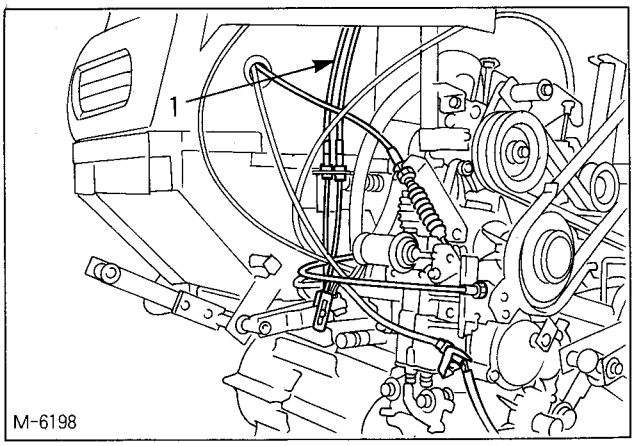
図番	品　名	品　番
1	ワイヤ（ブレーキ）	59900-3216-0

◆駐車ブレーキシュー



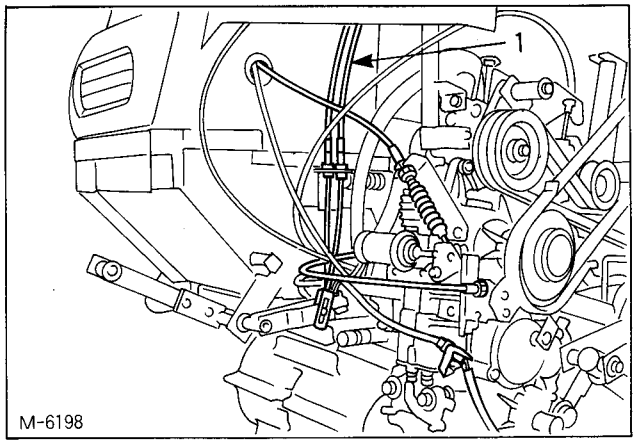
図番	品　名	品　番
1	ブレーキアッシ（2）	59900-1771-0

◆脱こくクラッチワイヤ



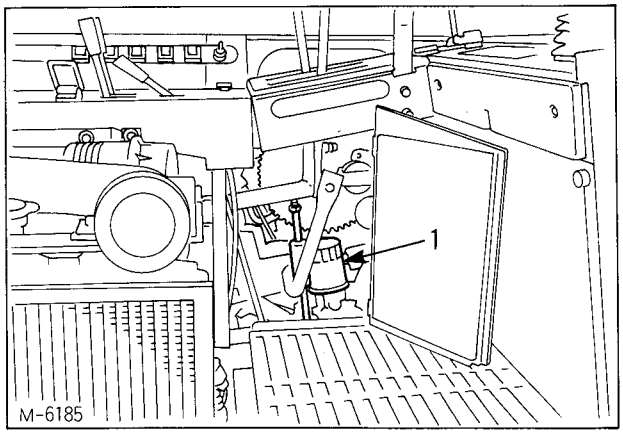
図番	品　名	品　番
1	ワイヤ（チェーンクラッチ）【SR30】	59900-3293-0
1	ワイヤ（チェーンクラッチ）【SR25】	59950-3293-0

◆刈取りクラッチワイヤ



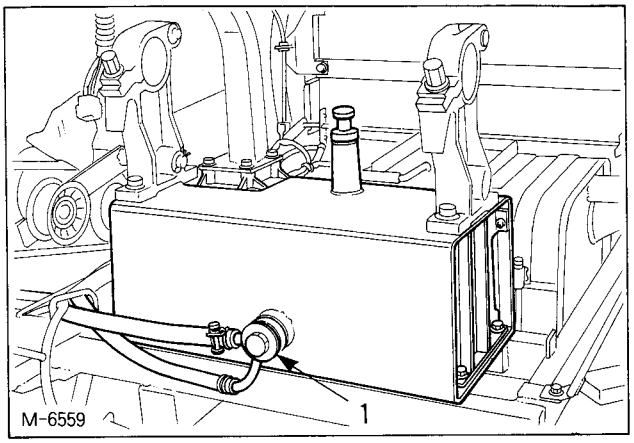
図番	品　名	品　番
1	ワイヤ（オートクラッチ）	59900-3281-0

◆HSTオイルフィルタ



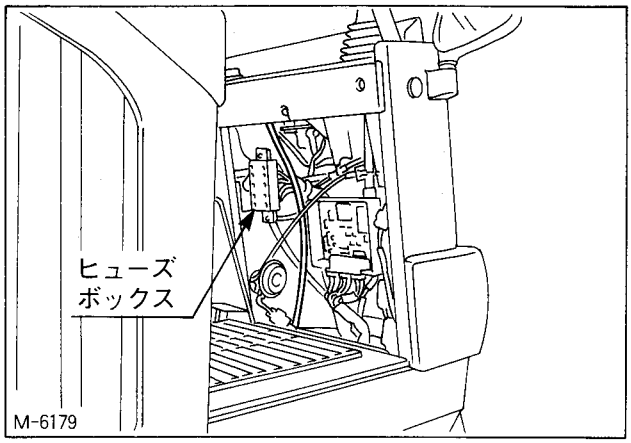
図番	品　名	品　番
1	HSTオイルフィルタ	66021-3606-0

◆油圧オイルフィルタカートリッジ



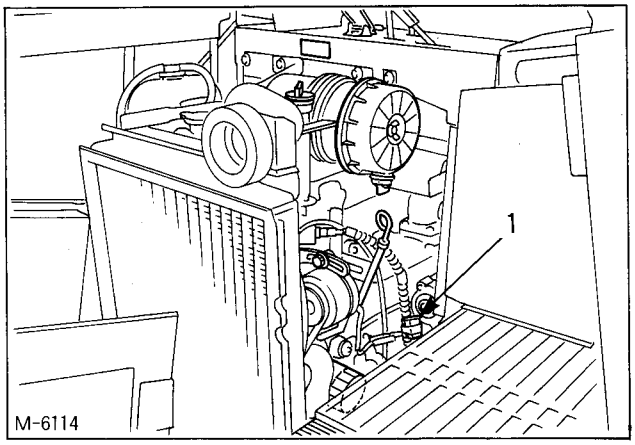
図番	品　名	品　番
1	油圧オイルフィルタ	52600-2765-0

◆ヒューズ



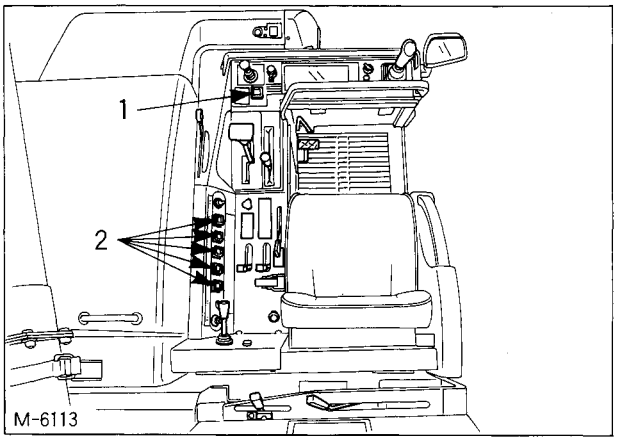
図番	品　名	品　番
1	20Aオートヒューズ	48100-5589-0
2	15Aオートヒューズ	52200-4162-0
3	10Aオートヒューズ	48100-5588-0
4	25Aオートヒューズ	56605-4215-0

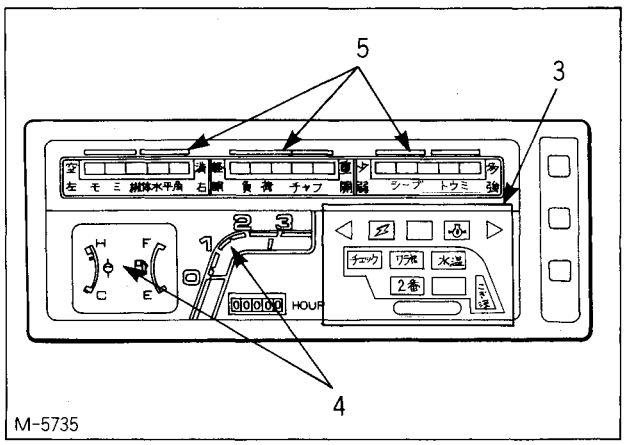
◆スローブローヒューズ

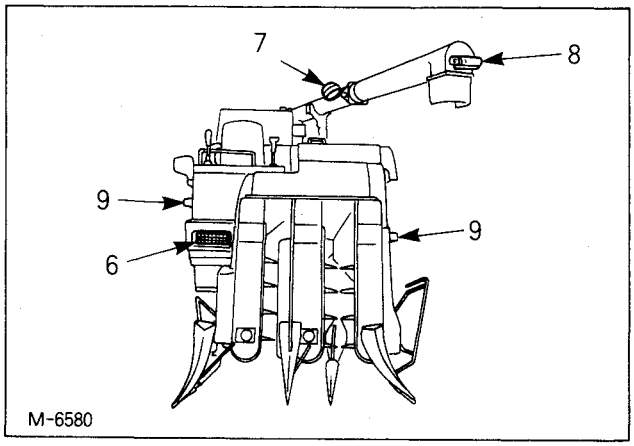


図番	品　名	品　番
1	スローブローヒューズ	34670-3453-0

◆ランプ(電球)

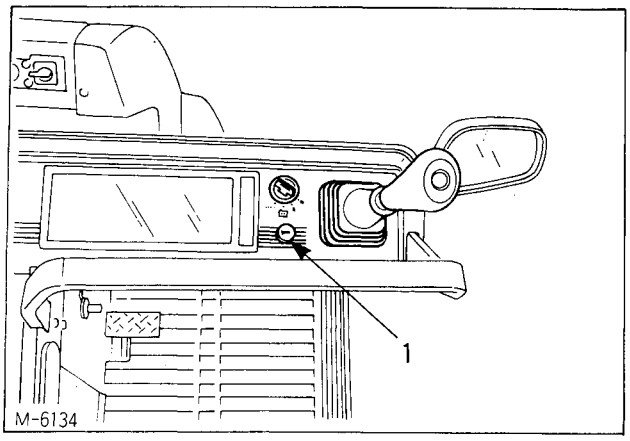






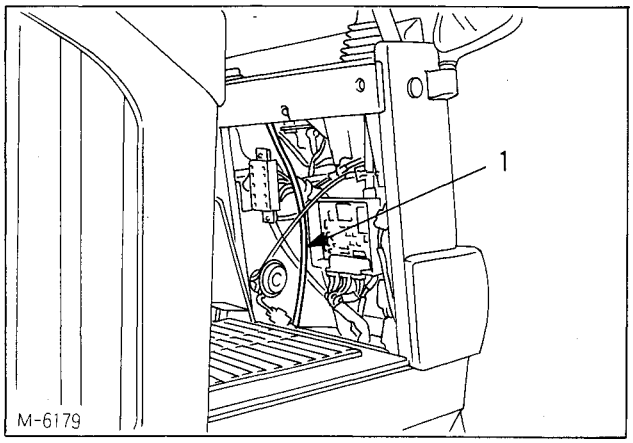
図番	品　名	品　番
1	バルブ	56713-9516-0
2	ランプバルブ	56713-9516-0
3	バルブ	52300-4142-0
4	バルブ３W	52200-4152-0
5	バルブLCD	52200-4154-0
6	ランプバルブ	56713-4172-0
7	ランプバルブ	68311-5344-0
8	ランプバルブ(オプション)	56713-9516-0
9	ランプバルブ	36200-7517-0

◆ブザー



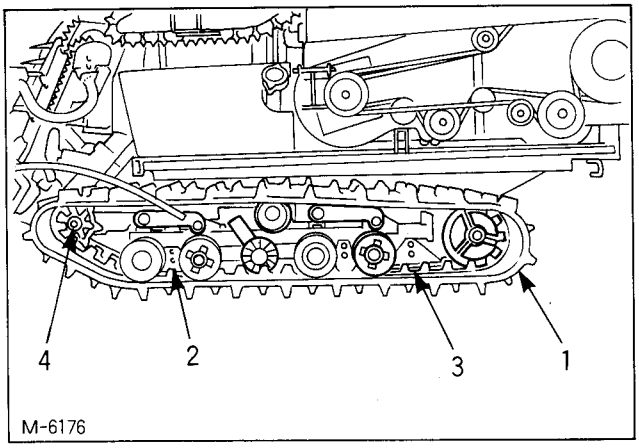
図番	品　名	品　番
1	ホーンスイッチ	38240-3241-0

◆メータケーブル



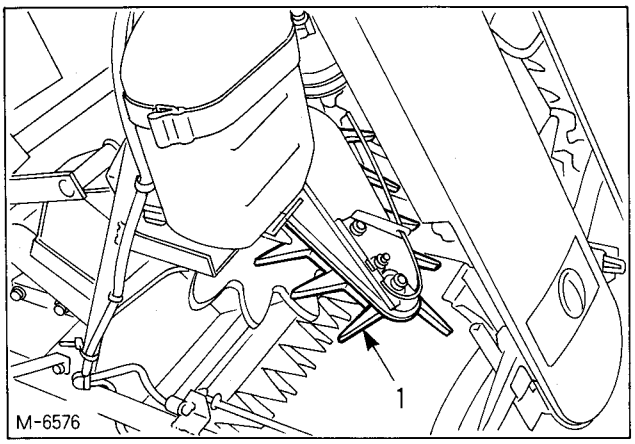
図番	品　名	品　番
1	メータケーブル	52600-4164-0

◆クローラ
◆クローラガイド



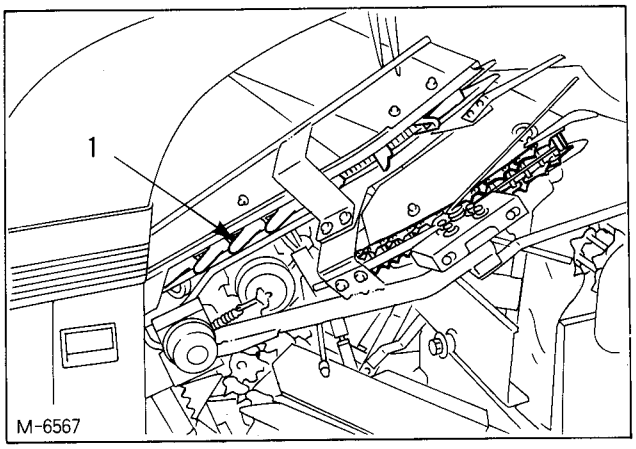
図番	品　名	品　番
1	クローラ（W420×40）	59900-2255-0
1	クローラ(W420×43)【M仕様】	59900-2251-0
1	クローラ(W420×47)【ML仕様】	59900-2253-0
1	クローラ(W420×45)【L仕様】	59900-2257-0
2	ガイド（マエクローラ）	59900-2281-0
2	ガイド(マエクローラ，L)【L仕様】	59900-2286-0
3	ガイド(クローラ，S)	59900-2285-0
3	ガイド(クローラ，M)	59900-2282-0
3	ガイド(クローラ，ML)【ML仕様】	59900-2287-0
3	ガイド(クローラ，SL)【ML仕様】	59900-2288-0
4	ドライブスプロケット	59900-1648-0

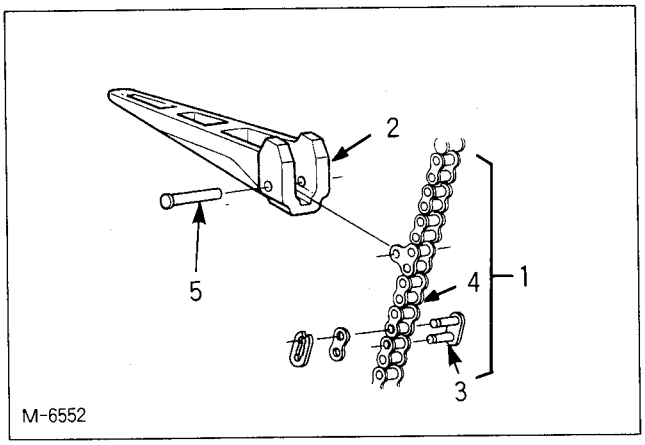
◆突起付きベルト



図番	品　名	品　番
1	突起付ベルト	56718-6212-0

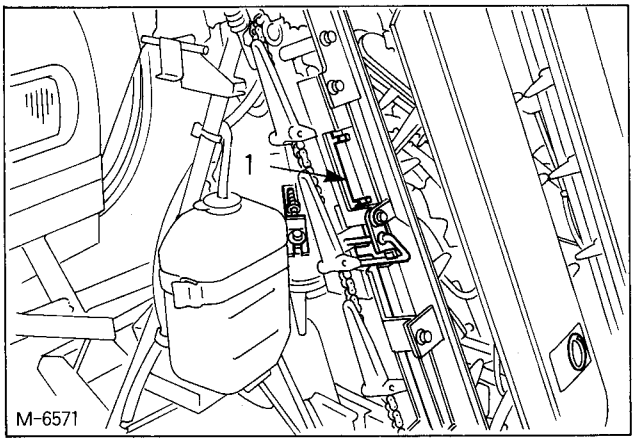
◆右穂先チェーン





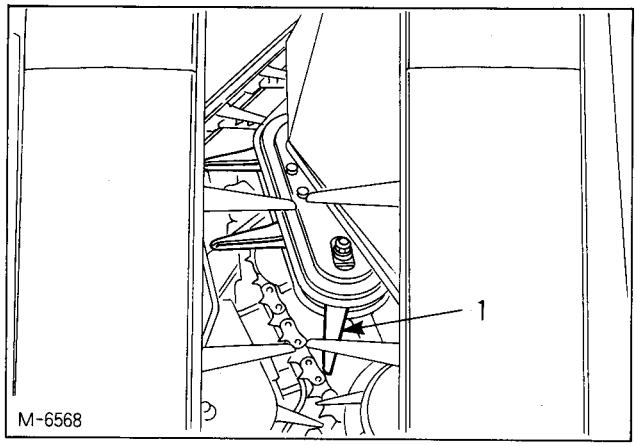
図番	品　名	品　番
1	右穂先チェーン爪アッシ	56713-6703-0
2	搬送爪	56713-6523-0
3	415チェーンツギテ	50400-9112-0
4	415エスチェーンハンコマ	50400-9113-0
5	爪取付けピン	56713-5431-0

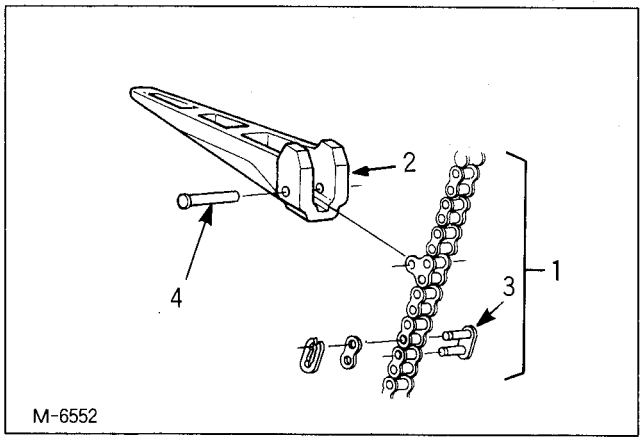
◆引起しスライドレール



図番	品　名	品　番
1	引起しスライドレール	59900-5314-0

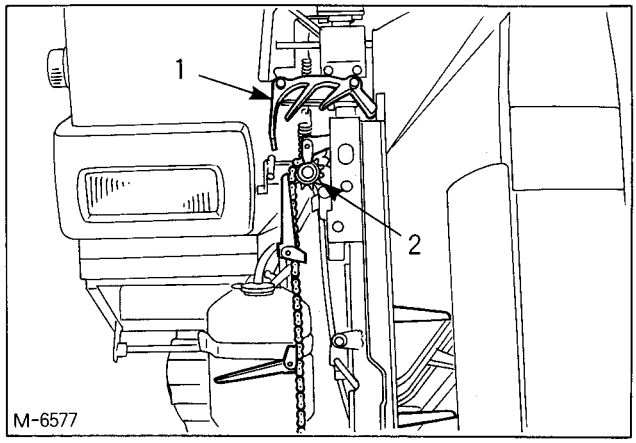
◆左穂先チェーン





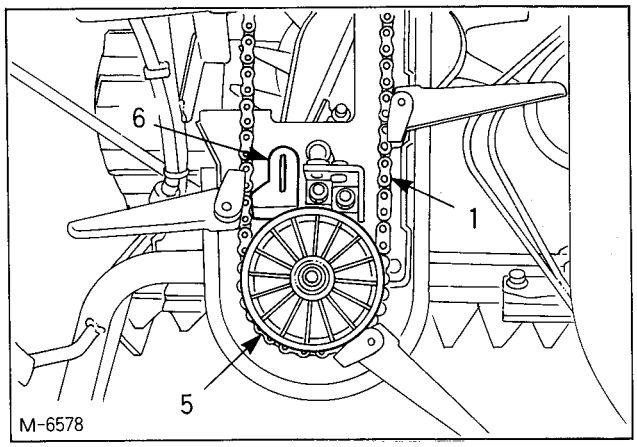
図番	品　名	品　番
1	左穂先チェーン爪アッシ	56713-6501-0
2	搬送爪	56713-6523-0
3	415チェーンツギテ	50400-9112-0
4	爪取付けピン	56713-5431-0

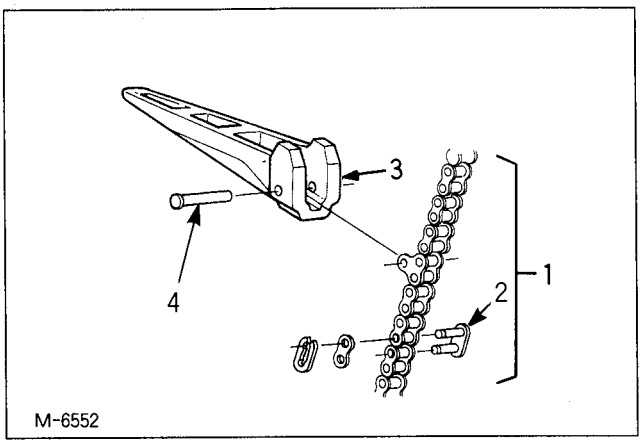
◆引起しクッションゴム
◆引起しテンションスプロケット



図番	品　名	品　番
1	引起しクッションゴム	52200-5423-0
2	スプロケットアッシ(12)	59700-5414-0

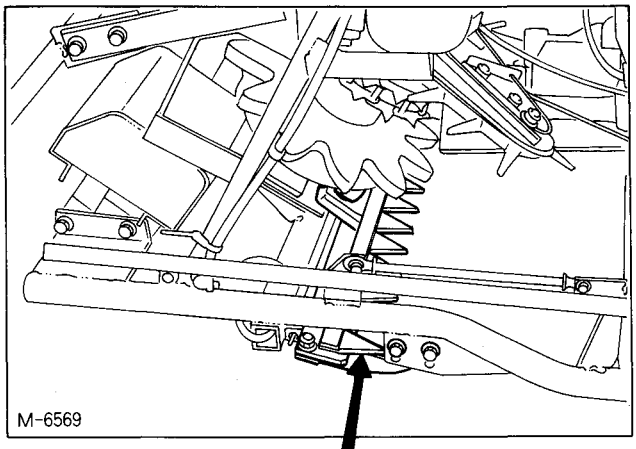
◆引起しチェーン
◆引起しローラ

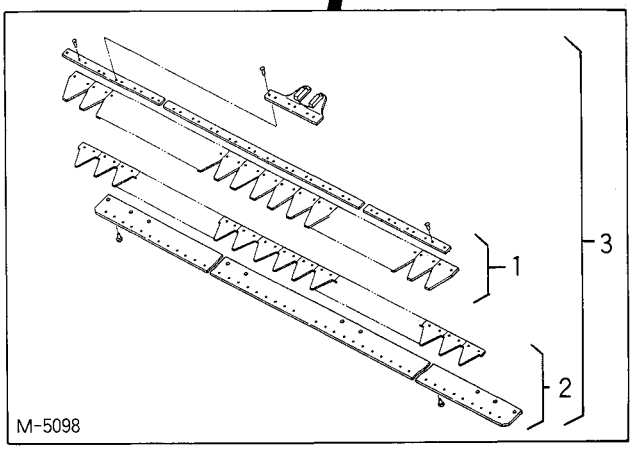




図番	品　名	品　番
1	引起しチェーンツメアッシ	52220-5401-0
2	415エスチェーンツギテ	50400-9112-0
3	引起し爪	56713-5422-0
4	爪取付けピン	56713-5431-0
5	引起しローラ(110ローラ)	52300-5313-3
6	爪起しゴム	59900-5326-0

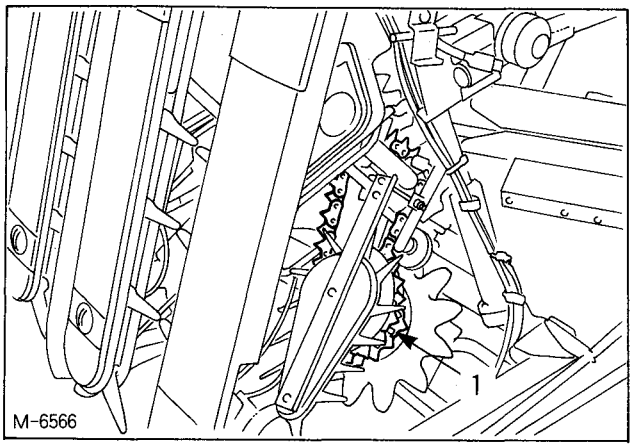
◆刈刃





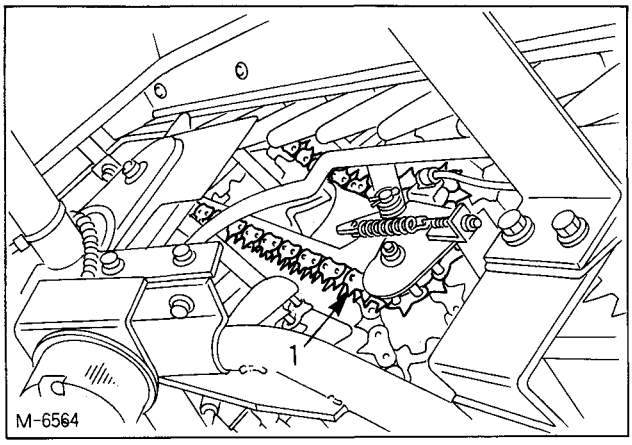
図番	品　名	品　番
1	刈刃コンプ	52500-5920-0
2	受刃コンプ	52500-5910-0
3	刈刃アッシ	52500-5901-0

◆左株元チェーン



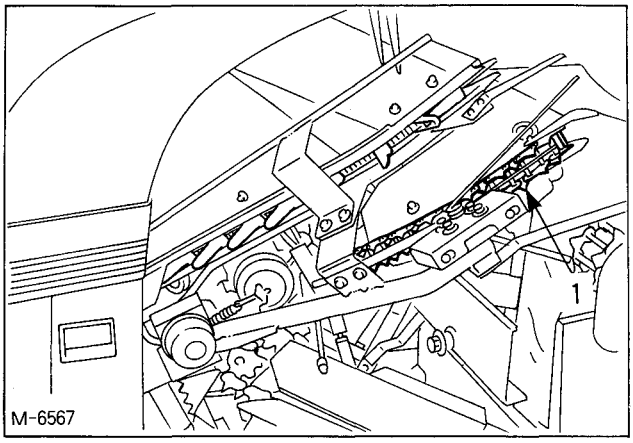
図番	品　名	品　番
1	チェン,アッシ(35,ヒダリ)	56713-6320-2

◆右株元チェーン



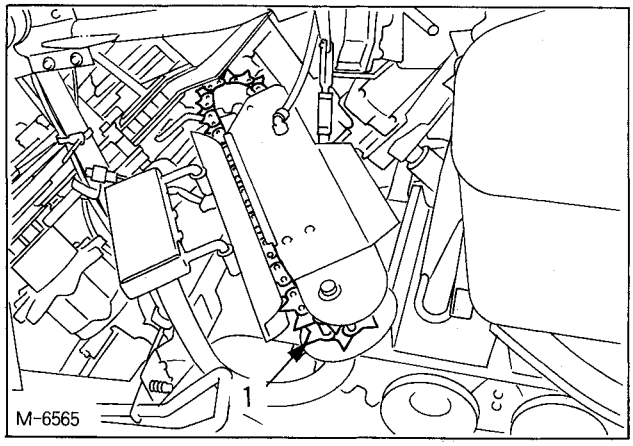
図番	品　名	品　番
1	チェン，アッシ(57，ミギ)	56713-6360-0

◆株元供給チェーン



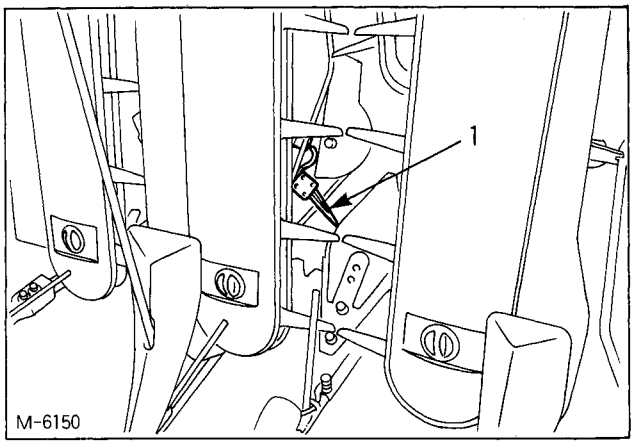
図番	品　名	品　番
1	チェン，アッシ(37，キョウキュウ)	56713-6610-0

◆深さチェーン



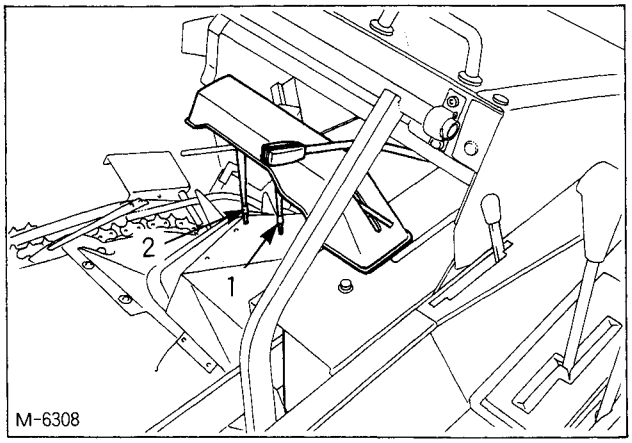
図番	品　名	品　番
1	チェン,アッシ(44,フカサ)	56713-7130-0

◆株元センサ



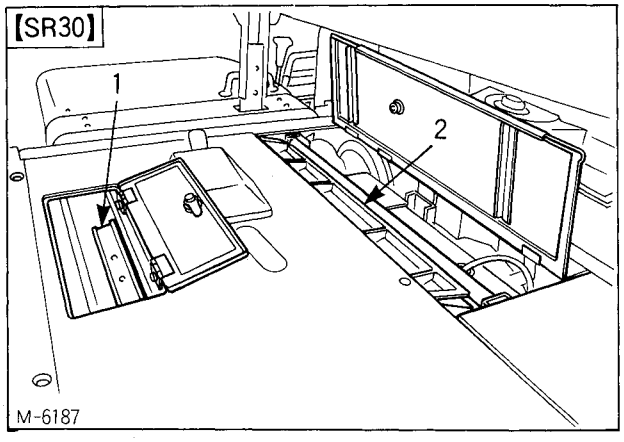
図番	品　名	品　番
1	スイッチ,アッシ(カブモト)	59700-7503-0

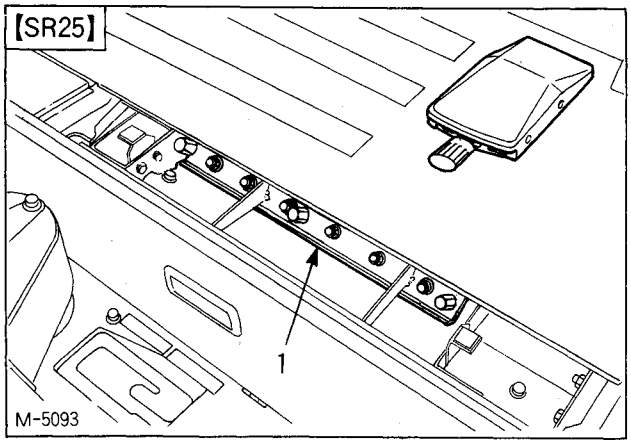
◆穂先センサ(1,2)



図番	品　名	品　番
1	ホサキセンサアッシ1	52600-9550-0
2	ホサキセンサアッシ2	52600-9560-0

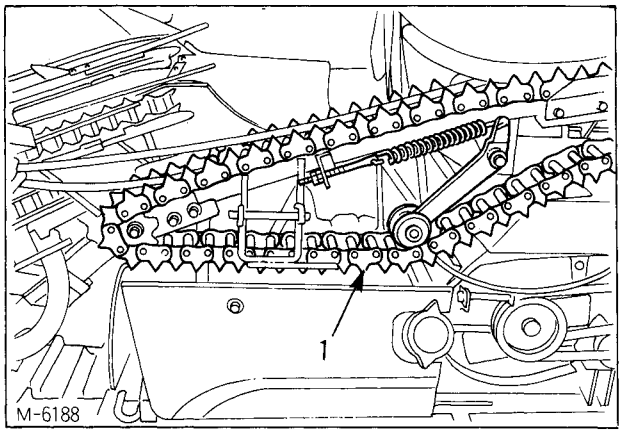
◆わら切刃





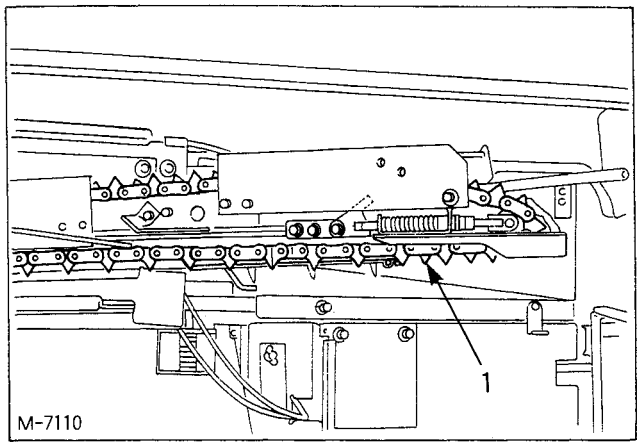
図番	品　名	品　番
1	セツダンバ（ワラキリハ）	53605-2151-0
2	セツダンバ（ワラキリハ）	53605-2151-0

◆フィードチェーン



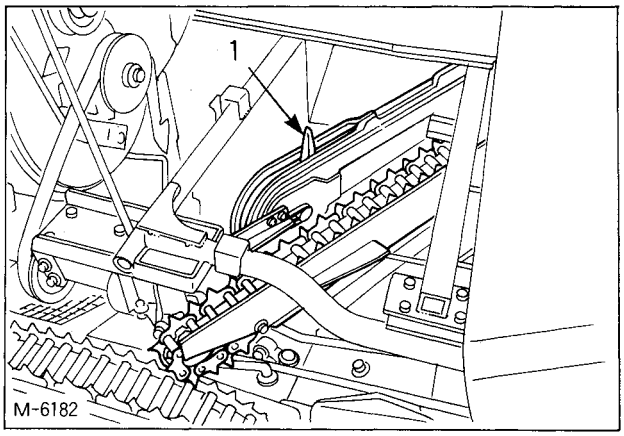
図番	品　名	品　番
1	チェーン(フィード104L)【SR30】	53681-4212-0
1	チェーン(フィード98L)【SR25】	53682-4212-0
	チェーンツギテ(リンク)	53681-9114-1
	チェーンツギテ(オフセット)	53681-9115-1

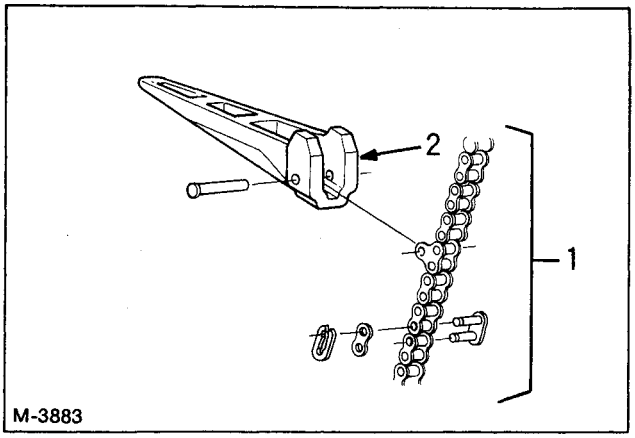
◆排わら株元チェーン



図番	品　名	品　番
1	チェーン(ハイワラ)	53681-4311-0
	チェーンツギテ(1・ハイワラ)	53681-9111-1
	チェーンツギテ(2・ハイワラ)	53681-9112-1
	チェーンツギテ(3・ハイワラ)	53681-9113-1

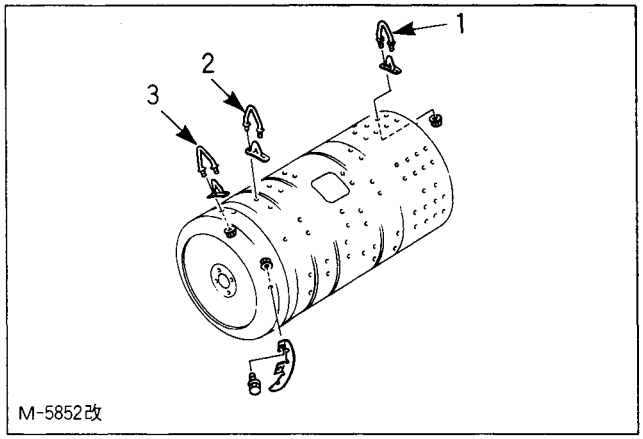
◆排わら穂先チェーン





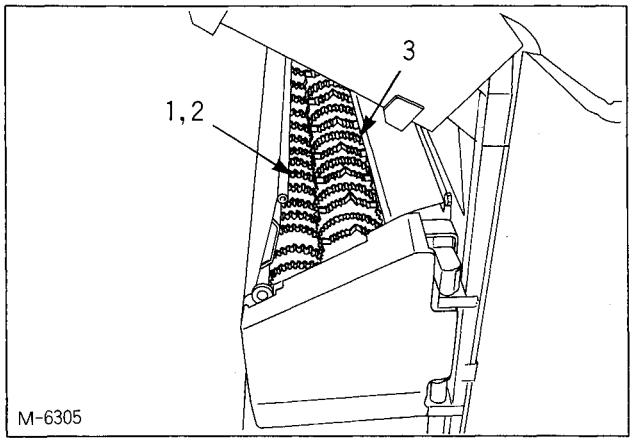
図番	品　名	品　番
1	排わら穂先チェーン	53931-4441-2
2	ハンソウヅメ	53961-4421-2

◆こぎ歯

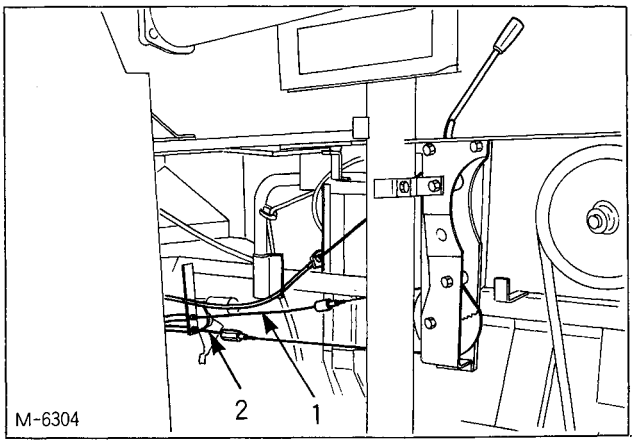


図番	品　名	品　番
1	ナミハ	53582-7219-2
2	ナミハ	53821-2249-0
3	ダイ2ホキョウシ	53821-2247-2

◆カッタ刃

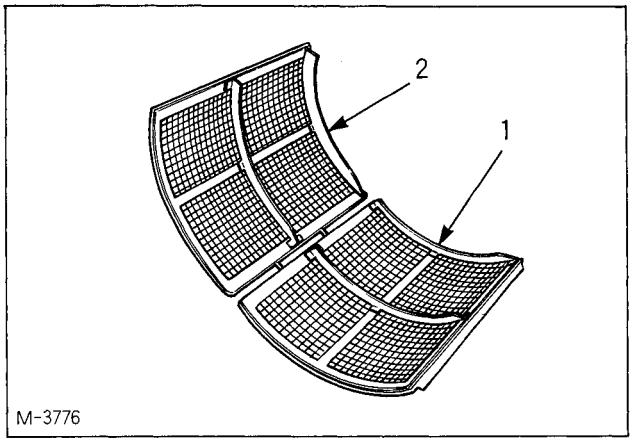


図番	品　名	品　番
1	セツダンバ(150×17セラミック)	57748-9111-1
1	150　セツダンバ	57783-2121-1
2	セツダンバ(130×17セラミック)	57748-9112-1
2	セツダンバ (130)	57748-2223-1
3	130キョウキュウバ	57783-2139-1

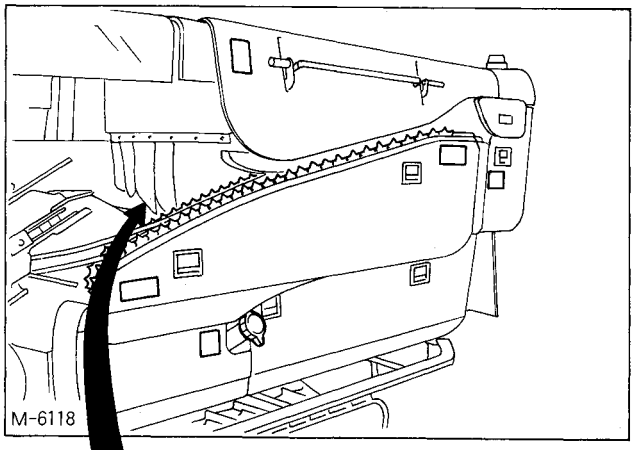


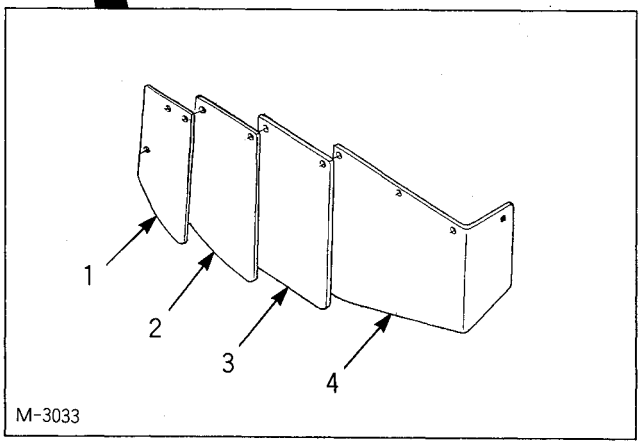
図番	品　名	品　番
1	レールワイヤ1	53650-4363-2
2	レールワイヤ2	53650-4364-2

◆樹脂受あみ



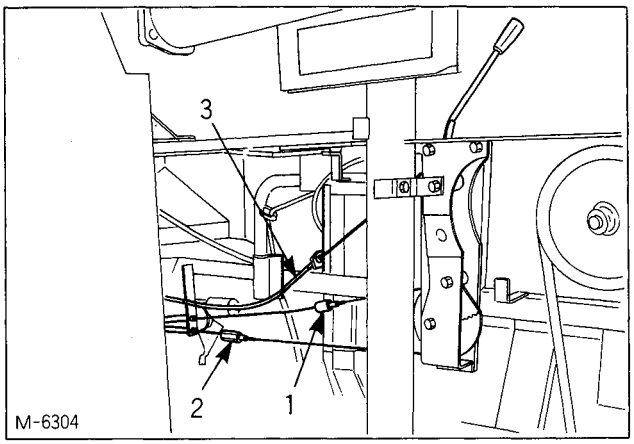
図番	品　名	品　番
1	コンケーブ(アッシ1,13)【SR30】	53681-2101-0
1	コンケーブ(1,アッシ)【SR25】	53652-2101-0
2	コンケーブ(アッシ2,13)【SR30】	53681-2102-0
2	コンケーブ(2,アッシ)【SR25】	53652-2102-0





図番	品　名	品　番
1	入口飛散防止1	53650-6115-0
2	入口飛散防止2	53650-6116-0
3	入口飛散防止3	53650-6117-0
4	入口飛散防止4	53650-6118-0

◆排わら切換えワイヤ



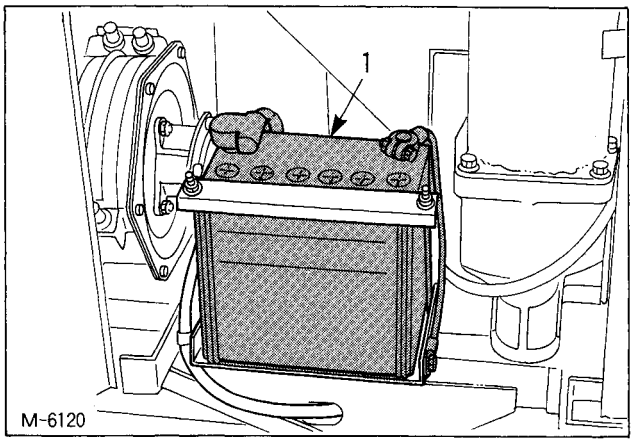
【SR25】

図番	品　名	品　番
1	ケーブル(1，キリカエ)黒色	53652-4377-1
2	ケーブル(2，キリカエ)白銀色	53652-4378-1
3	カッタワイヤ	53650-4383-1

【SR30】

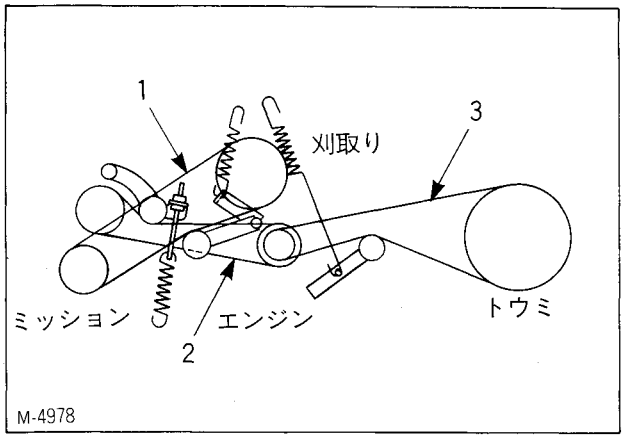
図番	品　名	品　番
1	ケーブル(1，キリカエ)黒色	53681-4377-1
2	ケーブル(2，キリカエ)白銀色	53681-4378-1
3	ケーブル(カッタ)	53681-4383-1

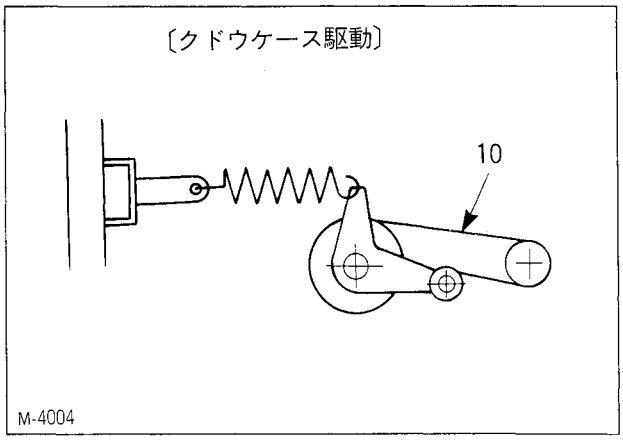
◆バッテリ

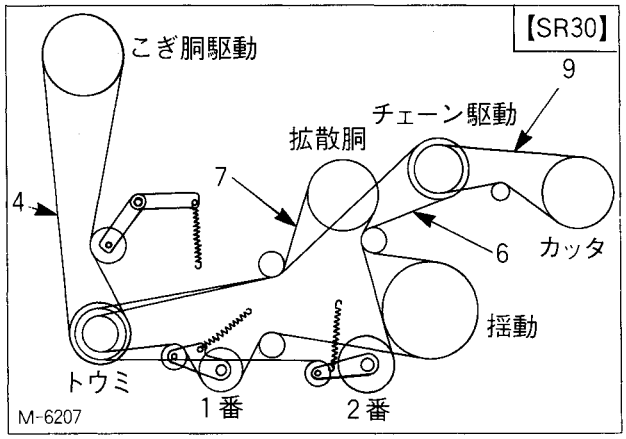


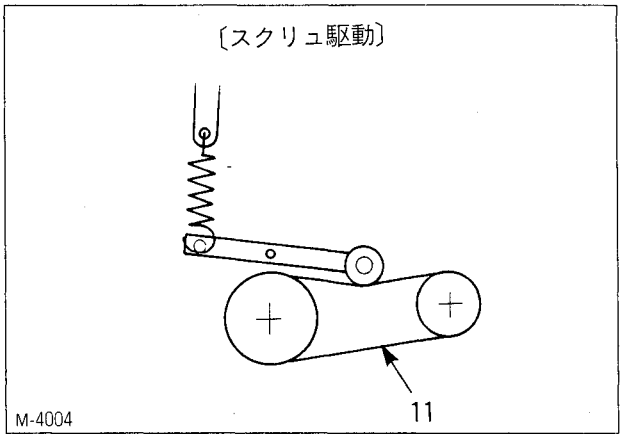
図番	品　名	品　番
1	バッテリ (65D23L-MF)	52600-4111-0

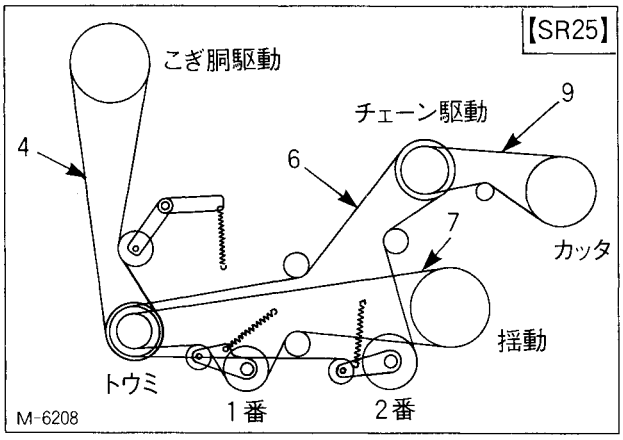
■ベルト関係

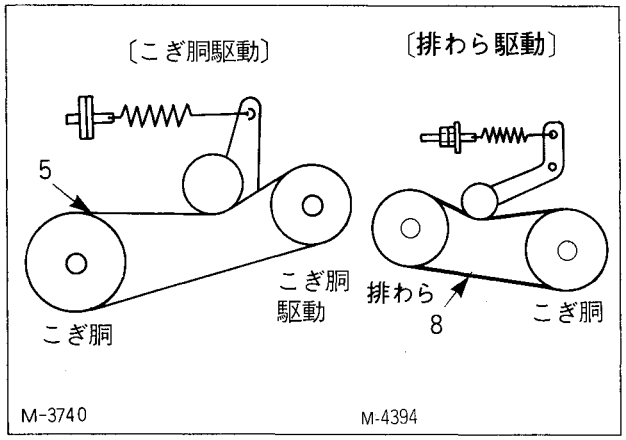












	図番	品　名		品　番
本機	1	ブイベルト特B61		59900-1165-2
	2	ブイベルト特B53【SR25】		59950-1161-0
	2	ブイベルト特B54【SR30】		59900-1161-0
	3	ブイベルト特C74	【SR25】	59900-1164-0
			【SR30】	59900-1166-0
脱こく	4	ブイベルト特C84【SR25】		53682-1581-0
	4	ブイベルト特C85【SR30】		53681-1581-0
	5	ブイベルト特B55		53681-1588-0
	6	ブイベルト特B114【SR25】		53650-2591-0
	6	ブイベルト特B122【SR30】		53681-2591-0
	7	ブイベルト特B94【SR25】		53671-2592-2
	7	ブイベルト特B123【SR30】		53681-2592-0
	8	ブイベルト特B38		53681-4318-0
カッタ	9	ブイベルト特B52		57748-3131-0
グレンタンク	10	ブイベルト特B58【SR25】		59950-1211-0
	10	ブイベルト特B57【SR30】		52000-1211-0
	11	ブイベルト特B36		58056-7124-0

クボタ純オイル

■オイルは クボタ純オイル をお使いください。

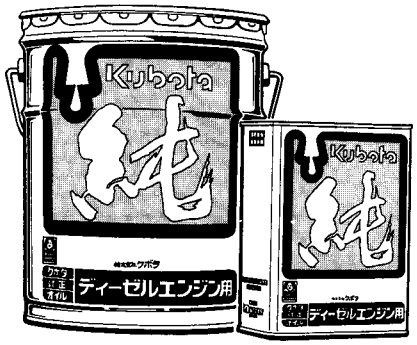
オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

お買求めは，販売店又はＪＡ農協へご用命ください。

●エンジンには…

■ クボタ純オイル

D30又はD10W30
（ディーゼルエンジン用）

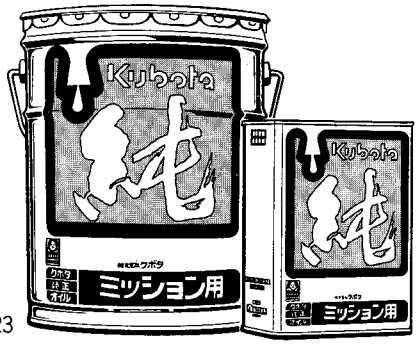


Z-1025　20ℓ　4ℓ

●ギヤーケース，脱こく機，結束機には…

■ クボタ純オイル

M90又はM80B
（各ギヤーケース用）

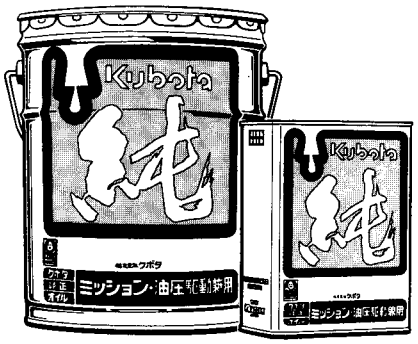


Z-1023
20ℓ　4ℓ

●ミッションオイル，オイルタンク（HST）には…

■ クボタ純オイル

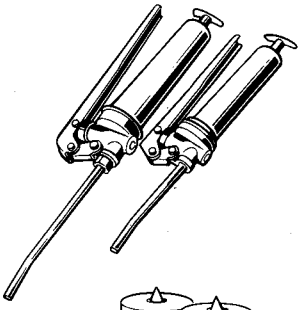
NEW･UDT又はスーパーUDT
（ミッション・油圧兼用）

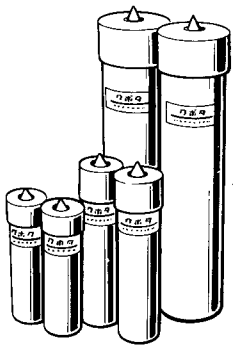


Z-1021　20ℓ　4ℓ

●グリースアップには…

■ クボタスペアグリース





Z-1026　60　100　400

ラットガード

ラットガード クボタ純正品

ネズミよけスプレー塗料

品　番	品　名
07909-24590	ラットガード

■ネズミよけ塗料は…

- 機械の配線コード，ベルト，管，ホースなどへ
- ネズミの巣となりそうなところへ
- かじられたくないものを保管するカバー・袋・箱・ケースなどへ
- 家具・建具・調度品などへ

■ネズミよけ塗料の効果的なご使用は…

- ネズミが物を噛る場合の習性は，かどの部分から噛り始めます。決して平面部分から噛り始めることはありませんので，かどの部分を重点的に**ネズミよけ塗料**を塗布してください。
- 電線・管などの断面積の円形のもの，又は細いものは2～3cmの距離からノズルを軽く押えながら全体的に塗布してください。
- ネズミの通路を防ぐ場合は，ウエス・紙などでフタをし，その上から**ネズミよけ塗料**を塗布してください。
- ネズミの巣となりそうなところへは，その周辺から中心に向って，厚めに**ネズミよけ塗料**を塗布してください。

■ネズミよけ塗料の適用範囲は…

- ネズミはもちろんのこと，モグラ，イタチ，ウサギ，鹿などの動物にも効果があります。

■塗布の有効期間は…

- 塗布する厚み，場所などの条件により有効期間は異なりますが，容器に表示の量(1カンで2.8㎡)を使用した場合，次の効果があります。

	条件の良いところ	標　準	条件の悪いところ
味覚効果	1.5年～2年	1年～1.5年	6ヵ月～1年
臭気効果	8ヵ月～1年	6～8ヵ月	3～6ヵ月

※条件の悪いところは，
直射日光の当たるところ。風雨にさらされやすいところ。湿気の多いところなどです。

※条件の悪いところでは，容器に表示の量より厚めに塗布してください。有効期間が長くなります。

M-1027改　420mℓ

注　意

＊ネズミよけ塗料は，殺鼠剤ではありません。ネズミにかじられそうなところへ塗布することにより，ネズミの害から守るための製品です。

＊ご使用に際しては，製品に記載の注意事項を守ってください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

本　　社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道北広島市大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番　59900―8511―7

Kubota